

津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

図面リスト

建 築		電 気 設 備		機 械 設 備			
A-1	新営特記仕様書 1	S-1	構造特記仕様書	E-1	電気設備特記仕様書 1	M-1	機械設備特記仕様書 1
A-2	新営特記仕様書 2	S-2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	E-2	電気設備特記仕様書 2	M-2	機械設備特記仕様書 2
A-3	新営特記仕様書 3	S-3	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	E-3	電気設備特記仕様書 3	M-3	排水設備 1階平面図 (改修後)
A-4	新営特記仕様書 4	S-4	鉄骨工作標準図 (1)	E-4	E V 動力電源設備 配置図	M-4	排水設備 1階平面図 (改修前)
A-5	新営特記仕様書 5	S-5	鉄骨工作標準図 (2)	E-5	E V 電源設備・自火報設備 1階平面図	M-5	消火設備 1階平面図 (改修後)
A-6	新営特記仕様書 6	S-6	ベースパック柱脚工法 標準図	E-6	E V 電源設備 電灯設備 1~4階 平面詳細図	M-6	消火設備 1階平面図 (改修前)
A-7	新営特記仕様書 7	S-7	Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準	E-7	自動火災報知設備 1~4階 E V 平面詳細図		
A-8	改修特記仕様書 1	S-8	A L C 設計・施工標準	E-8	誘導灯設備 1階平面図	昇 降 機 設 備	
A-9	改修特記仕様書 2	S-9	杭伏図・基礎伏図・各種リスト	E-9	誘導灯設備 2階平面図	EV-1	エレベーター詳細図 (1)
A-10	改修特記仕様書 3	S-10	基礎配筋詳細図	E-10	誘導灯設備 3階平面図	EV-2	エレベーター詳細図 (2)
A-11	改修特記仕様書 4	S-11	梁伏図	E-11	誘導灯設備 4階平面図	EV-3	エレベーター詳細図 (3)
A-12	改修特記仕様書 5	S-12	軸組図	E-12	E V 設置に伴う迂回工事	EV-4	エレベーター詳細図 (4)
A-13	改修特記仕様書 6	S-13	部材リスト	E-13	E V 設置に伴う迂回工事 撤去図	EV-5	エレベーター詳細図 (5)
A-14	改修特記仕様書 7	S-14	鉄骨詳細図			EV-6	エレベーター詳細図 (6)
A-15	附近見取図、配置図、仮設計画図	S-15	地質調査図			EV-7	エレベーター詳細図 (7)
A-16	敷地求積図						
A-17	建物求積図						
A-18	1階平面図兼内部仮設計画図						
A-19	2階平面図兼内部仮設計画図						
A-20	3階平面図兼内部仮設計画図						
A-21	4階平面図兼内部仮設計画図						
A-22	北立面図・西立面図						
A-23	仕上表、展開図、詳細図						
A-24	断面詳細図						
A-25	1~4階平面詳細図						
A-26	天井伏図、屋根伏図						
A-27	E X P ・ J 詳細図 (参考図)						
A-28	外構図						

工事特記仕様書

I. 工事名 津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

II. 工事概要

1. 工事場所	津市東古河町 地内
2. 敷地面積	22,051.98㎡
3. 工事内容	
棟名称	昇降機棟
構造	鉄骨造4階建 増築工事
建築面積	14.02㎡
延べ面積	56.08㎡
工事項目	建築工事、電気設備工事、機械設備工事、昇降機設備工事

III. 建築工事仕様

- ① 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、公共建築工事標準仕様書（「建築工事編」令和4年版）（以下「標準仕様書」）及び公共建築改修工事標準仕様書（「建築工事編」令和4年版）による。
- ② 特記仕様
1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
3) 項目に記載の（ ）内番号は標準仕様書の当該項目、図又は表を示す。

章	項目	特記事項
---	----	------

①適用基準等 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を適用する。
1) 建築工事標準詳細図
国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（令和4年版）
2) 建築物解体工事共通仕様書
国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（令和4年版）
3) 津市公共建築物等木材利用方針

②施工条件 施工方法及び検査に関する事項
※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。
※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。
※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。
※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし又、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。
※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周辺道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。
※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。
※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。
※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。
※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。
※ 工事着手前には、現況把握のために、破損箇所等があれば、市監督員立合いのもと写真に記録しておくこと。
※ 工事期間中、工事に起因し、既存施設に破損等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。
※ 作業着手までの校内調査は、事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとし、学校の授業終了後、休日等の行事に影響を与えない範囲とする。
※ 工事作業については、学校運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。
※ 撤去工事等の騒音及び振動が生じる作業は、原則、休日等の授業が行われていない時に行うこと。
※ 夏休み中等の学校休校日であっても部活動等の団体が利用する場があるため、安全に十分注意すること。
※ 作業後の校舎等の施設については学校側と十分協議を行うこと。

※ 仮設駐車場設置・渡り廊下土間解体については、休日に行うこととし、時期については事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとする。
※ 駐車場に影響のある仮設工事については、仮設駐車場設置後に着手するものとし、その他の屋外仮囲い、配管工事等の現場への本格着手は7月21日からとする。
※ 本工事は、通常授業時に限らず夏休み中であっても部活動等の利用をしながらの工事となるため、施工に先立ち、学校及び市監督員と協議の上、施工工程を作成し、市監督員の承諾を得てから工事を行うこと。
※ 学校内部における作業については、施設利用者である児童の安全を確保する為、休日等の授業が行われていない時に行うものとする。
※ 外部埋設配管作業に伴う停電・断水については、8月11日から8月17日までの間に行うものとし、その他停電・断水を伴う作業は休日に行うものとする。
※ 通常授業時に校舎内を通行する際には、児童の安全及び授業に支障をきたさないよう配慮するものとし、通行動線については学校及び市監督員と協議すること。
※ 高所等の施工箇所での完成検査時に確認が困難な工事については、足場解体前に市検査課による随時検査（書類を含む）を受けること。また、当該検査の合格をもって足場解体を行うこと。
※ 工事用水、電力については校内既存の施設を無償で利用できる。但し、学校行事に影響しないよう事前に打合せのうえ計画し、施工すること。
※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。

③発生材の処理等 (1.3.11)
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。
工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。

・分別解体等の方法

工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	○有・無	○手作業 ○手作業、機械作業の併用
屋根	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	○有・無	○手作業 ○手作業、機械作業の併用
その他（ ）	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用

○引渡を要するもの ○無
・特別管理産業廃棄物 ・有（ ） 処理方法（ ）
・石綿含有成形板等解体時の留意点
1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
2. 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。
3. 飛散されない様にする。こと。
4. 保護具及び作業着を着用すること。
5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。
○再資源化を図るもの ○コンクリート塊
・アスファルトコンクリート塊
・建設発生木材
・（ ）
引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調査を作成し監督員へ提出すること。
引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

④建設副産物情報交換システムの利用
受注者は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出することとし、また、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見えやすい場所に掲げること。
なお、工事着手前にはJACIGが運営する「建設副産物情報交換システム」へのデータ入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

⑤三重県産業廃棄物税
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

⑥電気保安技術者 (1.3.3)
・配置する

⑦技能士 (1.5.2)
職種別に可能なものについては積極的に活用すること

⑧建築材料等
1) 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。
2) 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。

9. 化学物質の濃度測定 (1.5.9)
測定対象化学物質（●で示したものとする。）

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン
	学校 教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

対象箇所（・図示（図面番号： ） ・（ ））
測定方法（・バッシン法 ・アクティブ法 ）
測定時期 ・（ ）
報告書提出部数 2部

⑩特別な材料の工法
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

⑪騒音・振動の防止
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

⑫工事写真 (1.2.4)
営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（最新版））に従い撮影する。
提出部数 1部 用紙は上質紙とする。
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（平成29年3月1日付け国営整第211号）」による。

⑬完成図等 (1.7.1) (1.7.2) (1.7.3)
○作成する ○完成図 ○保全に関する資料 ○（防水工事の保証書 保証年限10年）
○完成図作図範囲（設計図を訂正）
完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（図面サイズについては監督員と協議による。）により提出すること。

⑭完成写真
○デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。（A4版用紙に1ページあたり3枚） 1部
箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。
写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

⑮設備工事との取合い
施工範囲
○図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
○図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
○駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ
施工図
○設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

⑯設計GL
・ 図示のベンチマーク(B.M) mm
(現状地盤はB.M mm)

⑰養生その他
工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。

⑱事故の発生時
工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。
また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

⑲消防関係の手続き
1) 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成
○本工事（ ・建築工事 ○電気設備工事 ・機械設備工事）
・別途工事
2) 防火対象物使用開始届出書
書類の作成（建築図面の作成及び建築に関する部分の記入）を行うこと。

⑳労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置
労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

㉑不正軽油の使用の禁止
1) 一般事項
市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。
2) 調査の協力
受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また受注者は、下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
3) 是正措置
受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

㉒屋外広告物
屋外広告物を設置する場合は「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

<p>仮設工事</p> <p>②</p>	<p>① 監督員事務所 (2.3.1)</p> <p>② 監督員事務所の設備・備品 (2.3.1)</p> <p>③ 仮設便所</p> <p>④ 工事用水</p> <p>⑤ 工事用電力</p> <p>⑥ 足場</p> <p>⑦ 交通誘導警備員</p>	<p>○ 設置する。</p> <p>監督員事務所の規模 (単位: m)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用</th> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>規模</th> <td>10程度</td> <td>20程度</td> <td>35程度</td> <td>65程度</td> <td>100程度</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>机・いす</th> <th>書棚</th> <th>黒板・白板</th> <th>掛時計</th> <th>温度計</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>組</td> <td>台</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>個</td> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>長靴</th> <th>雨合羽</th> <th>保護帽</th> <th>懐中電灯</th> <th>衣類ロッカー</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>足</td> <td>着</td> <td>個</td> <td>個</td> <td>台</td> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>消火器</th> <th>掃除具</th> <th>受注者加入電話・FAX</th> <th>インターネット</th> <th>冷暖房機器</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <td>個</td> <td>個</td> <td>台</td> <td>台</td> <td>台</td> </tr> </table> <p>監督員職員事務所の仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>部位等</th> <th>仕 上 げ</th> </tr> <tr> <td>床</td> <td>合板張り又はビニル床シート張り</td> </tr> <tr> <td>内壁・天井</td> <td>合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り</td> </tr> </table> <p>③ 構内既存の施設 ・ 利用できる ○ 利用できない</p> <p>④ 構内既存の施設 ○ 利用できる (・ 有償 ○ 無償) ・ 利用できない</p> <p>⑤ 構内既存の施設 ○ 利用できる (・ 有償 ○ 無償) ・ 利用できない 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。</p> <p>⑥ 内部足場の種別 (参考) ○ 脚立 ・ 棚足場 ・ () 外部足場の種別 (参考) ○ 手摺先行据置枠組木足場 ○ その他 () 防護シート等による養生 ○ 適用する ・ 適用しない</p> <p>設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン (厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。</p> <p>○ 足場 (つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る) の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント (区分が土木又は建築である者) や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参加者」に必要な資格を有する者 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1) 又は2) に掲げる者と同等の知識・経験を有する者 <p>⑦ 配置 ○ 図示 (図面番号:)</p>	適用	○					規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度	種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計	数量	組	台	個	個	個	種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー	数量	足	着	個	個	台	種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	インターネット	冷暖房機器	数量	個	個	台	台	台	部位等	仕 上 げ	床	合板張り又はビニル床シート張り	内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り	屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り	<p>④ 地業工事</p> <p>① 杭の施工管理 杭工事特記仕様書による。</p> <p>② 適用基準 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日)</p> <p>③ 施工記録 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。</p> <p>④ 根拠資料 特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第31条第4項又は第5項 (第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。</p> <p>⑤ 試験杭及び試験掘 (4.2.2) ○ 試験杭 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号: S-9) ・ 試験掘 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:)</p> <p>⑥ 杭の支持層 支持層の位置、土質 ○ 図示 (図面番号: S-15) ・ () (100) mm以下</p> <p>⑦ 水平方向の位置ずれ</p> <p>8. 杭の荷重試験 (4.2.3) 試験方法 ・ 鉛直荷重 ・ 水平荷重 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置、本数 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (kN) 報告書 ・ 提出部数 2部</p> <p>9. 地盤の荷重試験 (4.2.4) 試験方法 ・ 平板荷重 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (kN) 報告書 ・ 提出部数 2部</p> <p>10. 既製コンクリート杭 (4.3.1) (表4.3.1) ・ PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (4.3.3) ・ SC杭 (4.3.4) ・ PRC杭 (4.3.5) ・ 上記以外の建築基準法に基づく杭 (参考表)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長</th> <th>継手数</th> <th>セット数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>先端形状 ・ 開放型 ○ 閉そく型</p> <p>施工方法 ・ セメントミルク工法 ・ オーガの支持層への掘削深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) ・ 杭の支持層への根入れ深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) ・ 根固め液及び杭周固定液の管理試験 ・ 標準仕様書 [4.3.4(6)(c)] ・ ()</p> <p>・ 特定埋込杭工法 ・ 杭の根入れ深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>継手 ・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 (工法:) 杭頭の処理 ○ 行う ・ 行わない</p>	種別	杭径 (mm)	杭長	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																						<p>⑪ 鋼杭地業 (4.4.3) ・ 鋼管杭 ・ SKK400 ○ STK490 (4.4.4) ・ H形鋼杭 ・ SHK400 ・ SHK490M (4.4.5) 径 ・ 300 ・ 350 ・ 400 ・ 450 ○ (267.4) (4.4.6) 長さ (22) m (4.3.5) 継手 ・ JISA5525 (鋼管ぐい) (4.3.8) 径 ・ 300 ・ 350 ・ 400 ・ 450 ・ ()</p> <p>施工方法 ・ 特定埋込杭工法 ・ 杭の根入れ深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) 杭頭の処理 ○ 行う ・ 行わない</p> <p>12. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1) 施工方法 ・ アースドリル工法 (4.5.4) ・ リバース工法 (4.5.4) ・ オールケーシング工法 (4.5.5) ・ 鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) 掘削 ・ 行わない ・ 行う () 杭の根入れ深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) 孔壁の超音波測定 ・ 行う ・ 行わない 帯筋の加工及び組立 ・ 図示 (図面番号:) 鉄筋の最小かぶり厚さ () mm 鉄筋かごの補強 ・ 図示 (図面番号:) 継手 ・ 重ね継手 ・ ()</p> <p>(表4.5.1) コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 設計基準強度 () N/mm² セメントの種類 ・ 高炉セメントB種 ・ () スランプ (cm) ・ 18 ・ () 構造体強度補正值 (S) ・ 3 N/mm² ・ ()</p> <p>13. 地盤改良 ・ () 工法 ・ 六価クロム溶出試験 ・ 室内配合試験 ・ 一軸圧縮試験</p> <p>⑫ 砂及び砂利地業 (4.6.2) (4.6.3) 砂利 ○ 再生クラッシャーラン ・ 切込砂利 ・ 切込碎石 ・ () 砂 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 ・ () 施工範囲 ○ 図示 (図面番号:) 厚さ (mm) ・ 60 ○ (100) ○ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。</p> <p>⑬ 捨コンクリート地業 (4.6.4) 厚さ (mm) ○ 50 ・ () 施工範囲 ○ 図示 (図面番号: S-9, 10) ○ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。</p> <p>⑭ 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5) 施工範囲 ○ 図示 (図面番号:) ポリエチレンフィルム厚さ ○ 0.15mm以上 ・ (S-9) ○ 防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込みは、250mm以上とする。</p>	<p>⑤ 鉄筋工事</p> <p>① 鉄筋の種類 (5.2.1) 種類 (表5.2.1) ○ SD295A ・ D16以下 ○ SD345 ・ D19以上</p> <p>・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの</p> <p>② 溶接金網 (5.2.2) 網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm) ・ 4 ・ 5 ○ 6 ・ () 寸法 (mm) ・ 100×100 ○ 150×150 ・ ()</p> <p>③ 内法直径 (5.3.2) 90° 未満の折曲げの内法直径 ○ 図示 (図面番号: S-2)</p> <p>④ 継手 (5.3.4) 種類 (表5.3.4) ○ 重ね継手 D16以下 部 位 地中梁 ・ ガス圧接 D19以下</p> <p>主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ・ 標準仕様書 [5.3.4] (3) (7) ○ 図示 (図面番号: S-2, 3) 継手位置 ・ 各部配筋参考図による ○ 図示 (図面番号: S-2, 3) 鉄筋定着 ・ 標準仕様書 [表5.3.4] ○ 図示 (図面番号: S-2, 3) ・ 標準仕様書 [図5.3.3] ○ 図示 (図面番号: S-2, 3)</p> <p>⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) (表5.3.6) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ 標準仕様書 [表5.3.6] ○ 図示 (図面番号: S-2)</p> <p>⑥ 各部配筋 (5.3.7) ○ 図示 (図面番号: S-2, 3)</p> <p>7. 圧接完了後の試験 (5.4.10) 抜取試験方法 ・ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験方法 ・ 標準仕様書 [5.4.10] (d) (b) ・ ()</p> <p>8. 機械式継手及び溶接継手 (5.5.2) (5.6.3) ・ 機械式継手 適用箇所 () 種類 () 性能 () 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置 () 鉄筋相互のあき () mm ・ 溶接継手 適用箇所 () 工法 () 性能 () 施工完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置 () 鉄筋相互のあき () mm</p>
	適用	○																																																																																							
	規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度																																																																																			
	種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計																																																																																			
	数量	組	台	個	個	個																																																																																			
	種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー																																																																																			
	数量	足	着	個	個	台																																																																																			
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話・FAX	インターネット	冷暖房機器																																																																																				
数量	個	個	台	台	台																																																																																				
部位等	仕 上 げ																																																																																								
床	合板張り又はビニル床シート張り																																																																																								
内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り																																																																																								
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り																																																																																								
種別	杭径 (mm)	杭長	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																			
<p>③ 土工事</p> <p>① 埋戻し及び盛土 (3.2.3) (表3.2.1)</p> <p>② 建設発生土の処理 (3.2.5)</p> <p>3. 山留めの撤去 (3.3.3)</p>	<p>種別 ・ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種</p> <p>・ 処分地指定 処分地 () ○ 処分地未定につき相互協議する。 暫定運搬距離 ・ 8km ○ 4km ・ () km</p> <p>鋼矢板等の抜き跡の処理 ・ 砂充填 ・ () 山留め壁等 ・ 撤去 ・ 存置</p>																																																																																								

<p>⑥ コンクリート工事</p> <p>1. コンクリートの使用骨材による種類及び強度 (6.2.1) (6.2.2) (6.2.4) (6.10.1) (6.10.2) (6.10.3) (6.11.1) (6.11.3) (表6.2.2) (表6.10.1)</p> <p>② コンクリートの種類 (6.2.1) (表6.2.1)</p> <p>③ コンクリートの仕上り (6.2.5) (表6.2.4) (表6.2.5)</p> <p>④ セメント (6.3.1) (表6.3.1)</p> <p>⑤ 骨材 (6.3.1)</p> <p>⑥ コンクリートの材料 (6.3.1) (表6.3.2)</p> <p>⑦ 打継ぎ (6.6.4)</p> <p>8. 養生 (6.7.2)</p> <p>⑨ 型枠 (6.6.4) (6.8.1) (6.8.2) (表6.8.1)</p> <p>(6.8.4)</p> <p>10. 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>⑪ 暑中コンクリート (6.12.2)</p>	<p>普通コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc</th> <th>適用箇所</th> <th>施工時期</th> <th>スラブ</th> </tr> <tr> <td>①18 (N/mm²)</td> <td>捨てコンクリート</td> <td></td> <td>①15 (cm)</td> </tr> <tr> <td>②21 (N/mm²)</td> <td>土間コンクリート</td> <td></td> <td>①18 (cm)</td> </tr> <tr> <td>③21 (N/mm²)+S</td> <td>デッキスラブコンクリート</td> <td></td> <td>①18 (cm)</td> </tr> <tr> <td>④24 (N/mm²)+S</td> <td>基礎、増打コンクリート</td> <td></td> <td>①18 (cm)</td> </tr> </table> <p>軽量コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 Fc</th> <th>適用箇所</th> <th>種類</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>スラブ</th> </tr> <tr> <td>(N/mm²)</td> <td></td> <td></td> <td>t/m³</td> <td>(cm)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・ 常時土又は水に直接接する部分 図示 (図面番号:)</p> <p>② 種類 ① I 類 ② II 類 ・ 大臣認定品 図示 (図面番号:)</p> <p>③ 合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種類 ・ A 種 ① B 種 ② C 種</p> <p>④ 仕上りの平たんさ ・ a 種 ① b 種 ② c 種</p> <p>⑤ 種類 ① 普通ポルトランドセメント、混合セメント A 種 ・ ()</p> <p>⑥ 高炉セメント B 種又はフライアッシュセメント B 種 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:)</p> <p>⑦ アルカリシリカ反応性による区分 ・ A ・ B ① AL (コンクリートの中のアルカリ総量を規制) ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 鋼スラグ細骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材 H</p> <p>⑧ 混和材料 ① 図示 (図面番号:) 混和剤の種類、使用方法、使用量 ① 標準仕様書 [6.3.1] (4) (a)、標準仕様書 [6.3.2] (4) (f) ・ ()</p> <p>⑨ 混和剤の種類、使用方法、使用量 ・ 標準仕様書 [6.3.1] (4) (b)、標準仕様書 [6.3.2] (4) (f) ・ ()</p> <p>⑩ 構造体強度補正值 (S) ① 標準仕様書 [表6.3.2] ② ()</p> <p>⑪ 位置 ① 標準仕様書 [6.6.4] (1) ② 図示 (図面番号:)</p> <p>⑫ ① 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間 () 日以上</p> <p>⑬ 材料 ① 複合合板 (厚さ (mm) ① 12 ()) 打増し厚さ ① 図示 (図面番号: S-10) ⑭ 誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地の位置、形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>⑮ ① 断熱材の兼用 ・ MCR 工法用シート スリーブの材種、規格等 ・ 鋼管 ① 硬質ポリ塩化ビニル管 ② 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ つば付き鋼管 ③ 図示 (図面番号:)</p> <p>⑯ (6.8.4) ⑰ 型枠存置期間及び取外し ・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間 () 日 適用期間 ()</p> <p>⑱ ① 構造体強度補正值 (S) ① 6 N/mm² ② ()</p>	設計基準強度 Fc	適用箇所	施工時期	スラブ	①18 (N/mm ²)	捨てコンクリート		①15 (cm)	②21 (N/mm ²)	土間コンクリート		①18 (cm)	③21 (N/mm ²)+S	デッキスラブコンクリート		①18 (cm)	④24 (N/mm ²)+S	基礎、増打コンクリート		①18 (cm)	設計基準強度 Fc	適用箇所	種類	気乾単位容積質量	スラブ	(N/mm ²)			t/m ³	(cm)											<p>12. マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2) (表6.13.1)</p> <p>適用箇所 ① 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 中熟ポルトランドセメント ・ 低熟ポルトランドセメント ・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種 ・ シリカセメント</p> <p>スラブ ① 15cm ② ()</p> <p>③ 混和剤の種類 ① 標準仕様書 [6.13.2] (2) (7) ② () ④ 混和剤の種類 ① 標準仕様書 [6.13.2] (2) (4) ② () ⑤ 構造体強度補正值 (S) ① 標準仕様書 [表6.13.1] ② ()</p> <p>13. 無筋コンクリート (6.14.1)</p> <p>① コンクリートの種類 ① 普通コンクリート ② () ③ 適用箇所 ① 標準仕様書 [6.14.1] ② () ④ (7) ⑤ (4) ⑥ (4) ⑦ (I) ⑧ (4) ⑨ (4)</p> <p>⑩ 上記以外の適用箇所 () ⑪ 設計基準強度 ① 18 (N/mm²) ② () (N/mm²) ③ スラブ ① 15cm ② 18cm</p> <p>④ 適用箇所 ① 図示 (図面番号:)</p>	<p>⑧ 溶接材料 (7.2.5) ⑨ ターンバックル (7.2.6) ⑩ デッキプレート (7.2.7) (7.7.8) 11. スタッド (7.2.8) ⑫ 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2) 13. 材料試験等 (7.2.10) ⑭ ねじの孔径 (7.3.8) ⑮ 仮組 (7.3.10) ⑯ 溶接作業における技能資格者 (7.6.3) ⑰ 溶接部の開先 (7.6.4) ⑱ 溶接施工 (7.6.7)</p> <p>材料 ① 標準仕様書 [7.2.5] (1) (2) 以外の溶接材料 ()</p> <p>⑧ 種類及び呼び等 ① 図示 (図面番号:) ⑨ 建築用ターンバックル胴 ① 割枠式 ② () ③ 建築用ターンバックルボルト ④ 羽子板ボルト ⑤ ()</p> <p>⑩ 材質、形状及び寸法 ① 図示 (図面番号: S-7) ② 溶接方法 ① 図示 (図面番号: S-7)</p> <p>⑪ 種類等 ① 図示 (図面番号:)</p> <p>⑫ 柱底均しモルタルの工法、厚み ① A 種 (30)mm ② B 種 ()mm ③ 無収縮モルタルの材料及び割合 ④ 標準仕様書 [7.2.9] (2) ⑤ ()</p> <p>⑬ 板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 ・ JIS G 0901 により行う</p> <p>⑭ 普通ボルトの孔径 (母屋又は胴縁の取付け) ① ねじの呼び径 ±1.0mm ② ()</p> <p>⑮ ① 行わない ② 行う ③ 仮組を行う範囲 ④ 図示 (図面番号:)</p> <p>⑯ 溶接作業の技量付加試験 ① 行わない ② 行う</p> <p>⑰ 開先の形状 ① 図示 (図面番号: S-4)</p> <p>⑱ 鋼製エンドタブの切除 ① 適用及び切断範囲 ② 図示 (図面番号: S-4) ③ 切断面の仕上げ ④ 標準仕様書 [7.6.7] (1) (b) (b) ⑤ 図示 (図面番号:)</p> <p>⑲ 鋼製エンドタブに代わるその他の工法 鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方を満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。 1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。 2. 製作工場が J、R、M グレードの場合は、溶接技能者が NPO 法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習終了者 (溶接技能者 A 級以上)、又は AW 検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場が H、S グレードの場合は溶接技能者が AW 検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。</p> <p>⑳ 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ① 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ② 図示 (図面番号:) ③ スカラップの形状 ④ 図示 (図面番号: S-4)</p> <p>㉑ 試験の種類 ① 溶接部の外観試験方法 ② () ③ 超音波探傷試験 ④ ()</p> <table border="1"> <tr> <th>溶接区分</th> <th>AOQL (%)</th> <th>検査水準</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td></td> <td></td> <td>① 全数試験</td> </tr> <tr> <td>工場溶接</td> <td>① 2.5 ② 4.0</td> <td>① 6</td> <td></td> </tr> </table> <p>㉒ 耐火被覆材の接着する面への塗装 (7.8.2) (7.8.4) ① 塗装範囲 ② 図示 (図面番号:) ③ 種別 ④ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] (A) 種 ⑤ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.2] () 種</p>	溶接区分	AOQL (%)	検査水準	備考	現場溶接			① 全数試験	工場溶接	① 2.5 ② 4.0	① 6		<p>⑳ 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ① 塗装範囲 ② 図示 (図面番号:) ③ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ④ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] () 種</p> <table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>工法</th> <th>耐火性能</th> </tr> <tr> <td>柱</td> <td></td> <td>ロックウール</td> <td>吹付</td> <td>1h</td> </tr> <tr> <td>梁</td> <td></td> <td>ロックウール</td> <td>吹付</td> <td>1h</td> </tr> </table> <p>㉑ 22. 軽量形鋼 (7.11.2) ① 接合部 (ボルト接合の場合) ② ① 普通ボルト接合 ② ()</p> <p>㉒ 8. コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板</p> <p>① 1. 補強コンクリートブロック造 (8.2.2) (8.2.3) (8.2.5) (8.2.7) (8.2.8) (表8.2.1) ② 2. コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2) (8.3.3) (8.3.4) (8.3.7) (表8.3.1)</p> <p>③ ALC パネル (8.4.2) (8.4.3) (8.4.4) (8.4.5) (表8.4.4) (8.4.5) (表8.4.4)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位荷重 (N/mm²)</th> <th colspan="3">呼び寸法</th> <th rowspan="2">構法</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> </tr> <tr> <th>厚さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>長さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>① 外壁パネル</td> <td>① ()</td> <td>① 100 ② (125)</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① A 種 ② B 種</td> <td>① (1) 時間 ② 無し</td> </tr> <tr> <td>③ 間仕切壁パネル</td> <td>① ()</td> <td>① 100 ② (125)</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① C 種 ② E 種 ③ D 種</td> <td>① (1) 時間 ② 無し</td> </tr> <tr> <td>④ 屋根パネル</td> <td>① ()</td> <td>① 100 ② ()</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① F 種</td> <td>① (0.5) 時間 ② 無し</td> </tr> <tr> <td>⑤ 床パネル</td> <td>① ()</td> <td>① 100 ② 120 ③ 150</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① F 種</td> <td>① () 時間 ② 無し</td> </tr> </table> <p>④ ① パネル幅を 300mm 以下とする部分 ② 適用あり ③ 外壁、屋根及び床パネル構法 ④ 風圧力に対応した工法 ⑤ 適用あり ⑥ パネル短縮小口相互の伸縮目地幅 (mm) ⑦ () ⑧ 出隅、入隅等の取合い部の伸縮目地幅 (mm) ⑨ () ⑩ 伸縮目地への耐火目地材の充填 ⑪ 適用する (材料: ロックウール)</p> <p>⑫ 4. 押出成形セメント板 (8.5.2) (8.5.3) (8.5.4) (表8.5.1) (8.5.5) (表8.5.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>表面形状及び原料区分</th> <th>板厚 (mm)</th> <th>働き幅 (mm)</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>① 外壁パネル</td> <td>① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① A 種 ② B 種</td> </tr> <tr> <td>④ 間仕切壁パネル</td> <td>① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル</td> <td>① ()</td> <td>① ()</td> <td>① B 種 ② C 種</td> </tr> </table> <p>⑬ ① パネル幅を 300mm 以下とする部分 ② 適用あり ④ パネル相互の目地幅 (mm) ⑤ ① 長辺 8 以上、短辺 15 以上 ② () ⑥ 出隅、入隅の接合部の伸縮調整目地幅 (mm) ⑦ 15 () ⑧ 目地及び隙間の処理 ⑨ () ⑩ 外壁パネル構法 ⑪ 風圧力に対応した工法 ⑫ 適用あり ⑬ 間仕切壁パネル構法 ⑭ パネルに欠き込みを行う場合 ⑮ ① パネル開口の限度 ② 図示 (図面番号:)</p>	部位	種類	材料	工法	耐火性能	柱		ロックウール	吹付	1h	梁		ロックウール	吹付	1h	区分	単位荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	① 外壁パネル	① ()	① 100 ② (125)	① ()	① ()	① A 種 ② B 種	① (1) 時間 ② 無し	③ 間仕切壁パネル	① ()	① 100 ② (125)	① ()	① ()	① C 種 ② E 種 ③ D 種	① (1) 時間 ② 無し	④ 屋根パネル	① ()	① 100 ② ()	① ()	① ()	① F 種	① (0.5) 時間 ② 無し	⑤ 床パネル	① ()	① 100 ② 120 ③ 150	① ()	① ()	① F 種	① () 時間 ② 無し	種類	表面形状及び原料区分	板厚 (mm)	働き幅 (mm)	工法	① 外壁パネル	① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル	① ()	① ()	① A 種 ② B 種	④ 間仕切壁パネル	① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル	① ()	① ()	① B 種 ② C 種
	設計基準強度 Fc	適用箇所	施工時期	スラブ																																																																																																																								
①18 (N/mm ²)	捨てコンクリート		①15 (cm)																																																																																																																									
②21 (N/mm ²)	土間コンクリート		①18 (cm)																																																																																																																									
③21 (N/mm ²)+S	デッキスラブコンクリート		①18 (cm)																																																																																																																									
④24 (N/mm ²)+S	基礎、増打コンクリート		①18 (cm)																																																																																																																									
設計基準強度 Fc	適用箇所	種類	気乾単位容積質量	スラブ																																																																																																																								
(N/mm ²)			t/m ³	(cm)																																																																																																																								
溶接区分	AOQL (%)	検査水準	備考																																																																																																																									
現場溶接			① 全数試験																																																																																																																									
工場溶接	① 2.5 ② 4.0	① 6																																																																																																																										
部位	種類	材料	工法	耐火性能																																																																																																																								
柱		ロックウール	吹付	1h																																																																																																																								
梁		ロックウール	吹付	1h																																																																																																																								
区分	単位荷重 (N/mm ²)	呼び寸法			構法	耐火性能																																																																																																																						
		厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)																																																																																																																								
① 外壁パネル	① ()	① 100 ② (125)	① ()	① ()	① A 種 ② B 種	① (1) 時間 ② 無し																																																																																																																						
③ 間仕切壁パネル	① ()	① 100 ② (125)	① ()	① ()	① C 種 ② E 種 ③ D 種	① (1) 時間 ② 無し																																																																																																																						
④ 屋根パネル	① ()	① 100 ② ()	① ()	① ()	① F 種	① (0.5) 時間 ② 無し																																																																																																																						
⑤ 床パネル	① ()	① 100 ② 120 ③ 150	① ()	① ()	① F 種	① () 時間 ② 無し																																																																																																																						
種類	表面形状及び原料区分	板厚 (mm)	働き幅 (mm)	工法																																																																																																																								
① 外壁パネル	① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル	① ()	① ()	① A 種 ② B 種																																																																																																																								
④ 間仕切壁パネル	① フラットパネル ② デザインパネル ③ タイルベースパネル	① ()	① ()	① B 種 ② C 種																																																																																																																								
<p>⑦ 鉄骨工事</p> <p>① ① 施工管理技術者 (7.1.4) ② ② 製作工場 (7.1.3)</p> <p>③ ③ 鋼材 (7.2.1) (表7.2.1)</p> <p>④ ④ 高力ボルト (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2) (7.4.7)</p> <p>⑤ ⑤ 普通ボルト (7.2.3) (表7.2.3) (7.3.2)</p> <p>⑥ ⑥ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.12.5)</p> <p>⑦ ⑦ アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3) (表7.10.1) (表7.2.3)</p> <p>⑧ ⑧ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ① 標準仕様書 [表7.2.3] ② 図示 (図面番号:)</p> <p>⑨ ⑨ 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ① 図示 (図面番号: S-6) ② ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ③ 図示 (図面番号: S-6)</p>	<p>① ① 配置する (株) 日本鉄骨評価センター又は (株) 全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ① J ② R ③ M ④ H ⑤ S</p> <p>③ ③ 種類、形状及び寸法 ① 図示 (図面番号: S-13)</p> <p>④ ④ 種類 ① トルシア形高力ボルト (S10T) ② JIS 形高力ボルト 2 種 (F10T) ③ 溶融亜鉛めっき高力ボルト 1 種 (F8T 相当) ④ ()</p> <p>⑤ ⑤ 高力ボルトのねじの呼び ① 図示 (図面番号: S-13) ② ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ③ 図示 (図面番号: S-13) ④ すべり試験の試験方法 ⑤ () ⑥ JIS 形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの 5 倍を超える場合 ⑦ 回転量 ()。</p> <p>⑧ ⑧ ボルト及びナットの材料等、ボルトのねじの呼び ① 図示 (図面番号:) ② ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ③ 図示 (図面番号:)</p> <p>⑨ ⑨ 摩擦面の処理 ① プラスト処理 (表面粗度 50 μm Rz 以上) ② りん酸塩処理 ③ すべり試験の試験方法 ④ ()</p> <p>⑩ ⑩ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ① 図示 (図面番号:)</p>	<p>① ① 溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>② ② 試験の種類 ③ 溶接部の外観試験方法 ④ () ⑤ 超音波探傷試験 ⑥ ()</p> <table border="1"> <tr> <th>溶接区分</th> <th>AOQL (%)</th> <th>検査水準</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td></td> <td></td> <td>① 全数試験</td> </tr> <tr> <td>工場溶接</td> <td>① 2.5 ② 4.0</td> <td>① 6</td> <td></td> </tr> </table> <p>③ ③ 耐火被覆材の接着する面への塗装 (7.8.2) (7.8.4) ④ ④ 塗装範囲 ⑤ 図示 (図面番号:) ⑥ ⑥ 種別 ⑦ ⑦ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.1] (A) 種 ⑧ ⑧ 標準仕様書 [18.3.2]、[表18.3.2] () 種</p>	溶接区分	AOQL (%)	検査水準	備考	現場溶接			① 全数試験	工場溶接	① 2.5 ② 4.0	① 6																																																																																																															
溶接区分	AOQL (%)	検査水準	備考																																																																																																																									
現場溶接			① 全数試験																																																																																																																									
工場溶接	① 2.5 ② 4.0	① 6																																																																																																																										

<p>9</p> <p>防水工事</p>	<p>1. アスファルト防水</p> <p>(表9.2.3) ~ (表9.2.8)</p> <p>(9.2.2) (9.2.3)</p> <p>改質アスファルトルーフィングシート</p> <p>種類 ・ 標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()</p> <p>厚さ ・ 標準仕様書[表9.2.3] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート</p> <p>種類 ・ 標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()</p> <p>厚さ ・ 標準仕様書[表9.2.5] ~ [表9.2.8] ・ 図示 ()</p> <p>絶縁用シート</p> <p>・ ポリエチレンフィルム (厚さ 0.15mm以上)</p> <p>・ フラットヤーノクロス (70g/m²)</p> <p>押え金物</p> <p>・ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm) ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>断熱材</p> <p>・ 屋根保護防水断熱工法 厚さ () mm</p> <p>・ 屋根露出防水断熱工法 種類 () 厚さ () mm</p> <p>(表9.2.3) 屋根保護防水</p> <p>~ (表9.2.6) 立上り部の保護工法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>乾式保護材 ・ 使用する</p> <p>立上り部保護れんが ・ JIS R 1250 ・ ()</p> <p>(表9.2.8) 断熱工法における立上り部への断熱材及び絶縁シート ・ 設置する</p> <p>(表9.2.7) 脱気装置</p> <p>(表9.2.8) ・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()</p> <p>(表9.2.7) 屋根露出防水における仕上塗料</p> <p>(表9.2.8) ・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()</p> <p>(表9.2.9) 屋内防水密着工法における保護層</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>E-1の工程3 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>(9.2.4) 防水層の下地モルタル塗り</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>立上りのコンクリート打放し仕上げの種別</p> <p>種別 ・ B種 ・ ()</p> <p>屋根露出防水絶縁断熱工法</p> <p>ルーフトレン回り及び立上り部周辺断熱材の張りじまい位置</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>(9.2.5) 保護コンクリートの厚さ</p> <p>こて仕上げ ・ 水下 80mm以上 ・ ()</p> <p>床タイル張り ・ 水下 60mm以上 ・ ()</p> <p>立上り部の保護方法</p> <p>・ 乾式保護材 ・ れんが押え ・ コンクリート押え</p> <p>・ モルタル押え (屋内等) ・ ()</p> <p>屋上排水溝</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p>	<p>種別 施工箇所</p> <table border="1"> <tr><td>種別</td><td>施工箇所</td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	種別	施工箇所					<p>③合成高分子系ルーフィングシート防水</p> <p>(9.4.2) (9.4.3) (9.4.4)</p> <p>ルーフィングシート</p> <p>種類 ⊙標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・ 図示 ()</p> <p>厚さ ⊙標準仕様書[表9.4.1] ~ [表9.4.3] ・ 図示 ()</p> <p>(表9.4.1) (表9.4.2) (表9.4.3)</p> <p>可塑性移行防止用シート</p> <p>⊙発砲ポリエチレンシート ・ ()</p> <p>固定金具 材質、寸法形状 ()</p> <p>⊙ 図示 (図面番号: A-25)</p> <p>断熱材 種類、厚さ</p> <p>・ 機械的固定工法 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 接着工法 図示 (図面番号:)</p> <p>仕上塗料</p> <p>・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()</p> <p>防湿用フィルムの設置 ・ 有り ・ 無し</p> <p>屋内保護密着工法</p> <p>モルタル塗り厚さ ・ () mm</p> <p>立上り部の保護モルタル塗厚さ ・ 7mm以下 ・ () mm</p> <p>目地処理 (接着工法)</p> <p>PC下地 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>増張り (S-F1, SI-F1)</p> <p>PC入隅部 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>機械的固定工法</p> <p>風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>脱気装置</p> <p>・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()</p>	<p>種別 施工箇所</p> <table border="1"> <tr><td>種別</td><td>施工箇所</td></tr> <tr><td>X-1</td><td> </td></tr> <tr><td>X-2</td><td> </td></tr> <tr><td>Y-1</td><td> </td></tr> <tr><td>Y-2</td><td> </td></tr> </table> <p>脱気装置 (X-1)</p> <p>・ 設置数量 図示 (図面番号:) 種類 ()</p> <p>保護層 (Y-2) ・ 保護コンクリート ・ 保護モルタル</p> <p>仕上塗料 (X-1, X-2)</p> <p>・ 図示 (図面番号:) 種類 () 使用量 ()</p>	種別	施工箇所	X-1		X-2		Y-1		Y-2		<p>⑤ケイ酸質系塗布防水</p> <p>(9.6.1) (9.6.3) (9.6.4)</p> <p>防水層の下地</p> <p>壁及び天井部の仕上げ ・ コンクリート打放し仕上げ (B種)</p> <p>⊙ 図示 (図面番号: A-25)</p> <p>(9.6.4) 防水層下地のコンクリートの打継ぎ箇所の下地処理</p> <p>⊙標準仕様書[9.6.4] (2) (7) 後段 ・ ()</p> <p>(表9.6.1) 標準仕様書 [9.6.4] (2) (4) 及び (7) 以外の処理 ・ ()</p>	<p>⑥シーリング</p> <p>(9.7.2) (9.7.3) (表9.7.1)</p> <p>⊙標準仕様書[表9.7.1]による</p> <p>施工箇所 目地寸法 種類 仕上</p> <table border="1"> <tr><td>外部取り合い</td><td>10×10</td><td>MS-2</td><td>省略</td></tr> </table> <p>接着性試験</p> <p>⊙簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験</p>	外部取り合い	10×10	MS-2	省略	<p>1. 共通</p> <p>割付 ・ 図示 (図面番号:)</p>	<p>2. 天然石</p> <p>(10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用部位</th> <th>種類(名称)</th> <th>寸法(mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>工法</th> <th>形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床</td> <td></td> <td></td> <td>・ 粗磨き ・ ()</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁</td> <td></td> <td></td> <td>・ 水磨き ・ ()</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ジェットバーナー仕上面 バフ仕上 ・ あり ・ なし</p>	使用部位	種類(名称)	寸法(mm)	表面仕上げ	工法	形状	床			・ 粗磨き ・ ()			壁			・ 水磨き ・ ()			<p>3. テラゾ</p> <p>(10.2.1) (表10.2.2)</p> <p>テラゾタイル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用部位</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ</th> <th>寸法による区分</th> <th>表面仕上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ 大理石</td> <td>・ 1.5~12mm</td> <td>・ 300型 ・ 400型</td> <td>・ ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>テラゾブロック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用部位</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ</th> <th>形状</th> <th>仕上げ面</th> <th>寸法(mm)</th> <th>表面仕上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ 大理石</td> <td>・ 1.5~12mm</td> <td>・ 平も ・ 役も</td> <td>・ 片面 ・ 両面</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. その他の材料</p> <p>(10.2.3)</p> <p>取付用モルタル ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>目地用モルタル ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>浸透性吸水防止剤 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>石裏面処理材 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>裏打ち処理材 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>充填材料 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>5. 外壁湿式工法</p> <p>(10.2.2) (10.2.3)</p> <p>受金物の材質、形状、寸法</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>アンカーの材質及び寸法</p> <p>材質 ・ SS400 ・ () 寸法 ()</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()</p> <p>(10.3.2) ドレンパイプの材質</p> <p>(10.3.3) ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ</p> <p>・ ()</p> <p>石材の厚さ ・ 25mm以上 ・ ()</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する</p> <p>下地ごしらえ</p> <p>・ 流し筋工法 ・ あと施工アンカー工法</p> <p>・ あと施工アンカー横筋流し工法</p> <p>目地 一般目地</p> <p>目地幅 ・ 6mm以上 ・ ()</p> <p>シーリング材の有無 ・ 有り ・ 無し</p> <p>伸縮調整目地</p> <p>位置 ・ 標準仕様書[表11.1.1] ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>シーリング材の目地寸法</p> <p>・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>6. 内壁空積工法</p> <p>(10.2.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3)</p> <p>受金物の材質、形状、寸法</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>アンカーの材質及び寸法 材質 ・ SS400 ・ () 寸法 ()</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()</p> <p>石材の厚さ ・ 20mm以上 ・ ()</p> <p>下地ごしらえ</p> <p>・ あと施工アンカー横筋流し工法 ・ あと施工アンカー工法</p> <p>目地 一般目地</p> <p>目地幅 ・ 6mm以上 ・ ()</p> <p>伸縮調整目地</p> <p>位置 ・ 6mごと ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>シーリング材の目地寸法</p> <p>・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>7. 外壁乾式工法</p> <p>(10.2.2) (10.5.2) (10.5.3)</p> <p>金物の種類、形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>取り付け工法</p> <p>・ スライド方式 ・ ロッキング方式</p> <p>アンカーの材質及び寸法 材質 ・ SUS304 ・ () 寸法 ()</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()</p> <p>石材の厚さ ・ 30mm以上 (外壁) ・ 25mm以上 (内壁) ・ ()</p> <p>たば用穴の位置 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する</p> <p>風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>目地</p> <p>目地幅 ・ 8mm以上 ・ ()</p> <p>シーリング材 ・ 適用する</p>	使用部位	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上		・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 300型 ・ 400型	・ ()	使用部位	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上		・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 平も ・ 役も	・ 片面 ・ 両面	・ ()	・ ()	<p>8. 床及び階段の石張り</p> <p>(10.3.3) (10.6.2) (10.6.3)</p> <p>石材の厚さ ・ () mm</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する (浸透性吸水防止剤)</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する (浸透性吸水防止剤)</p> <p>目地 一般目地</p> <p>目地幅 ・ 屋内4mm以上、屋外3~6mm</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>伸縮調整目地</p> <p>位置 ・ 標準仕様書[10.6.2] (5) (4) 後段</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>シーリング材の目地寸法</p> <p>・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>9. 笠木、甲板等</p> <p>(10.2.2) (10.3.3)</p> <p>取付け金物</p> <p>・ 標準仕様書[10.2.2] (3) (7) の各後段 ・ ()</p> <p>アンカーの材質及び寸法</p> <p>材質 ・ SUS304 ・ () 寸法 ()</p> <p>(10.5.3) あと施工アンカーの材質及び寸法 ・ ()</p> <p>(10.7.2) 取付工法 ・ 湿式工法 ・ 乾式工法</p> <p>石材の厚さ ・ () mm</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する</p> <p>取付け代 (乾式工法の場合)</p> <p>・ 標準仕様書[10.5.3] (2) ・ () mm</p> <p>石裏の補強用モルタル (乾式工法の場合)</p> <p>・ 適用する 図示 (図面番号:)</p> <p>目地 一般目地</p> <p>目地幅 ・ () mm</p> <p>伸縮調整目地 (外壁湿式工法の場合)</p> <p>位置 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>シーリング材の目地寸法</p> <p>・ 幅、深さとも10mm以上 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>10. 隔て板</p> <p>(10.7.3)</p> <p>石材の厚さ ・ 40mm ・ ()</p>	<p>11 タイル工事</p> <p>1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地</p> <p>(11.1.3)</p> <p>位置 ・ 標準仕様書[表11.1.1]</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>2. タイル張り</p> <p>(表11.2.3) (11.2.2) (11.2.3) (11.3.2) (11.3.4) (表11.3.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>工法</th> <th>種類</th> <th>形状寸法</th> <th>耐滑り性</th> <th>うわくすり</th> <th>役物</th> <th>標準・特注色</th> <th>耐凍害性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>・ 試験張りを行う</p> <p>・ 見本焼きを行う</p> <p>・ 既調合モルタル材料 ()</p> <p>(11.2.6) セメントモルタル塗り又は有機系接着剤あと張り工事</p> <p>(11.3.5) コンクリート素地面の処理 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 目荒し工法 ・ MCR工法</p> <p>有機系接着剤あと張り工事</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継、ひび割れ誘発目地 ・ PU-2 ・ ()</p> <p>伸縮、その他目地 ・ MS-2 ・ ()</p> <p>外装タイル接着剤張りの目地詰め</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p>	施工箇所	工法	種類	形状寸法	耐滑り性	うわくすり	役物	標準・特注色	耐凍害性																											
	種別	施工箇所																																																																																																											
種別	施工箇所																																																																																																												
X-1																																																																																																													
X-2																																																																																																													
Y-1																																																																																																													
Y-2																																																																																																													
外部取り合い	10×10	MS-2	省略																																																																																																										
使用部位	種類(名称)	寸法(mm)	表面仕上げ	工法	形状																																																																																																								
床			・ 粗磨き ・ ()																																																																																																										
壁			・ 水磨き ・ ()																																																																																																										
使用部位	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上																																																																																																									
	・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 300型 ・ 400型	・ ()																																																																																																									
使用部位	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上																																																																																																							
	・ 大理石	・ 1.5~12mm	・ 平も ・ 役も	・ 片面 ・ 両面	・ ()	・ ()																																																																																																							
施工箇所	工法	種類	形状寸法	耐滑り性	うわくすり	役物	標準・特注色	耐凍害性																																																																																																					

12 木工事

1. 木材
(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1)

2. 製材
(12.2.1)(2)(7)

「JAS 1083」による製材

部材名称	種別
下地材	・ A種 ・ B種
造作材	・ A種 ・ B種

「JAS 1083」以外の製材

寸法	等級	含水率	保存処理	県産材
下地用製材	・ 図示 (:)	・ ()		
造作用製材	・ 図示 (:)	・ ()		
広葉樹製材	・ 図示 (:)	・ ()	・ 10% 以下	

(12.2.1)(2)(4) (表12.2.2)

「JAS 1083」以外の製材

樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率

・ 図示 (図面番号:)

造作材の材面の品質 ・ A種 ・ ()

樹種

部位	樹種	県産材

3. 集成材等
(12.2.1)

造作用集成材

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等

品名・樹種・寸法 見付け材面数	見付け材面の品質	化粧薄板厚さ
造作用集成材	・ 図示 (図面番号:)	・ 1等
化粧ばり造作用集成材	・ 図示 (図面番号:)	・ 1等

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等

樹種、寸法、見付け材面の品質及び含水率等

・ 図示 (図面番号:)

4. 造作用単板積層材
(12.2.1)

「JAS 0701」による造作用単板積層材

品名、寸法、表面の品質及び防虫処理

・ 図示 (図面番号:)

「JAS 0701」以外の造作用単板積層材

寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理

・ 図示 (図面番号:)

5. 直交集成材
(12.2.1)

JAS 3079」による直交集成材

品名、曲げ強度(強度等級)、種別、接着性能(使用環境)、樹種、寸法

・ 図示 (図面番号:)

6. 合板等
(12.2.1)

品名・品目	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫・保存処理等	厚さ

構造用合板の強度等級

・ 図示 (図面番号:)

特殊加工化粧合板の化粧加工方法

・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 ・ ()

パーティクルボード

表面の状態、曲げ強度、耐水性、難燃性による区分、厚さ等

・ 図示 (図面番号:)

7. 接合具等
(12.2.2) (表12.2.3) ~ (表12.2.5)

ミディアムデンシティーファーパーボード (MDF)

表面の状態、曲げ強度、接着剤、難燃性による区分、厚さ等

・ 図示 (図面番号:)

造成材の化粧面の釘打ち

・ 隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ つぶし頭釘打ち ・ 釘頭現し

諸金物の形状、寸法、材質

・ 図示 (図面番号:)

8. 防虫・防蟻・防虫処理
(12.3.1) (12.3.2)

防腐・防蟻処理

薬剤加圧注入

適用部材、保存処理性能区分 ・ 図示 (図面番号:)

薬剤の塗布等

処理方法 ・ 薬剤の製造所の仕様 ・ ()

附属書A (規定) に基づく表面処理用木材保存剤による処理

薬剤の種類、適用部材 ・ 図示 (図面番号:)

薬剤の接着剤への混入 ・ ()

合板等の加圧注入 ・ ()

防虫処理 ・ ()

9. RC等の間仕切組及び床組
(12.4.1)

間仕切組に用いる木材 ・ 杉 ・ 松 ・ ()

床組に用いる木材(土間スラブ)の土台、転ばし大引、転ばし根太

・ ひのき ・ 保存処理材 ・ ()

床組に用いる木材(上記以外) ・ 杉 ・ 松 ・ ()

10. 窓、出入口等
(12.5.1)

吊元枠、水掛りの下枠、敷居 ・ ひのき ・ ()

上記以外 ・ 松 ・ 杉 ・ ()

11. 床板張り
(12.6.1)

緑甲板、上がりがまち ・ ひのき ・ ()

12. 壁及び天井下地
(12.7.1)

木材 ・ 杉 ・ 松 ・ ()

13 屋根及びびとい工事

1. 長尺金属板葺
(13.2.2) (13.2.3) (表13.2.1)

屋根葺形式	材種	厚さ (mm)	葺板の寸法	下葺の種類
・ 立て平葺	・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛	・ 0.4		・ フスファルト
・ 心木なし瓦葺	・ 合金メッキ鋼板			・ ル-フィンク 940

風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

屋根葺工法に応じた下地留め付け方法等 ・ 図示 (図面番号:)

横葺のけらば ・ つかみ込み納め ・ けらば包み納め

雪止め ・ 図示 (図面番号:)

2. 折板葺
(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1)

緊結方法	板厚 (mm)	山高 (mm)	山ピッチ (mm)	耐力区分
・ 重ね形	・ 0.8	・ 90	・ ()	・ ()
	・ 0.6	・ ()	・ ()	・ ()
・ はぜ締め形	材種		軒先面戸板	
	・ 塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板		・ あり	
				・ なし

断熱材 種別 ・ ガラス繊維シート ・ ()

厚さ ・ 5mm ・ ()mm

防火性能 ・ ()

風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

積雪荷重に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

けらば納め ・ けらば包み ・ ()

3. 粘土瓦葺
(13.4.2) (13.4.3)

種類	大きさ	産地	役物の種類	棟の工法

凍害試験 ・ 行う ・ 行わない

雪止め瓦 ・ 使用する

瓦葺木の材種、寸法 ・ 杉 21×15 ・ ()

棟補強用心材の材質、寸法 ・ 杉 40×30 ・ ()

瓦繋ぎ釘又はねじの種類、径、長さ ・ 図示 (図面番号:)

棟補強等に使用する金物等の材質、形状、寸法、留付け方法

・ 図示 (図面番号:)

下葺材料の種類 ・ ()

風圧力及び地震力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

檼木の留付け工法 ・ 図示 (図面番号:)

棟の工法 ・ 7寸丸伏せ棟又はF形用冠伏せ棟 ・ のし積み棟

面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部の仕上 ・ モルタル ・ 瓦葺用しっくい

④ とい
(13.5.2) (表13.5.1) (表13.5.2) (13.5.3) (表13.5.4)

材種 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ・ 配管用鋼管 (白管) ・ ()

表面処理鋼板の塗膜の種類 ・ ()

耐酸被覆鋼板 材質等 ・ ()

受金物及び足金物の材種、形状、取付け間隔 図示 (図面番号: A-24)

軒どいの取付け間隔 (多雪地域) ・ 0.5m以下 ・ ()

鋼管製といの防露巻工法 ・ 標準仕様書 [表13.5.4] ・ ()

① アルミニウム
(14.2.1) (表14.2.1)

表面処理の種類

・ AB-1 ・ AB-2 ・ AC-1 ・ AC-2 ・ BA-1

・ BA-2 ・ BB-1 BB-2 ・ BC-1 ・ BC-2

・ C (常温乾燥形の塗装 ())

陽極酸化被膜の着色方法 二次電解着色 ・ ()

陽極酸化被膜の色合い等 (標準色)

2. 鉄鋼の亜鉛めっき
(14.2.2) (表14.2.2)

亜鉛めっきの種類

・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種

③ 軽量鉄骨
天井下地
(14.4.2) (表14.4.1) (14.4.3) (表14.4.2) (14.4.4)

野縁等の種類

屋内 19形 ・ ()

屋外 ・ 25形 ・ ()

屋外の野縁受等の間隔 ・ 図示 (図面番号:)

吊りボルトの補強方法 (@90mm超) ・ 図示 (図面番号:)

吊りボルトの水平補強、斜め補強

・ 天井ふところ > 3.0m 図示 (図面番号:)

・ 耐震天井 図示 (図面番号:)

・ 耐風圧の補強 図示 (図面番号:)

④ 軽量鉄骨壁
下地
(14.5.3) (表14.5.1) (14.5.4)

スタッド、ランナーの種類

・ 50型 65型 ・ 90型 ・ 100型 ・ スタッドの高さによる区分

図示 (図面番号: A-26)

スタッドの高さ5m超

・ 図示 (図面番号:)

出入口、開口部の補強 標準仕様書 [表14.5.4] (5) 後段 ・ ()

5. 金属成形板
張り
(14.6.2) (14.6.3)

施工箇所	種別	形状	表面処理
	・ アルミニウム		
	・ ステンレス		
	・ 鋼		
		・ スパンドレル形	
		・ パネル形	

取付け用下地 ・ 図示 (図面番号:)

長尺ものにおける伸縮調整継手

・ 設ける 図示 (図面番号:)

⑥ アルミニウム製
製木
(14.7.2) (14.7.3) (表14.7.1)

部材の種類 175形 ・ 250形 ・ 300形 ・ 350形

表面処理 ・ (アルマイト処理)

固定方法 図示 (図面番号: A-25)

風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

⑦ 天井見切縁

材種 ・ アルミニウム合金製 塩化ビニル製

取付箇所	材種	寸法	形式
<input checked="" type="radio"/> 天井	<input checked="" type="radio"/> アルミニウム製	・ 450角	<input checked="" type="radio"/> 額縁タイプ
		<input checked="" type="radio"/> 600角	・ 目地タイプ

⑧ 点検口

⑮ 左官工事

1. ラス系下地
(15.2.4)

通気工法 ・ 二層下地 ・ 単層下地

直張り工法 ・ ラスマルタル下地 ・ ラスシートモルタル下地

ラス及び補強用ラス

材料記号	種類	質量 (kg/m ²)
・ K	・ ()	・ ()
・ ()	・ ()	・ ()

ラスシート

山高 (mm)	山ピッチ (mm)	質量 (kg)	溶接ピッチによる区分
・ ()	・ ()	・ ()	・ ()

外張断熱工法 ・ 図示 (図面番号:)

ステーブルの形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)

換気口部の措置 ・ 標準仕様書 (木造) [11.4.3] (2) (ウ) ・ ()

2. セッコウボード
その他のボード下地
(15.2.5)

セッコウボード、セッコウラスボードの種類、厚さ

図示 (図面番号:) ・ ()

木質系セメント板の種類、厚さ

・ 図示 (図面番号:)

3. こまい下地
及び木ずり下地
(15.2.6) (15.2.7)

耐力壁の指定 ・ 図面 (図面番号:)

木ずり用小幅板の樹種

・ 杉 (芯去り材) ・ 図示 (図面番号:)

④ モルタル塗り
(15.3.2) (15.3.5)

材料 現場調査材料 ・ 既調査材料

既製目地材 ・ 使用する 図示 (図面番号:)

床の目地 ・ 図示 (図面番号:)

下地モルタル、下地調整塗材の接着力試験 (外壁タイル張り等)

・ 実施する

⑤ 仕上塗材仕上
(15.6.2) (表15.6.1)

種類	呼び名	仕上形状	工法
薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状	・ 吹付け
	・ 内装薄塗材E	・ 着色骨材砂壁状	
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し	・ 吹付け
		・ 凸部処理	
		・ 平たん状	
		・ 凹凸状	
	・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し	・ 吹付け
	・ 凸部処理		
	・ 外装厚塗材E	・ 平たん状	・ こて
	・ 凹凸状		
複層仕上塗材	<input checked="" type="radio"/> 複層塗材E	・ ゆず肌状	・ ローラー
	・ 複層塗材RE	・ 凸部処理	
	・ 防水型複層塗材E	・ 凸部処理	
	・ 防水型複層塗材RE	<input checked="" type="radio"/> 凹凸状	<input checked="" type="radio"/> 吹付け
	・ ()	・ ()	・ ()
軽量骨材 仕上塗材	・ 吹付け用軽量塗材	・ 砂壁状	・ 吹付け
	・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	

内装薄塗材、内装厚塗材 (吸放湿性を有するもの)

・ JIS A 6909 調湿形

複層仕上塗材の耐水性 ・ 耐候形 3種 ・ ()

外装厚塗材Cの上塗材

・ セメントスタッコ以外の場合 材所要量 () kg/m²

外装厚塗材Si、Eの上塗材の適用 ・ あり ・ なし

15	左官工事	(表15.6.2) 複層仕上塗材の上塗材の種類	<table border="1"> <tr> <th>樹脂種類</th> <th>溶媒種類</th> <th colspan="2">外観</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ アクリル系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td>・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ シリカ系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td>・ メタリック</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ポリウレタン系</td> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ アクリルシリコン系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td>・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ふっ素系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td>・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有</td> <td>・ 艶無</td> </tr> </table>	樹脂種類	溶媒種類	外観		・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無		・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無		・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック	・ ポリウレタン系	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無		・ 水系	・ 艶有	・ 艶無		・ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無		・ 水系	・ 艶有	・ 艶無		・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無				・ 水系	・ 艶有	・ 艶無	<p>5. 網戸等 (16.2.3)</p> <p>6. 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (表16.3.1) ~ (表16.3.3)</p> <p>7. 鋼製建具 (16.4.2) (表16.4.1) (表16.2.1) (16.4.4) (表16.4.2) (16.4.6)</p> <p>8. 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (16.5.4) (表16.5.1)</p> <p>9. ステンレス製建具 (16.6.2) (16.6.3) (16.6.4) (16.6.5) (表16.4.1)</p> <p>10. 木製建具 (16.7.2) (16.7.3) (表16.7.1) (表16.7.6) (表16.7.7)</p>	<p>(表16.7.3) (16.7.4)</p> <p>11. 建具用金物 (16.8.2) (表16.8.1) (16.8.3) (16.8.4) (表16.8.2) (表16.8.3) (表16.8.4) (表16.8.5)</p> <p>12. 自動ドア開閉装置 (16.9.2) (表16.9.1) (表16.9.2) (表16.9.3) (表16.9.4)</p> <p>13. 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>14. 重量シャッター (16.11.2) (表16.11.1) (16.11.3)</p> <p>15. 軽量シャッター (16.12.2) (表16.12.1) (16.12.3) (16.12.4)</p> <p>16. オーバーヘッドドア (16.13.2) (16.13.3)</p> <p>17. ガラス (16.14.2) (16.14.3) (16.14.4)</p>	<p>18. ガラスブロック積み (16.14.5)</p> <p>17. カーテンウォール工事</p> <p>1. 種類 (17.1.1) (17.1.3)</p> <p>2. 性能等 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)</p> <p>3. メタルカーテンウォール (17.2.2) (17.2.3) (表17.2.1) (17.2.5) (17.2.6) (表17.2.2) (表17.2.3)</p> <p>4. PCカーテンウォール (17.3.2) (17.3.3) (17.3.4) (17.3.5) (表17.3.1) (表17.3.2)</p>	<p>表面形状、寸法、厚さ (図面番号:) 壁用金属枠、補強材 (図面番号:) カ骨の材質等 (SUS304、φ5.5はしご形状複筋、単筋) () 化粧目地モルタルの色 () シーリング材の種類 () 化粧カバーの材質、形状等 (図面番号:) 風圧力に対応した工法 (図面番号:) アンカー等の留付け間隔(木下地の場合) (図面番号:) 目地幅、伸縮調整目地 (標準仕様書[16.14.5](2)(ア)(b)(i)の各後段) ()</p> <p>カーテンウォールの材料</p> <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>規格等</th> <th>見え掛り部の仕上げ</th> <th>映像調整</th> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製</td> <td>標準仕様書[16.2.3]</td> <td></td> <td>・ 行う</td> </tr> </table> <p>製品の寸法許容差 (標準仕様書[表17.2.1]) ガラス溝の寸法、形状等 (製造所の仕様による) (図面番号:) 取付け (図面番号:) 躯体付金物取付け位置の寸法許容差 (標準仕様書[表17.2.2]) () カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 (標準仕様書[表17.2.3]) () ガラスの取付け (図面番号:)</p> <p>カーテンウォールの材料 コンクリートの種類及び品質 (図面番号:) 鉄筋 (SD295A) () 補強鉄線の径、網目寸法 (図面番号:) 耐火目地材 () 配筋 (図面番号:) 先付け材料 (仕上げ材 ()・建具枠 () ・ゴンドラ用ガイドレール ()・ ()) 製品の寸法許容差等 (標準仕様書[表17.3.1]による) () 表面仕上げ材 (磁器質タイル 石材 (花こう岩・大理石) ()) 取付け カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 (標準仕様書[表17.3.2]) () ガラスの取付け (図面番号:)</p>	材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整	・ アルミニウム製	標準仕様書[16.2.3]		・ 行う
		樹脂種類	溶媒種類	外観																																																																					
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック																																																																					
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック																																																																					
・ ポリウレタン系	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
・ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック																																																																					
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック																																																																					
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無																																																																						
		・ 水系	・ 艶有	・ 艶無																																																																					
材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整																																																																						
・ アルミニウム製	標準仕様書[16.2.3]		・ 行う																																																																						
16	建具工事	<p>1. 防火戸 (16.1.3) 防火戸の指定 (図面番号:) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの (図面番号:)</p> <p>2. 見本の製作等 (16.1.4) 建具見本の製作 (実施する) 特殊な建具の仮組 (実施する)</p> <p>3. 防犯建物部品 (16.1.6) 防犯建物部品 (図面番号:)</p> <p>4. 76ミル鋼製建具 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) (表16.2.2) (表14.2.2) (16.2.5) 外部建具の性能等級等 コンクリート系下地、鉄骨下地 ・ A種 ・ B種 ・ C種 () 木下地 ・ D種 ・ E種 () 表面処理 種別 () ・ 標準色 ・ 特注色 内部建具 表面処理 種別 () ・ 標準色 ・ 特注色</p>	<p>9. ステンレス製建具 (16.6.2) (16.6.3) (16.6.4) (16.6.5) (表16.4.1)</p> <p>10. 木製建具 (16.7.2) (16.7.3) (表16.7.1) (表16.7.6) (表16.7.7)</p>	<p>16. オーバーヘッドドア (16.13.2) (16.13.3)</p> <p>17. ガラス (16.14.2) (16.14.3) (16.14.4)</p>	<p>①材料 ②施工一般 (18.1.4) (18.2.2) ~ (18.12.2)</p> <p>18. 塗装工事</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">塗料塗り</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">下地の種類</th> <th rowspan="2">素地 ごしらえ</th> <th rowspan="2">錆止め塗料の種類</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>種別</th> </tr> <tr> <td>SOP</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td></td> <td>鉄鋼面</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>EP</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td></td> <td>ボード面</td> <td>・ A種 ・ B種</td> <td></td> </tr> </table>	塗料塗り		施工箇所	下地の種類	素地 ごしらえ	錆止め塗料の種類	種類	種別	SOP	・ A種 ・ B種		鉄鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種		EP	・ A種 ・ B種		ボード面	・ A種 ・ B種																																																	
塗料塗り		施工箇所	下地の種類	素地 ごしらえ	錆止め塗料の種類																																																																				
種類	種別																																																																								
SOP	・ A種 ・ B種		鉄鋼面	・ A種 ・ B種 ・ C種																																																																					
EP	・ A種 ・ B種		ボード面	・ A種 ・ B種																																																																					

18 塗装工事

3. 耐候性塗料塗り (DP)
(18.7.2)
(表18.7.1)
(18.7.3)
(18.7.4)
(表18.7.3)

下地の種類	施工箇所	上塗り等級	コクリト、EOP面における種別
		・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	・ A種 ・ B種 ・ C種

4. ステイン塗り
(18.11.2)

オイルステイン塗り 工程、材料 ・ ()

19 内装工事

1. ビニルシート張り
(19.2.2)
(表19.2.1)
(19.2.3)

種類	色柄	厚さ(mm)	継目
○FS ・ ()	・ 無地 ・ マーブル ・ 柄物	○2.5 ・ ()	○熱溶接 ・ 突付け

接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外 ・ 図示 (図面番号:)

2. ビニル床タイル張り
(19.2.2)
(表19.2.1)

寸法・色合	種類	厚さ(mm)
・ 300×300 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	半硬質 ・ 2.0
・ 450×450 ()	・ コンポジションビニル床タイル (KT)	軟質 ・ ()
・ ホモジニアスビニルタイル ・ ()		

接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外 ・ 図示 (図面番号:)

3. 特殊機能床材
(19.2.2)
(表19.2.2)

- ・ 帯電防止床シート・床タイル 寸法 ()mm 厚さ ()mm 種類 () 性能 ()
- ・ 視覚障害者用床タイル 種類 (・ ビニル床タイル ・ ()) 形状 (・ 300×300 ・ ())
- ・ 耐動荷重性床シート 種類 () 厚さ ()mm
- ・ ゴム床タイル 色柄 () 種類 () 寸法 () 厚さ ()mm

接着剤の種類、施工箇所
セメント系下地、木質系下地以外 ・ 図示 (図面番号:)

・ 防滑性床シート・床タイル 種類 () 寸法 () 厚さ ()mm

4. ビニル幅木
(19.2.2)

種類 ・ 図示 (図面番号:)
高さ ・ 図示 (図面番号:) ○ 100mm
厚さ ・ 図示 (図面番号:) ○ 1.5mm以上

5. 施工
(19.2.3)

下地 ○モルタル ・ セルフレベルング ・ 木造 ・ (ボード)

6. カーペット敷き
(19.3.2)
(19.3.3)
(表19.3.1)
(表19.3.2)

織りじゅうたん

種別	色柄	パイル形状	織り方
・ A種 ・ B種 ・ C種	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アクシミンスターカーペット

種別	色柄	パイル形状	パイル長・寸法・総厚	工法
・ タフテッドカーペット	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	パイル長 ・ 5~7mm ・ 4~6mm	・ グリッパー ・ 全面接着
・ タイルカーペット ・ 1種 ・ 2種	・ 無地 ・ 柄物	・ ループ ・ カット	総厚さ、サイズ ・ 6.5mm ・ 500角	・ 全面接着

・ 帯電性 (人体帯電圧の値3kV以下)
タイルカーペットの敷き方 (全面接着工法)
平場 ・ 市松敷き ・ 模様流し ・ 図示 (図面番号:)
階段部分 ・ 市松敷き ・ 模様流し ・ 図示 (図面番号:)
下敷き材 ・ 第2種1号、呼び厚さ8mm
・ 図示 (図面番号:)

見切り、押え金物
・ 材質 () ・ 種類 ()
・ 形状 (図面番号:)

織りじゅうたんの接合方法 ・ ヒートボンド工法 ・ ()

7. 合成樹脂塗床
(19.4.3)
(表19.4.4)
(表19.4.5)
~ (表19.4.8)

- ・ 弾性ウレタン塗床材 (JISK 5970) 仕上げ
・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
- ・ エポキシ樹脂塗床材 (JISK 5970) 工法、仕上げ
・ 薄膜流しのペ工法 (・ 平滑 ・ 防滑)
・ 厚膜流しのペ工法 (・ 平滑 ・ 防滑)
・ 樹脂モルタル工法 (・ 平滑 ・ 防滑)

8. フローリング張り
(19.5.2)
(19.5.3)
(19.5.4)
(19.5.5)
(表19.5.2)
(表19.5.4)

材料 ・ 単層フローリング (・ フローリングボード (1等) ・ フローリングブロック (1等))
・ 複合フローリング
・ 釘留め工法

材料	種別	樹種
・ フローリングボード (根張用)		・ なら ・ ()
・ 複合フローリング (根張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら ・ ()
・ フローリングボード (直張用)		・ なら ・ ()
・ 複合フローリング (直張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら ・ ()

・ 接着工法

材料	樹種	厚さ(mm)	幅・長さ	裏面不陸緩衝材
・ フローリングボード (直張用)	・ なら ・ ()			・ 合成樹脂発泡シート
・ フローリングブロック (直張用)				
・ 複合フローリング (直張用)	・ A種 ・ B種 ・ C種			

9. 畳敷き
(19.6.2)
(表19.6.1)

種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種
・ D種の畳床 KT- (・ I ・ II ・ III ・ K ・ N)
衝撃緩和型畳 ・ C1 ・ C2

種類	種別	厚さ(mm)
○せっこうボード	強化 (GB-F)	壁 ・ 9.5 (準不燃) ○ 12.5 (不燃) 天井
○化粧せっこうボード	○トラバーチン模様 ・ 木目模様	・ 9.5 (不燃) ○ 9.5 (準不燃) ・ 9.5 (不燃) ・ 9.5 (準不燃)
・ ロックウール化粧吸音板	・ 普通 ・ 立体模様	・ 9 ・ () ・ 9 ・ ()
・ けい酸カルシウム板	・ タイプII 0.8FK	・ ()
・ ()	・ ()	・ ()

10. せっこうボード
その他のボード及び合板張り
(19.7.2)
(表19.7.1)
(19.7.3)
(表19.7.3)
(表19.7.5)

合板張り
・ 普通合板 表面の樹種名 ・ 生地のまま (透明塗料塗り)ラワン ・ (不透明塗料塗り)しな ()
板面の品質 () 厚さ ()mm
防虫処理 ()
・ 天然化粧合板 化粧板の樹種名 ・ () 厚さ ()mm
防虫処理 ()
・ 特殊加工合板 化粧加工の方法
・ オーバーレイ ・ プリント
・ 塗装 ()
表面性能 () 厚さ ()mm
防虫処理 ()

天井ボードの重ね張り ・ 図示 (図面番号:)
合板類の張付け ・ A種 ・ B種

11. 壁紙張り
(19.8.2)
(19.8.3)

施工箇所	種類	防火性能	品質

素地ごしらえ
せっこうボード面 ・ A種 ・ B種
コンクリート面 ・ A種 ・ B種
モルタル・せっこうプaster面 ・ A種 ・ B種

12. 断熱材
(19.9.3)
(19.9.4)

断熱材打込み工法
断熱材の種類、厚さ ○図示 (図面番号: A-25)
断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ・ A種I ・ A種IH ・ 図示 (図面番号:)
断熱材の厚さ ・ 図示 (図面番号:)

20 ユニット及びその他工事

1. フリーアクセスフロア
(20.2.2)

フリーアクセスフロア及び表面仕上げ材の寸法、フリーアクセスフロア高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗
・ 図示 (図面番号:)
試験方法 20.2.2(2)(f) (a) ~ (d)
寸法精度 20.2.2(2)(f) (a) ~ (c)

2. 可動間仕切
(20.2.3)

組立て方式
・ スタッド式 ・ パネル式 ・ スタッドパネル式
パネル内建具寸法及び形状 ・ 図示 (図面番号:)
構成基材の種類 ・ 図示 (図面番号:)
遮音性 ・ 図示 (図面番号:)
表面仕上げ ・ 図示 (図面番号:)

3. 移動間仕切
(20.2.4)

操作方法 ・ 手動式 ・ 電動式
表面材の材質及び仕上げ ・ 図示 (図面番号:)
遮音性 ・ 図示 (図面番号:)

ハンガーレールの取付け下地の補強
・ 標準仕様書 [20.2.4] (3) (ウ) ・ 図示 (図面番号:)
パネルをランナーに取り付ける部品
・ 標準仕様書 [20.2.4] (3) (エ) ・ 図示 (図面番号:)
ハンガーレール
・ 標準仕様書 [20.2.4] (3) (オ) ・ 図示 (図面番号:)
ランナー
・ 標準仕様書 [20.2.4] (3) (カ) ・ 図示 (図面番号:)
ハンガーレールの固定方法
・ 溶接 ・ あと施工アンカー (材質: 、寸法:)

4. トイレブース
(20.2.5)

表面材 ・ メラミン樹脂系化粧板
・ ポリエステル樹脂系化粧板
脚部 ・ 幅木 ・ 図示 (図面番号:)
扉小口の材質 ・ ステンレス製 ・ アルミ製
ドアエッジの材質 ・ 製造所の仕様による ・ ()

5. 手すり
(20.2.6)

材料の種類 ・ アルミ ・ ステンレス (仕上げ:)

6. 階段滑り止め
(20.2.7)

・ ステンレスSUS304製 ビニルタイヤ入り (両端フラットエンド付き) ・ ()
寸法 ・ 約35mm ・ 図示 (図面番号:)
工法 ・ 接着工法 ・ 埋込み工法

7. 黒板及びホワイトボード
(20.2.9)

黒板の区分 ・ 焼付け ・ ()
黒板の種類 ・ 鋼製黒板 ・ ほうろう黒板 ・ ()
ホワイトボード ・ () ・ 図示 (図面番号:)

8. 鏡
(20.2.10)

厚さ ・ 5mm ・ ()mm

9. 表示
(20.2.11)

室名札、ビクトリア、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付形式等
・ 図示 (図面番号:)
・ 衝突防止表示 図示 (図面番号:)
・ 非常用出入口表示 図示 (図面番号:)

10. タラップ
(20.2.12)

材料の種類 ・ ステンレス
仕上げ ・ 研磨等なし ・ ()

11. 煙突
ライニング
(20.2.13)

適用安全使用温度 ・ ()℃
工法 ・ 図示 (図面番号:)

12. ブラインド
(20.2.14)

形式	スラット	開閉方式	スラットの成形幅 (mm)	ヘッドボックス・ボトムレールの材質
・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()
・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 80 ・ 100 ・ ()	

13. ロールスクリーン
(20.2.15)

操作方式 ・ スプリング式 ・ コード式 ・ 電動式
寸法及び材質 ・ 図示 (図面番号:)

14. カーテン及びカーテンレール
(20.2.16)

カーテンの形式等

生地	ひだの種類	形式	開閉操作
・ ドレープ ・ レース ・ 図示 ()	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ プレインひだ	・ 片引き ・ 引分け ・ 片ひだ	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動
・ 暗幕 (遮光 () 級)	・ ()	・ ()	・ ()

暗幕用カーテン両端、上部及び召合せの重なり
・ 300mm以上 ・ () ・ 図示 (図面番号:)

カーテンレール ・ アルミ製 ・ ステンレス製
強さによる区分 ・ 10-90 ・ ()
形状 ・ シングル ・ ダブル
断面形状 ・ 角形 ・ C形 ・ D形
仕上げ ・ アルマイト ・ ()
付属金物 (フック) ・ 鋼製 ・ 樹脂製

15. プレキャスト
コンクリート工事
(20.3.2)
(20.3.3)
(20.3.4)

補強鉄線の径 ・ 3.2mm ・ ()
補強鉄線の網目寸法 ・ ()
設計基準強度Fc ・ 図示 (図面番号:)
配筋 ・ 図示 (図面番号:)
取付方法 ・ 図示 (図面番号:)

16. 間知石及び
間知ブロック積
(20.4.2)
(20.4.3)

材種 ・ ()
種類及び質量区分 ・ 図示 (図面番号:)
積み方 ・ 谷積み ・ 布積み
目塗り ・ ()
伸縮調整目地 ・ 材種 () ・ 厚さ ()mm

21 排水工事

1. 排水管
(21.2.1)
(表21.2.1)

材種	管の種類	呼び径	備考
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	VP		

2. 排水槽等
(21.2.1)

・ 排水槽、ふた
種類等 ・ 図示 (図面番号:)
・ 側塊の形状、寸法 ・ 図示 (図面番号:)
グレーチングの種類

材質	用途	適用荷重	メインベリッチ	ボルト固定

場所打ちコンクリート

種類 ・ 普通コンクリート ・ ()
設計基準強度 ・ 18N/mm² ・ ()
スランプ ・ 15cm ・ 18cm ・ () cm
鉄筋の種類等 ・ SD295 ・ ()
凍結抑制層の材料 ・ ()

■memo

■check
client
architect
contractor

■scale

■drawing title

新宮特記仕様書7

■project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

■drawing no.

■sheet no.

A-7

原図:A2

工事特記仕様書（改修）

I. 工事名称 津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事
II. 工事概要
1 工事場所 津市東古河町 地内
2 敷地面積 22,051.98㎡
3 工事内容
棟名称 校舎棟
構造 鉄筋コンクリート造 4階建
建築面積 1,776.86㎡
延べ面積 6,902.05㎡
工事項目 建築工事、電気設備工事、機械設備工事

III. 建築改修工事仕様

① 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「改修標準仕様書」という。）」による。

② 特記仕様

- (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
(3) 項目欄に記載の（ ）内表示番号は改修仕の該当項目等を示す。

Table with 2 main columns: 項目 (Items) and 特記事項 (Remarks). Item 1: 適用基準等 (Application Standards), Item 2: 施工条件 (Construction Conditions), Item 3: 発生材の処理等 (Waste Disposal).

Table with 2 main columns: 項目 (Items) and 特記事項 (Remarks). Items include: 建設副産物情報交換システムの利用, 三重県産業廃棄物税, 電気保安技術者, 技能士, 施工数量調査, 調査のための破壊部分の補修, 建築材料等, 化学物質の濃度測定, 特別な材料の工法, 騒音・振動の防止, 工事写真, 完成図等, 完成写真, 設備工事との取合い, 既存部分等への処置, 事故の発生時, 消防提出書類, 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置, 不正軽油の使用の禁止, 屋外広告物.

Table with 2 main columns: 項目 (Items) and 特記事項 (Remarks). Items include: 石綿含有建材の調査, 仮設工事, 騒音・粉じん等の対策, 足場, 既存部分の養生, 仮設間仕切り, 監督員事務所, 監督員事務所の設備・備品等, 仮設便所, 工事用水, 工事用電力, 交通誘導警備員.

3 防水改修工事

1 アスファルト防水 (3.3.3)~(表3.3.10)
(3.3.2)
(3.3.3)(2)(f)
(3.3.3)(3)
(3.3.5)
(表8.1.5)
2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)
(3.4.3)
(表3.4.1)~(表3.4.3)
3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (3.5.2)
(3.5.3)
(表3.5.1)~(表3.5.3)
(3.5.3)
(3.5.4)
4 塗膜防水 (3.6.3)
(表3.6.1)
(3.6.3)(1)
(3.6.3)(2)
5 既存防水層表面の仕上塗装の除去 (3.2.6)(3)(f)
(3.2.6)(3)(g)

6 シーリング (3.7.2)
(表3.7.1)
(3.7.4~7)
(3.7.8)
7 とい (3.8.2)
(表3.8.1)
(表3.8.2)
8 アルミニウム製笠木 (3.9.2)(3)
(表3.9.1)
(3.9.3)(2)
(3.9.2)(4)
(3.9.3)
4 外壁改修工事
1 施工数量調査
2 改修工法の種類 (4.1.4)
(4.1.5)
(4.4.5)(4)
(4.4.7)
(4.4.5)(4)
(4.4.8)
(表4.4.5)
(4.4.15)
(4.4.5)(5)
(4.4.16)

3 改修工法等 (4.2.4)(1)
(4.2.5)
(4.3.6)
(4.4.6)
(4.2.4)(2)
(4.2.6)
(4.3.7)
(4.2.4)(3)
(4.2.7)
(4.3.8)
(4.2.4)(4)
(4.2.8)
(4.3.8)
(4.2.4)(4)
(4.2.9)
(4.3.8)
(4.3.5)(5)
(4.3.10)
(4.3.5)(6)
(4.3.11)
(4.4.9)
(表4.3.1)
(4.3.5)(6)
(4.3.12)
(4.4.10)
(表4.3.2)
(4.3.5)(6)
(4.3.13)
(4.4.11)
(表4.3.2)
(4.3.5)(7)
(4.3.14)
(4.4.12)
(表4.3.3)
(4.3.5)(7)
(4.3.15)
(4.4.13)
(表4.3.4)
(4.3.5)(7)
(4.4.14)
(表4.3.4)
(4.4.5)(4)
(4.4.7)
(4.4.5)(4)
(4.4.8)
(表4.4.5)
(4.4.15)
(4.4.5)(5)
(4.4.16)

memo

check
client
architect
contractor

scale

drawing title

改修特記仕様書2

project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

A-9

原図:A2

<p>④ 塗り仕上げ (4.5.2) (表4.5.1(その1)(その2))</p> <p>(4.6.2) (表4.6.1) (表4.5.2)</p> <p>(表4.7.1)</p> <p>(4.5.4)</p> <p>(4.5.5)</p>	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げ形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">薄付け仕上塗材</td> <td rowspan="2">・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">厚付け仕上塗材</td> <td rowspan="2">・ 外装厚塗材C</td> <td>・ ゆず肌状 ・ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け ・ こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">複層仕上塗材</td> <td rowspan="2">・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材E</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可とう形改修用仕上塗材</td> <td rowspan="2">・ 可とう形改修塗材E ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し</td> <td>・ こて ・ ローラー</td> </tr> </table> <p>・ 外装厚塗Cの上塗材がセメントスタッコ以外の場合 材所要量 (kg/m²)</p> <p>・ マスチック塗材塗り ・ A種 ・ B種</p> <p>複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>樹脂種類</th> <th>溶媒種類</th> <th>外 観</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ アクリル系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ シリカ系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ポリウレタン系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ アクリルシリコン系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ ふっ素系</td> <td>・ 溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック</td> </tr> <tr> <td>・ 弱溶剤系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> <tr> <td>・ 水系</td> <td>・ 水系</td> <td>・ 艶有 ・ 艶無</td> </tr> </table> <p>(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。</p> <p>外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">外壁用塗膜防水材</td> <td>・ 凹凸状</td> <td rowspan="2">・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 凸部処理</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">外壁用塗膜防水材</td> <td>・ ゆず肌状</td> <td rowspan="2">・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ さざ波状</td> </tr> </table> <p>既存塗膜等の除去及び下地処理</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>処理範囲</th> </tr> <tr> <td>・ サンダー工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高圧水洗工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 塗膜はく離剤工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 水洗い工法 (・ 高圧ポンプ (10~15MPa) ・ デッキブラシ)</td> <td></td> </tr> </table> <p>下地調整</p> <p>・ C-1 ・ C-2 ・ CM-2 ・ E ・ ()</p>	種類	呼び名	仕上げ形状	工法	薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	吹付け	・ 平たん状 ・ 凹凸状	こて	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー	・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて	複層仕上塗材	・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材E	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け	・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	こて	可とう形改修用仕上塗材	・ 可とう形改修塗材E ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け	・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	・ こて ・ ローラー	樹脂種類	溶媒種類	外 観	・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	・ 水系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	種類	仕上げの形状	工法	外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状	・ 吹付け	・ 凸部処理	外壁用塗膜防水材	・ ゆず肌状	・ ローラー	・ さざ波状	工 法	処理範囲	・ サンダー工法		・ 高圧水洗工法		・ 塗膜はく離剤工法		・ 水洗い工法 (・ 高圧ポンプ (10~15MPa) ・ デッキブラシ)	
	種類	呼び名	仕上げ形状	工法																																																																													
	薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	吹付け																																																																													
			・ 平たん状 ・ 凹凸状	こて																																																																													
	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	ローラー																																																																													
			・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて																																																																													
	複層仕上塗材	・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材E	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け																																																																													
			・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	こて																																																																													
	可とう形改修用仕上塗材	・ 可とう形改修塗材E ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け																																																																													
			・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	・ こて ・ ローラー																																																																													
樹脂種類	溶媒種類	外 観																																																																															
・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																															
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
・ ポリウレタン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																															
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
・ アクリルシリコン系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																															
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック																																																																															
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
・ 水系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無																																																																															
種類	仕上げの形状	工法																																																																															
外壁用塗膜防水材	・ 凹凸状	・ 吹付け																																																																															
	・ 凸部処理																																																																																
外壁用塗膜防水材	・ ゆず肌状	・ ローラー																																																																															
	・ さざ波状																																																																																
工 法	処理範囲																																																																																
・ サンダー工法																																																																																	
・ 高圧水洗工法																																																																																	
・ 塗膜はく離剤工法																																																																																	
・ 水洗い工法 (・ 高圧ポンプ (10~15MPa) ・ デッキブラシ)																																																																																	
<p>⑤ 建具改修工事</p> <p>1 改修工法 (5.1.3)</p> <p>2 防火戸 (5.1.4)</p> <p>3 見本の製作 (5.1.5)</p> <p>4 防犯建物部品 (5.1.7)</p> <p>5 ブラインドボックス等 (5.1.6)(3)</p> <p>⑥ アルミニウム製建具 (5.2.2) (5.2.4) (表5.2.1) (表5.2.2)</p>	<p>・ かぶせ工法</p> <p>・ カバー工法 ・ 持出し工法 ・ ノンシール工法</p> <p>・ 撤去工法</p> <p>・ はつり工法 ・ 引抜き工法</p> <p>・ 例示仕様 ・ 個別認定 (認定番号:)</p> <p>・ 自動閉鎖機構 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 製作する ・ 製作しない</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 再使用する ・ 再使用しない</p> <p>外部建具の性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種</p> <p>・ 枠の見込み寸法 ・ 70mm ・ ()</p> <p>・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)</p> <p>・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)</p> <p>・ 結露水の処理方法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種類</p> <p>・ 外部に面する建具 (過酷な環境の屋外)</p> <p>・ BA-1 ・ BA-2 ・ ()</p> <p>・ 外部に面する建具 (一般的な環境の屋外)</p> <p>・ BB-1 ・ BB-2 ・ ()</p> <p>・ 内部に面する建具</p> <p>・ BC-1 ・ BC-2 ・ ()</p>																																																																																
	<p>7 網戸 (5.2.3)(5)</p> <p>8 樹脂製建具 (5.3.2)~(5.3.5) (表5.3.1)~(表5.3.3)</p> <p>9 鋼製建具 (5.4.2)</p> <p>(5.4.4)</p> <p>10 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.5) (5.2.2)(2) (5.5.3) (5.5.4) (5.6.3)(1) (5.2.3)(1)</p> <p>11 ステンレス製建具 (5.6.2) (5.4.2)</p> <p>(5.6.3)</p> <p>(5.6.4)</p> <p>(5.6.5)</p> <p>12 木製建具 (5.7.2) (5.7.3)</p> <p>⑬ 建具用金物 (5.8.2) (5.8.4)</p> <p>14 自動ドア開閉装置 (5.9.2) (5.9.3) (表5.9.4) (5.9.3)(9)</p>	<p>・ 可動式 ・ 固定式</p> <p>防虫網の材質</p> <p>・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製</p> <p>網目</p> <p>・ 16メッシュ ・ 18メッシュ</p> <p>外部に面する樹脂製建具の性能等級等</p> <p>・ A種 ・ B種 ・ C種</p> <p>・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)</p> <p>・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)</p> <p>・ 日射熱取得性 (等級)</p> <p>ガラス ・ 複層ガラス ・ ()</p> <p>建具枠見込寸法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>水切り ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>せん板 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>丁香 ・ 改修標準仕様書(表5.7.3)による ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>鋼製建具の性能等級</p> <p>・ 簡易気密性ドアセット</p> <p>・ 外部に面する建具の耐風圧</p> <p>・ S-4 ・ S-5 ・ S-6</p> <p>・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)</p> <p>・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)</p> <p>・ 耐震ドアセット (等級)</p> <p>・ H2400又はW950の建具</p> <p>鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 改修標準仕様書表5.4.2による</p> <p>鋼製軽量建具の性能等級</p> <p>・ 簡易気密性ドアセット</p> <p>・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)</p> <p>・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)</p> <p>・ 耐震ドアセット (等級)</p> <p>・ H2400又はW950の建具</p> <p>鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 改修標準仕様書表5.5.1による</p> <p>表面仕上げ</p> <p>・ 塗装</p> <p>・ ビニル被覆鋼板</p> <p>・ カラー鋼板</p> <p>・ ステンレス鋼板 (・ HL ・ 鏡面)</p> <p>・ ()</p> <p>ステンレス製建具の性能等級</p> <p>・ 簡易気密性ドアセット</p> <p>・ 外部に面する建具の耐風圧</p> <p>・ S-4 ・ S-5 ・ S-6</p> <p>・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)</p> <p>・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)</p> <p>・ 耐震ドアセット (等級)</p> <p>・ MDF 改修標準仕様書5.7.2(2)(イ) (a)~(c) ・ ()</p> <p>材料 ・ SUS304 ・ ()</p> <p>表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ ()</p> <p>曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ</p> <p>含水率 ・ A種 ・ B種</p> <p>・ フラッシュ戸 表面材 ・ ()</p> <p>厚み ・ 改修標準仕様書表5.7.6 ・ ()</p> <p>表面材の品質等 ・ 改修標準仕様書5.7.2(2)(イ) (a)~(c) ・ ()</p> <p>・ MDF 表裏面の状態による区分 ・ ()</p> <p>曲げ強さによる区分 ・ ()</p> <p>接着剤による区分 ・ ()</p> <p>難燃性による区分 ・ ()</p> <p>・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする</p> <p>・ かまち戸 見込み寸法 ・ 30mm ・ ()</p> <p>かまち及び鏡板の掛種 ・ ()</p> <p>・ ふすま 見込み寸法 ・ 19.5mm ・ ()</p> <p>種別 ・ I種 ・ II種</p> <p>ふすま紙の上張り種類 ・ ()</p> <p>縁の仕上げ ・ ()</p> <p>・ 戸ぶすま 見込み寸法 ・ 30mm ・ ()</p> <p>表面材 ・ ()</p> <p>厚み ・ 改修標準仕様書表5.7.6 ・ ()</p> <p>表面材の品質等 ・ 改修標準仕様書5.7.2(2)(イ) (a)~(c) ・ ()</p> <p>・ MDF 表裏面の状態による区分 ・ ()</p> <p>曲げ強さによる区分 ・ ()</p> <p>接着剤による区分 ・ ()</p> <p>難燃性による区分 ・ ()</p> <p>・ 引戸の召合せかまちをいんろう付きとする</p> <p>上張りの種類 ・ ()</p> <p>・ 紙張り障子 見込み寸法 ・ 30mm ・ ()</p> <p>枠及びくづりの材料 ・ ()</p> <p>金物の見え掛かり部等の材質等</p> <p>・ 改修標準仕様書(表5.8.1)による</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない</p> <p>引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要</p> <p>駆動装置及び検出装置の性能値 (・ 車椅子使用者用便房出入口用)</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>引き戸用検出装置の種類</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>凍結防止措置 ・ あり ・ なし</p>																																																																															
	<p>15 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)</p> <p>16 重量シャッター (5.11.2)</p> <p>(5.11.2)(3) (表5.11.1)</p> <p>(5.11.2)(6) (5.11.3)</p> <p>17 軽量シャッター (5.12.2) (表5.12.1) (5.12.3) (5.12.4)</p> <p>18 オーバーヘッドドア (5.13.2)</p> <p>(5.13.3)</p> <p>19 板ガラス (5.14.2)(1) (5.14.3)</p> <p>20 ガラス留め材 (5.14.2)(2)</p> <p>21 ガラス溝の寸法、形状等 (5.14.3)</p> <p>22 ガラスブロック積み (5.14.5)</p>	<p>自閉式上吊り引戸装置の性能値</p> <p>・ 改修標準仕様書(表5.10.1)による ・ ()</p> <p>種類</p> <p>・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター</p> <p>・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター</p> <p>耐風圧強度 (Pa以上)</p> <p>開閉機能</p> <p>・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式</p> <p>管理用重量シャッターのシャッターケース</p> <p>・ 設ける ・ 設けない</p> <p>・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ ()</p> <p>開閉形式</p> <p>・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式</p> <p>耐風圧強度 (Pa以上)</p> <p>スラットの材質及び形状</p> <p>・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形</p> <p>・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ ()</p> <p>JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()</p> <p>型式及び機構</p> <p>セクション材料</p> <p>・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ</p> <p>耐風圧強度 (Pa以上)</p> <p>開閉方式</p> <p>・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式</p> <p>収納形式</p> <p>・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーナル形</p> <p>ガイドレール</p> <p>・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ シーリング ・ ガasket ()</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>・ 図示 (図面番号:)</p> <p>化粧カバー ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>工法 ・ 図示 (図面番号:)</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。</p>																																																																															
	<p>⑥ 内装改修工事</p> <p>① 一般事項 (6.1.3)(2)</p> <p>(6.1.3)(3)</p> <p>(6.1.3)(5)</p> <p>② 既存床撤去、下地補修 (6.2.2)(1)(7)</p> <p>(6.2.2)(1)(4)</p> <p>(6.2.2)(3)</p> <p>3 既存壁撤去、下地補修 (6.3.2)</p> <p>4 木下地等 (6.5.2)(1)(4) (表6.5.1)</p> <p>(6.5.2)(2)(7)</p>	<p>既存間仕切壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲</p> <table border="1"> <tr> <th>改修部分</th> <th>改修範囲</th> </tr> <tr> <td>○ 天井</td> <td>○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)</td> </tr> <tr> <td>・ 壁</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> </tr> <tr> <td>○ 床</td> <td>○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)</td> </tr> </table> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲</p> <p>・ 図示 (図面番号:) ・ ()</p> <p>天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修</p> <p>○ 図示 (図面番号: A-24) ・ ()</p> <p>既存床仕上げ材の除去等</p> <p>浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去</p> <p>○ 行う ・ 行わない</p> <p>合成樹脂塗料の除去等</p> <p>・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法</p> <p>改修後の床の清掃範囲</p> <p>○ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲</p> <p>・ ()</p> <p>既存間仕切壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法</p> <p>・ ()</p> <p>木材の含水率 (工事現場搬入時、質量比)</p> <table border="1"> <tr> <th>部材名称</th> <th>種 別</th> </tr> <tr> <td>下地材</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>造作材</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> </table> <p>製材</p> <p>「製材の日本農林規格」による製材</p> <table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>樹種・寸法・形状</th> <th>等級</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> <th>材面の品質</th> </tr> <tr> <td>下地用</td> <td rowspan="2">・ 図示 (図面番号:)</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> </tr> <tr> <td>針葉樹製材</td> </tr> <tr> <td>造作用</td> <td rowspan="2">・ 図示 (図面番号:)</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> </tr> <tr> <td>針葉樹製材</td> </tr> <tr> <td>広葉樹製材</td> <td>・ 図示 (図面番号:)</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	改修部分	改修範囲	○ 天井	○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)	・ 壁	・ 図示 (図面番号:)	○ 床	○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)	部材名称	種 別	下地材	・ A種 ・ B種	造作材	・ A種 ・ B種	部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質	下地用	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()	針葉樹製材	造作用	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()	針葉樹製材	広葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()																																							
	改修部分	改修範囲																																																																															
	○ 天井	○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)																																																																															
	・ 壁	・ 図示 (図面番号:)																																																																															
	○ 床	○ 図示 (図面番号: A-24, 25, 26)																																																																															
	部材名称	種 別																																																																															
	下地材	・ A種 ・ B種																																																																															
造作材	・ A種 ・ B種																																																																																
部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率	保存処理	材面の品質																																																																												
下地用	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()																																																																												
針葉樹製材																																																																																	
造作用	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()																																																																												
針葉樹製材																																																																																	
広葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	・ ()	・ ()																																																																												

■memo

■check
client
architect
contractor

■scale

■drawing title

改修特記仕様書3

■project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有)貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

■drawing no.

■sheet no.

A-10

原図:A2

Table with columns for item number, description, and specifications. Includes sections for material selection (樹種, 樹種), construction details (造作用集成材, 造作用単板積層材), and floor/ceiling treatments (軽量鉄骨天井下地, ビニル床シート).

Table with columns for item number, description, and specifications. Includes sections for floor coverings (カーペット敷き), wall treatments (珪藻土), and ceiling treatments (天井). Includes detailed tables for carpet types and wall materials.

Table with columns for item number, description, and specifications. Includes sections for wall treatments (珪藻土), ceiling treatments (天井), and floor treatments (床). Includes detailed tables for wall and ceiling materials, and floor finish options.

7	アクリル樹脂系 非水分散形塗料 (NAD) (7.7.2) (表7.7.1)	種別 ・ A種 ・ B種		
		8	耐水性塗料塗り (DP) (7.8.2)~ (7.8.4) (表7.8.1)~ (表7.8.3)	上塗り等級 ・ 1級(フッ素系) ・ 2級(シリコン系) ・ 3級(ポリウレタン系)
		9	つや有合成樹脂 エマルジョンペ イント塗り (EP-G) (7.9.2)~(7.9.5) (表7.9.1)~ (表7.9.4)	種別 下地 コンクリート面及び 押出成形セメント板面
10	合成樹脂エマ ルジョンペ イント塗り(EP) (7.10.2) (表7.10.1)	種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ・ ()		
11	ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.11.2) (表7.11.1)	種別 ・ A種 ・ B種 工程1の着色 ・ 適用する ・ 適用しない		
12	ステイン塗り (OS) (7.12.2) (表7.12.1)	種類 ・ ビグメントステイン塗り ・ オイルステイン塗り オイルステイン塗りの工程、塗料 ・ ()		
13	木材保護塗料 塗り(WP) (7.13.2) (表7.13.1)	種別 ・ A種 ・ B種		
8 の 1	耐震改修工事 共通事項	① 適用範囲 (8.1.1) (8.1.2)	工事内容 ・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨ブレースの設置工事 ・ 柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・ 柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法) ・ 柱補強工事(連続繊維補強工法) ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修・制振改修工事 工事種別 ○ 鉄筋工事 ○ あと施工アンカー工事 ○ コンクリート工事 ○ 鉄骨工事 ○ グラウト工事 ○ 連続繊維補強工事 ○ スリット新設工事 ○ 免震改修・制振改修工事 ○ 土工事及び地業工事	
		② 既存部分の撤去等 (8.2.1)	撤去の範囲 (8.2.1) (8.2.2) (8.2.3) (8.2.4)	
8 の 2	耐震改修工事 撤去工事	① 既存部分の撤去等 (8.2.1)	撤去の範囲 (8.2.1) (8.2.2) (8.2.3) (8.2.4)	
		② 既存構造体の撤去 (8.2.1)	撤去の範囲 (8.2.1) (8.2.2) (8.2.3) (8.2.4)	

8 の 3	耐震改修工事 鉄筋工事	(既存部分の処理) 3 既存構造体コン クリート面の 目荒らし (8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)	既存構造体コンクリート面の目荒らし 目荒らし程度 ・ 平均深さ2~5mmで最大深さ5~7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15~30%程度の面積となるように施す。 ・ 図示(図面番号:)
		① 鉄筋 (8.2.1) (表8.2.1)	材料 改修標準仕様書(表8.2.1)による 種別 径(mm) ・ SD295 D10 ・ SD345 ・ SD390 ・ ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	② 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法及び鉄線の径 網目の形状、寸法 鉄線の径(mm)
		③ 加工 (8.3.2)	90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示(図面番号:)
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	④ 鉄筋の継手及び 定着 (8.3.4)	径 部位 重ね継手 ○ D16以下 ガス圧接 ○ D19以上
		⑤ 鉄筋のかぶり厚 さ及び間隔 (8.3.5) (表8.3.6)	主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ○ 改修標準仕様書(8.3.4)(3)(7)による ・ 図示(図面番号:) 継手位置 ・ 各部配筋参考図による ・ 図示(図面番号:) 先組み工法等 ・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける 鉄筋の定着長さ ○ 改修標準仕様書(表8.3.4)による ・ (表8.3.4)のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 図示(図面番号:) ・ 図示(図面番号:) 機械式定着工法 適用箇所() 種類() 帯筋組立の形、継手及び定着 ・ 図示(図面番号:) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ () mm
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑥ 各部配筋 (8.3.8)	○ 図示(図面番号: A-23) 圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない 割裂補強筋の適用 種類 材料 材種 径 本数・ピッチ 適用箇所 ・ スパイラル筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼 ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ はしご筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼(異形鉄筋) ・ () ・ () ・ () ・ () 壁内方向筋 壁面外方向筋 () ()
		⑦ ガス圧接 (8.3.8)	圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない 割裂補強筋の適用 種類 材料 材種 径 本数・ピッチ 適用箇所 ・ スパイラル筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼 ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ () ・ はしご筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼(異形鉄筋) ・ () ・ () ・ () ・ () 壁内方向筋 壁面外方向筋 () ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑧ 割裂補強筋 (8.21.6) (8.22.7)	機械式継手 種類 () 適用箇所() 性能 () 鉄筋相互のあき () mm 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置等 () 溶接継手 工法 () 適用箇所() 性能 () 鉄筋相互のあき () mm 溶接完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置等 ()
		⑨ 鉄筋の機械式継 手及び溶接継手 (8.4.2) (8.4.3)	コンクリートの類別 ○ I類 ・ II類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 適用範囲 気乾単位容積質量 スランプ ○ 24 壁 ○ 2.3t/m ³ 程度 S18 ・ () 軽量コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 種類 適用箇所 気乾単位容積質量 スランプ ・ 36 ・ 1種 ・ () ・ 2種
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑩ 既存部分の撤去等 (8.2.1)	コンクリートの類別 ○ I類 ・ II類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 適用範囲 気乾単位容積質量 スランプ ○ 24 壁 ○ 2.3t/m ³ 程度 S18 ・ () 軽量コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 種類 適用箇所 気乾単位容積質量 スランプ ・ 36 ・ 1種 ・ () ・ 2種
		⑪ 既存構造体の撤去 (8.2.1)	合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別 ・ A種 ○ B種 ・ C種 コンクリートの仕上りの平たんさ ・ a種 ○ b種 ・ c種

8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	(コンクリート) ③ コンクリートの 材料 (8.2.5) (表8.2.3)	セメントの種類 ○ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA種 ・ シリカセメントA種 ・ フライアッシュセメントA種 ・ () ・ 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種 適用箇所() 骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ・ AL(コンクリート中のアルカリ総量を規制) ○ A(安全と認められる骨材を使用) なお、ALで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ骨材 ・ 鋼スラグ骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H(普通エコセメントを使用するコンクリートに限る)
		④ 混和材料 (8.2.5)	○ 混和剤 混和剤の種類 ○ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(a)による ・ 図示(図面番号:) ・ 混和材 混和材の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(b)による ・ 図示(図面番号:) 構造体強度補正值(S) ○ 3N/mm ² ・ 6N/mm ² ・ ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑤ 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)	調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)
		⑥ 養生 (8.7.7)	・ 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間 ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑦ 型枠 (8.2.7) (8.7.8)	材料 ○ 複合合板(厚さ ○ 12mm ・ ()) スリーブ ・ 材種() 規格() 型枠存置期間及び取外し ・ 普通エコセメント使用の場合の最小存置期間 ()
		⑧ 重ねコンクリ ート (8.10.2)	構造体強度補正值(S) ○ 6N/mm ² ・ ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑨ 無筋コンクリ ート (8.11.1)	コンクリートの種類 ・ 普通コンクリート ・ () 設計基準強度 18N/mm ² ・ () スランプ ・ 15cm ・ 18cm ・ ()
		⑩ コンクリートの 打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)	部位別のコンクリートの打設工法の指定 補強工法 打設工法 部位 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 全ての増設壁 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(f)及び(3) ・ 全ての増設壁 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(f)及び(3) ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示(図面番号:) ・ () 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 ・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 全ての増設壁 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(f)及び(3) ・ 全ての増設壁 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(f)及び(3) ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示(図面番号:) ・ () ・ () ・ 図示(図面番号:) ・ ()
8 の 4	耐震改修工事 コンクリート工事	⑪ 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む () 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示(図面番号:) 打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ 60mm ・ () ・ 図示(図面番号:)

地盤の載荷試験
 試験方法 ・ 平板載荷 ()
 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
 位置 ・ 図示(図面番号:) 載荷荷重 (kN)
 報告書 ・ 提出部数 2部

杭地業の工法、寸法
 ・ 図示(図面番号:)

杭頭処置
 ・ 行う ・ 行わない

砂利及び砂地業
 範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 60 ()

捨てコンクリート地業
 範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 50 ()

9 ① 石綿含有建材の除去工事 (9.1.1)

・ 石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	計 点
・	測定 4		負圧・除じん装置の排気出口 し口	出口吹出し風速1m/s 以下の位置 計 点
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	計 点
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	計 点
・	測定 7	処理作業後シート 除去後 1 週間	処理作業室内	計 点
・	測定 8	以降	調査対象室外部の付近	計 点

測定方法

	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ()	・ 5 ()	・ 10 ()
試料の吸引時間(min)	・ 5 ()	・ 120 ()	・ 240 ()

(9.1.3) ・ 石綿含有吹付け材の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去工法 ・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ()
 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
 ・ 湿潤化 ・ 面形成
 除去した石綿含有吹付け材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.4) ・ 石綿含有保温材等の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去方法 ・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による ()
 除去した石綿含有保温材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.5) ① 石綿含有成形板の除去
 除去対象範囲 ① 図示(図面番号: A-23)
 石綿含有せっこうボードの処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場)
 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
 ・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.6) ・ 石綿含有仕上塗材の除去
 除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
 除去した石綿含有仕上塗材等の処分
 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル(令和3年3月)」に基づき適切に処理すること。

・ 除去等作業の結果報告
 除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

2 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.1)~(9.2.3)

3 外断熱改修工事 (9.3.2)

断熱材

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ロックウール断熱材	
・ グラスウール断熱材	
・ ()	

施工箇所
 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.3.3) 既存外壁の措置
 既存外壁仕上げ材の撤去 ・ あり ・ なし
 下地の清掃 ・ 行う ・ 行わない
 欠損部の改修工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ()

(9.3.4) 工法
 通気層の有無 ・ あり (mm) ・ なし
 断熱材の施工 ・ 断熱材製造所の仕様による ()
 外装材の施工 ・ 外装材製造所の仕様による ()
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法)
 ・ 適用しない
 不陸等の下地調整 ・ 行う

4 断熱・防露改修工事 (9.5.2)

断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.5.3) ・ 断熱材現場発泡工法
 断熱材の種類 ・ A種1 ・ A種1H ()
 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ()
 施工箇所 ・ 図示(図面番号:)

・ 現場発泡断熱材(品質・性能)
 工事建築材料等品質性能表による(試験方法)
 工事建築材料等品質性能表による

(9.5.4) ・ 断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有 ・ 無	
・ ()	・ 有 ・ 無	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

5 屋上緑化改修工事 (9.6.1)~(9.6.3)

植栽基盤及び材料
 屋上緑化軽量システム
 ・ 適用する ・ 適用しない
 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

工法
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
 ・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
 ・ 適用しない

かん水装置 ・ 設置する(種類 ())
 既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

6 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.5.2)~(9.5.7)(9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床

種類	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュヤラン ・ クラッシュヤラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂 (7μmふるい通過量10%以下) ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ フィルター層	・ 砂 ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床安定処理
 ・ 添加材料による安定処理
 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種
 ・ 生石灰(・特号 ・ 1号) ・ 消石灰(・特号 ・ 1号)
 添加量 (kg/m²) (目標CBR ・ 5以上)

・ ジオテキスタイル
 単位面積質量 ・ 60g/m²以上 ()
 厚さ[mm] ・ 0.5~1.0 ()
 引張強さ ・ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ()
 透水係数 ・ 1.5×10⁻¹~1cm/sec以上 ()

試験
 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない
 路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない
 現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない

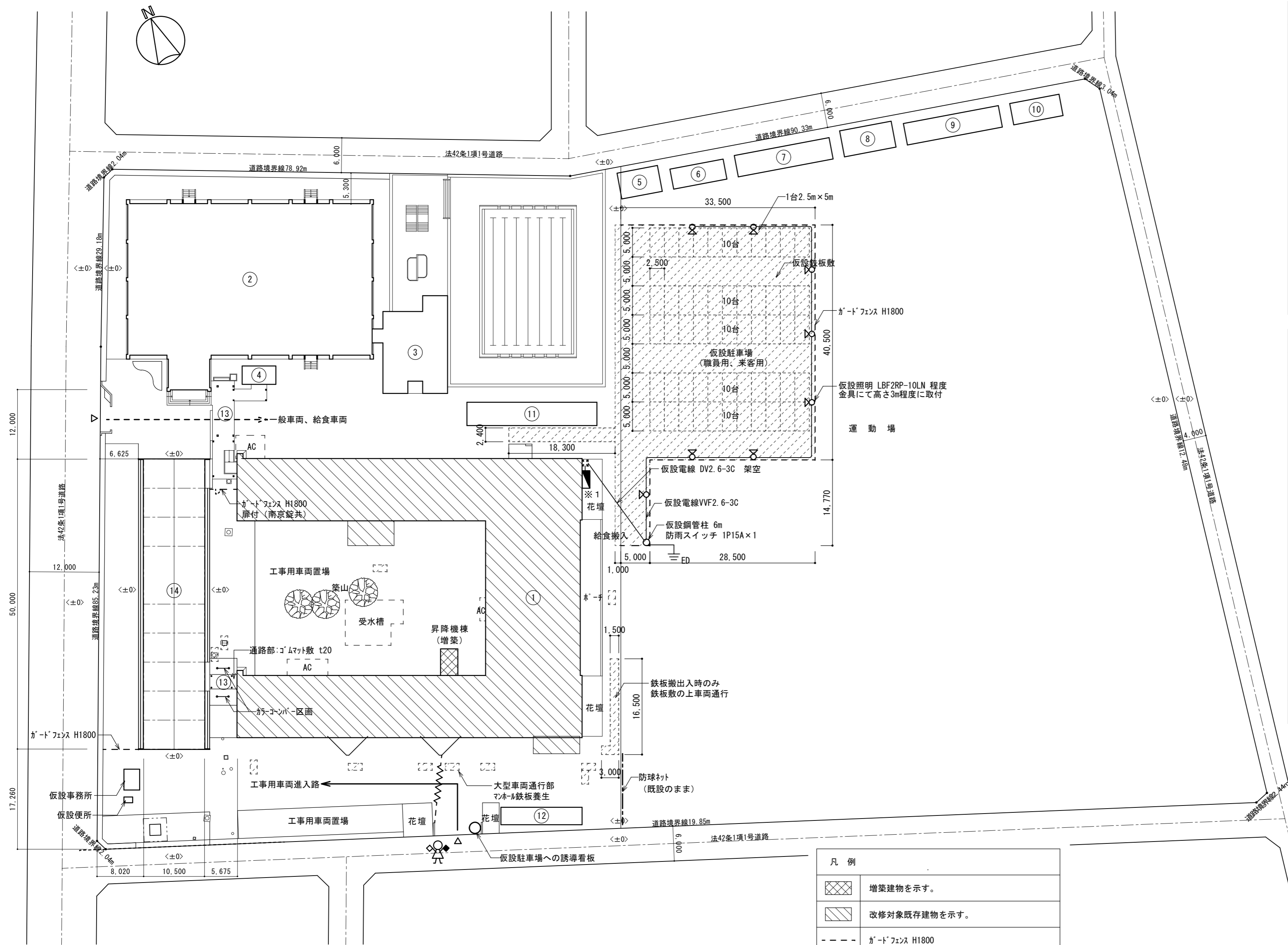
路盤
 路盤の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ ()
 路盤材料 ・ 再生材のクラッシュヤラン
 ・ クラッシュヤラン鉄鋼スラグ
 ・ 図示(図面番号:)
 ・ ()

試験
 路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
・ ストレートアスファルト	・ 図示(図面番号:) ・ ()

試験
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
 舗装の平坦性 ・ 著しい不陸がないもの ()



No.	棟名	建築面積	延床面積
①	普通・特別教室棟	1,776.86	6,902.05
②	屋内運動場	1,187.20	1,277.50
③	ﾌﾞｰﾙ付属棟	169.53	169.53
④	便所	18.50	18.50
⑤	体育庫	32.00	32.00
⑥	倉庫	32.69	32.69
⑦	ｸﾗﾌﾞ部室	62.43	62.43
⑧	体育庫	41.17	41.17
⑨	ｸﾗﾌﾞ部室	62.43	62.43
⑩	ｸﾗﾌﾞ部室	32.43	32.43
⑪	駐輪場	89.60	89.60
⑫	駐輪場	42.00	42.00
⑬	渡り廊下	64.95	
⑭	特別教室棟	525.00	525.00
合計		4,136.79	9,287.33

	増築建物を示す。
	改修対象既存建物を示す。
	ガードフェンス H1800
	キャストゲート W6000
	仮設鉄板敷 t22 駐車区画ﾗｲﾝ引き共
	※交通誘導員(大型車両出入時)

※1 既設屋外レバー盤コンセントから電源をとり、既設配管及びﾌﾞﾙｯｸｽを利用し、仮設鋼管柱へ配線する。

配置図兼仮設計画図 S=1:500

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:500

drawing title
附近見取図、配置図、仮設計画図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

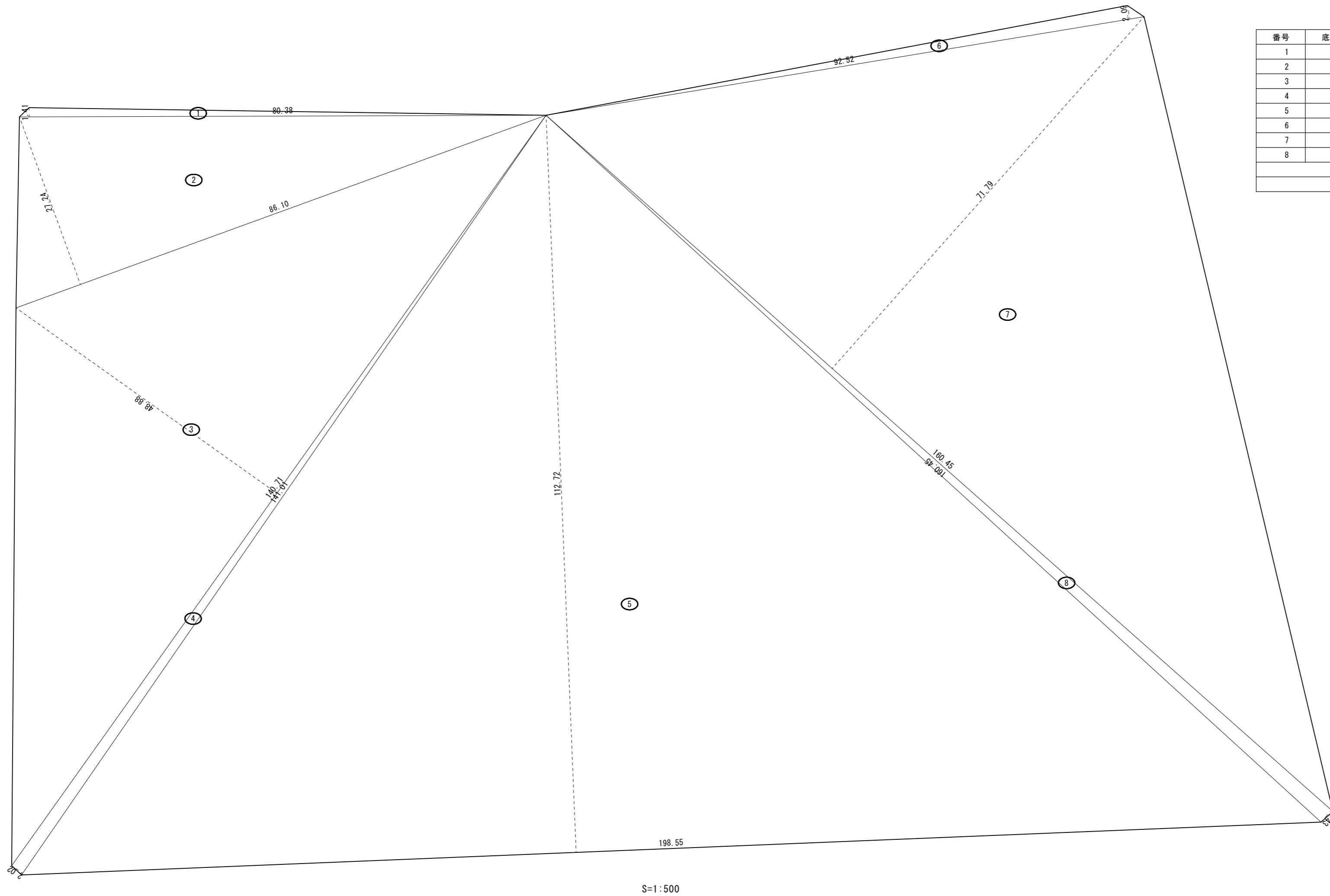
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有)貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

A-15

原図:A2



番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	80.38	1.41	113.3358	56.66790
2	86.10	27.24	2,345.3640	1,172.68200
3	140.71	48.88	6,877.9048	3,438.95240
4	141.01	2.02	284.8402	142.42010
5	198.55	112.72	22,380.5560	11,190.27800
6	92.52	2.09	193.3668	96.68340
7	160.45	71.79	11,518.7055	5,759.35275
8	160.45	2.43	389.8935	194.94675
合計				22,051.98330
敷地面積				22,051.98 m ²

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:500

drawing title
敷地求積図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

Kisho
Architectural
Design Office

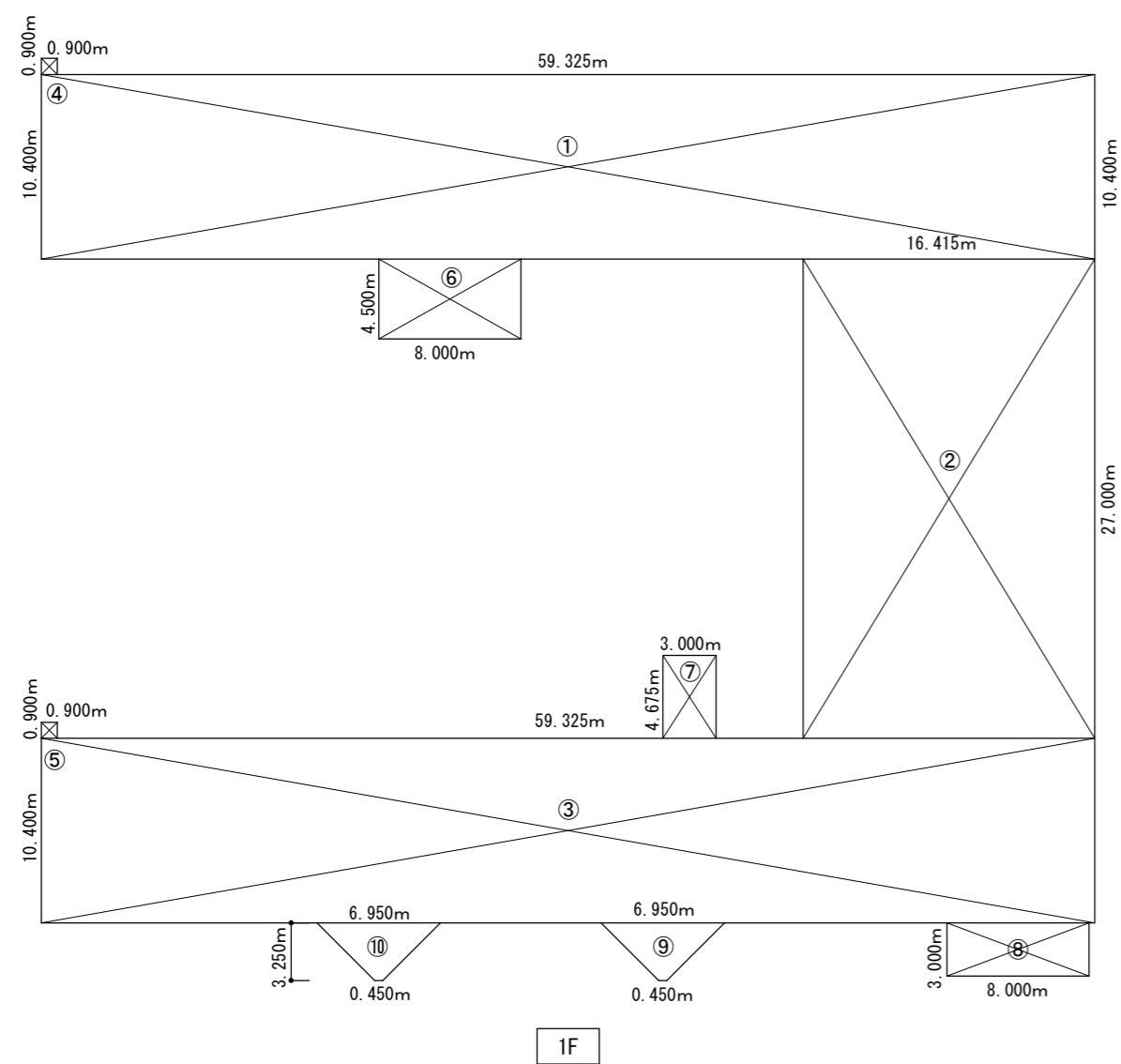
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士：山田 賢治

drawing no.

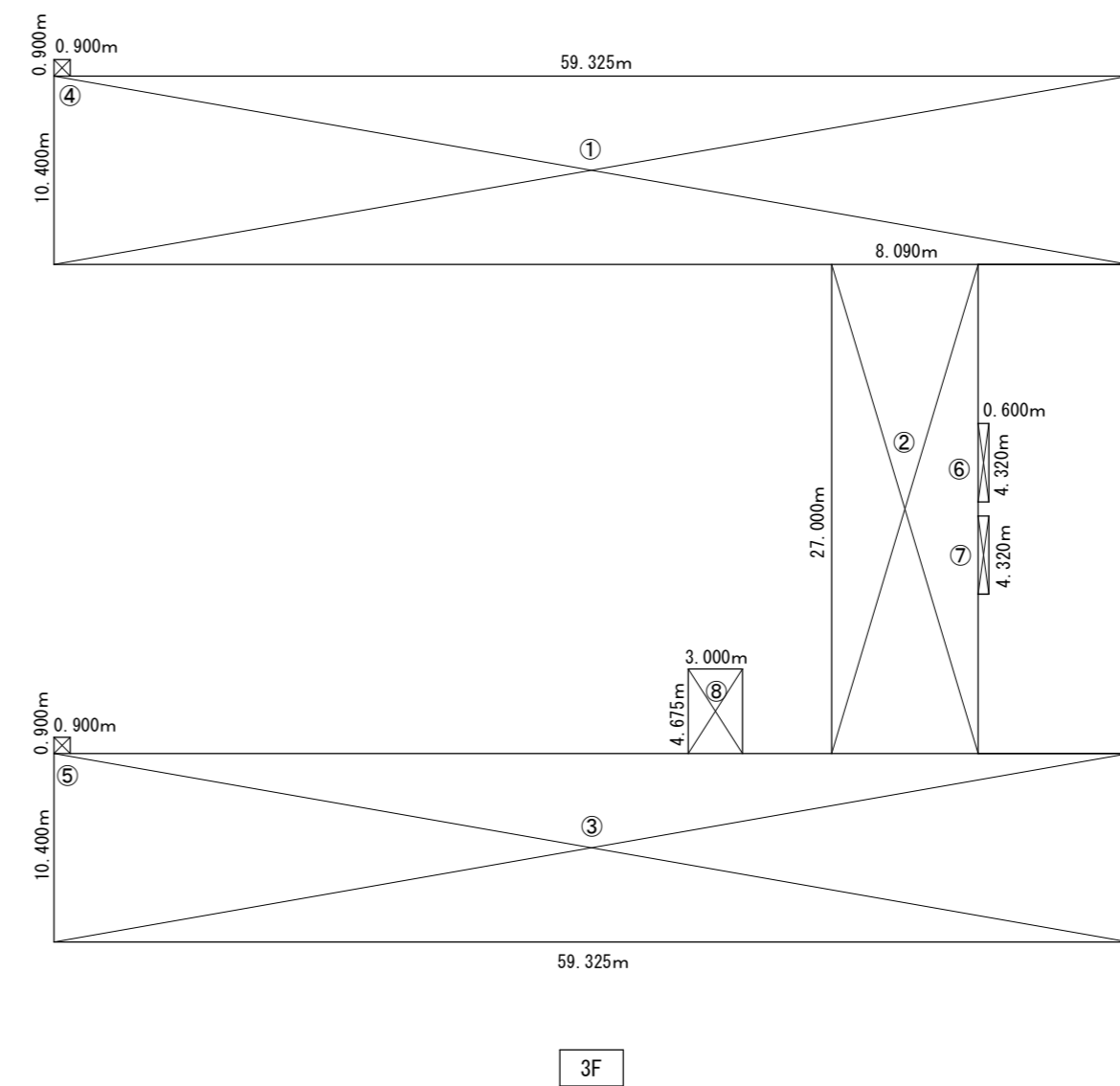
sheet no.

A-16

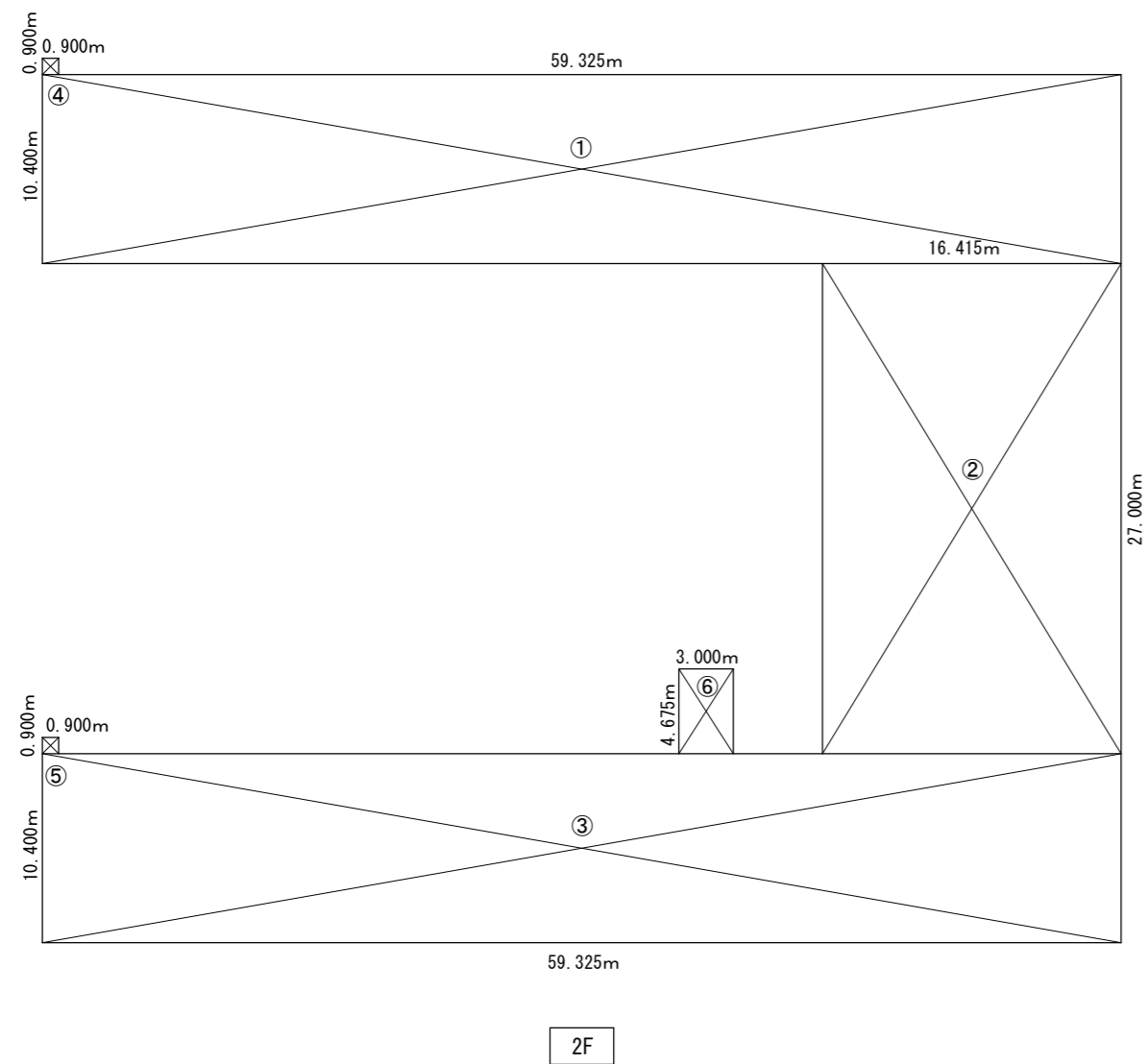
原図:A2



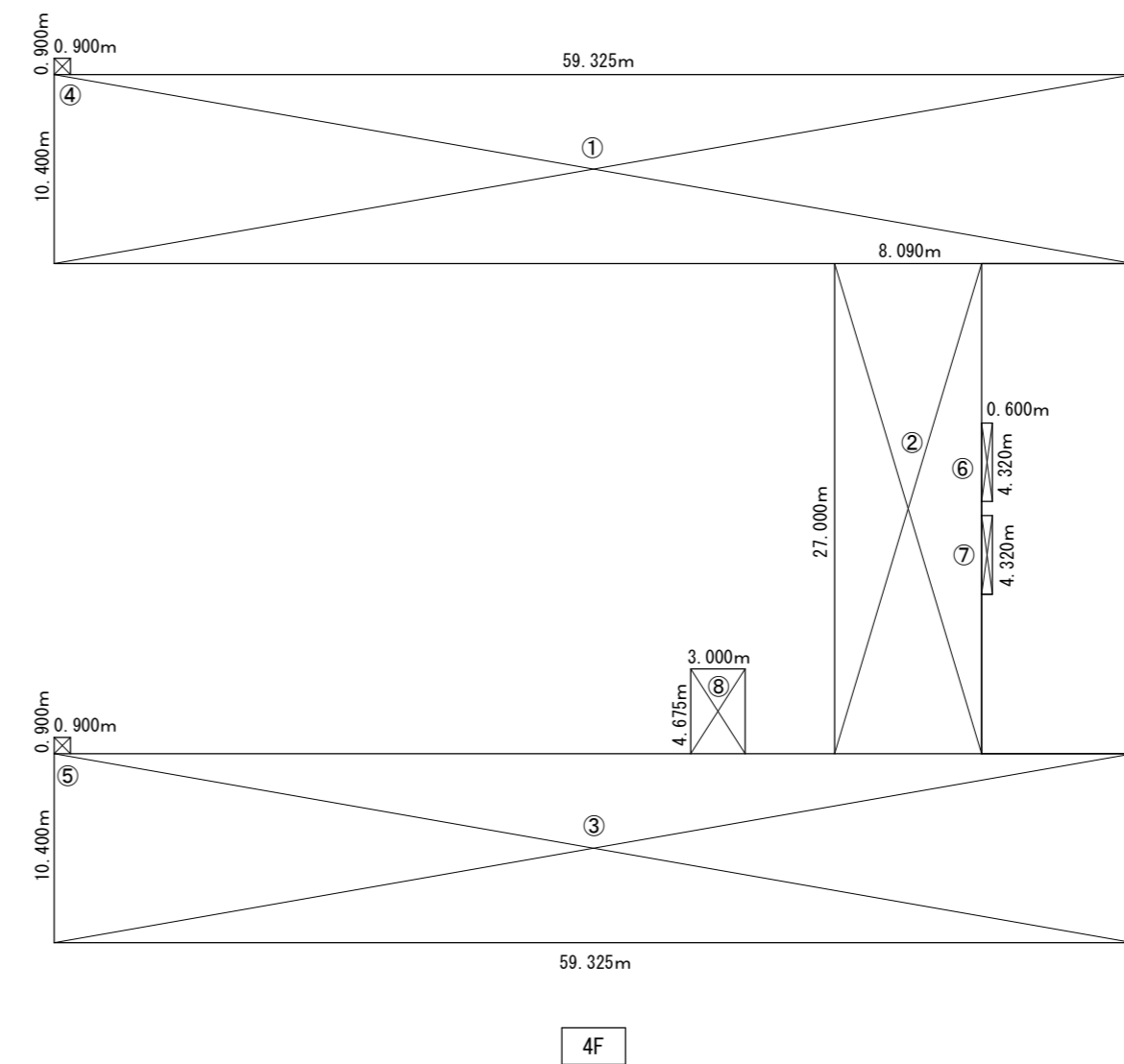
①	59.325	×	10.400	=	616.98
②	16.415	×	27.000	=	443.205
③	59.325	×	10.400	=	616.98
④	0.900	×	0.900	=	0.81
⑤	0.900	×	0.900	=	0.81
⑥	8.000	×	4.500	=	36.00
⑦	3.000	×	4.675	=	14.025
⑧	8.000	×	3.000	=	24.00
⑨	(6.95+0.45) × 3.25 ÷ 2			=	12.025
⑩	(6.95+0.45) × 3.25 ÷ 2			=	12.025
1F計					1,776.860



①	59.325	×	10.400	=	616.98
②	16.415	×	27.000	=	443.205
③	59.325	×	10.400	=	616.98
④	0.900	×	0.900	=	0.81
⑤	0.900	×	0.900	=	0.81
⑥	0.600	×	4.320	=	2.592
⑦	0.600	×	4.320	=	2.592
⑧	3.000	×	4.675	=	14.025
3F計					1,697.994

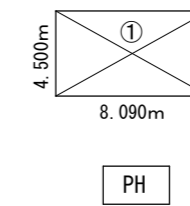


①	59.325	×	10.400	=	616.98
②	16.415	×	27.000	=	443.205
③	59.325	×	10.400	=	616.98
④	0.900	×	0.900	=	0.81
⑤	0.900	×	0.900	=	0.81
⑥	3.000	×	4.675	=	14.025
2F計					1,692.810

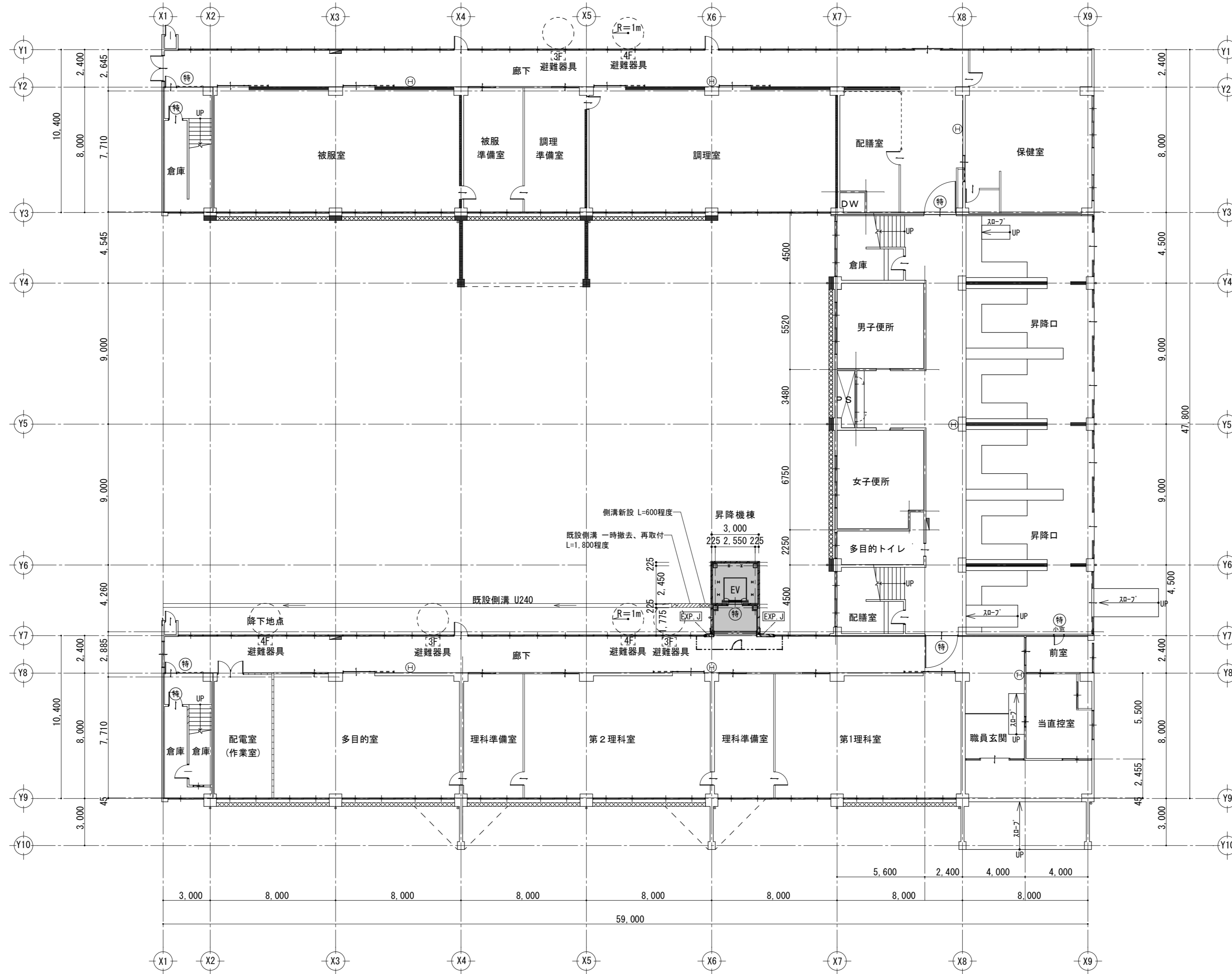
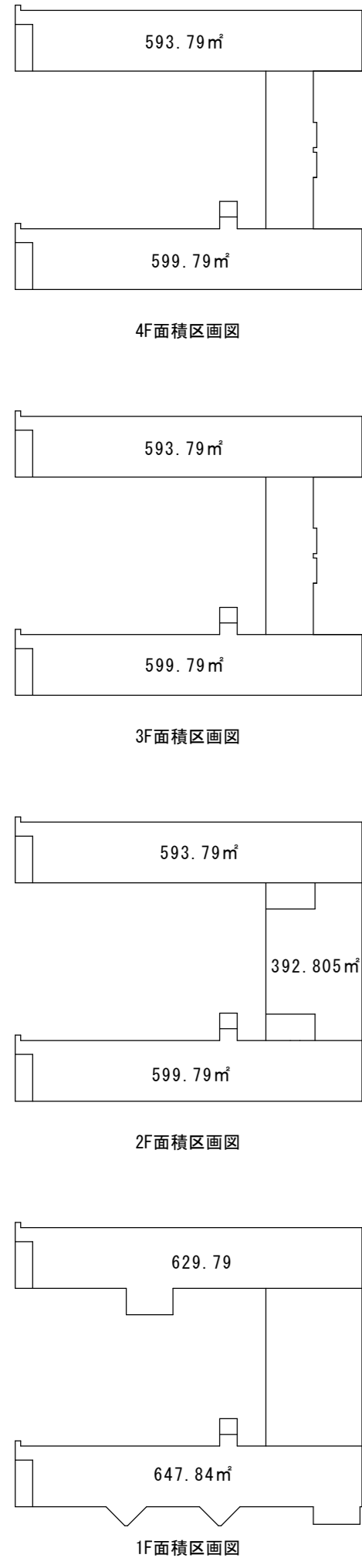


①	59.325	×	10.400	=	616.98
②	16.415	×	27.000	=	443.205
③	59.325	×	10.400	=	616.98
④	0.900	×	0.900	=	0.81
⑤	0.900	×	0.900	=	0.81
⑥	0.600	×	4.320	=	2.592
⑦	0.600	×	4.320	=	2.592
⑧	3.000	×	4.675	=	14.025
4F計					1,697.994

用途・構造	EV棟	校舎	合計
建築面積	14.02 m ²	1,776.86 m ²	1,790.88 m ²
1階床面積	14.02 m ²	1,776.86 m ²	1,790.88 m ²
2階床面積	14.02 m ²	1,692.81 m ²	1,706.83 m ²
3階床面積	14.02 m ²	1,697.99 m ²	1,712.01 m ²
4階床面積	14.02 m ²	1,697.99 m ²	1,712.01 m ²
PH階		36.40 m ²	36.40 m ²
延床面積	56.08 m ²	6,902.05 m ²	6,958.13 m ²
敷地面積			22,051.98 m ²



①	8.090	×	4.500	=	36.405
4F計					36.405



■ 消防設備 (注記)	
避難器具	垂直式 3箇所移設 移設避難器具(垂直式)の固定は床ｽﾌﾟﾞ貫通ﾙﾄにて固定とする。 固定踏台付とする。 降下空間は図示による。 降下地点に標識設置とする。
誘導灯	階段設置の場合、階数表示とする。 外部出入口は手動解放可能とする。
消火器 (工事対象外)	㊦ 消火器ABC10型 歩行距離20m以内に設置

※ 誘導灯設備等設置のための天井内配線作業箇所については、既設化粧PB 一時撤去・再取付とする。

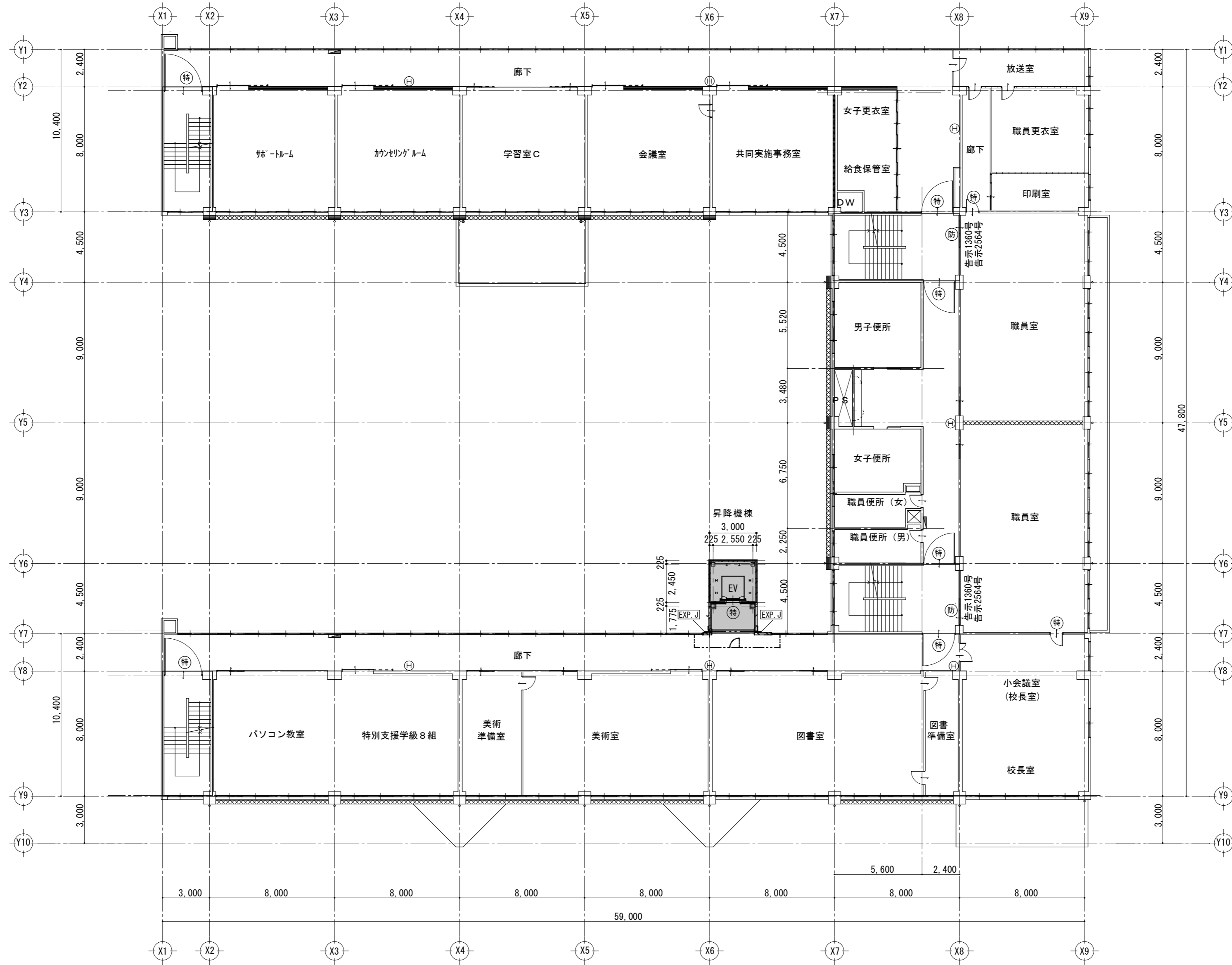
- 凡例
- : 増築部分を示す。
 - - - : 仮設間仕切壁を示す。(原・南京錠共)

凡例	
㊦	特定防火設備 (堅穴区画) 建告第2564号、建告1369号
㊦	防火設備 建告第2564号、建告1360号

※EV特 CAS-0519 H12建告第1369号

凡例	
—	屋内消火栓設備
㊦	避難器具

1階平面図兼内部仮設計画図 S=1:200



2階平面図兼内部仮設計画図 S=1:200

凡例
 [陰影] : 増築部分を示す。
 [半線] : 仮設間仕切壁を示す。
 (原・南京錠共)

— 堅穴区画線、面積区画線

凡例		凡例	
[特]	特定防火設備 (堅穴区画) 建告第2564号、建告1369号	[防]	防火設備 建告第2564号、建告1360号
※EV特 CAS-0519 H12建告第1369号		[消]	屋内消火栓設備
[避]	避難器具		

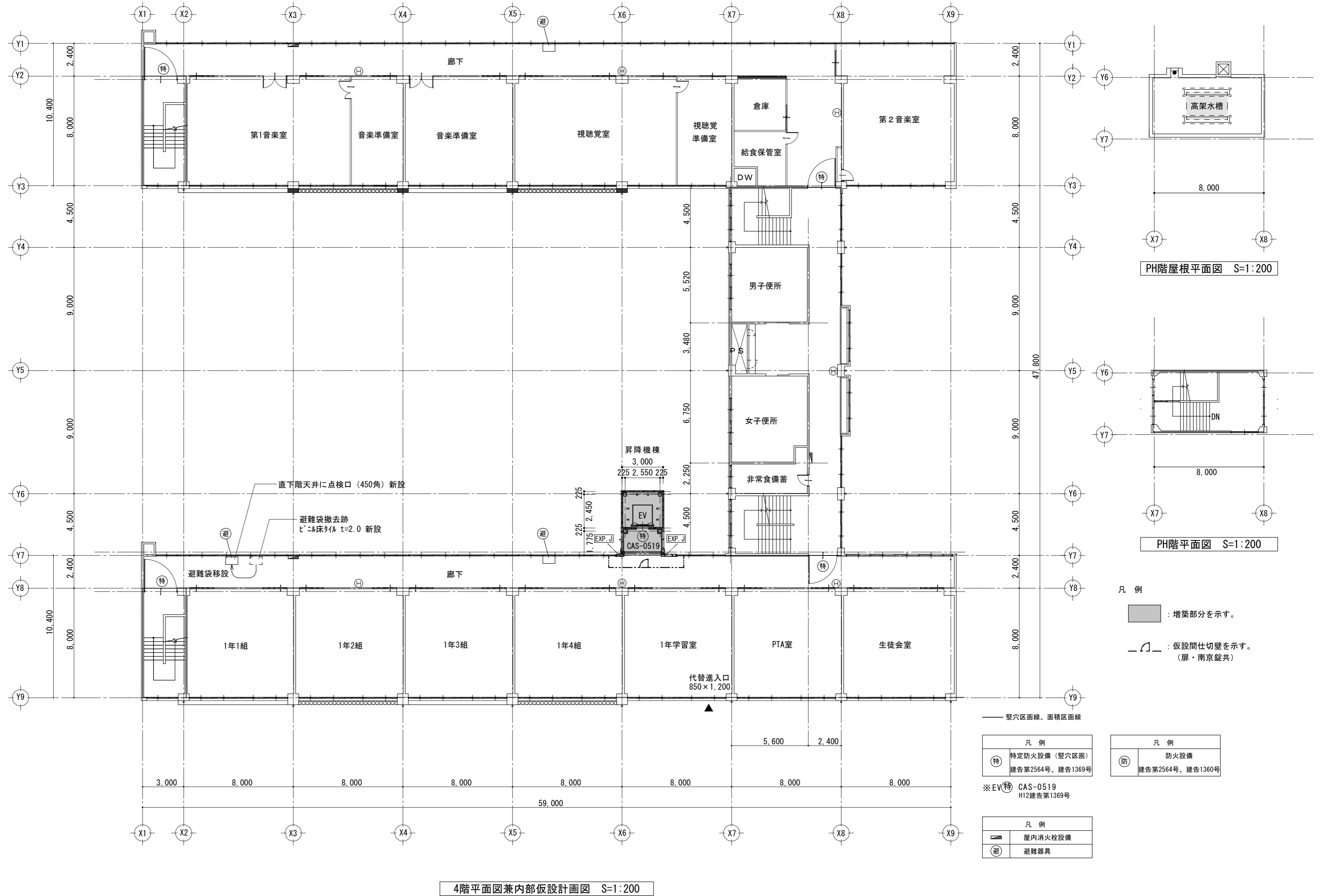


3階平面図兼内部仮設計画図 S=1:200

凡例
 [Hatched Box] : 増築部分を示す。
 [Dashed Line] : 仮設間仕切壁を示す。
 (扉・南京錠共)

— 堅穴区画線、面積区画線

凡例		凡例	
(特)	特定防火設備 (堅穴区画) 建告第2564号、建告1369号	(防)	防火設備 建告第2564号、建告1360号
※EV(特) CAS-0519 H12建告第1369号			
凡例			
[Symbol]	屋内消火栓設備		
[Symbol]	避難器具		



memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:200

drawing title
4階平面図兼内部仮設計画図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

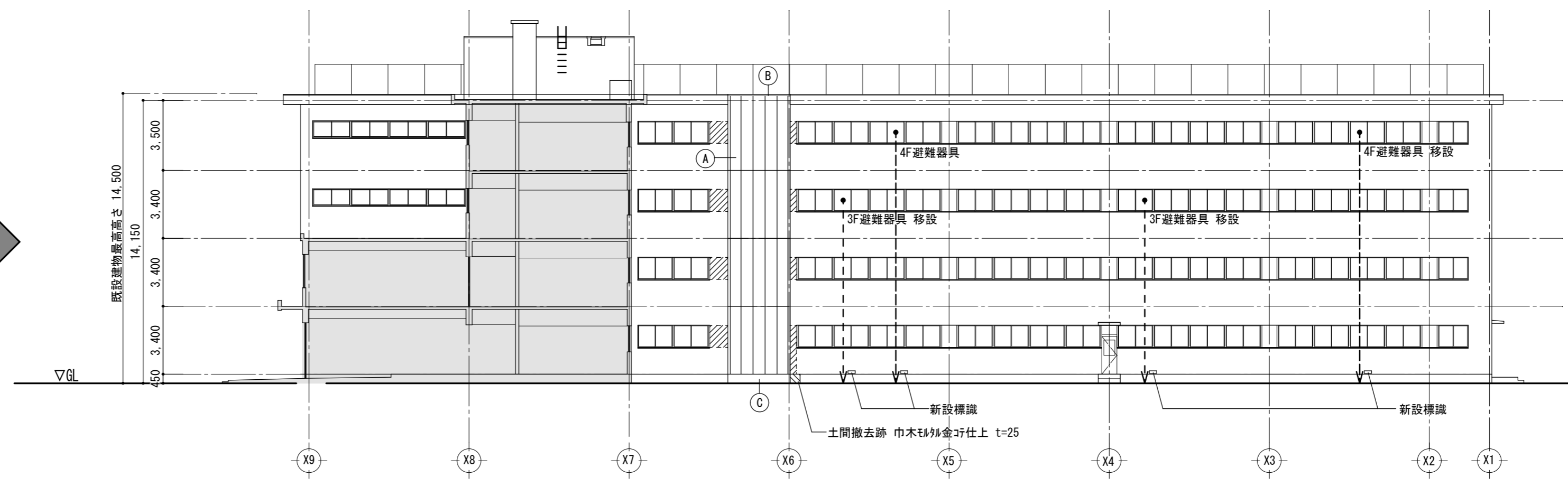
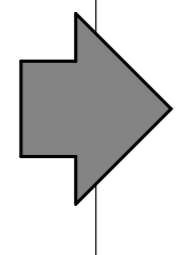
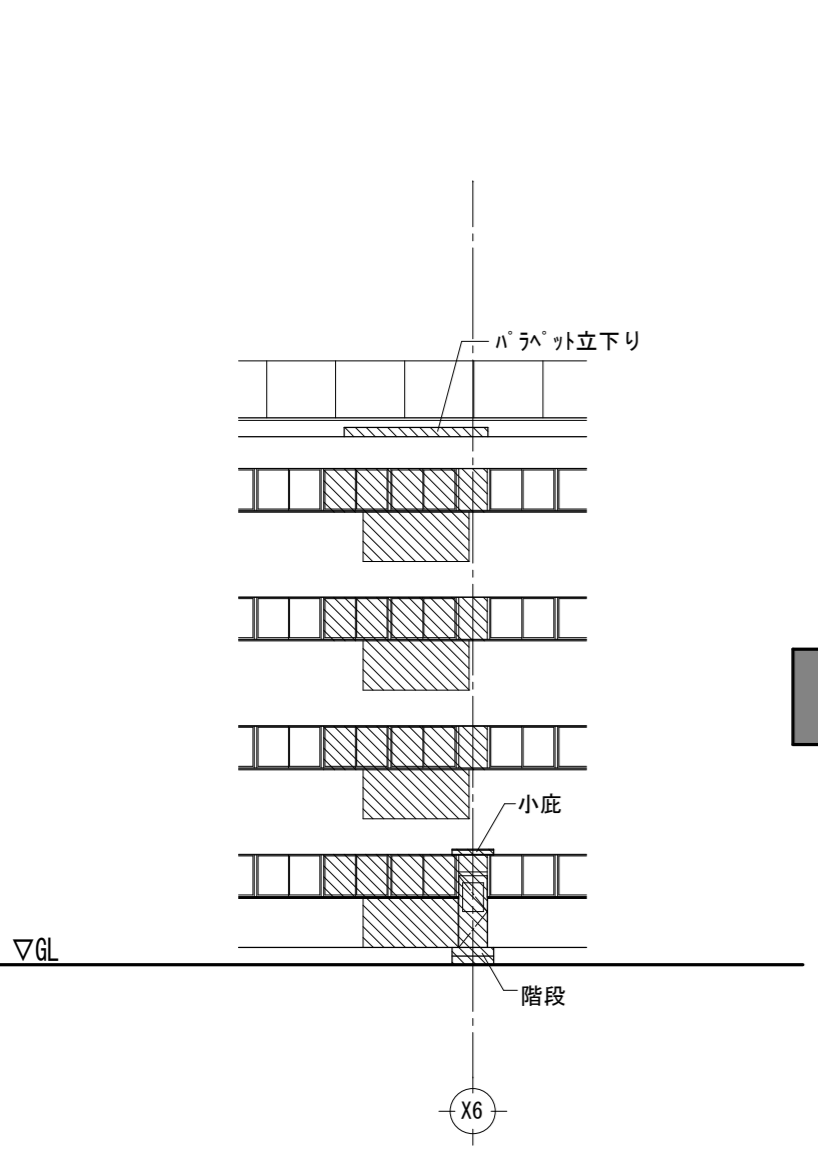
Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

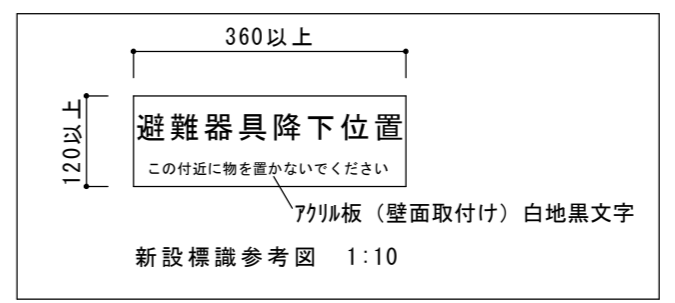
A-21
原図:A2



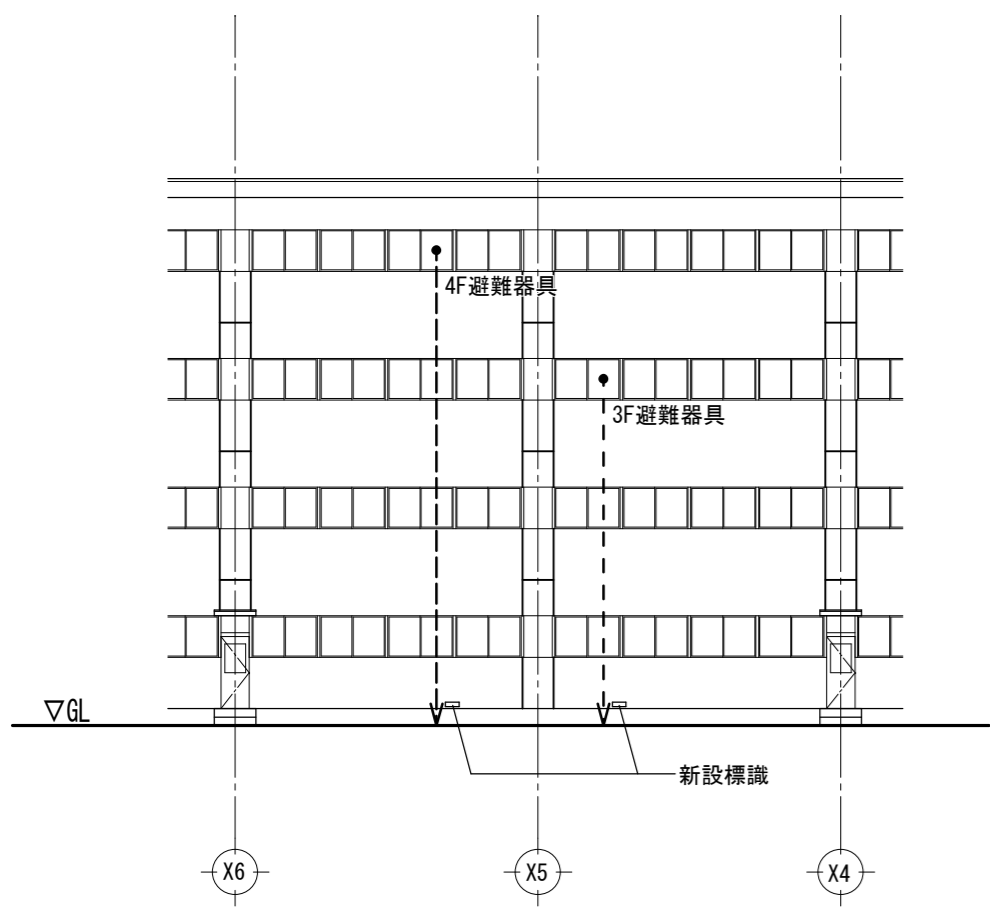
(中) 北立面図 (改修前) S=1:200

(中) 北立面図 (改修後) S=1:200

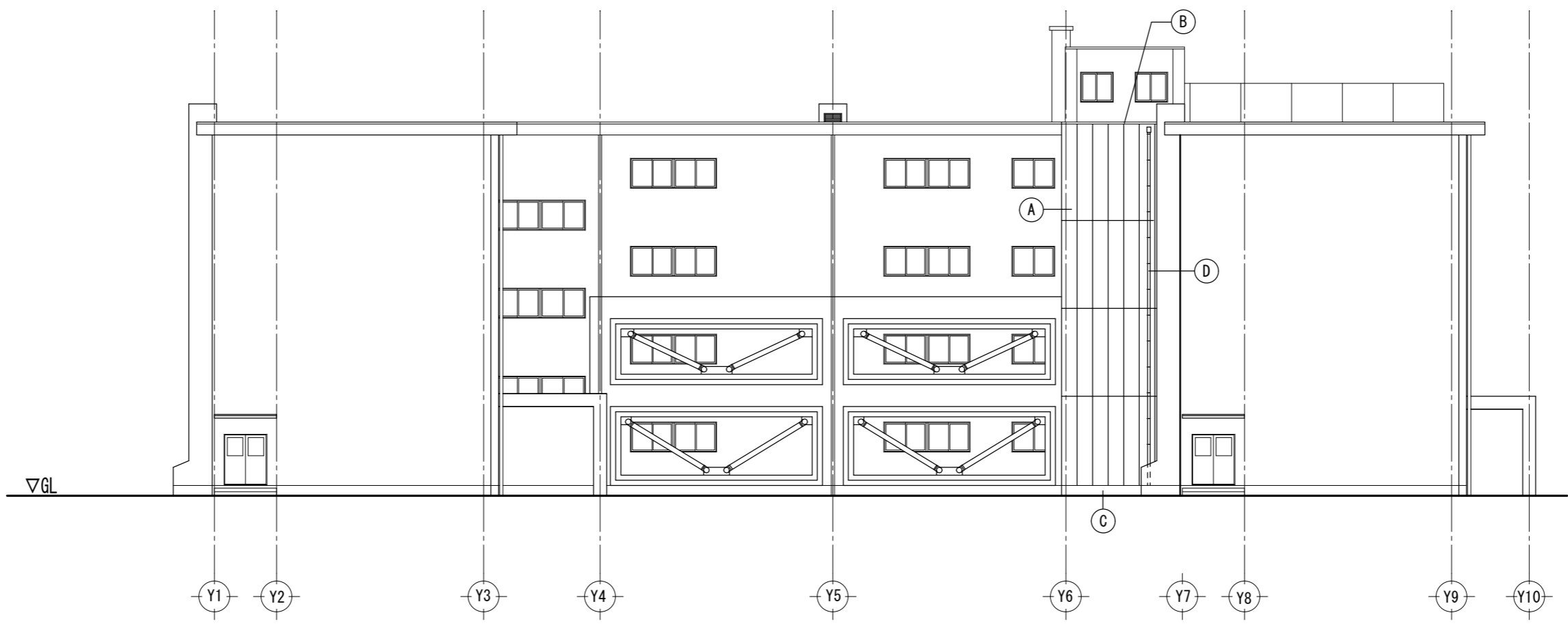
【凡例】
 : 解体範囲を示す。



【凡例】
 : 開口塞ぎコンクリート壁新設部分を示す。
 ※コンクリート新設、下地調整の上、複層塗材E吹付



北立面図 S=1:200



西立面図 (改修後) S=1:200

外壁仕上 凡例	
(A)	外壁: ALC t=125 縦壁ロッキング工法 下地調整の上、複層塗材E 継目シリング共
(B)	笠木: 7#製 W=175
(C)	巾木: 珪砂金珪砂仕上 t=25
(D)	縦樋: 硬質塩ビ管Φ100 (カー) 集水器、工棟共

外部仕上	場所			内部仕上表							備考	
外部仕上	屋根	ALC t=100 一部合成スチールの上水勾配モルタル珪砂入り 合成高分子系膜防水 (S-F2) 接着工法 (平場・立上り共)	その他	(イキハシジョイント) SUS製 クリア200 屋根-屋根 シーリング、耐火帯共 (イキハシジョイント) SUS製 クリア200 外壁-外壁 シーリング、耐火帯共								
	外壁	(外壁) ALC t=125 縦壁ワキ工法 下地調整の上、複層塗材E		(取合) 変性シリコン系シーリング MS-2 10×10	改修前	1~4階 廊下	モルタル珪砂入り ビニル床タイル t=2.0★ 一部撤去	モルタル巾木 H=100 EP塗 一部撤去	ガラス- EP塗 一部撤去	LGS19下地 化粧PB t=9.5 一部撤去	2500	★: 7スレ含有材を示す
		(巾木) モルタル珪砂入り t=25 (笠木) 7スレ既製品W175		撤去・解体	既設7スレ建具 一部撤去	改修後	1~4階 廊下 (既設側)	モルタル珪砂入り ビニル床タイル t=2.0 一部新設	モルタル巾木 H=100 EP塗 一部新設 (1階のみ)	コンクリート打放し面補修の上 EP塗 一部新設	LGS19下地 化粧PB t=9.5 一部新設	2500
	樋	(落口) 集水樹 塩ビカー角型120用			1階廊下出入口外部階段及び小庇撤去		1~4階 廊下 (増築部)	土間コンクリート モルタル珪砂入り ビニル床シート t=2.5 新設	ビニル巾木 H=100 新設	LGS65・25 強化PB t=12.5 EP塗 新設	LGS19下地 化粧PB t=9.5 新設	
(縦樋) 硬質塩ビ製カーVP100A 掴み金物φ900						1階 EVビット	モルタル珪砂入り ケ酸質系塗布防水 (C-SUI) 新設	モルタル珪砂入り ケ酸質系塗布防水 (C-SUI) 新設				

■ 消防法による有窓階のチェック

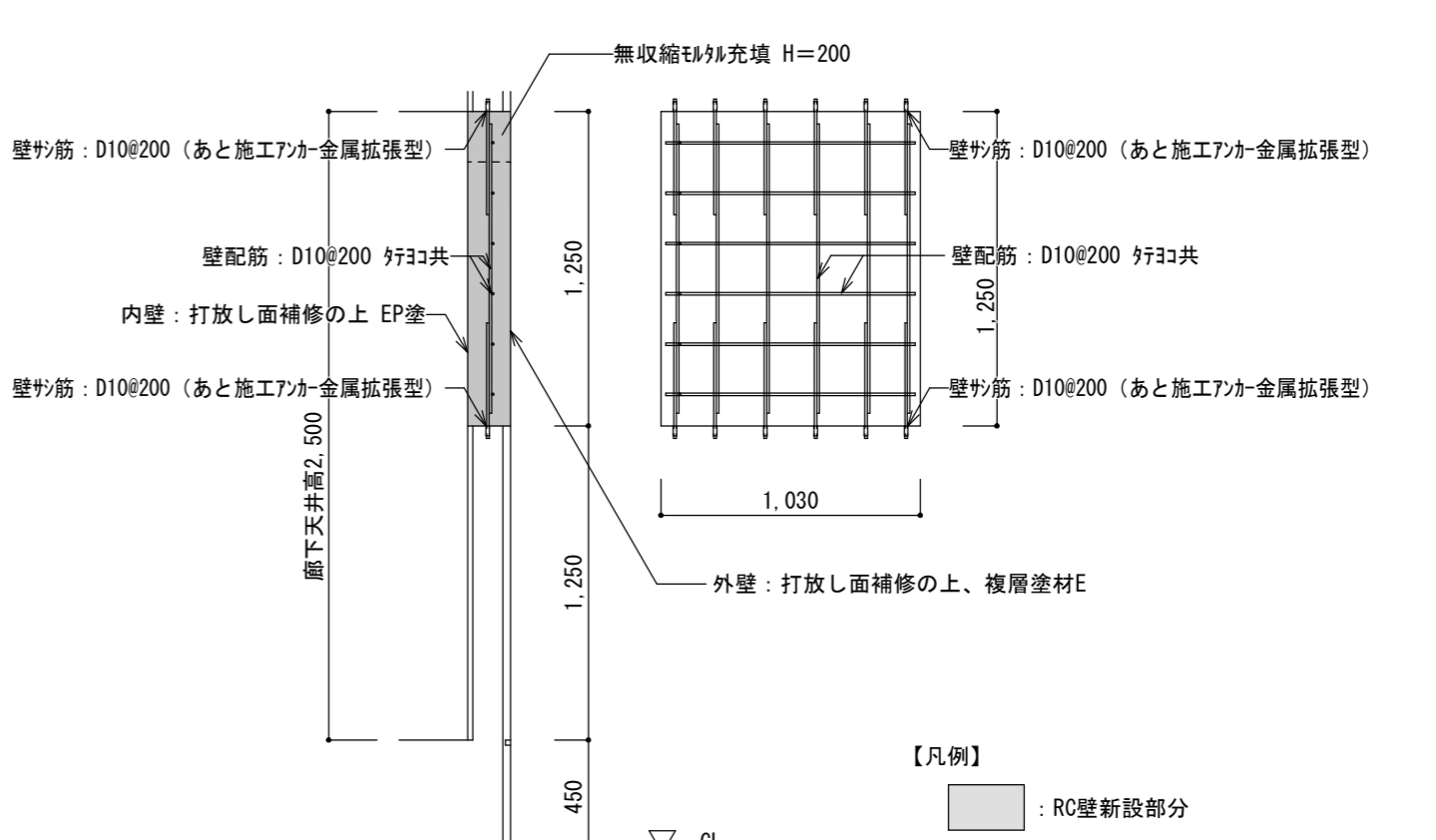
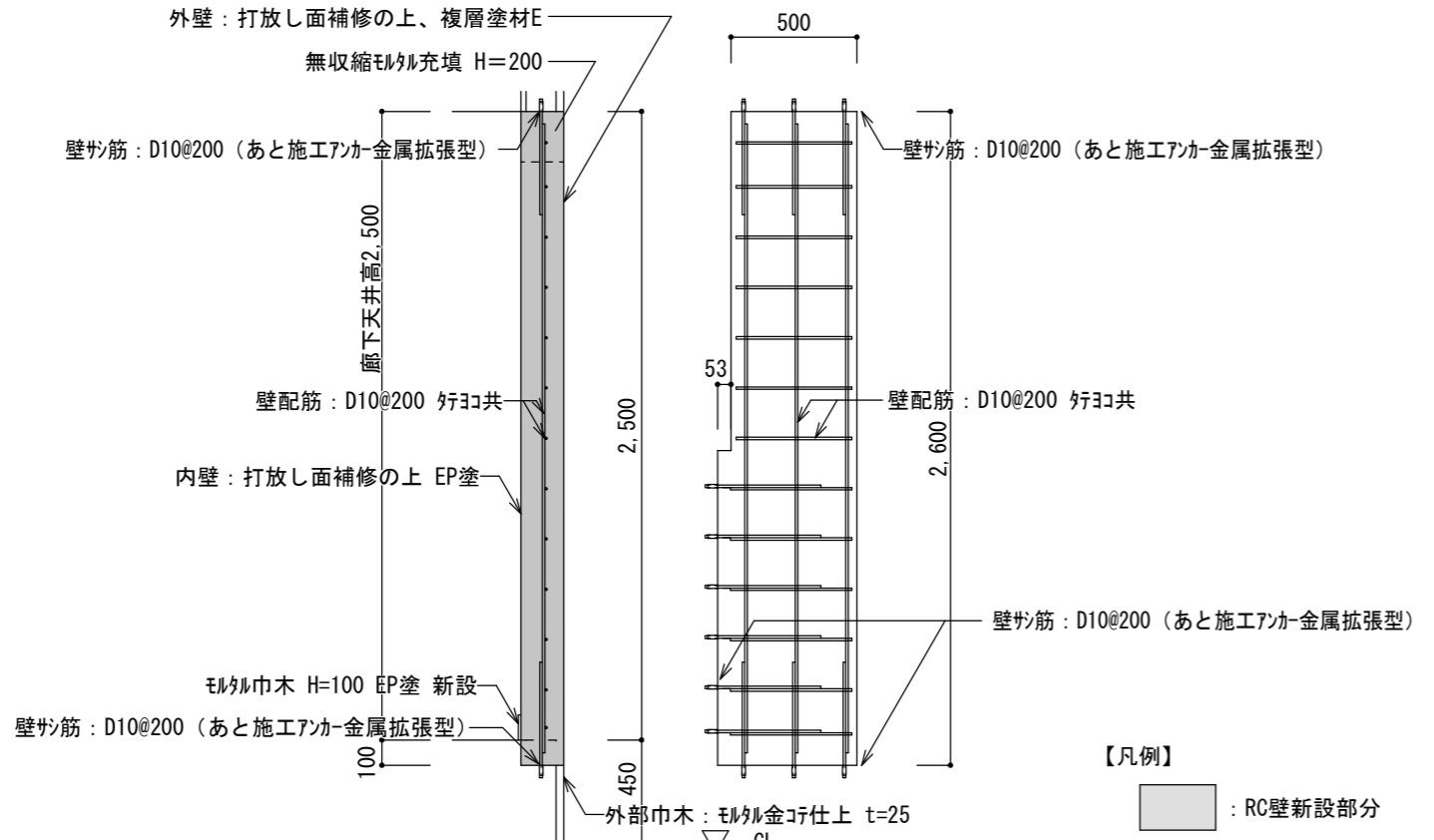
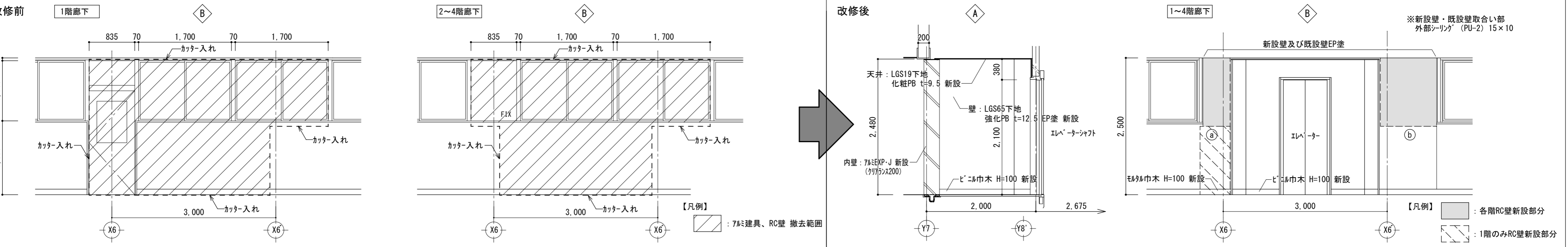
	必要開口面積 (1/30)	有効開口面積							判定
		昇降口AD	職員口AD	配膳AD	南廊下AD	北廊下AD	南廊下AD	北廊下AD	
1階	1776.86 × 1/30 = 59.23	>	(1.8 × 2 × 6) + (1.905 × 2 × 1) + (1.6 × 2.5 × 1) + (0.75 × 1.85 × 1) + (0.8 × 1.85 × 1) + (0.75 × 1.9 × 1) + (0.75 × 1.9 × 2) = 36.553	無窓					
2階	1692.81 × 1/30 = 56.42	>	0	無窓					
3階	1473.29 × 1/30 = 49.10	>	0	無窓					
4階	1473.29 × 1/30 = 49.10	>	0	無窓					
用途	中学校 7項								

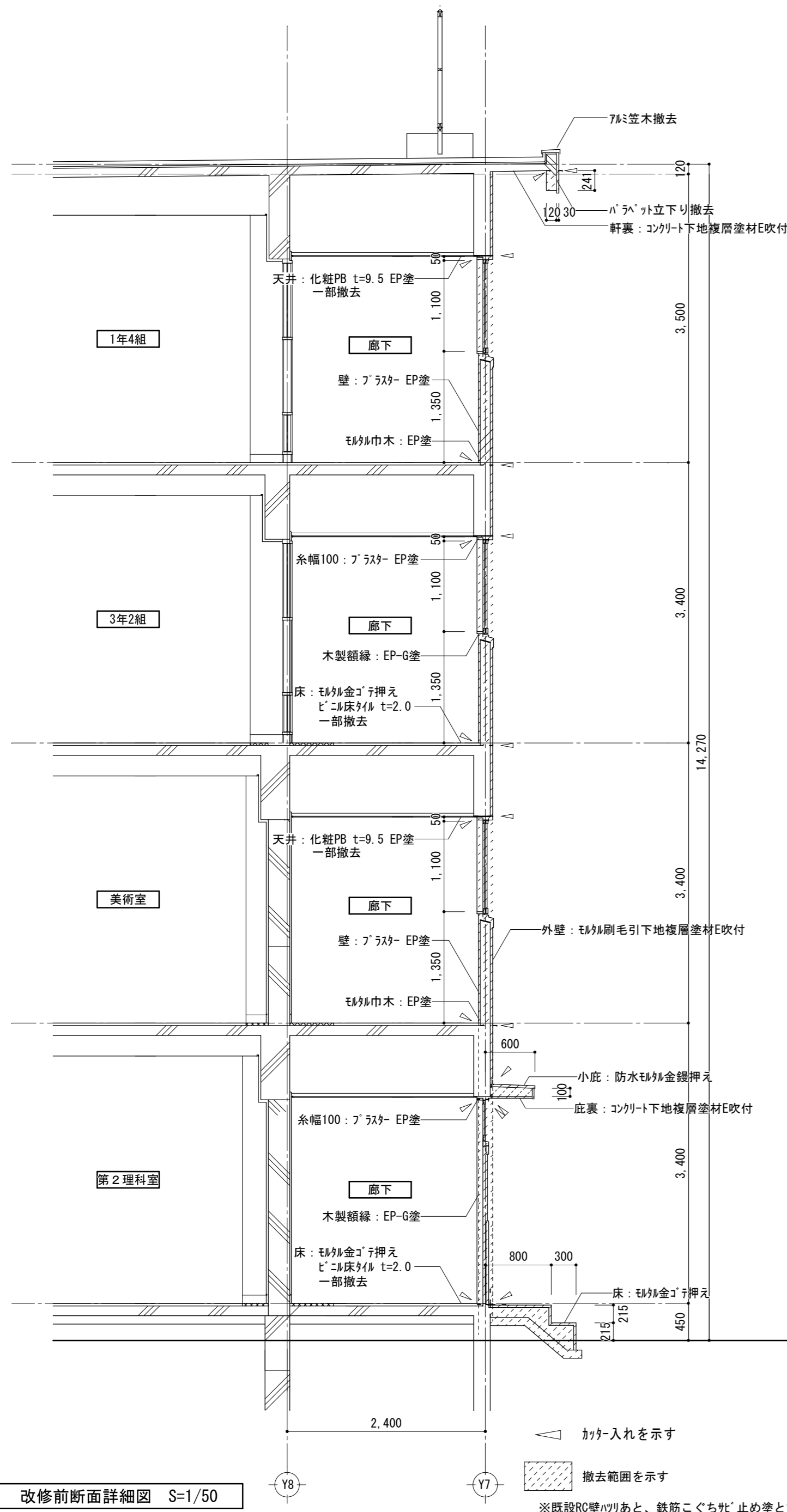
□ 既設中学校耐火性能

柱: 800×500	1時間耐火
梁: 300×1000	1時間耐火
床: t120	1時間耐火
屋根: t120	30分耐火
階段: t130	30分耐火
外壁: 180 (耐力)	1時間耐火
間仕切壁: 120 (耐力)	1時間耐火

□ 耐火性能認定番号		□ 防火性能認定番号		注記
柱: 吹付ロックウール t=25	1時間耐火 FP060CN-9460	化粧PB t=9.5	準不燃 QM-9824	使用建築材料は全てノラス製製品とする
梁: 吹付ロックウール t=25	1時間耐火 FP060BM-9408	PB t=9.5	準不燃 QM-9828	増築建物及び既存建物からノラスの飛散のおそれはないものとする
外壁: ALC t=125	1時間耐火	一般指定 告示第1399号		
間仕切壁: ALC t=125	1時間耐火	一般指定 告示第1399号		エレベーター出入口扉: 特定防火設備 CAS-0519
合成床版用ワキ (2・3・4階)	1時間耐火 FP060FL-9101			特定防火設備 平成12年建設省告示第1369号
屋根: ALC t=100	30分耐火	一般指定 告示第1399号		
合成床版用ワキ (屋根溝部) 吹付ロックウール t=10	30分耐火 FP030RF-9324			

展開図 1/50



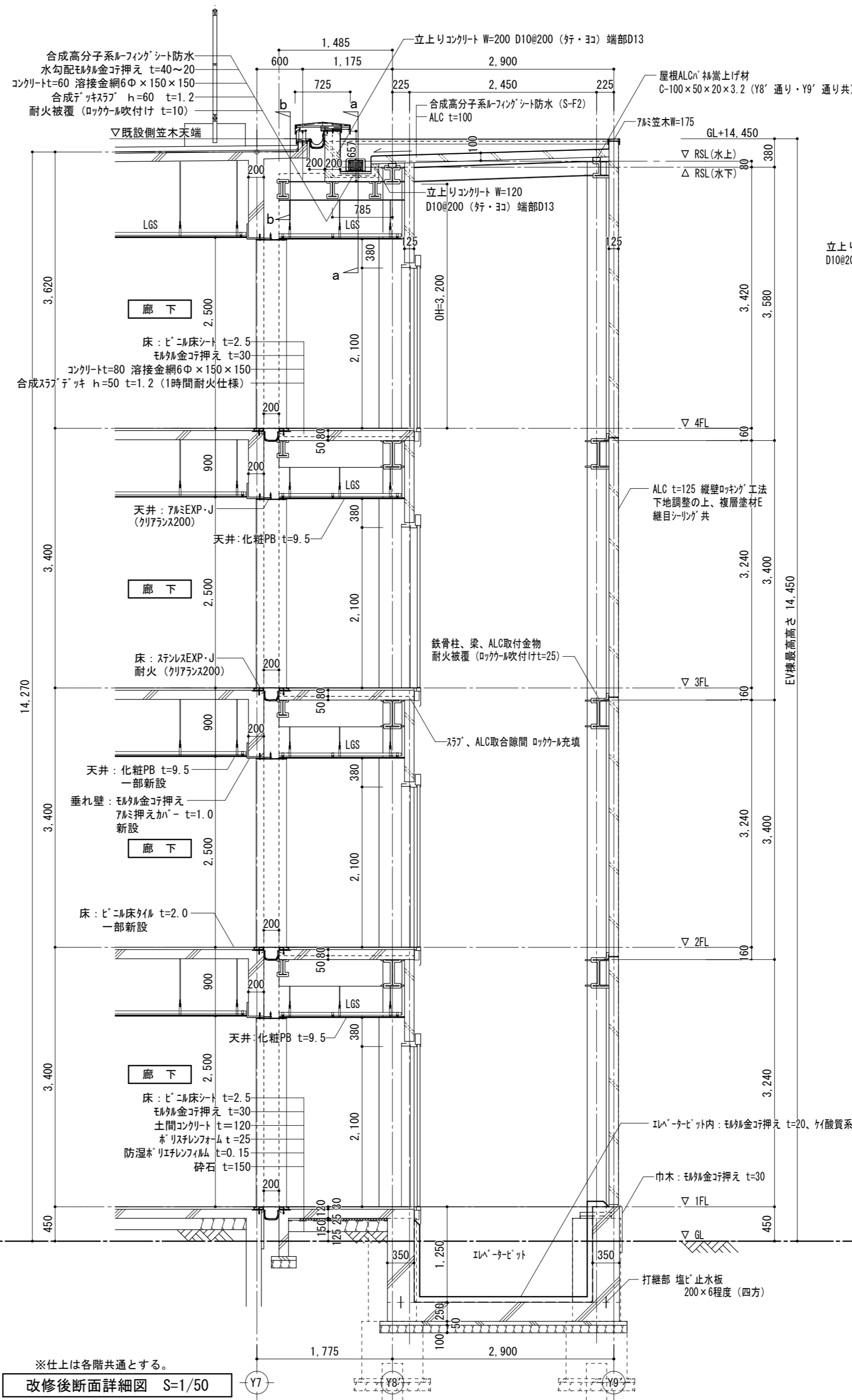


改修前断面詳細図 S=1/50

△ カッター入りを示す

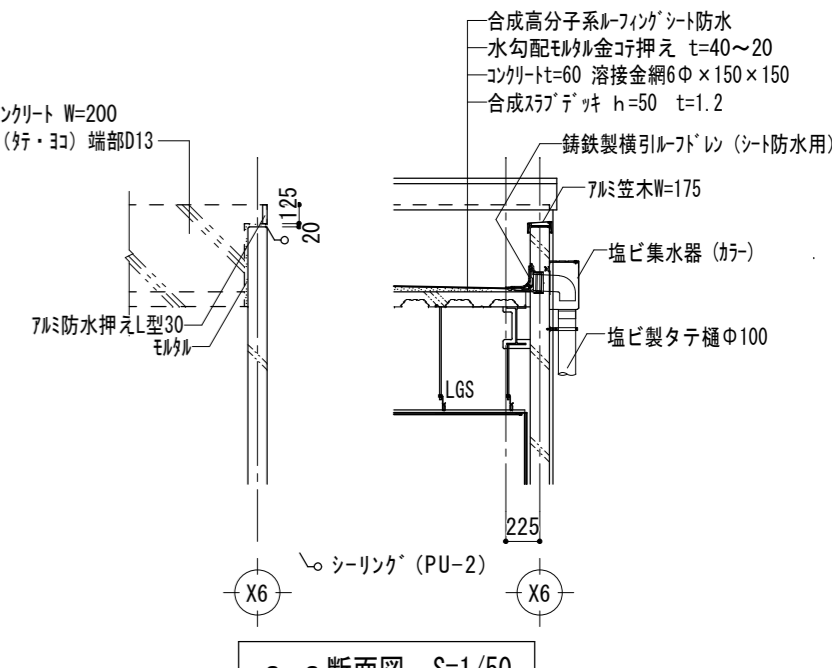
撤去範囲を示す

※既設RC壁のりと、鉄筋ごちがれ止め塗とする。

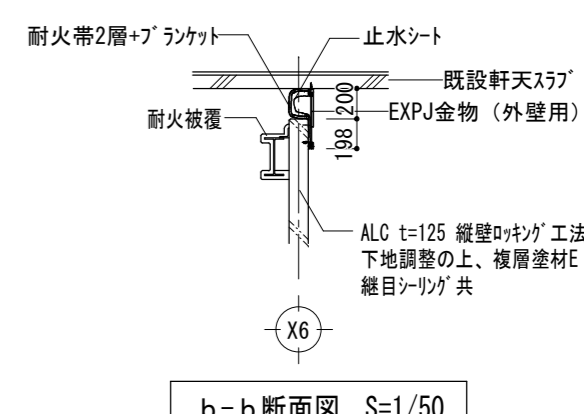


改修後断面詳細図 S=1/50

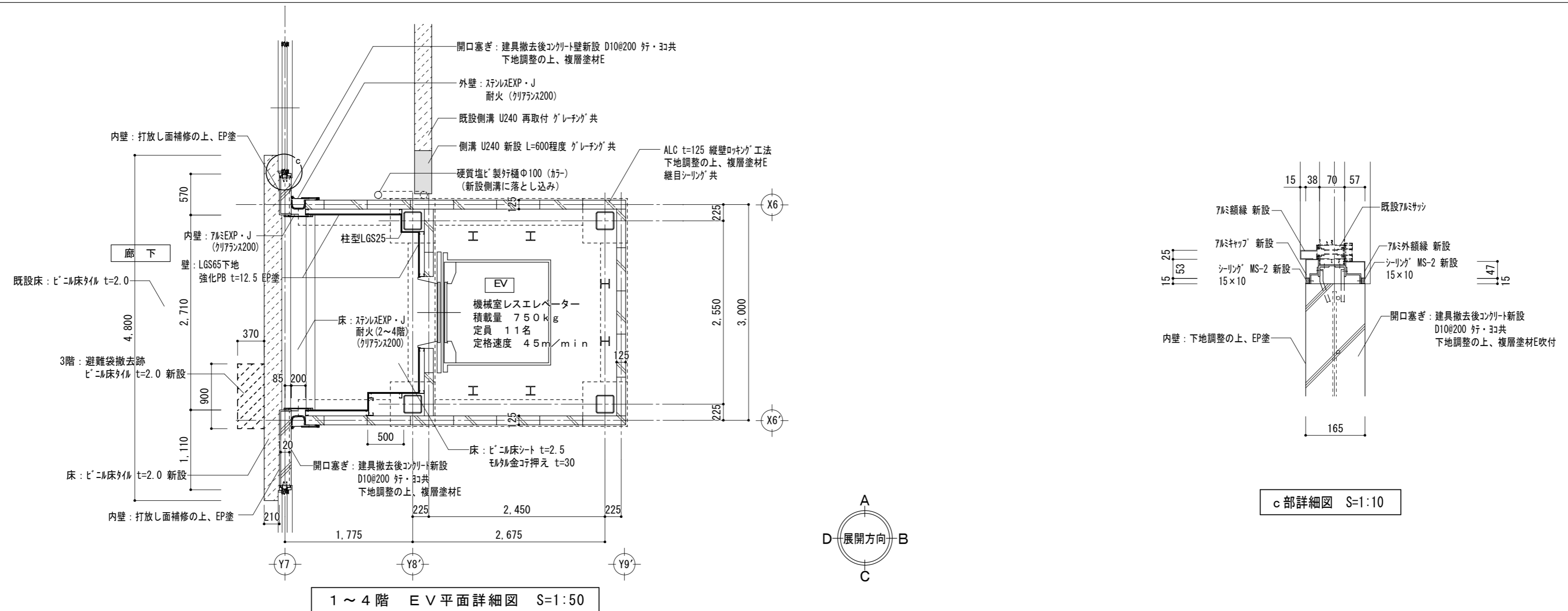
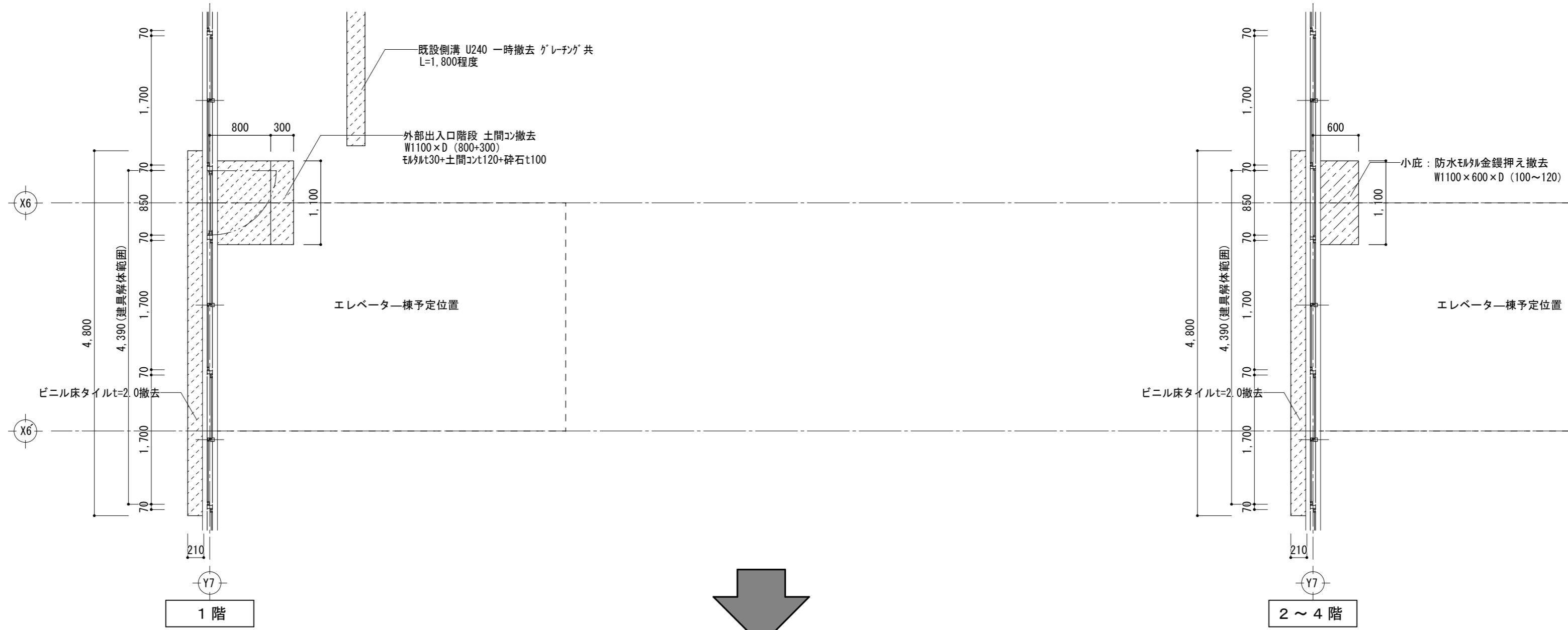
※仕上は各階共通とする。



a-a 断面図 S=1/50



b-b 断面図 S=1/50



memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:50, 1:10

drawing title
1~4階平面詳細図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

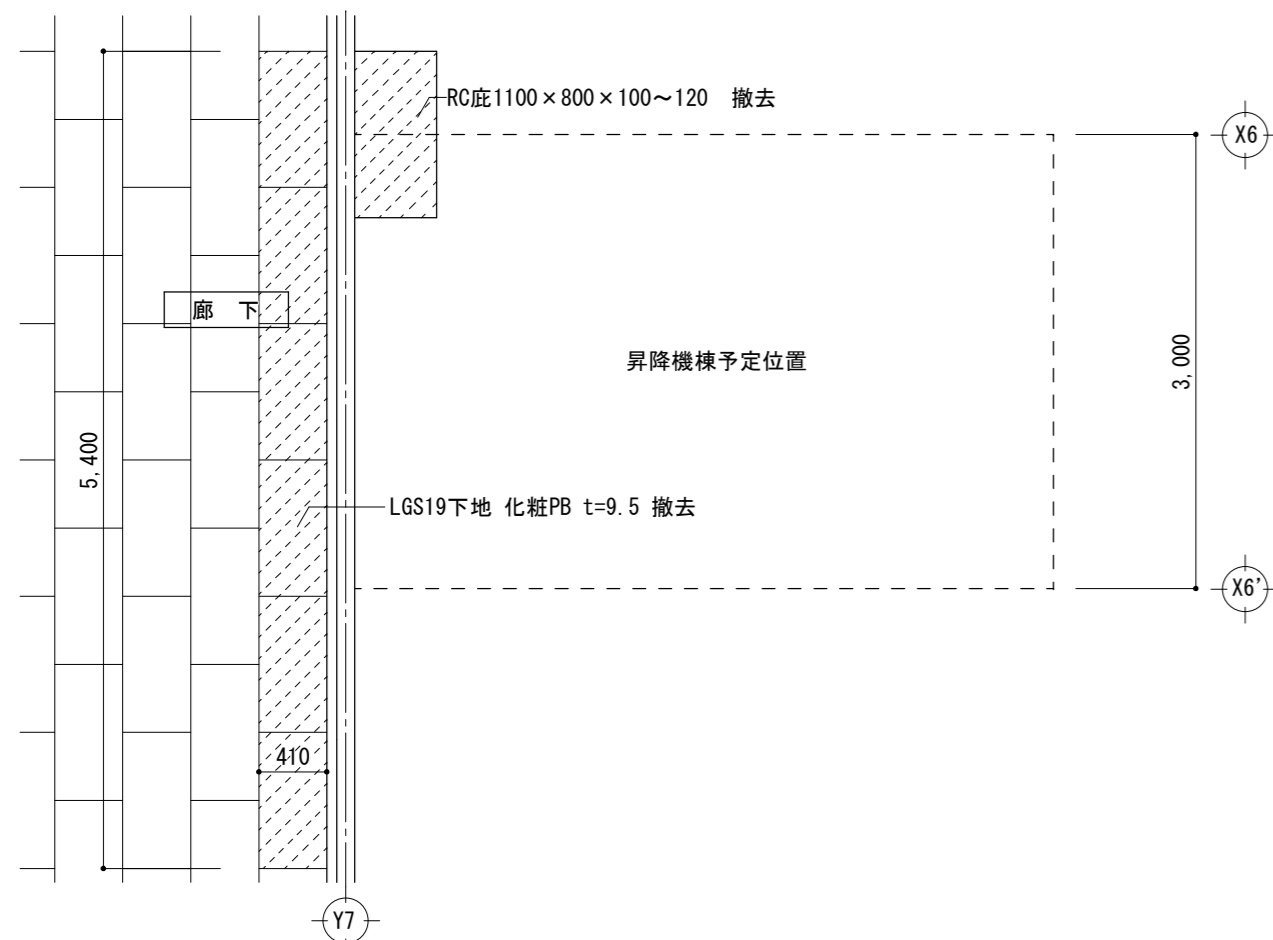
Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

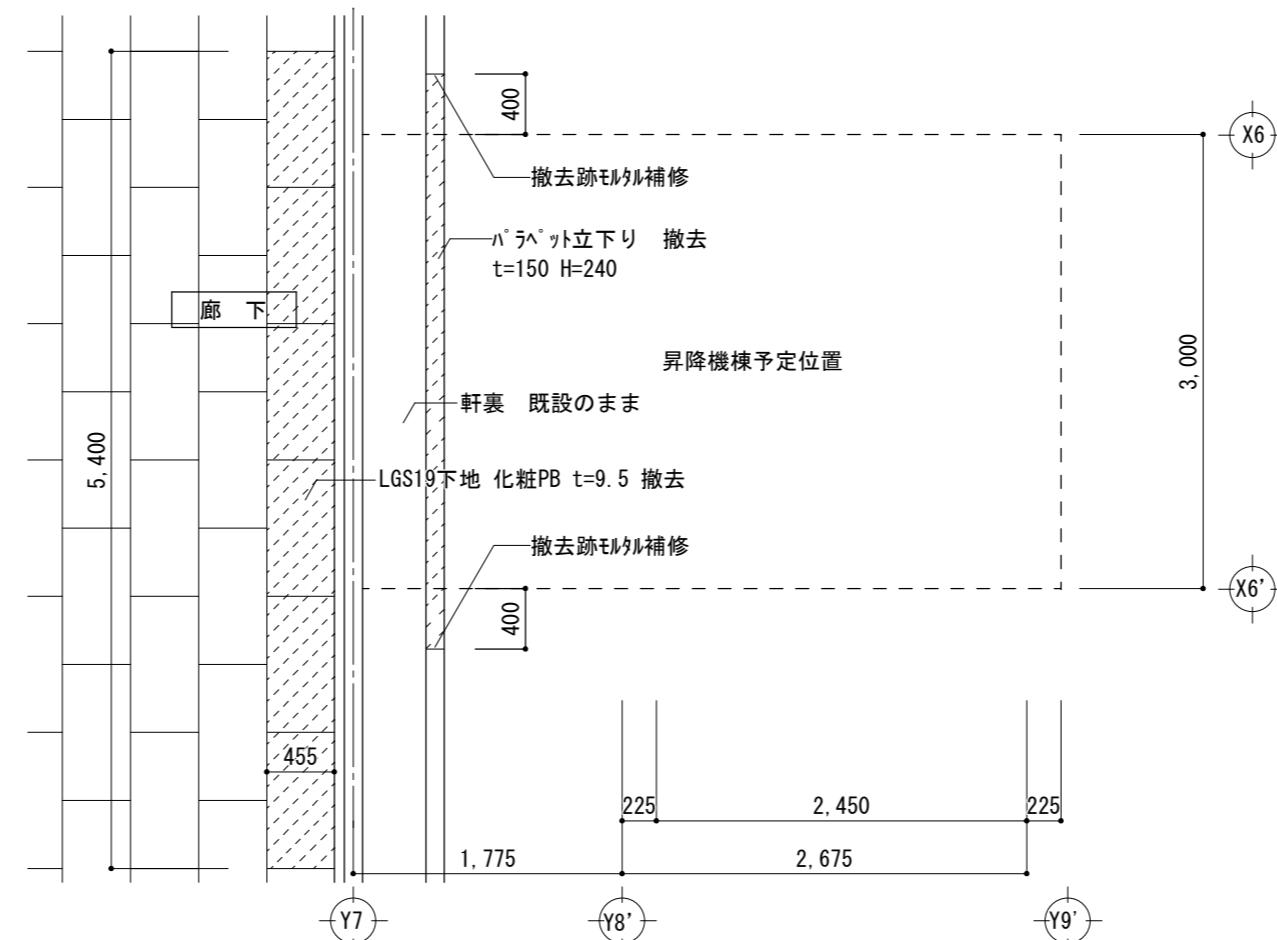
drawing no.

sheet no.
A-25
原図: A2

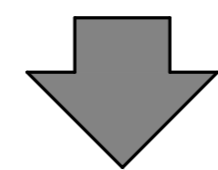
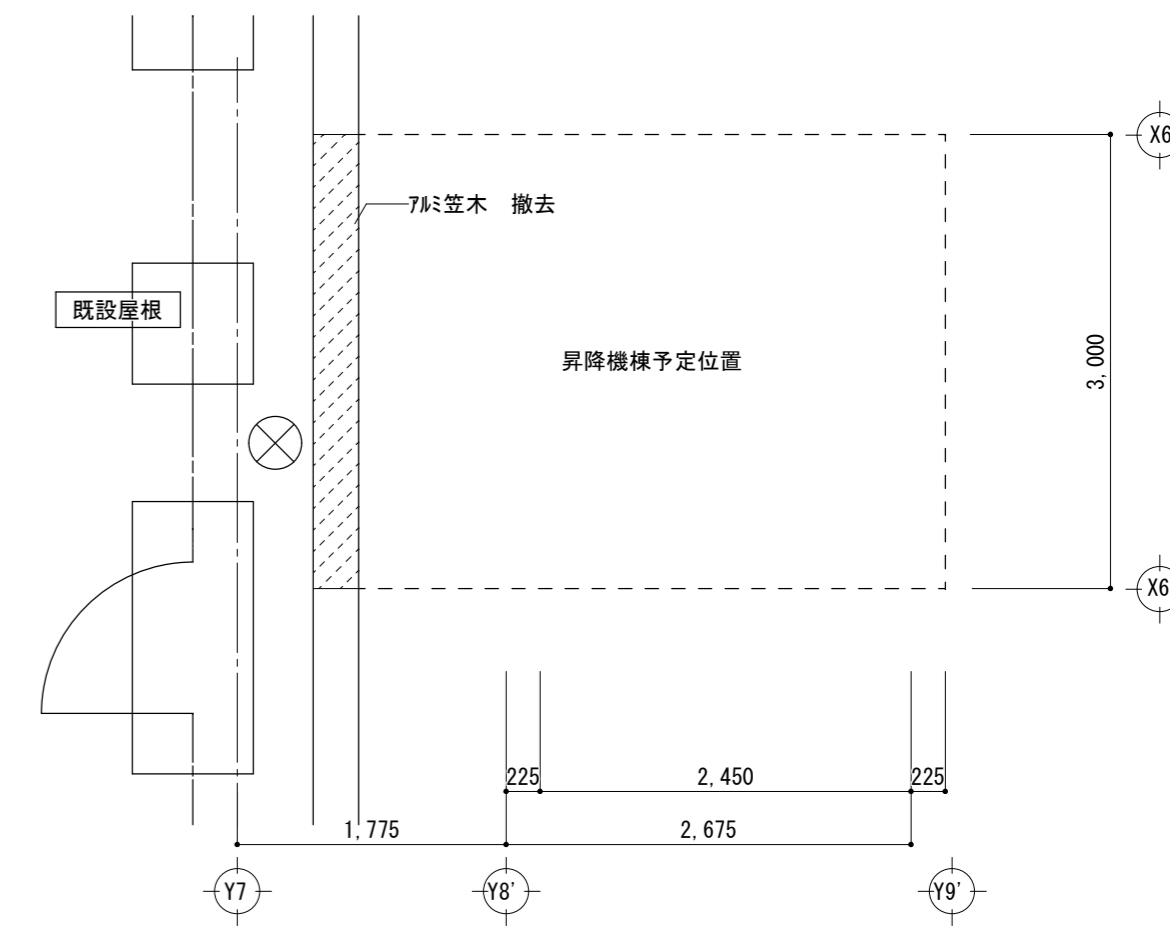
改修前 1～3階 天井伏図 1/50



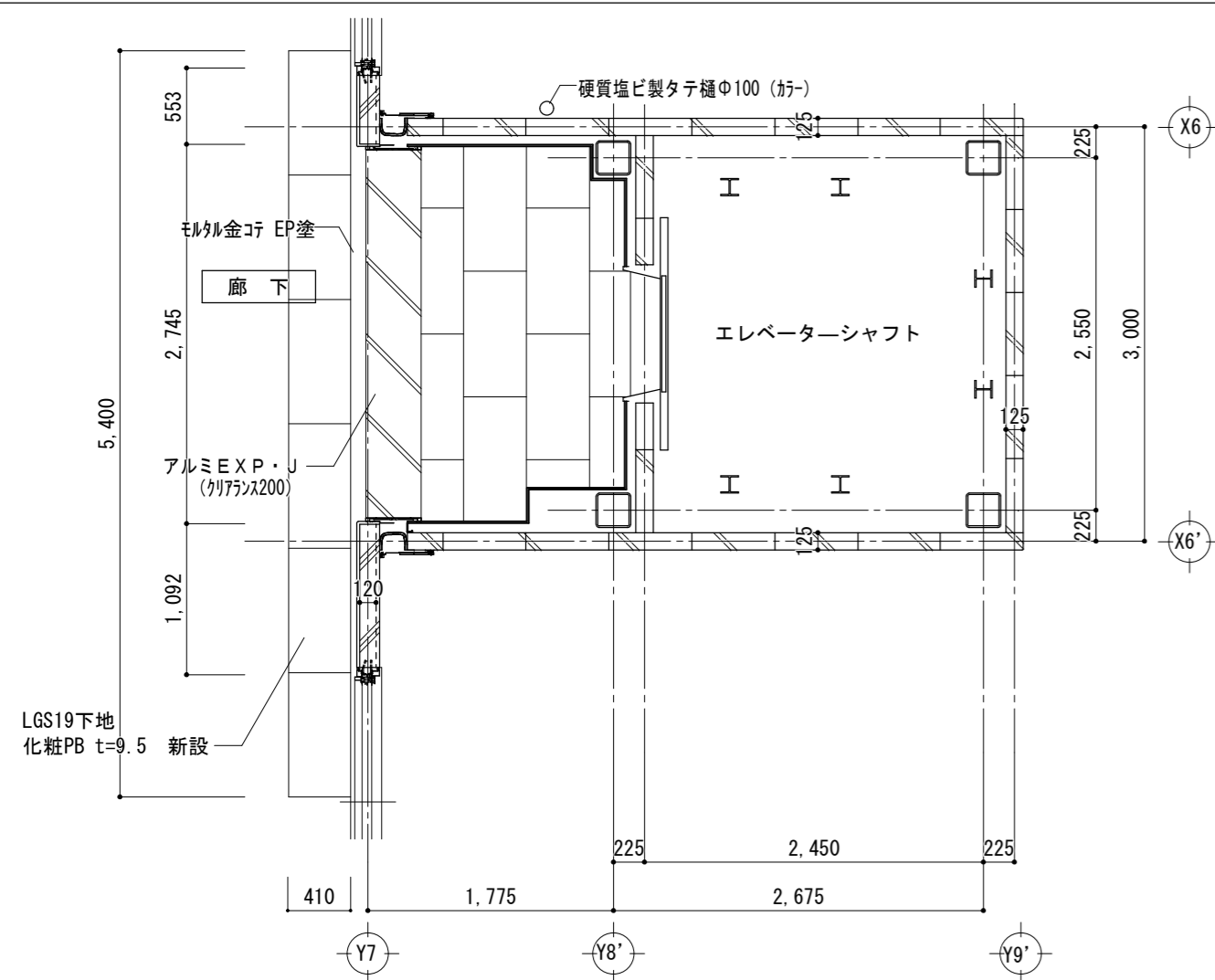
改修前 4階 天井伏図 1/50



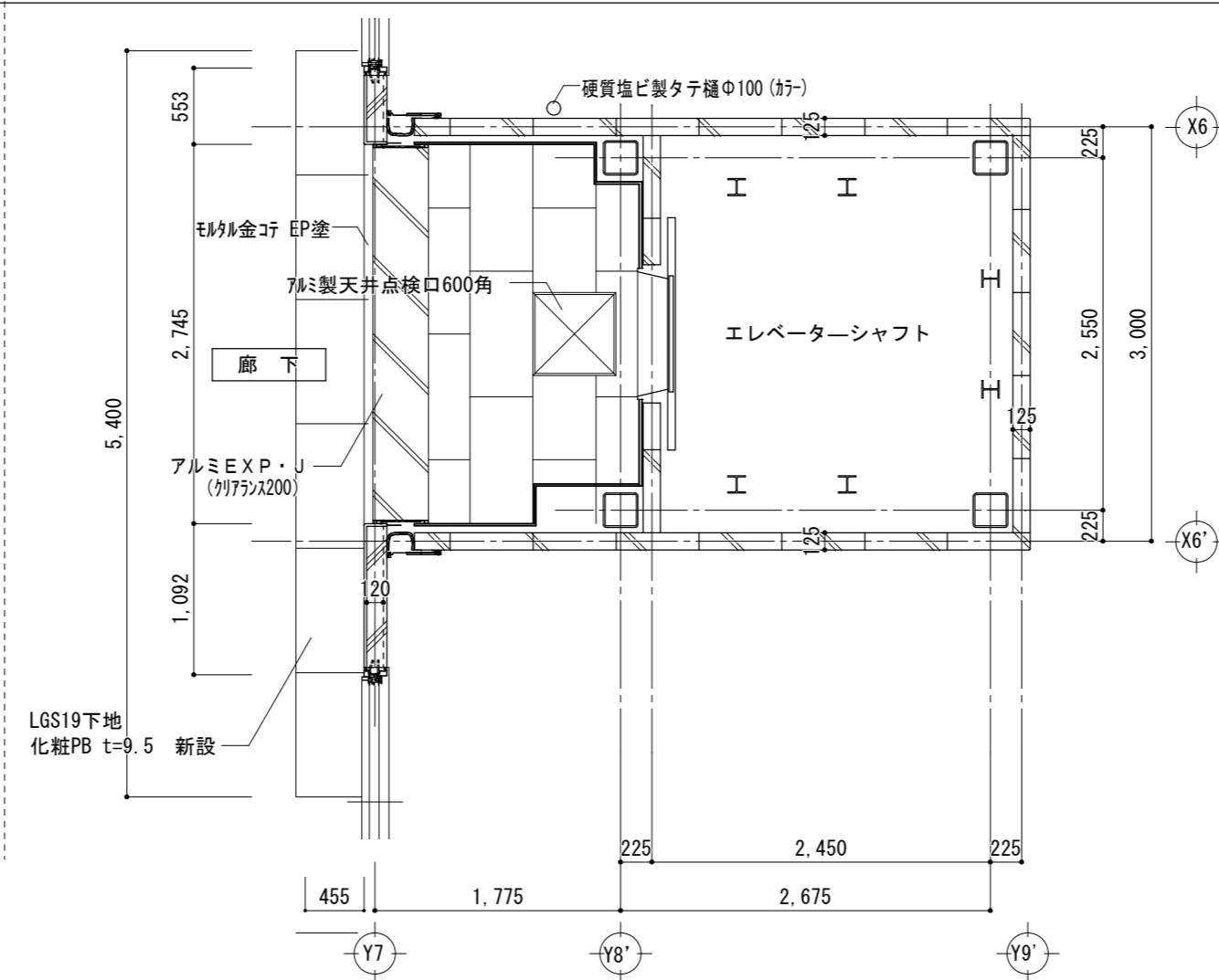
改修前屋根伏図 1/50



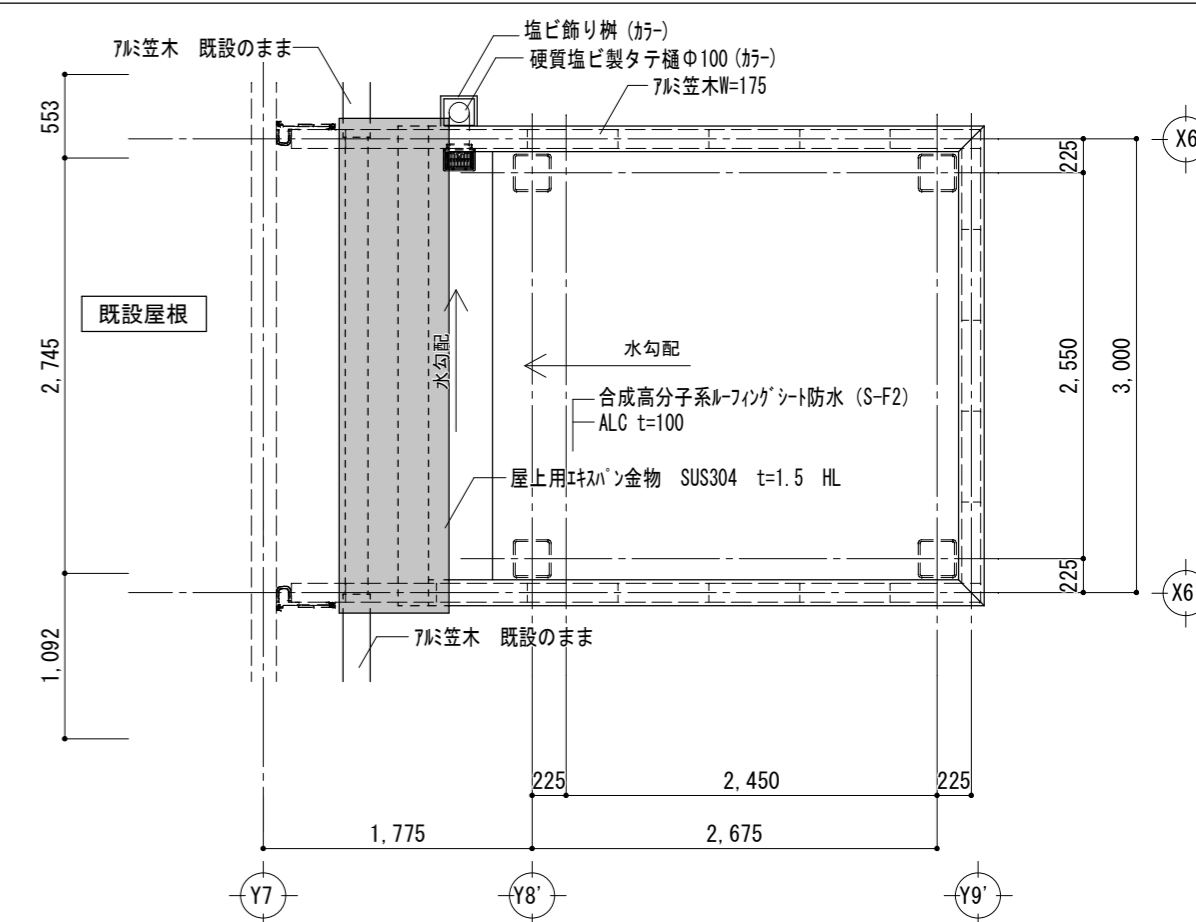
改修後 1～3階 天井伏図 1/50



改修後 4階 天井伏図 1/50



改修後屋根伏図 1/50



memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:50

drawing title
天井伏図、屋根伏図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

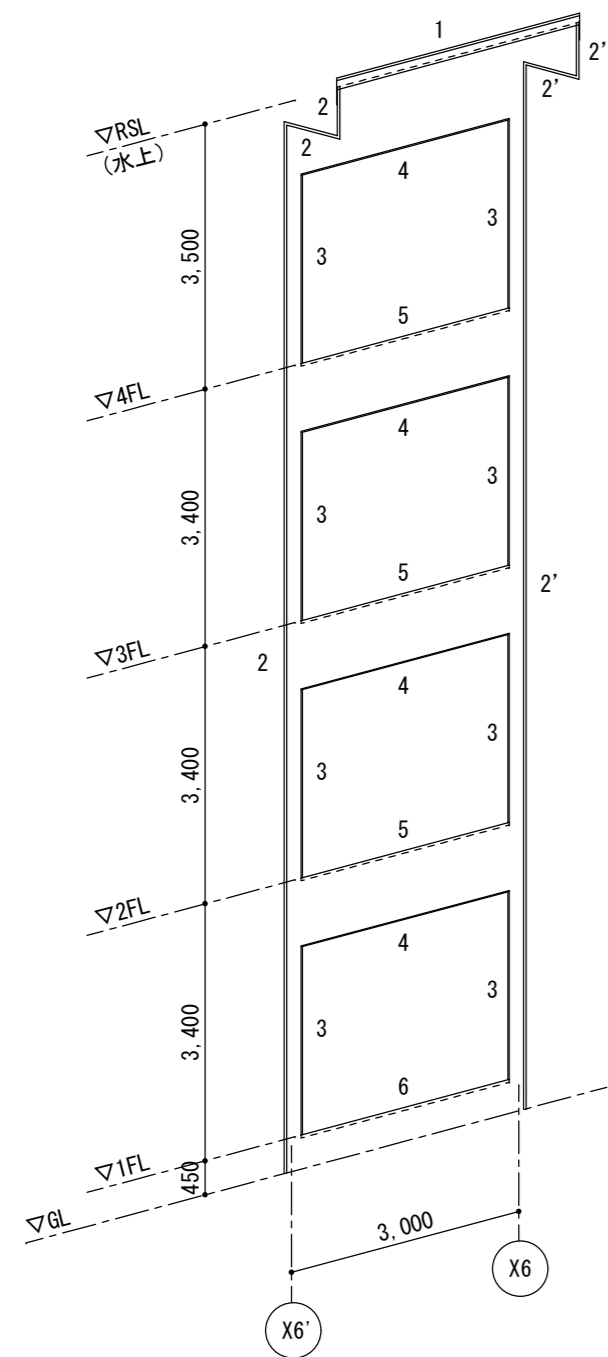
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

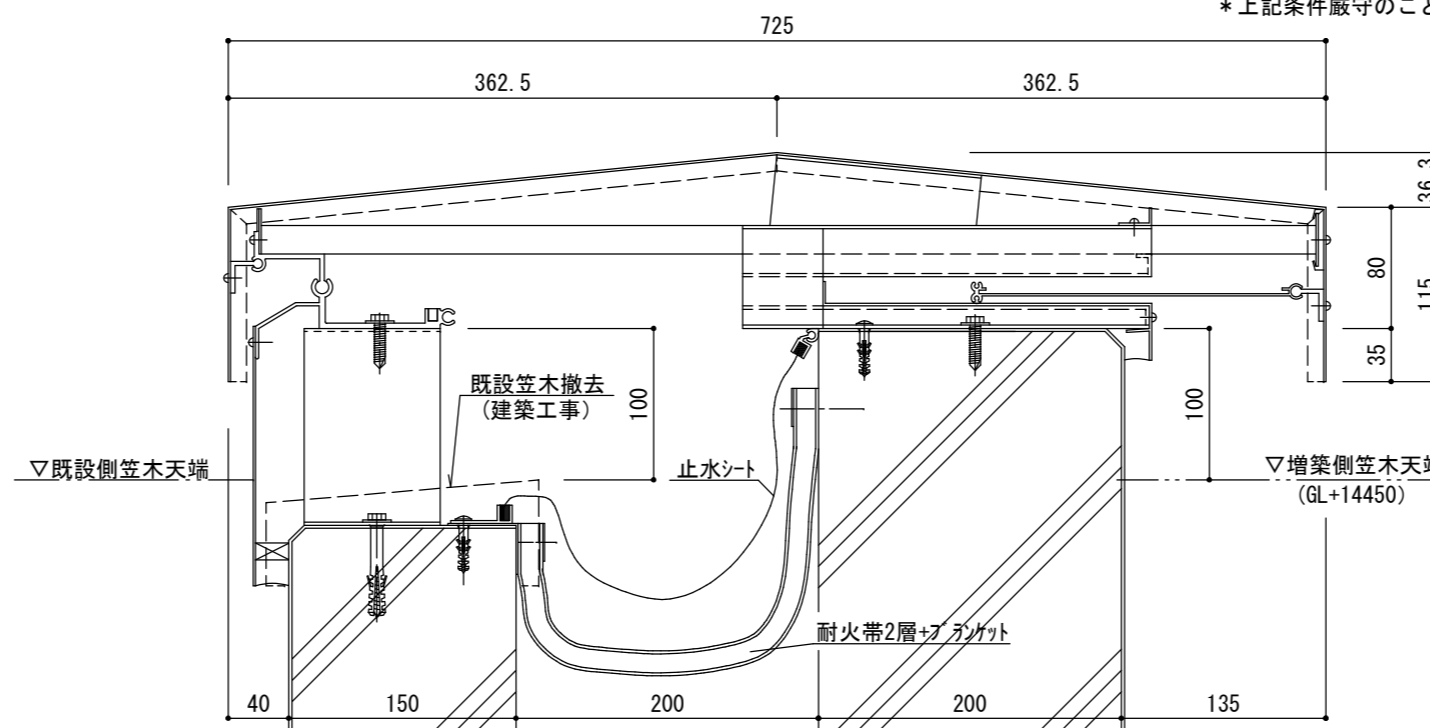
sheet no.

A-26
原図:A2

- ・EXP・Jシステムに於いては、ステンレス(天井、内壁はアルミ)製、三次元可動方式とする。
 - ・200mmクリアランス、±100mm可動仕様とする。
 - ・構造体の変位時に脱落・破壊が無い事を確認出来る仕様とする。
- *以上の点を留意し、各仕様毎の条件を厳守する事により、各性能を保持する事。
(バラキャップ社 200-100シリーズ同等以上の性能を有する事)

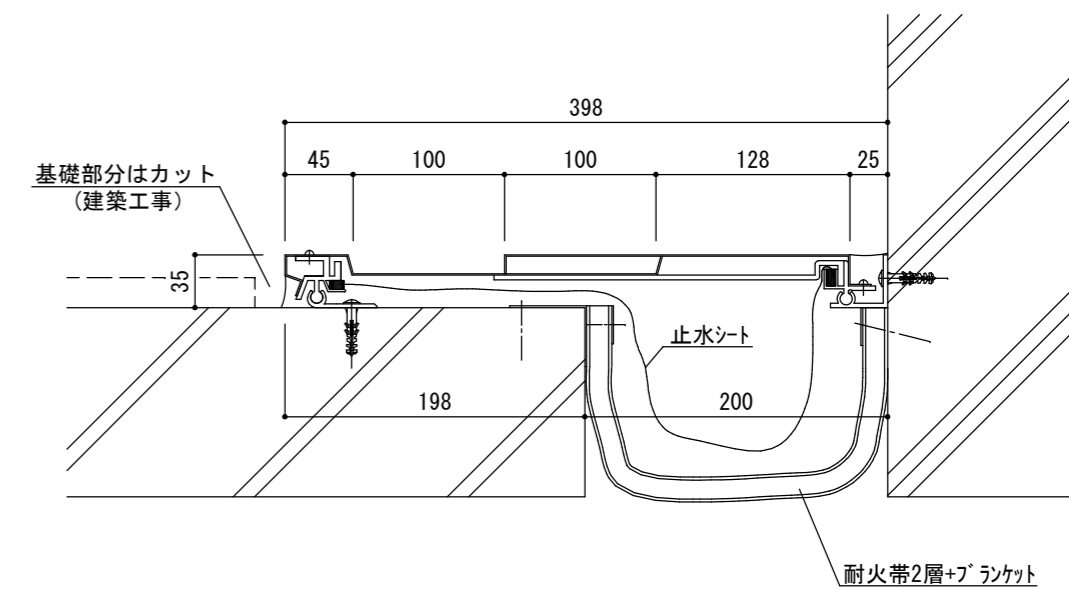


- ・止水シートは、Y方向可動用レール使用の事。(Y方向可動時にシートを破断させない事)
 - ・可動式回転軸仕様とする(Z方向可動対策)
 - ・ジョイントは本体曲げ箱目地ジョイント方式とし、ジョイント材仕様は不可とする。
 - ・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする。
 - ・端末小口は全面可動式小口蓋とし、一部分的可動は不可とする。(一部分的可動ではXYZ三次元運動に対応出来ない為)
 - ・カバー・下地材にて外部と内部を遮断し、下地材及びゴムを取付ける為に隙間が生ずる事のないようにする。(気密性を高める)
 - ・下地材は、立骨方式とする。
- *上記条件厳守のこと

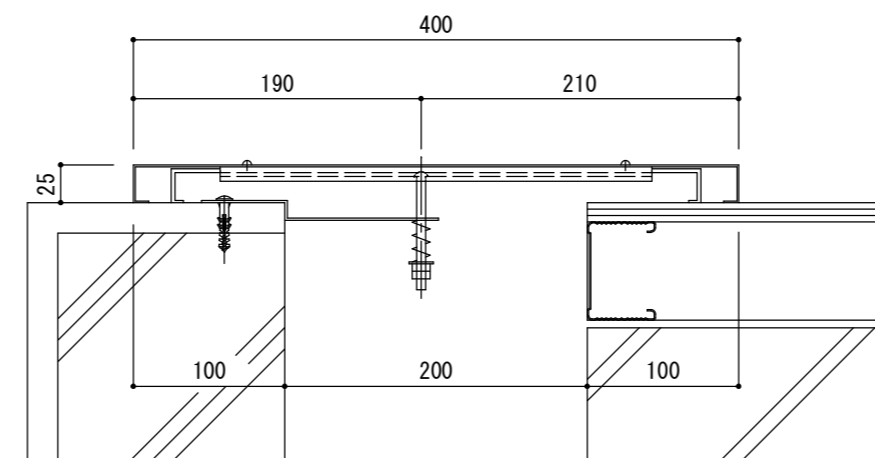


2' は、逆勝手とする

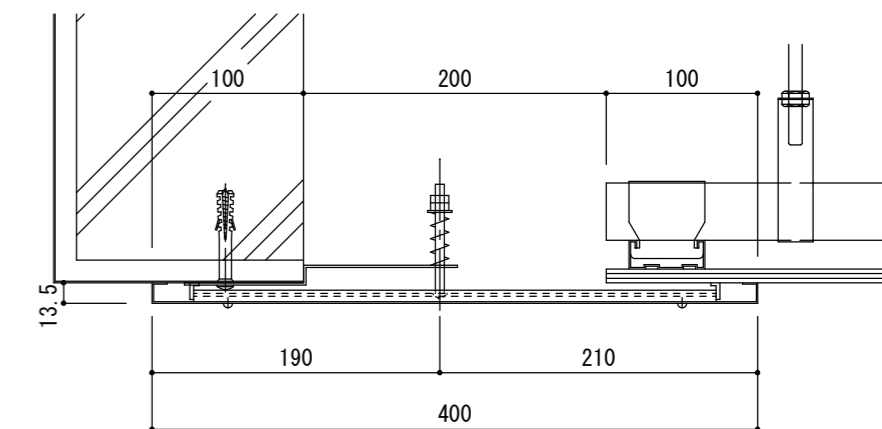
- ・ジョイントは本体同志の差込み方式(印籠方式)とし、ジョイント材使用は不可とする。
 - ・下地は、可動式回転軸仕様(Y方向可動対策)。
 - ・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする。
 - ・又、カバーは2枚パネル方式とし、1枚パネル方式は不可とする。
 - ・外部に於いては、変位時に僅かでも隙間を生じさせない事(よって、1枚パネル方式は不可)
- *上記条件厳守のこと



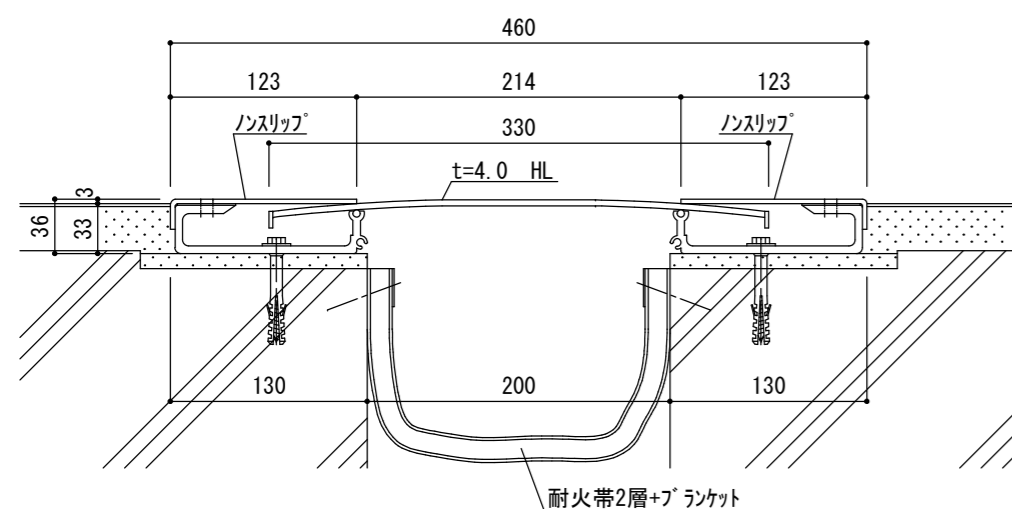
- ・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
 - ・非破壊端末アジャスト装置付きとする(Z方向への変位量確保)
 - ・単純な片側固定方式にはしない事(Y方向可動時に隙間が生ずる事のない事・カバーにたわみが発生しない事)
- *上記条件厳守のこと



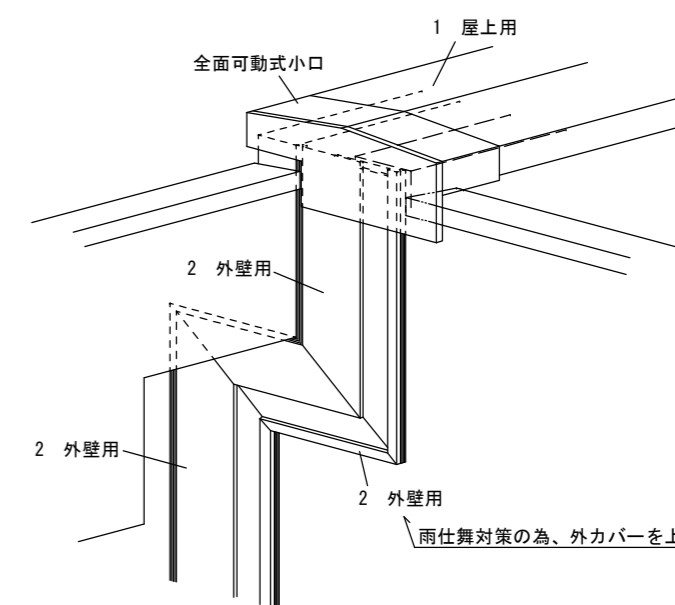
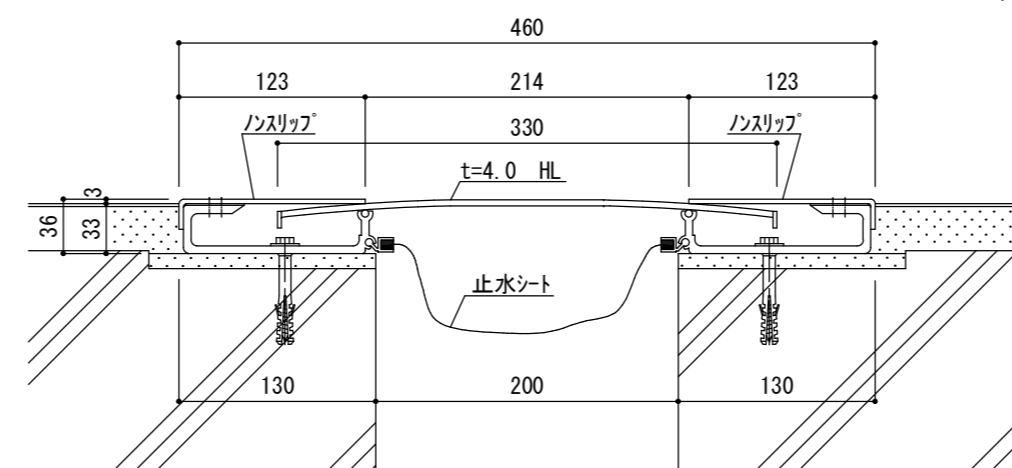
- ・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
 - ・非破壊端末アジャスト装置付きとする(Y方向への変位量確保)
 - ・単純な片側固定方式にはしない事(Z方向可動時に隙間が生ずる事のない事・カバーにたわみが発生しない事)
- *上記条件厳守のこと



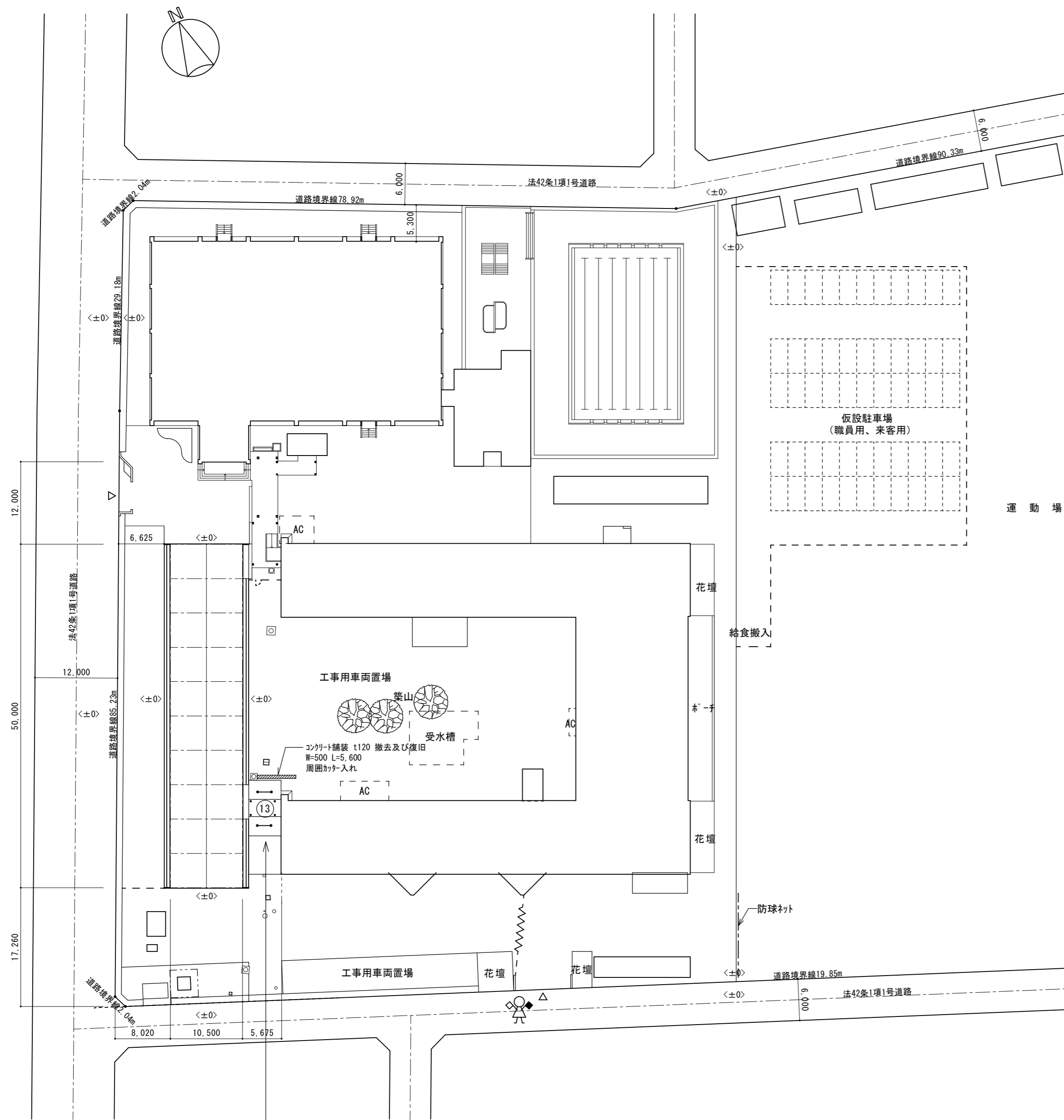
- ・非破壊端末アジャスト装置付きとする
 - ・スライドカバーの接点はステンレスとし、アルミ及びゴム系は不可とする(荷重はステンレス製シャフトにて受ける事とする)
- *上記条件厳守のこと



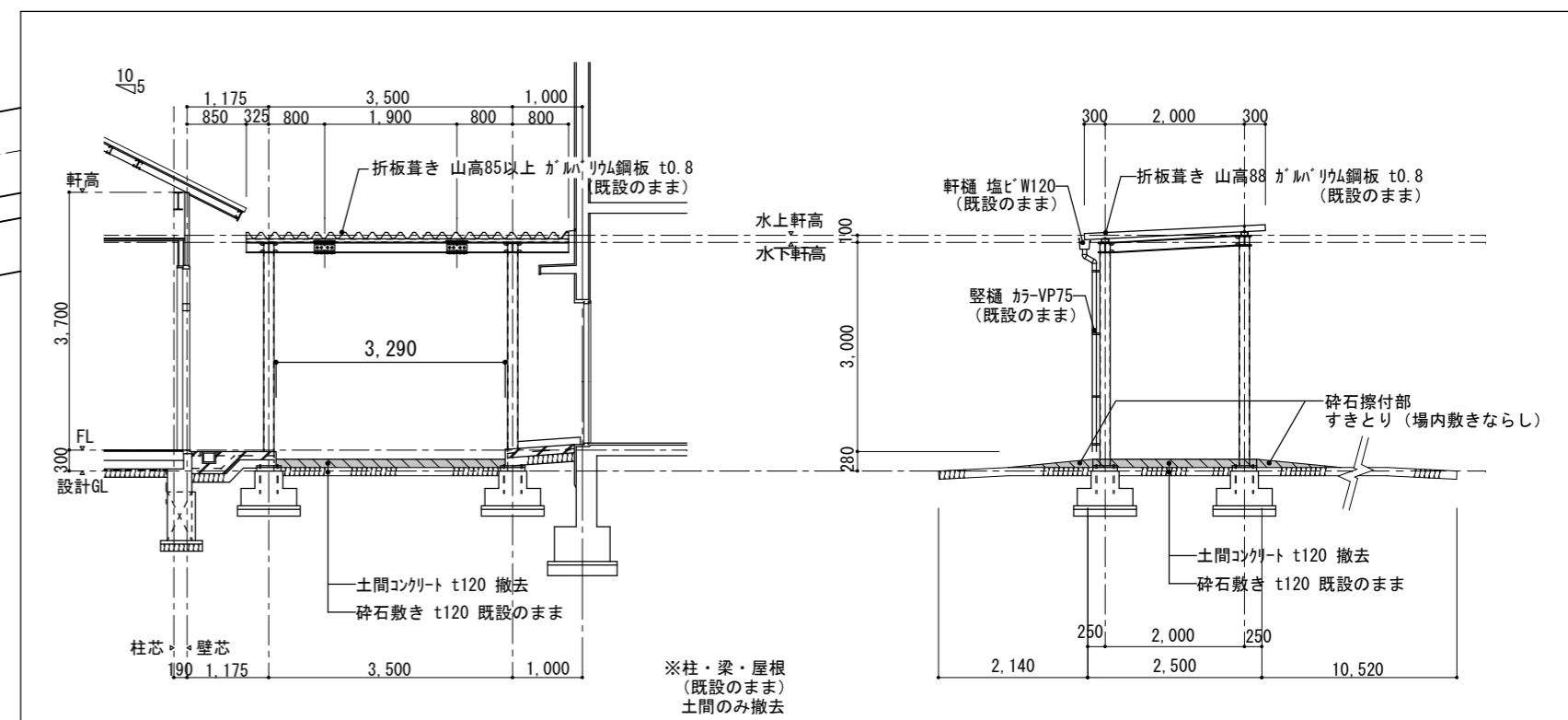
- ・非破壊端末アジャスト装置付きとする
 - ・スライドカバーの接点はステンレスとし、アルミ及びゴム系は不可とする(荷重はステンレス製シャフトにて受ける事とする)
 - ・止水シートは、Y方向可動用レール使用の事(Y方向可動時にゴムを破断させない事)
- *上記条件厳守のこと



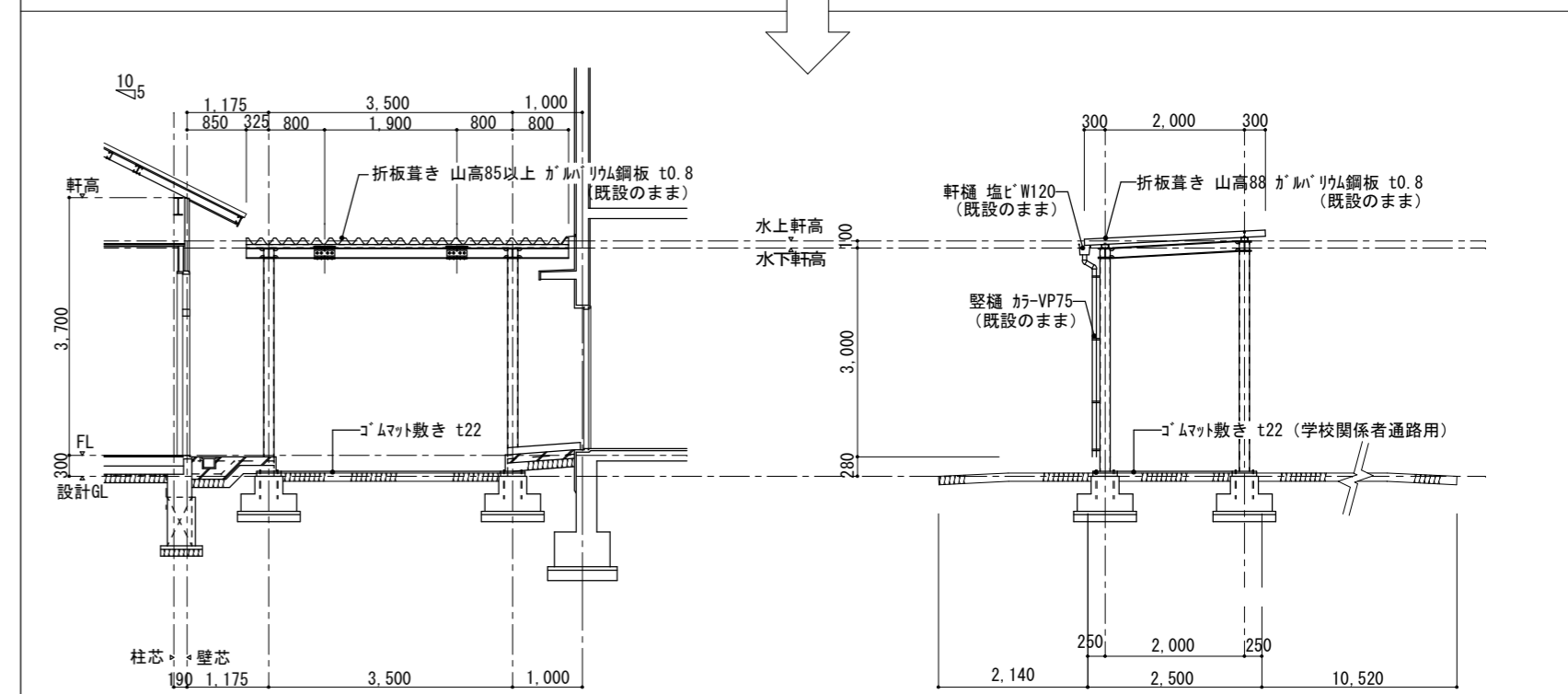
< 参考図 >



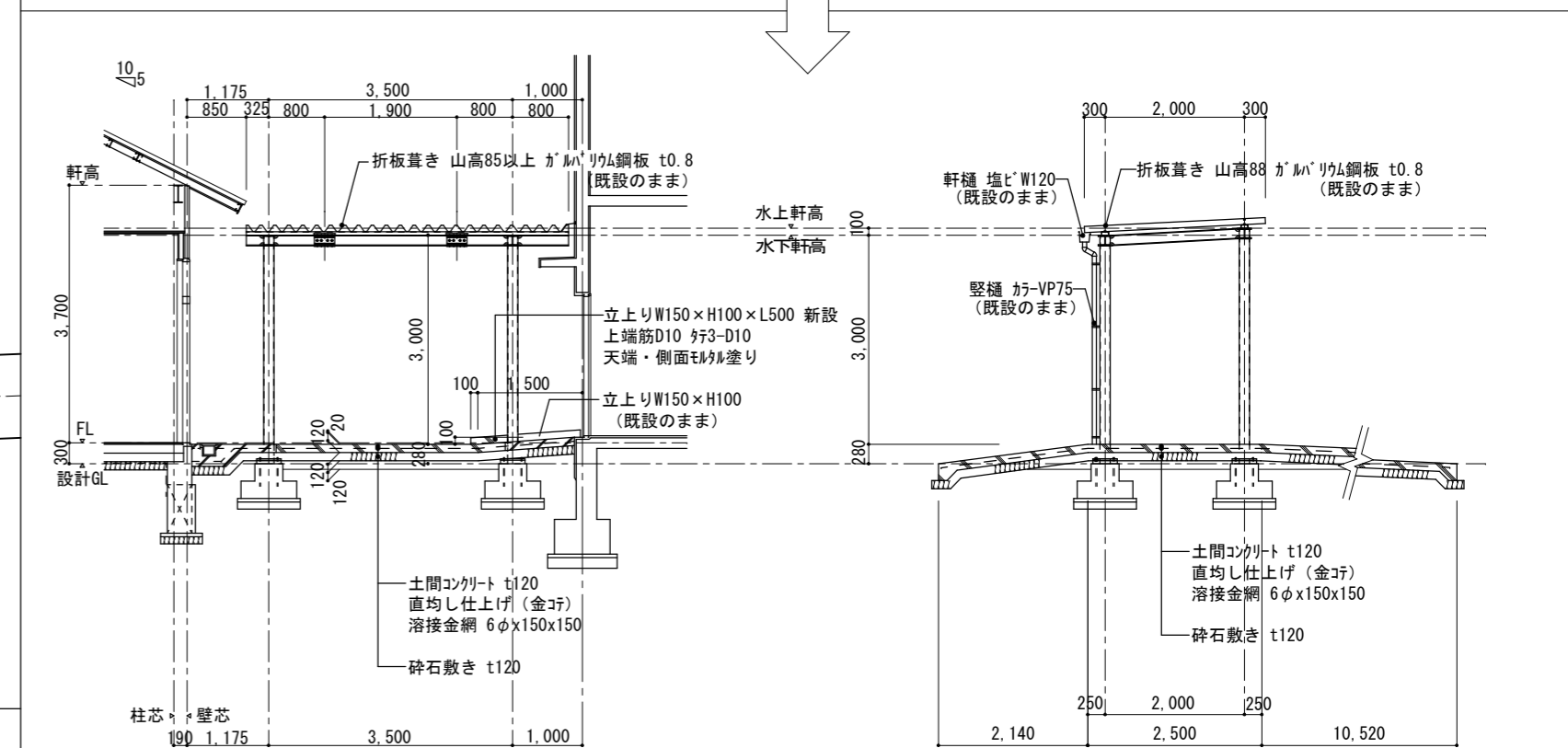
外構図 S=1:500



撤去



施工中



復旧

⑬ 渡り廊下 工事車両通行用

外構詳細図 S=1:100

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:500, 1:100

drawing title
外構図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

A-28
原図:A2

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1-1
基本事項

§ 1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2
その他

§ 2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	○	×	◇	○	◎	⊗	⊙	⊕	⊖	⊗	
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

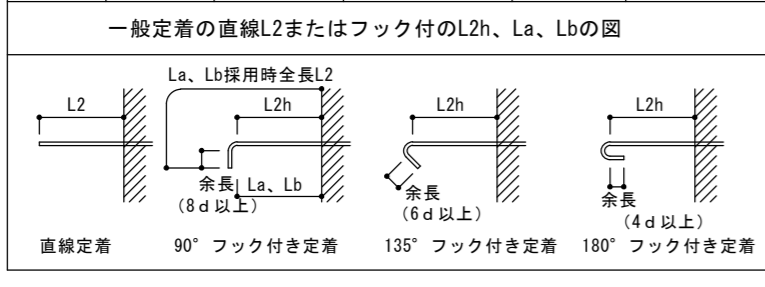
- ・フックのない場合
- ・フックのある場合
- ・本数に差がある場合
- ・機械式継手表示
- ・溶接継手表示 (ガス圧接、突合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋及びその他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋	SD295 SD345	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上
135°		あばら筋 スラブ筋 壁筋	SD390 SD490	D41以下 D25以下 D219~D41	5d以上 5d以上 6d以上
90°					

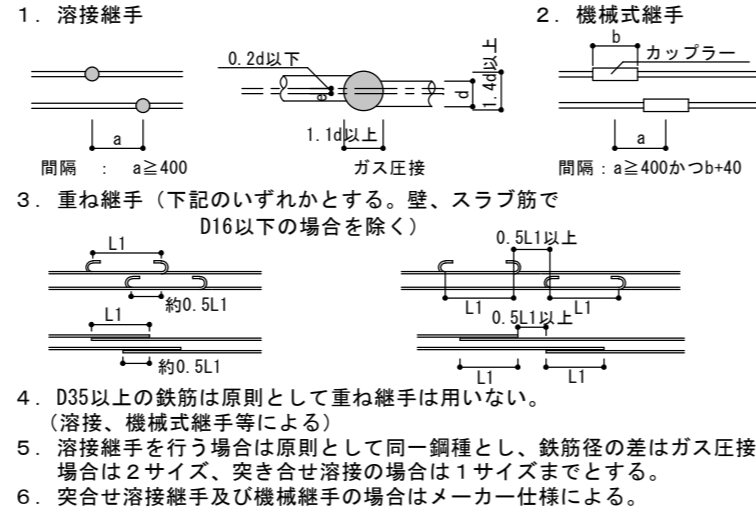
2-2
鉄筋の折り曲げ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ			
		上段直線 L1	下段フック付 L1h	一般	小梁・床スラブ	上端筋	下端筋
SD295 (SD345) ○はSD345を示す	18	45d (50d)	40d	上段直線 L2	上端筋	下端筋	L3=20d L3h=10d
		35d	30d	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	
	21	40d (45d)	35d	上段直線 L2	上端筋	下端筋	
		30d	25d	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	
	24~27	35d (40d)	30d (35d)	上段直線 L2	上端筋	下端筋	
		25d (30d)	20d (25d)	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	
SD390 (SD490) (-)は適用外	24~27	45d (55d)	40d (45d)	上段直線 L2	上端筋	下端筋	SD490は適用外
		35d (45d)	30d (35d)	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	
	30~36	40d (50d)	35d (40d)	上段直線 L2	上端筋	下端筋	
		30d (35d)	25d (30d)	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	
39~45	40d (45d)	35d (40d)	上段直線 L2	上端筋	下端筋	床スラブの場合 L3=10d かつ 150以上	
	30d (35d)	25d (30d)	下段フック付 L2h, La	上端筋	下端筋		

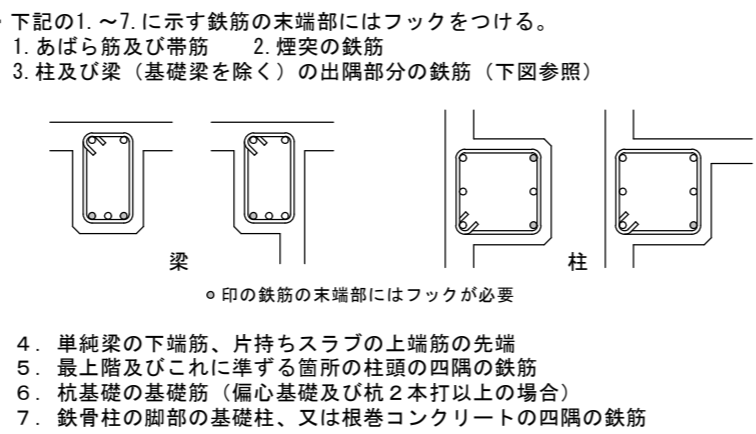


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、またフック付のL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

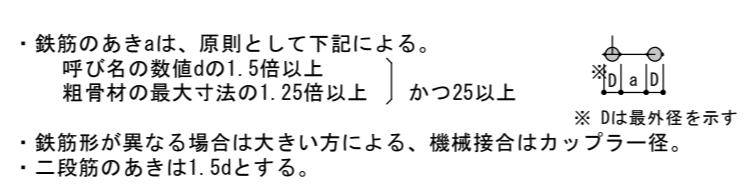
2-4
継手一般



2-5
鉄筋のフック



2-6
鉄筋のあき

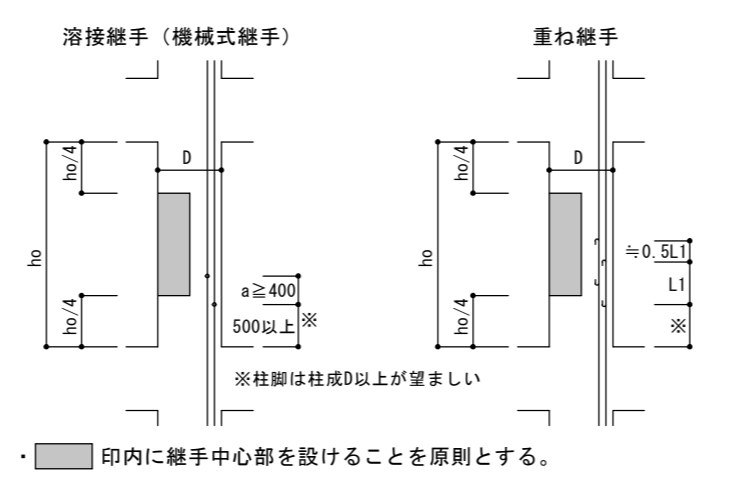


2-7
かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ (mm)	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30 (20)
	床スラブ	30 (20)
	非耐力壁	40 (30)
	柱	40 (30)
土に接する部分	耐力壁	50 (40)
	基礎・擁壁	70 (60)

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 「仕上げあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上のある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10%減の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10mm加算する。
5. 柱、梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

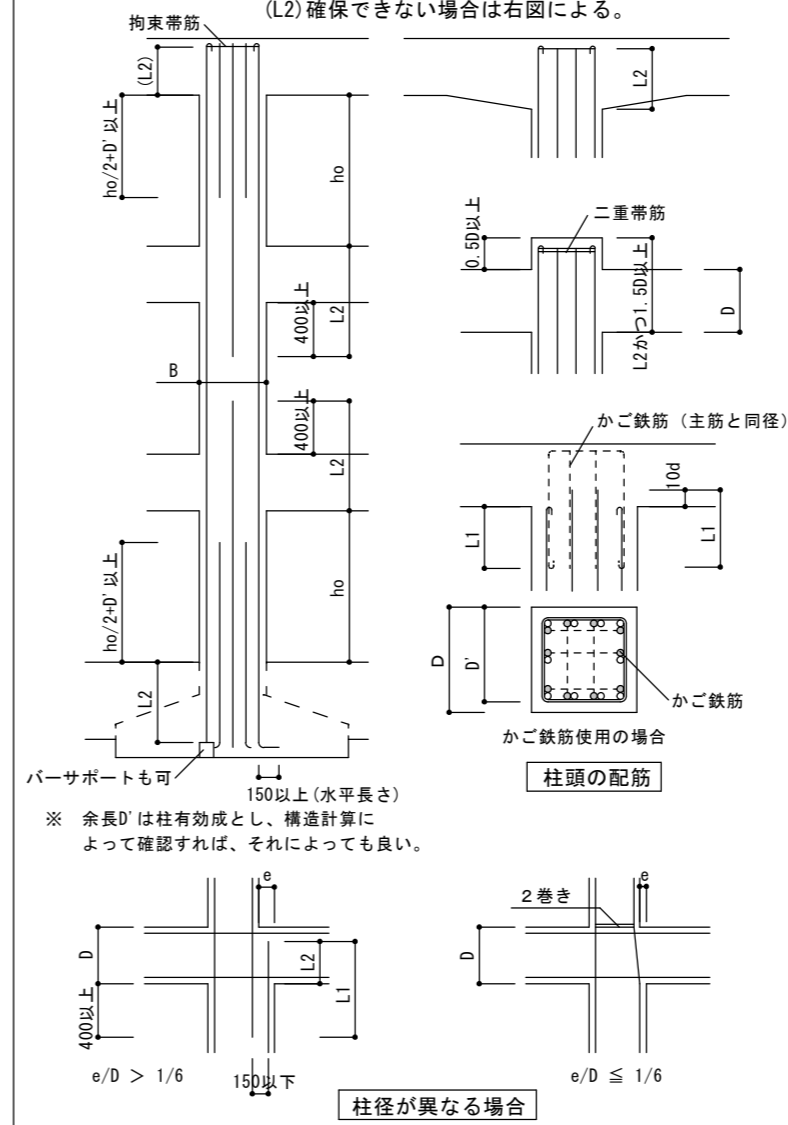
§ 3 柱



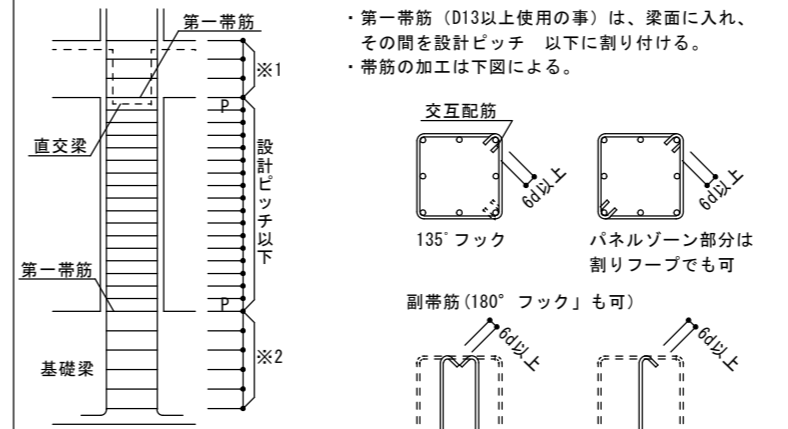
3-1
鉄筋の継手

- ・印内に継手中心部を設けることを原則とする。

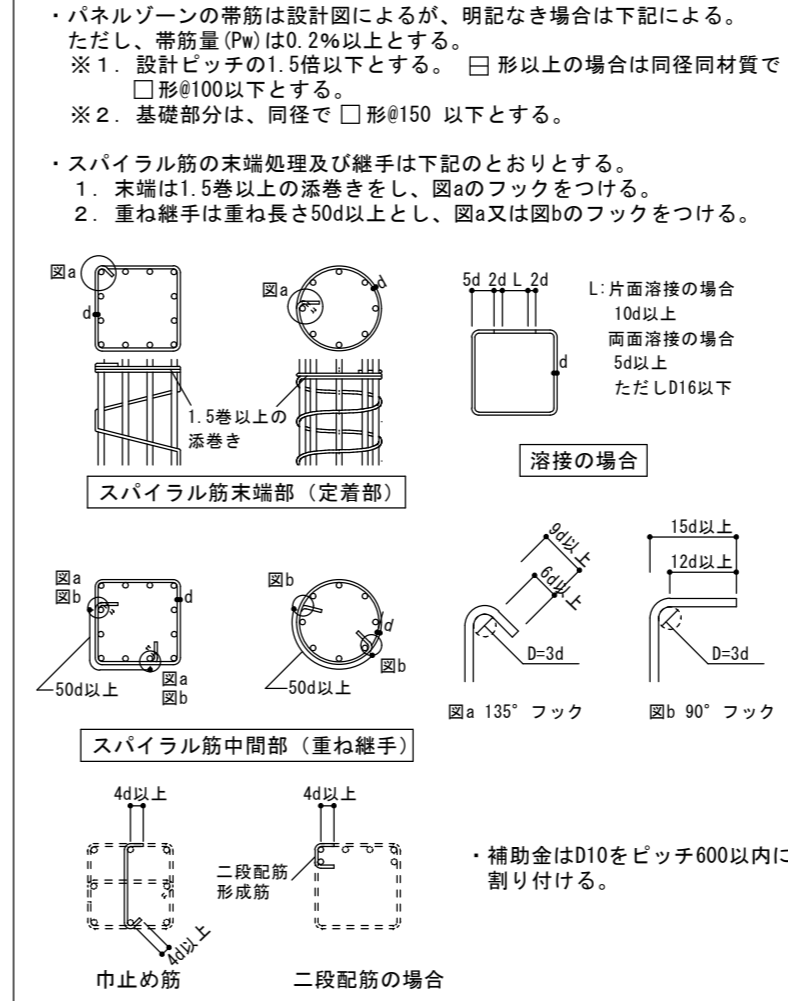
3-2
主筋の定着



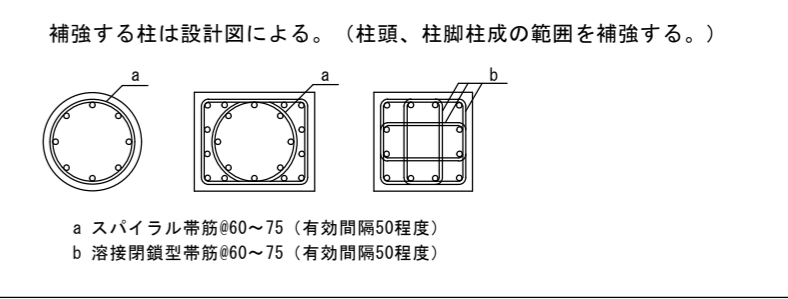
3-3
帯筋



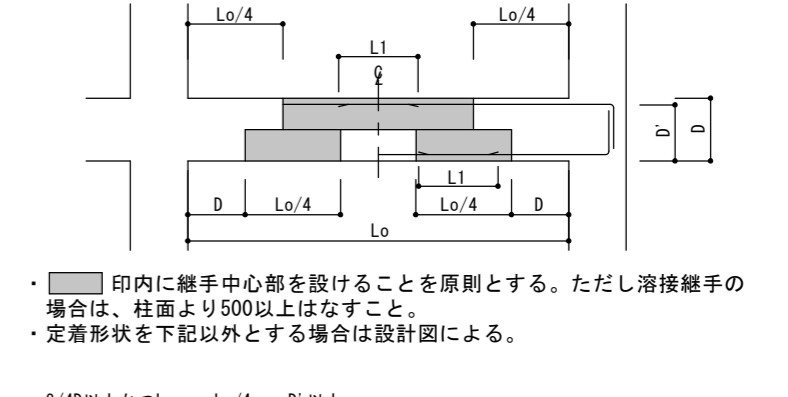
3-4
補助筋



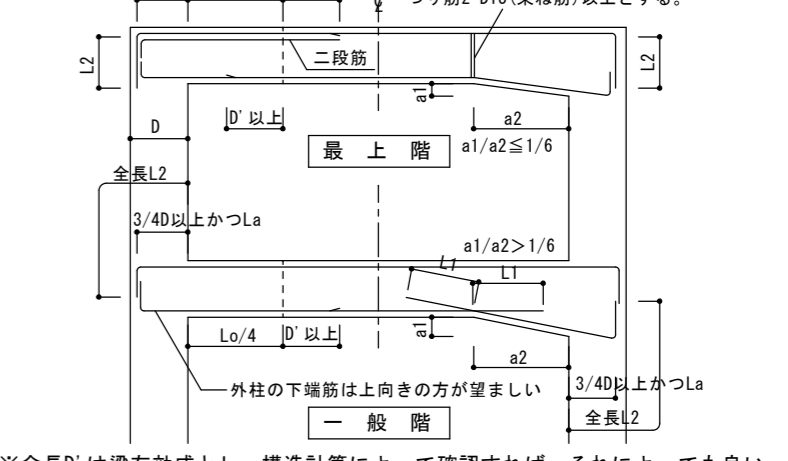
3-5
柱のコンパインド補強



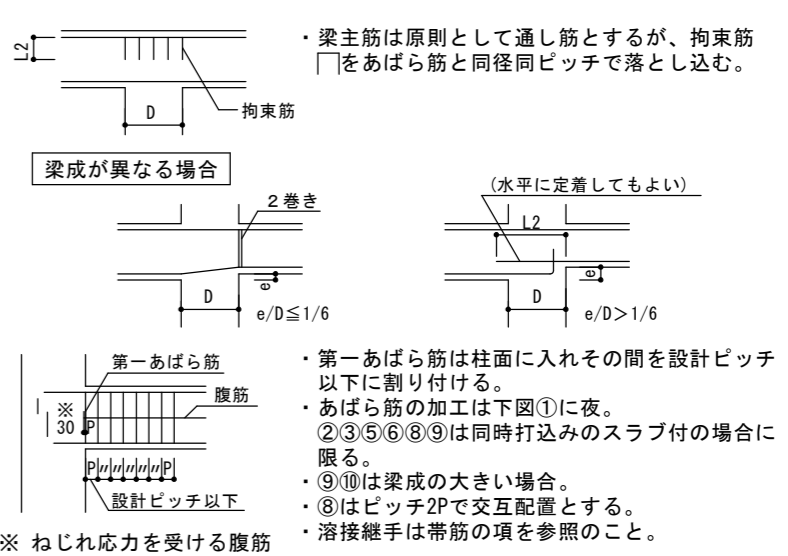
4-1
主筋の継手



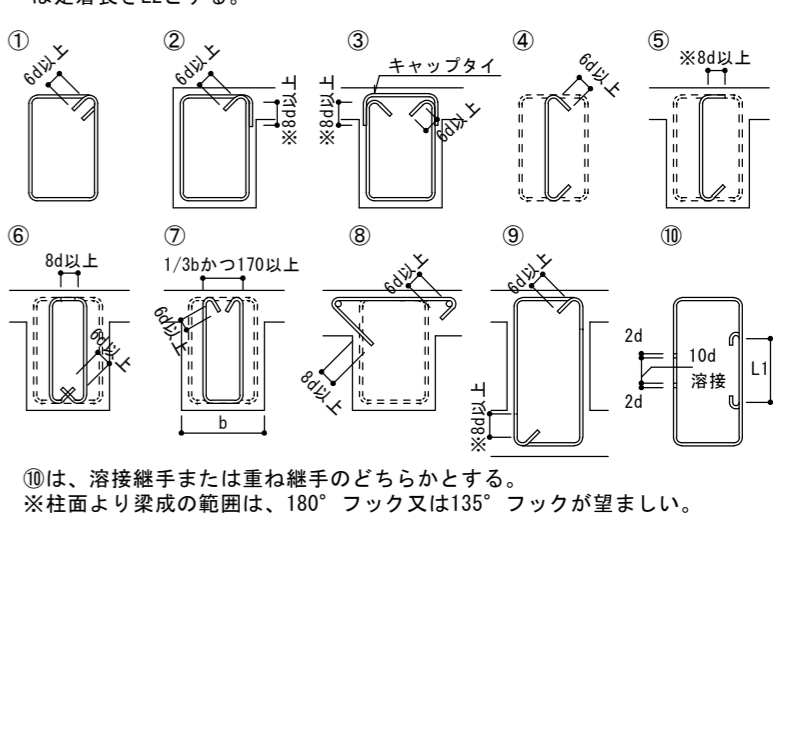
4-2
主筋の定着及び余長



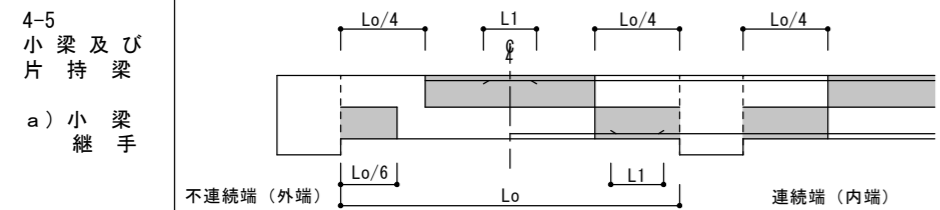
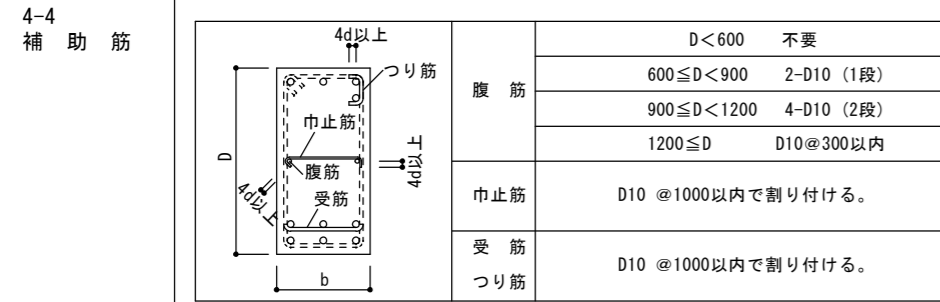
4-3
あばら筋



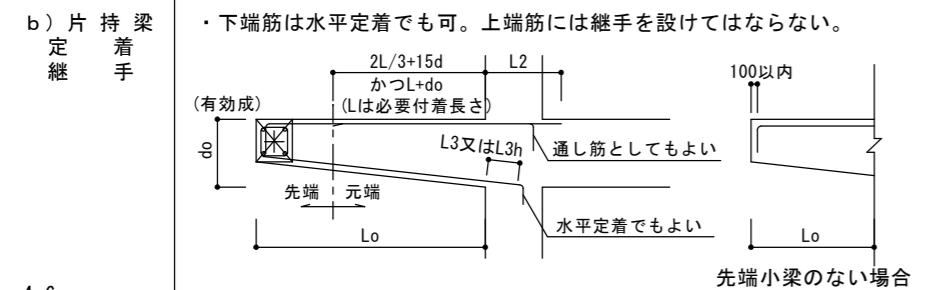
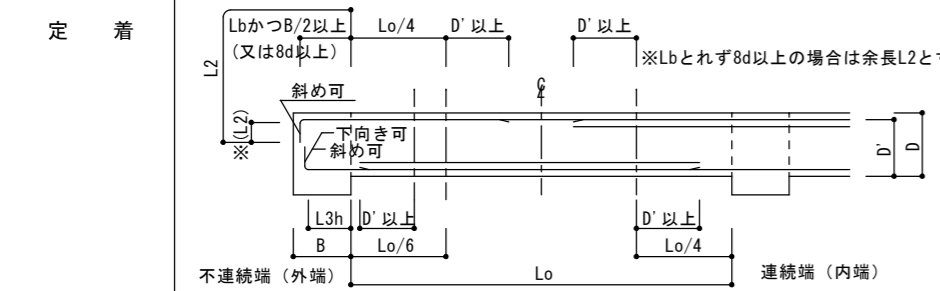
4-4
副あばら筋



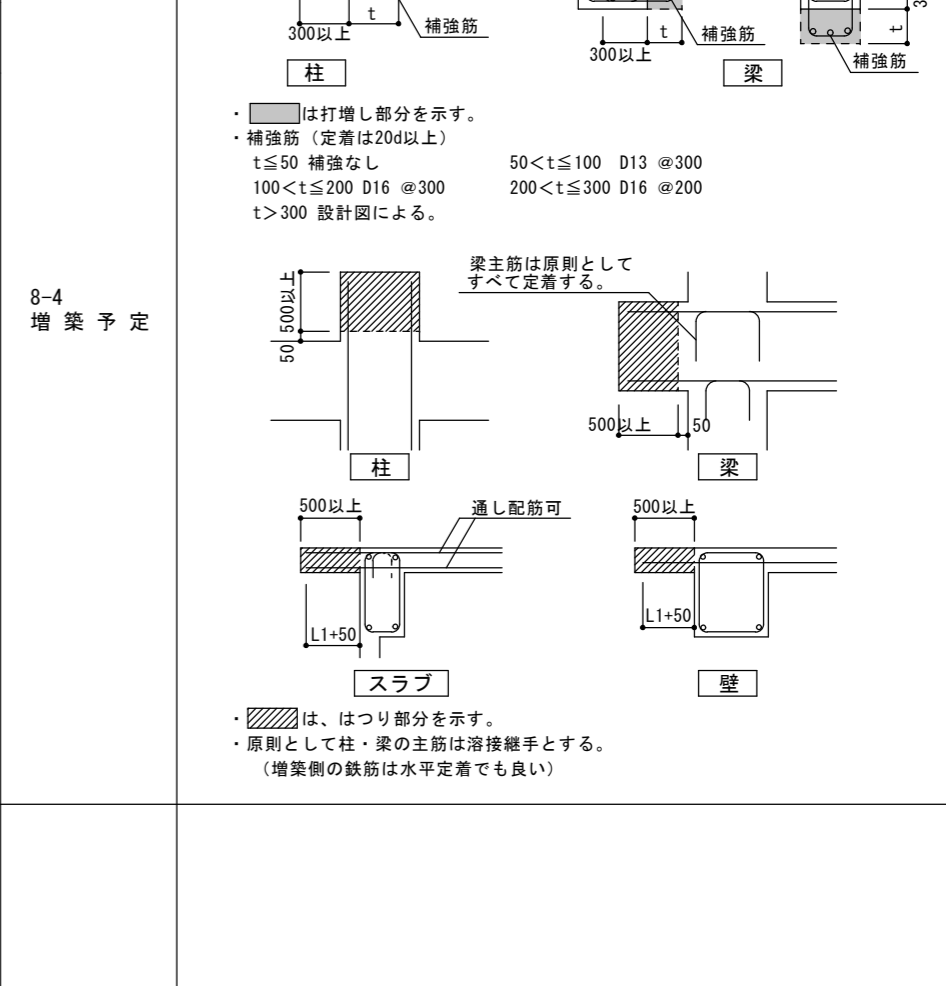
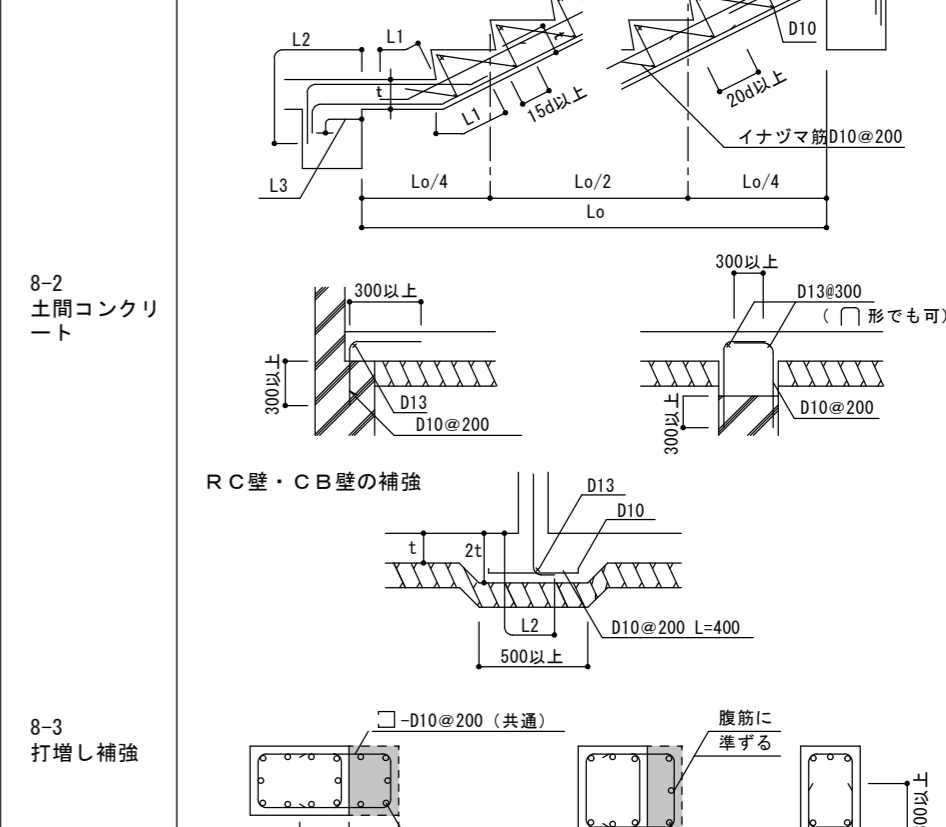
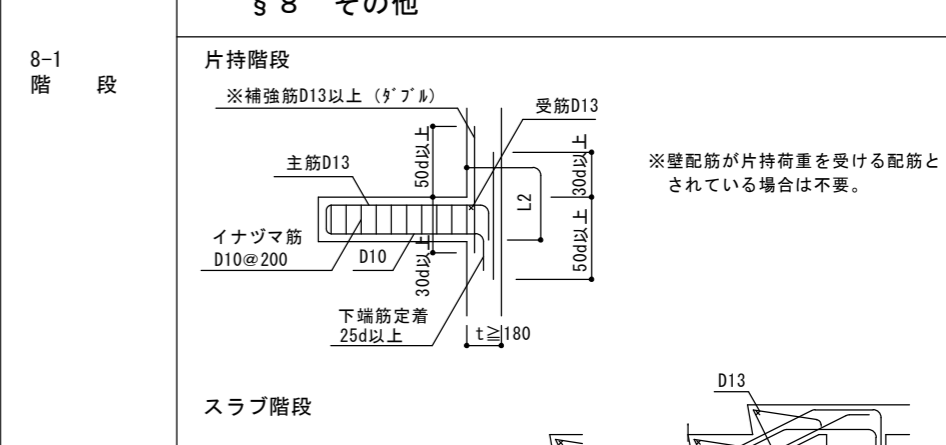
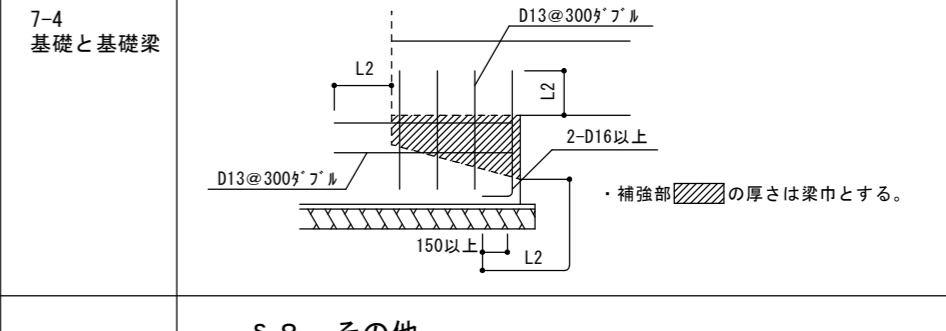
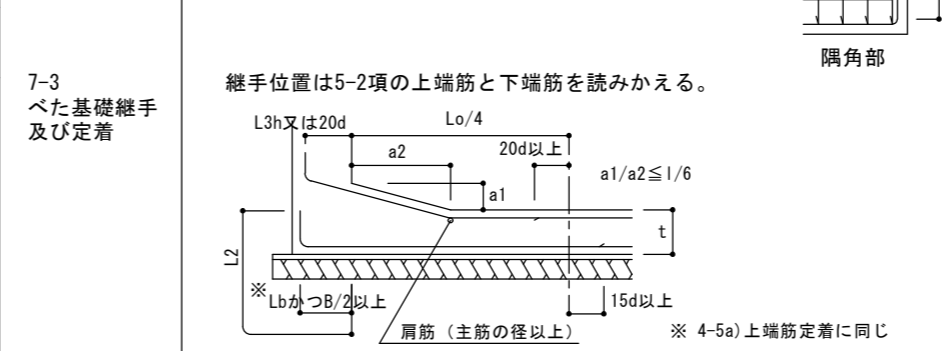
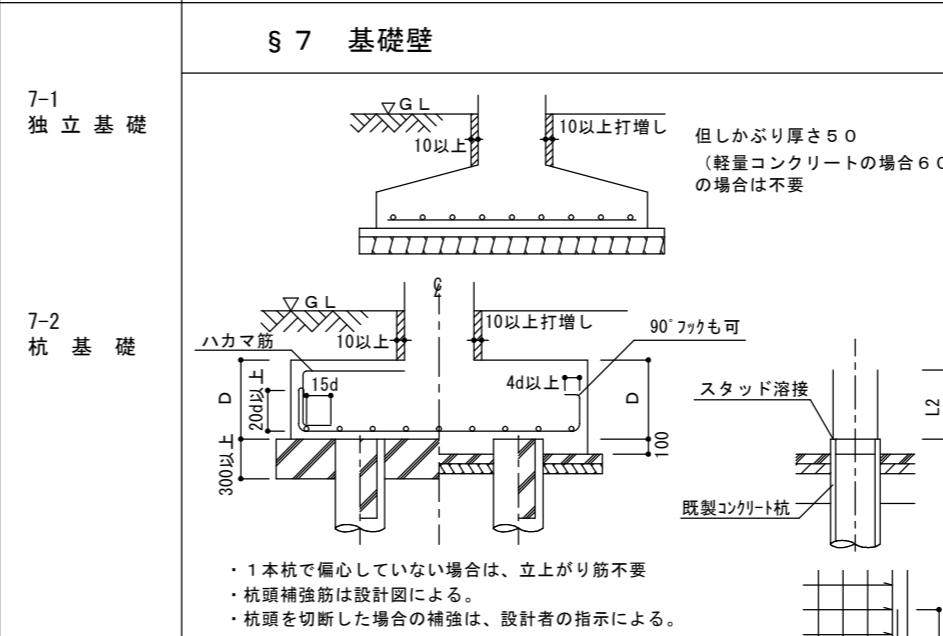
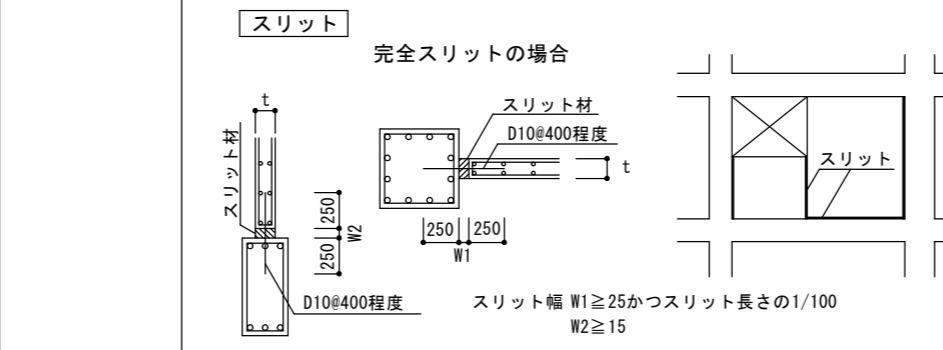
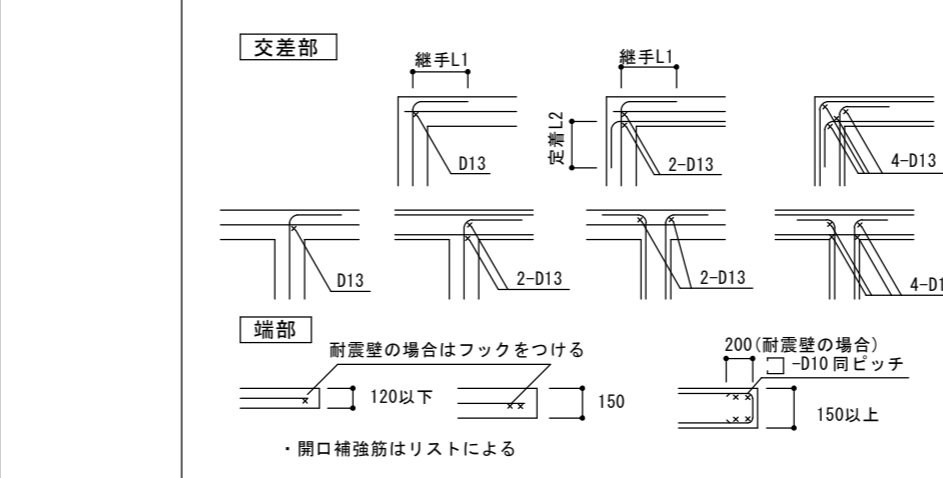
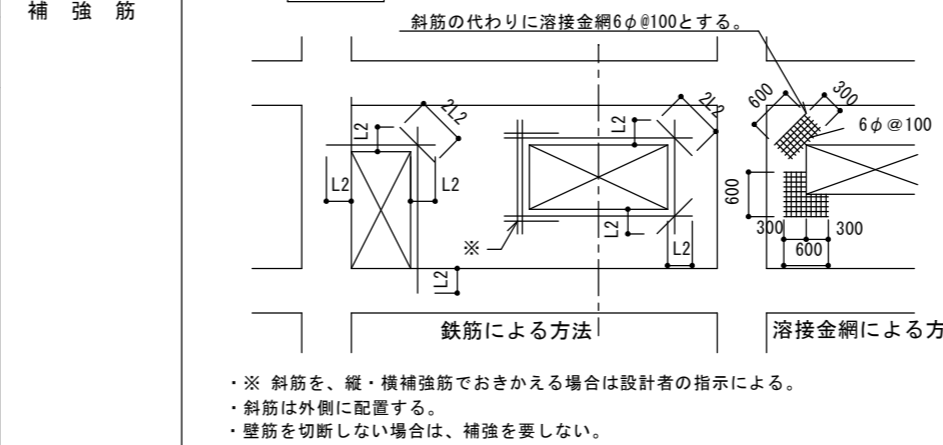
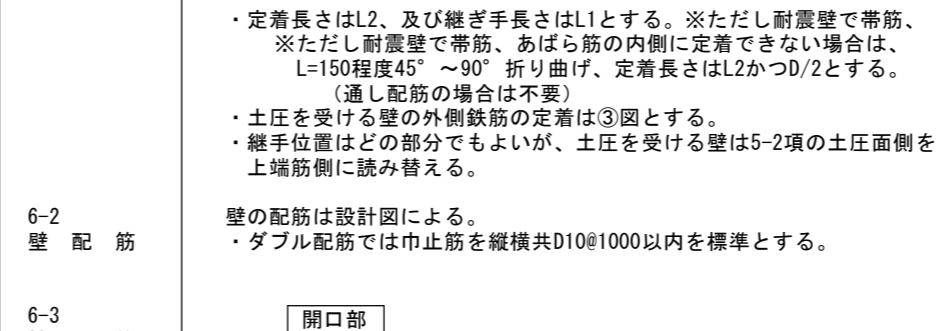
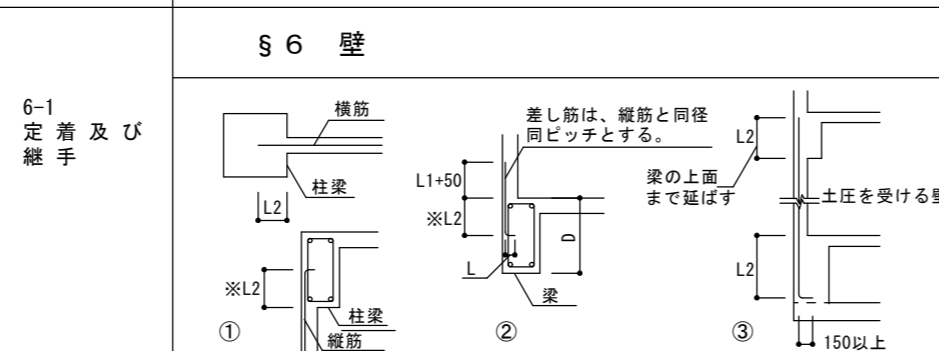
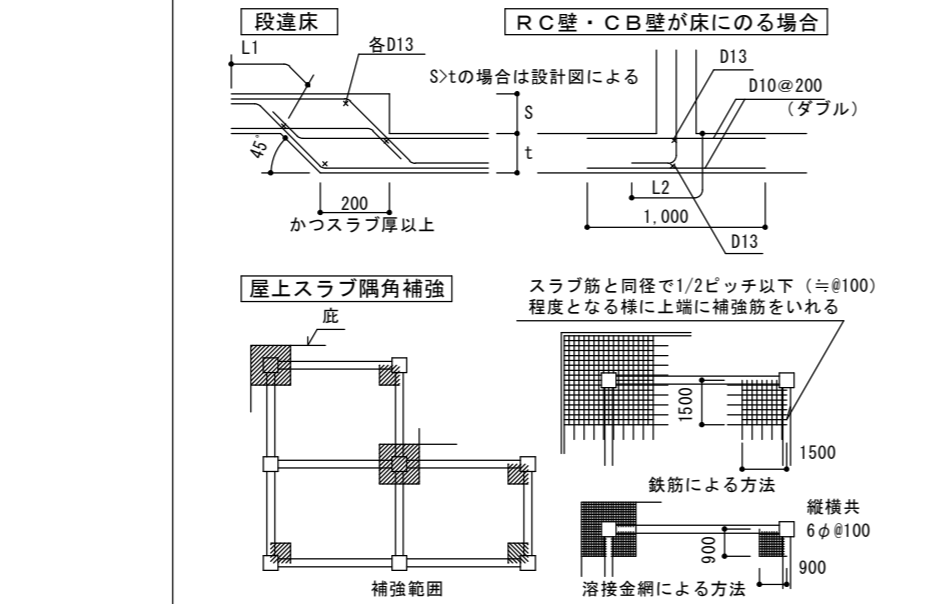
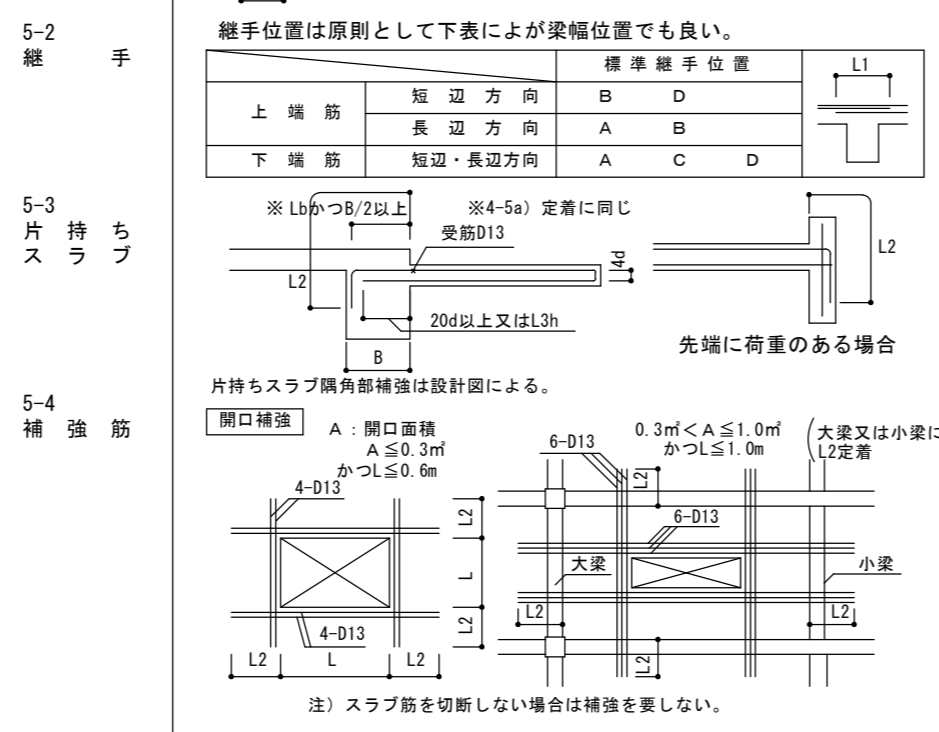
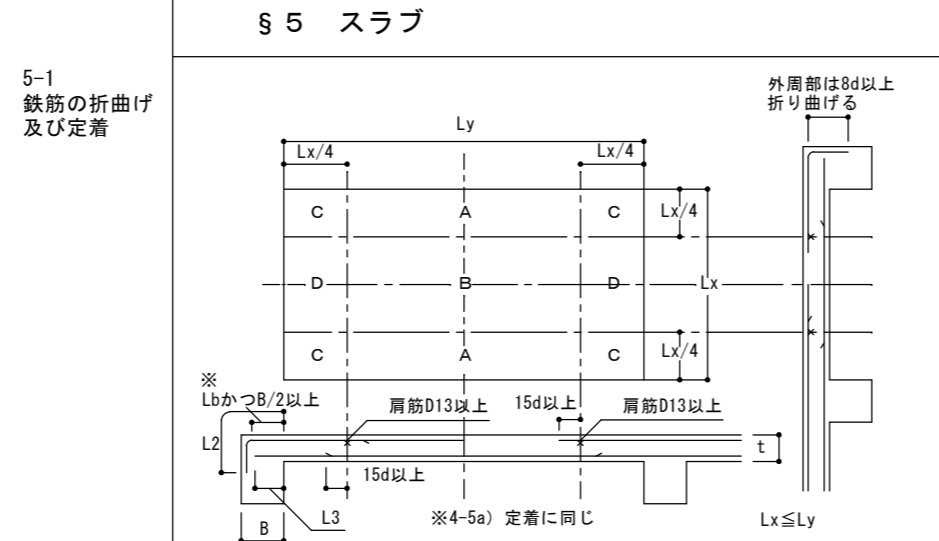
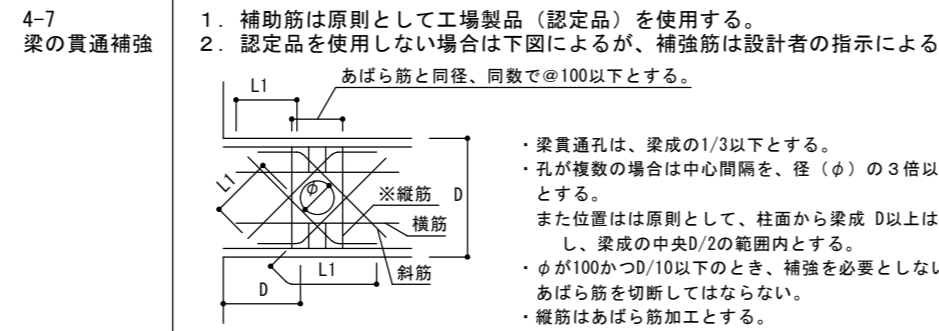
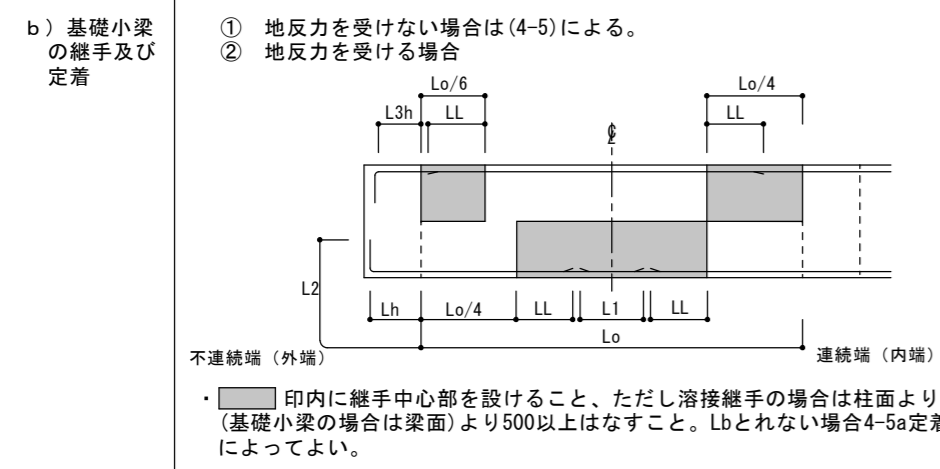
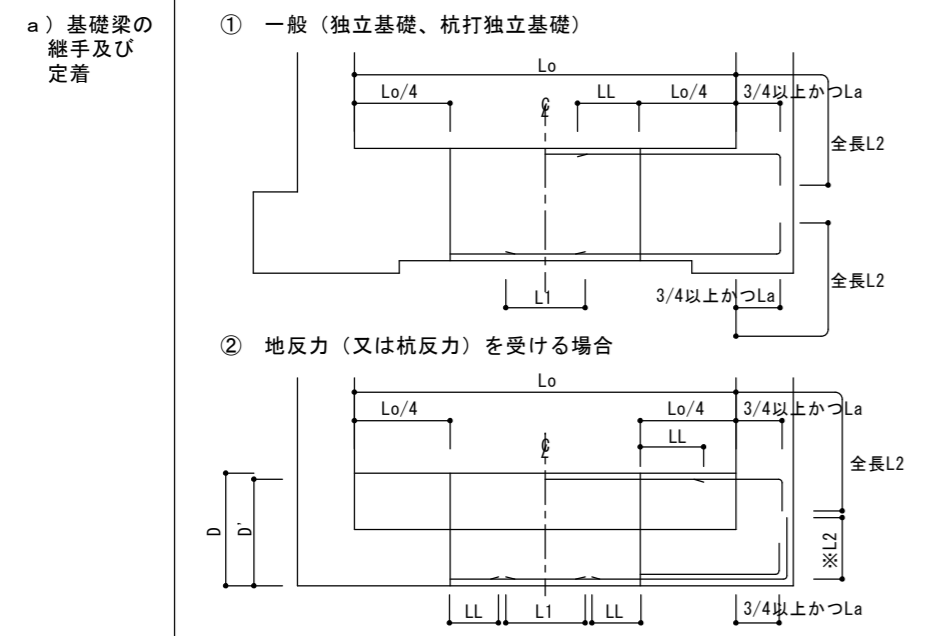
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)



印内に継手中心部を設けること、ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

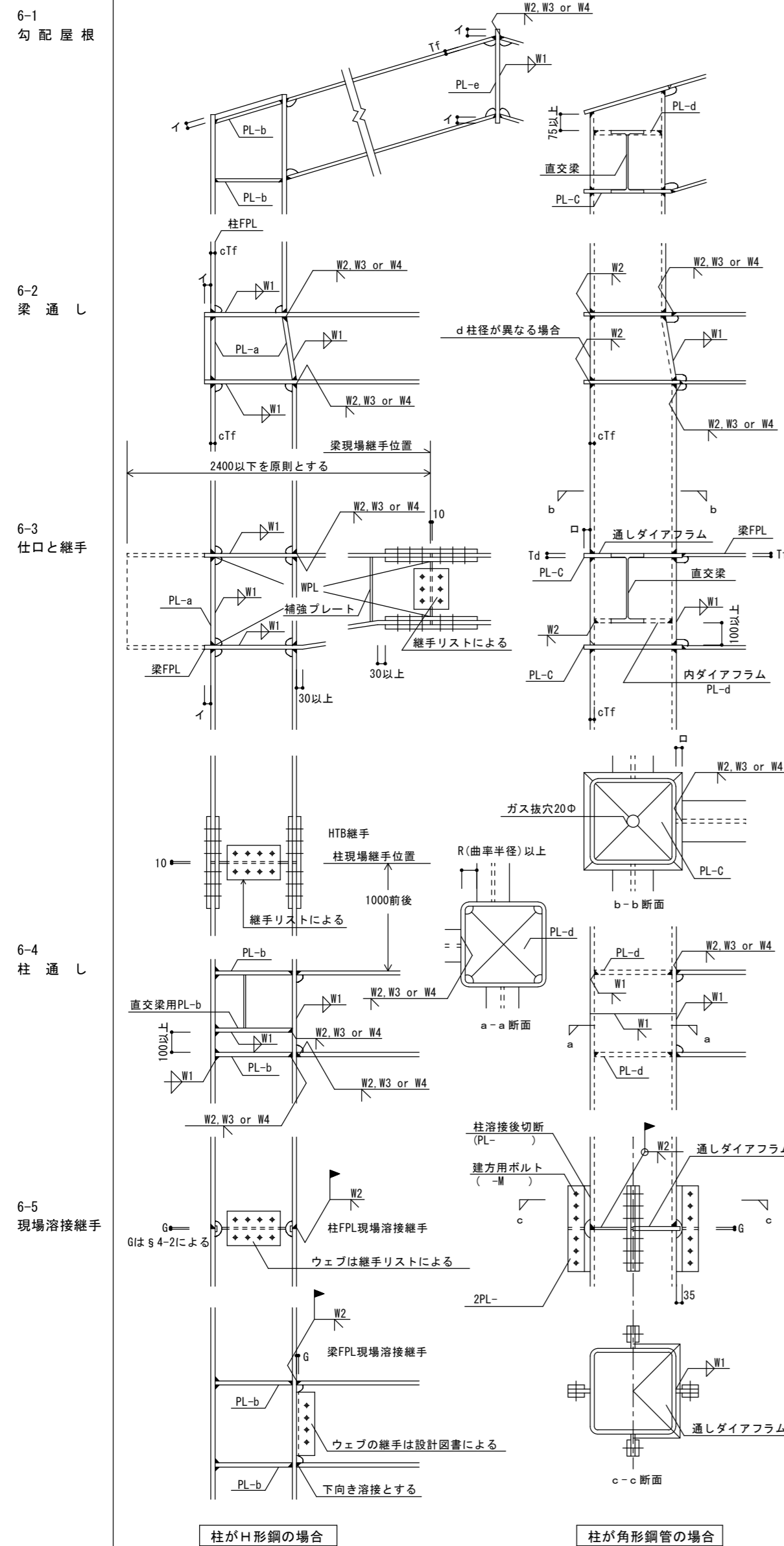


※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-4項および設計図に示す。余長LL (LL ≥ min(D', L2)) とする。余長LLは構造計算によって確認すれば、それによっても良い。

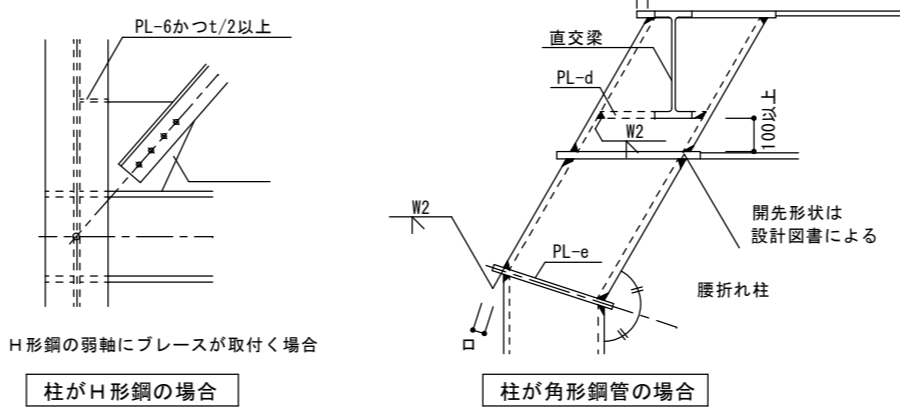


鉄骨工作標準図 (2)

§ 6 柱梁接合部及び継手



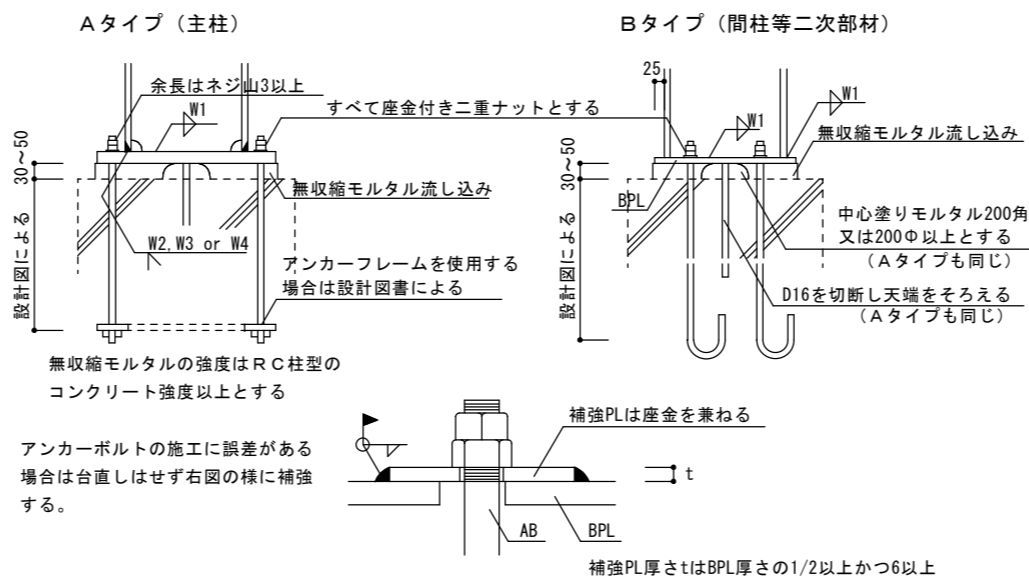
6-6
その他



- 1) パネルゾーンのPLの幅さ
- PL-a (鉛直スチフナ) 上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
 - PL-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
 - PL-c (通しダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
 - PL-d (内ダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上
 - PL-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFPLより1サイズUP以上
- 2) 出寸法
- イ 25mmかつcTf以上
 - ロ cTf ≤ 25の場合 25
 - ハ cTf ≥ 28の場合 30
- 3) 注記
- ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きいほうに同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 - d (6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
 - ハンチ部で、FPLを折り曲げる場合は、 $R \geq 10Tf$ とし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 - ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 - 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行なう。

§ 7 柱脚

7-1
一般柱脚



§ 8 壁面ブレース

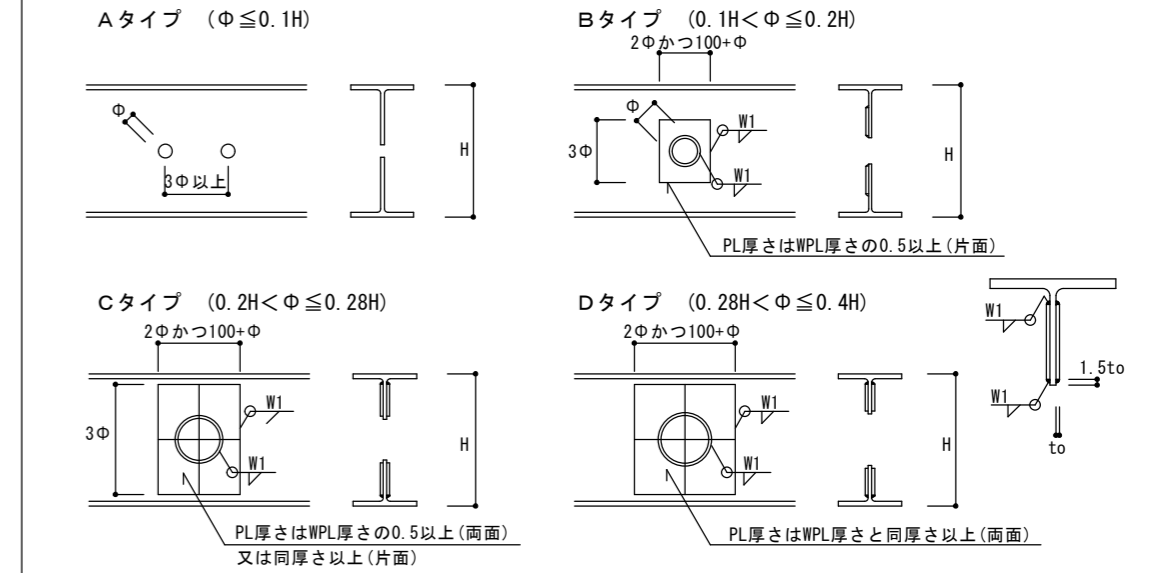
8-1
ブレースリスト

符号	部材	高力ボルト		GPL		溶接	
		径	本数	t	Le	脚長	ΣL

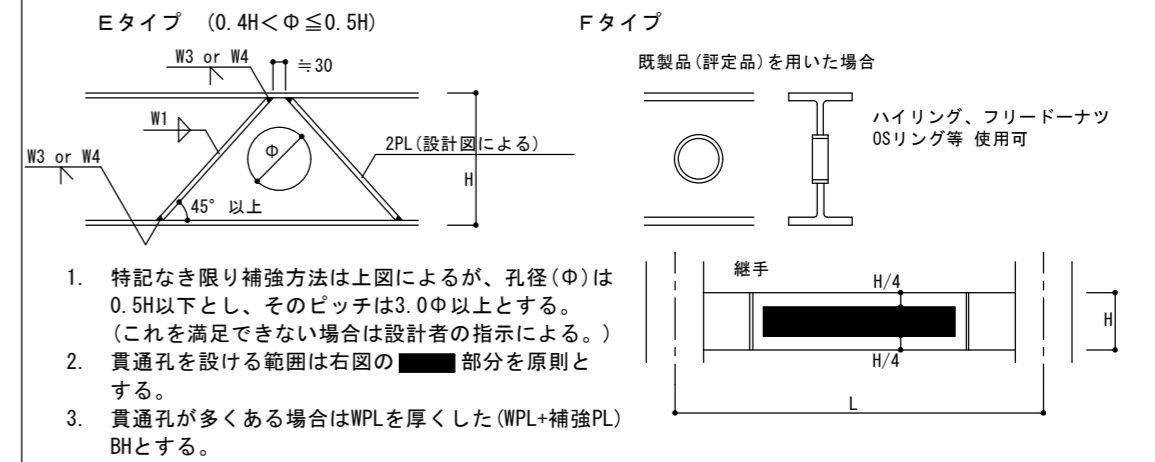
- GPLの最小幅Leが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
- 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
- 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§ 9 その他

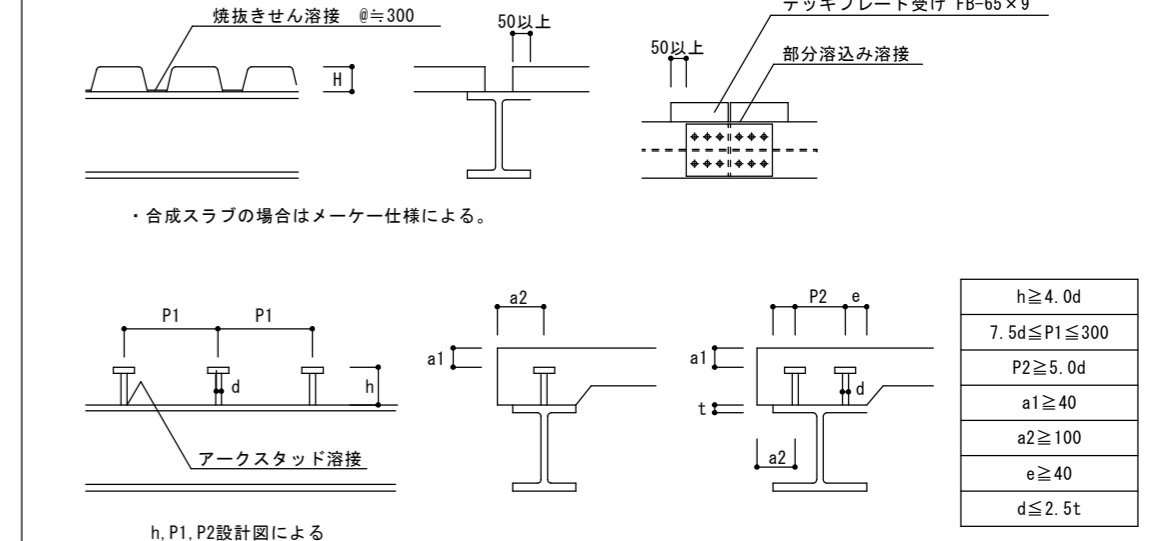
9-1
貫通補強



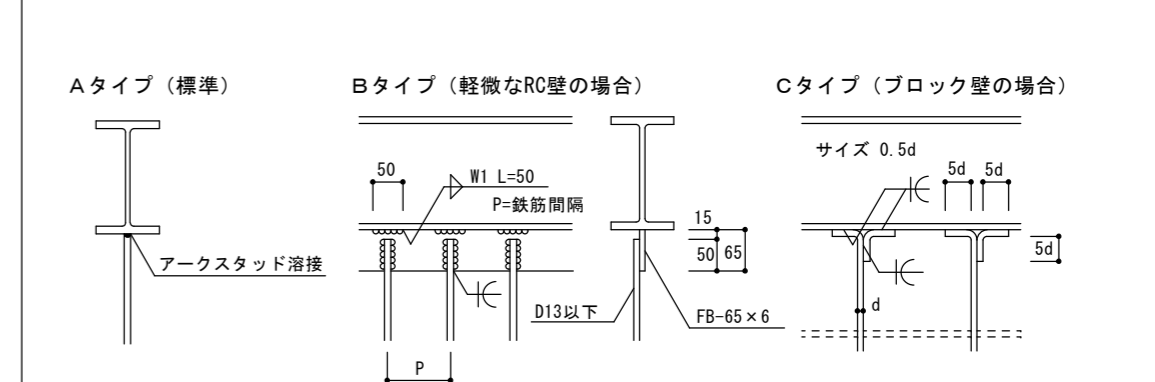
9-2
デッキプレート



9-3
スタッドジベル



9-4
壁筋の溶接



外壁・間仕切壁《縦壁ロッキング構法》 <参考図>

設計
施工 標準図

I ALCパネル仕様

1 ALCパネル仕様

JIS A 5416 軽量気泡コンクリートパネル (ALCパネル) に適合するもの

2 ALCパネル使用部位およびパネル厚

- 外壁 平パネル: 100厚, 125厚, 150厚
外壁 意匠パネル: 100厚, 125厚, 150厚
間仕切壁: 75厚, 100厚, 125厚, 150厚

3 ALC外壁仕様

- パネル取付け構法: 縦壁ロック構法, 縦壁HDR構法 (一般用), その他

(2) 設計風圧力

Table with columns for floor level (階), wind speed (風速), and wind pressure (風圧). Values range from 1st floor to 4th floor with corresponding wind speed and pressure values.

(3) パネル特殊仕様

- デザインパネル (表面に凹凸デザイン模様)
ジーファスパネル (岩肌調デザイン模様)
Canvasパネル (表面にプラスト模様)
下地処理済みパネル (表面にフィラー下地処理済み)
S1パネル (吸水性を抑えたパネル)

4 ALC間仕切壁仕様

- パネル取付け構法: 縦壁ロック構法, 縦壁HDR構法 (一般用), その他

(2) パネル特殊仕様

特記:

II 関連資材仕様

1 シーリング材 (ALCパネル間)

※モジュラスの低いもの(経年時の50%引張応力の値が0.3N/mm2以下)を選定 (JIS A 5758 に基づく耐久性区分)

(1) 種類

- ポリウレタン系: 耐久性区分 8020, 9030
変成シリコン系: 耐久性区分 8020, 9030
アクリル系 (エマルジョンタイプ): 耐久性区分 7020

(2) その他特記事項 (品名:)

2 耐火目地材

ロックウール保温板 (JIS A 9504) または 高温断熱ウール A E S プランケット (JIS R 3311) 品質同等

3 防錆塗料 (ALC下地鋼材、開口部補強鋼材塗装用)

特記による

III 内外装仕様

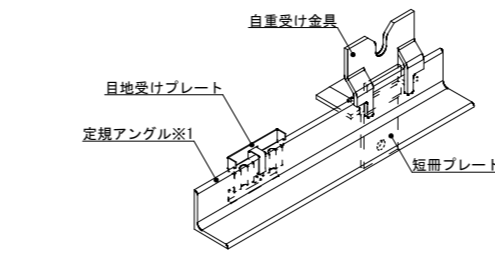
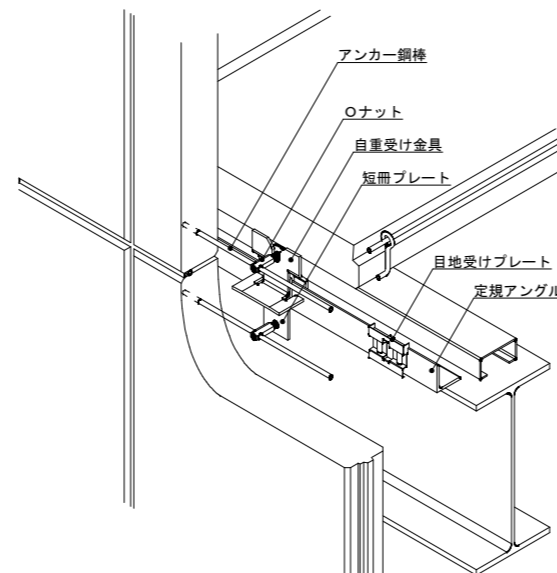
1 外装仕上げ

- 吹付け仕上げ: 複層仕上塗材 (JIS A 6909), 複層塗材 E (アクリルタイル), 複層塗材 C E (セメント系吹付けタイル), 複層塗材 S i (シリカタイル), その他
薄付け仕上塗材 (JIS A 6909): 外装薄塗材 E (樹脂リシン), 外装薄塗材 S (溶液リシン), その他
厚付け仕上塗材 (JIS A 6909): 外装厚塗材 E (樹脂スタッコ), 外装厚塗材 S i (シリカスタッコ), その他

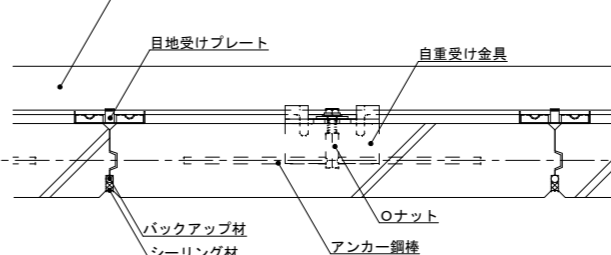
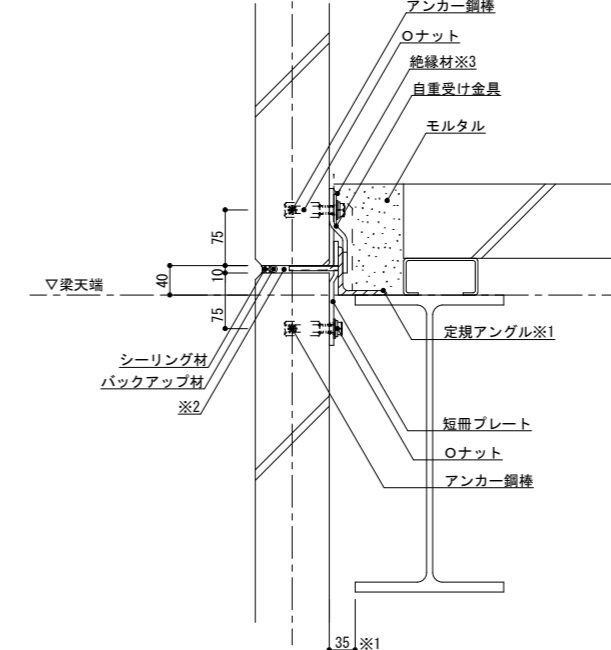
2 内装仕上げ

- ボード仕上げ: 鋼線工法
ペイント仕上げ
吹付け仕上げ
タイル張り
その他

1. 構法概要 (縦壁HDR構法 (一般用))

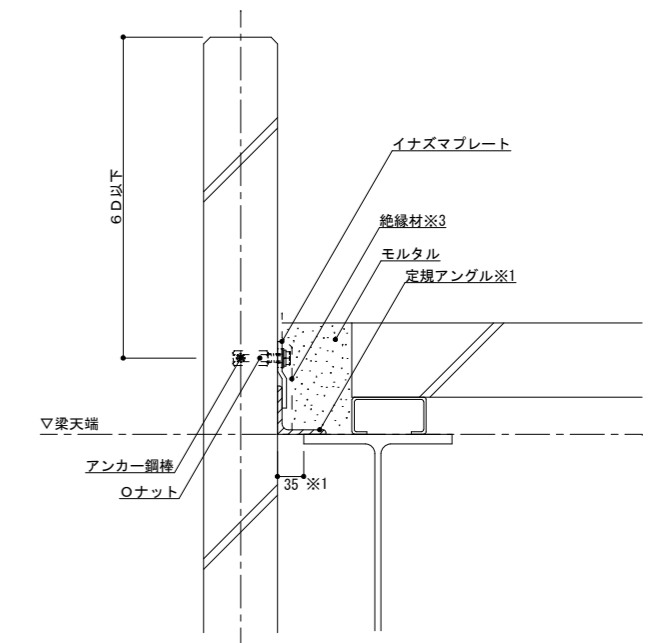


2. 一般部

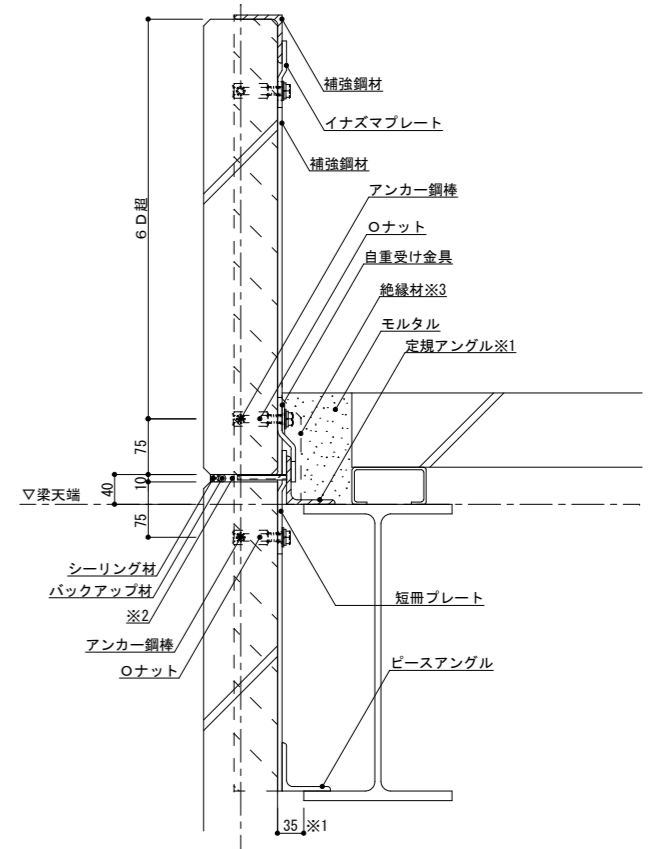


6. パラペット部

(1) はね出し寸法 6D以下 D: パネル有効厚

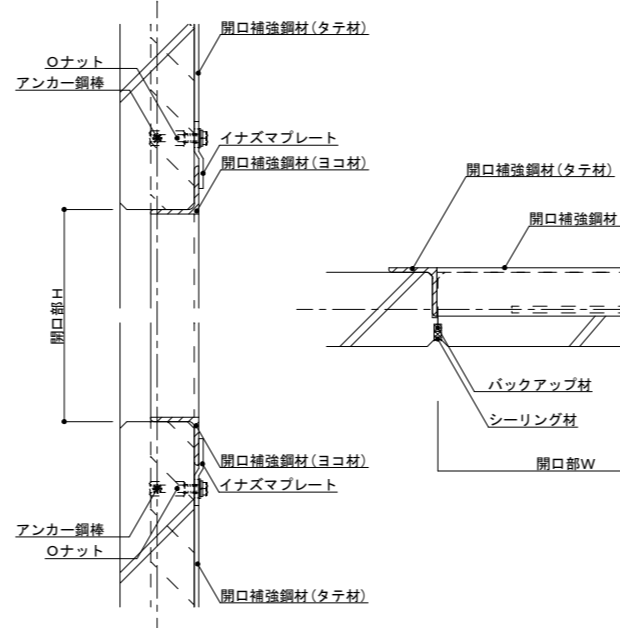


(2) はね出し寸法 6D超

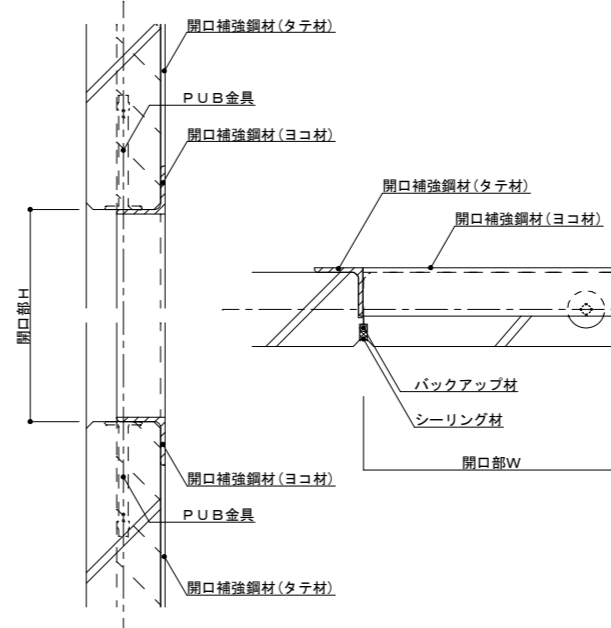


3. 開口部

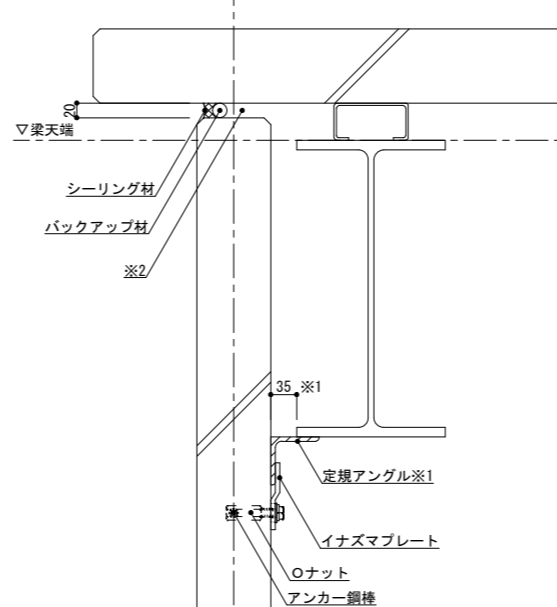
(1) Oナットを使用する場合



(2) PUB金具を使用する場合



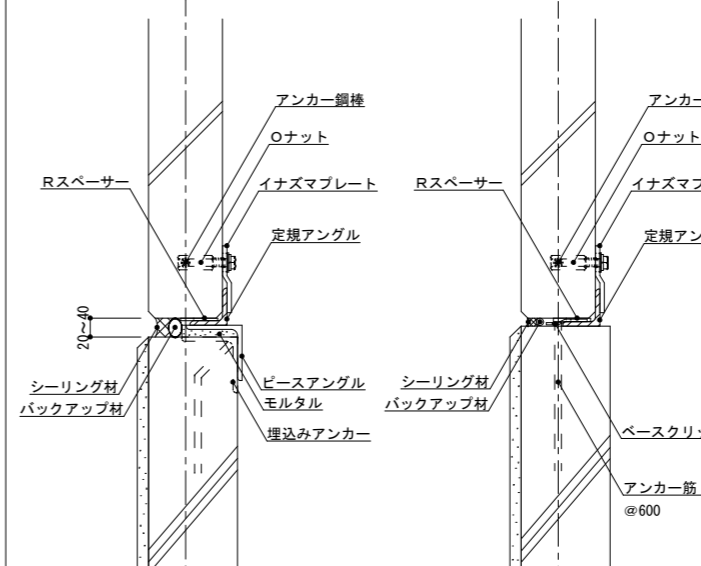
4. 軒先部



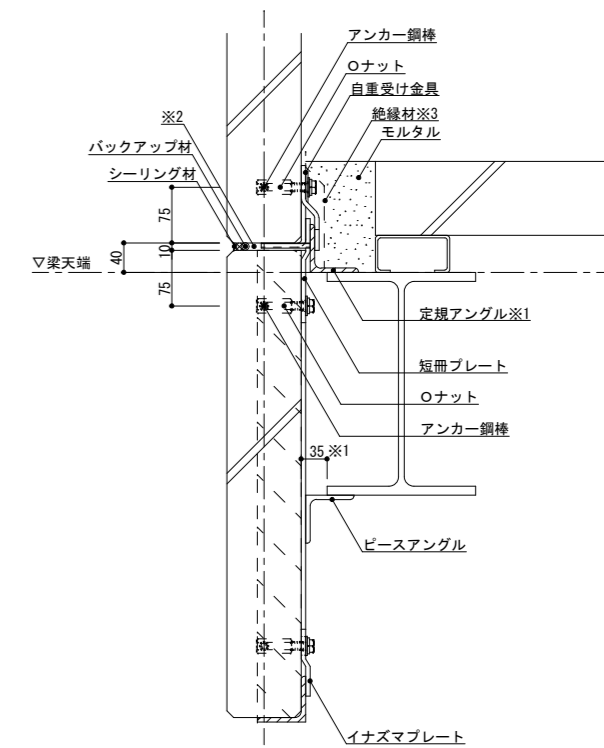
5. 布基礎部

(1) 埋込みアンカー仕様

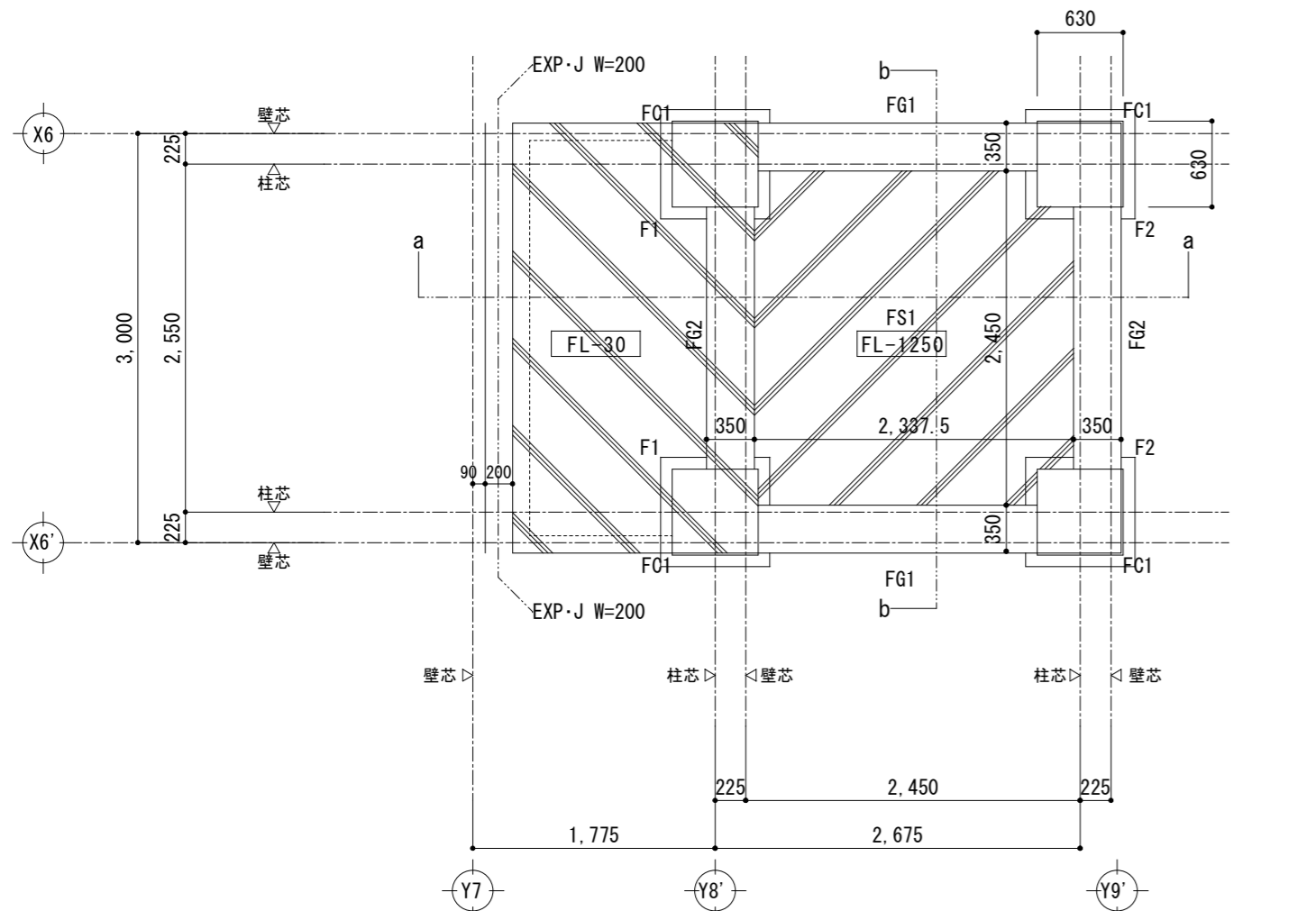
(2) ベースクリップ仕様



7. 下がり壁部

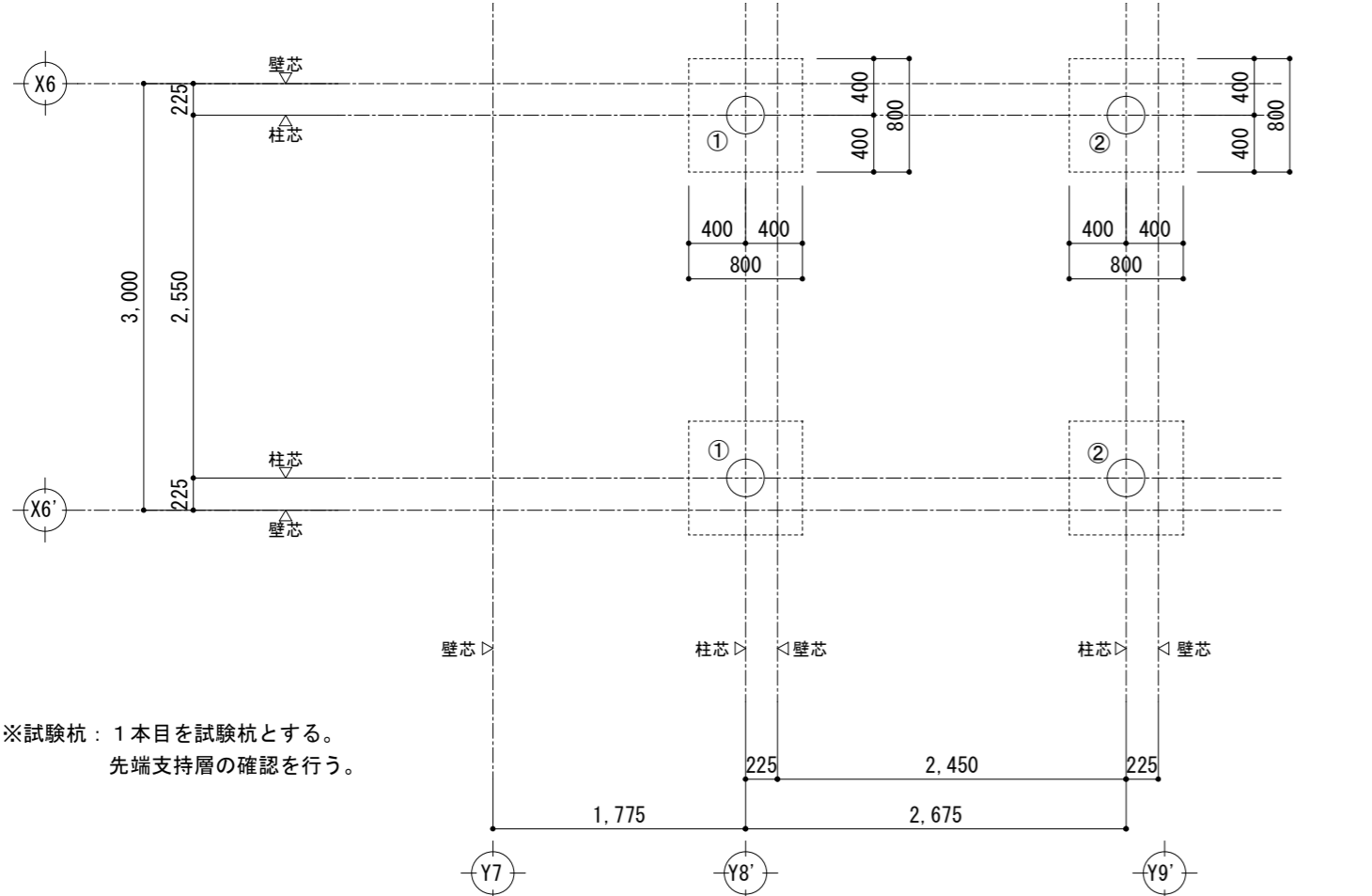


※1 平パネル厚さ150mmの場合、自重受け金具を取り付ける定規アングルはL-75×75×6を使用する。またパネルと躯体とのクリアランスは45～50mmとする。
※2 耐火目地材：横目地、出隅、入隅部、伸縮目地や軒まわりなどの目地で、耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てる。
※3 絶縁材：床取合い部では、モルタルがパネルのロッキングを拘束しないように、パネルとモルタルの間に全長にわたって絶縁材を設ける。



基礎伏図 S=1:50

土間コンクリート t=120mm
鉄筋 D10@200(シブ) クロス
ポリスチレンフォーム t=25mm
防湿材 リンゴシートの t=0.15mm
砕石 (転圧) t=150mm



杭伏図 S=1:50

※試験杭：1本目を試験杭とする。
先端支持層の確認を行う。

床配筋リスト

符号	床厚	箇所	短辺方向	長辺方向
FS1	250	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D13 @200	D13 @200

※ QL-99-50-12 山上80 ワイヤメッシュφ150×150目 焼抜栓溶接とする。

使用材料

捨てコンクリート	Fc=18 N/mm ²
土間コンクリート	Fc=21 N/mm ²
基礎コンクリート	Fc=24+S N/mm ²
増打コンクリート	Fc=24+S N/mm ²
鉄筋 (D10~D16)	SD295
鉄筋 (D19以上)	SD345

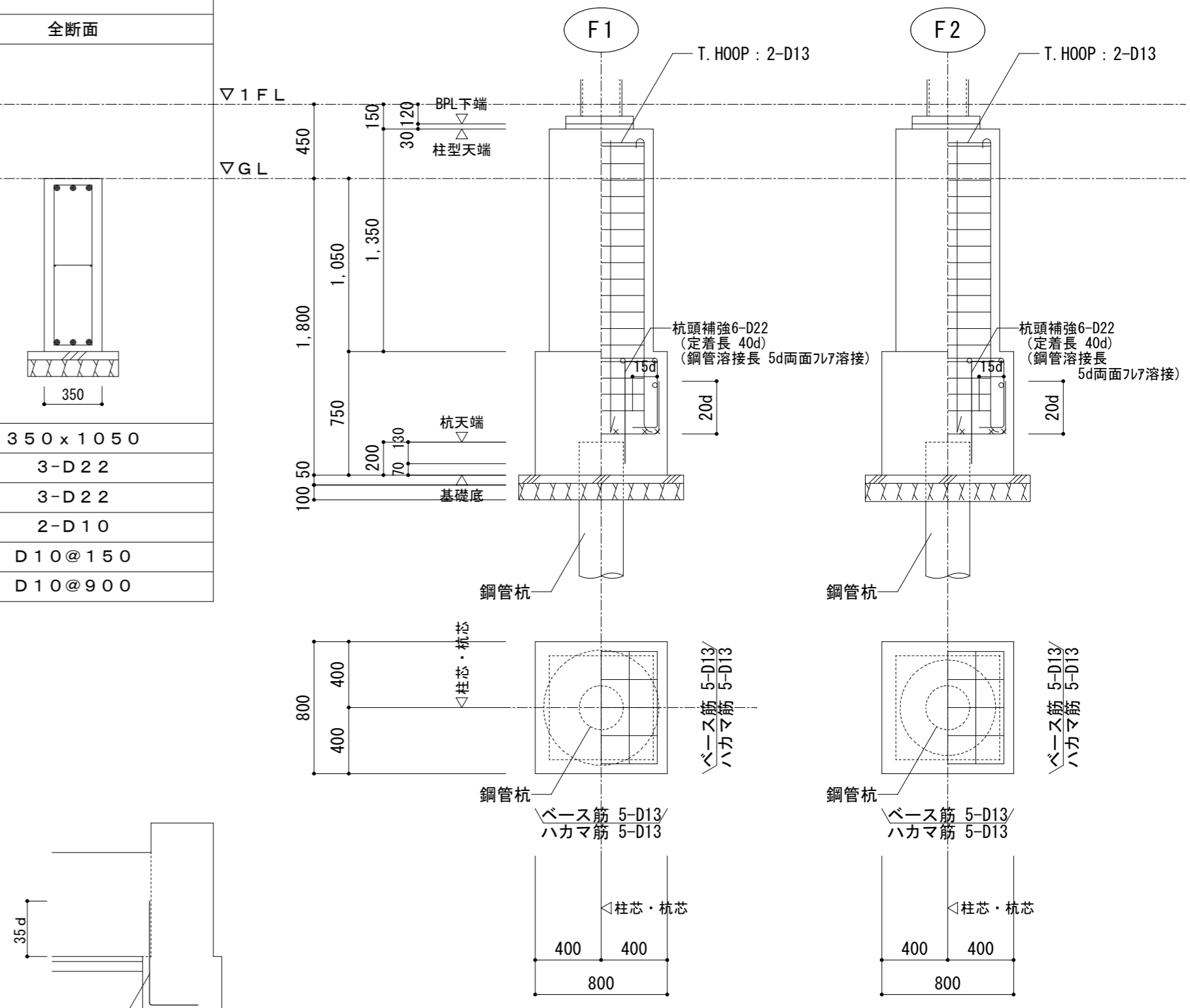
地中梁 リスト S=1:30

※ 主筋SD345、せん断補強筋、その他SD295とする。
主筋は、X方向が上下共外側とする。

記号	FG1	FG2
位置	全断面	全断面
断面		
b x d	350 x 1050	350 x 1050
上端筋	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22
ハラ筋	2-D10	2-D10
STP	D10@100	D10@150
巾止筋	D10@900	D10@900

基礎柱 リスト S=1:30

符号	FC1
位置	全断面
断面	
b x d (mm)	630 x 630
主筋	4-D19
帯筋	D13@100

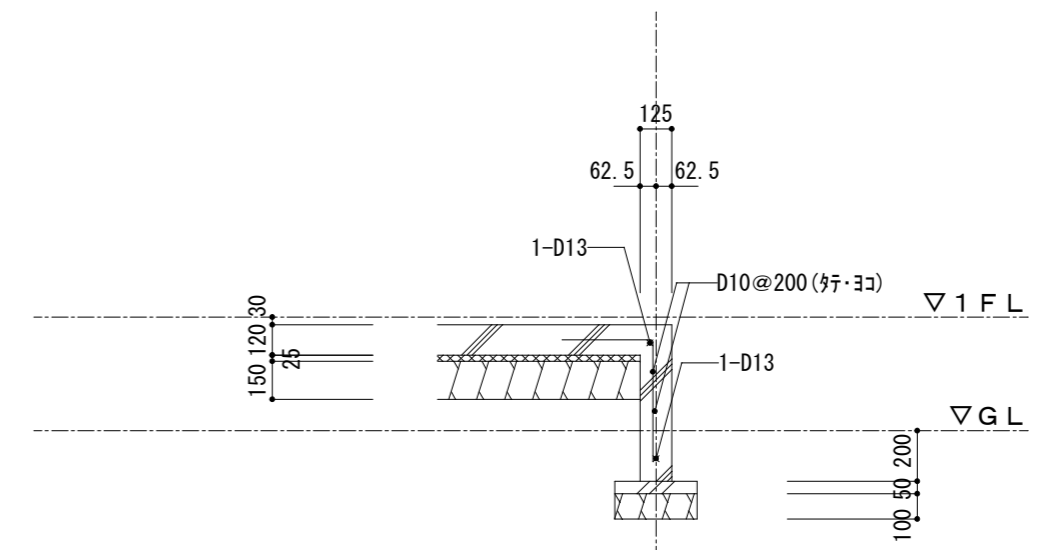


基礎接合補強図 S=1:50

鋼管杭 杭工法:スクリューパイルAZET工法

杭 No.	杭本体部				羽根 径	先端羽根厚	種類	杭全長	本数	長期設計 支持力	
	径	厚	種類	杭長							
①	φ267.4	上杭	9.3mm	STK490	5.0m	φ700	28mm	SM490A	L=22.0m	2set	442kN
	φ267.4	中・下杭	8.0mm	STK490	17.0m						
②	φ267.4	上杭	8.0mm	STK490	5.0m	φ580	28mm	SM490A	L=22.0m	2set	303kN
	φ267.4	中・下杭	8.0mm	STK490	17.0m						

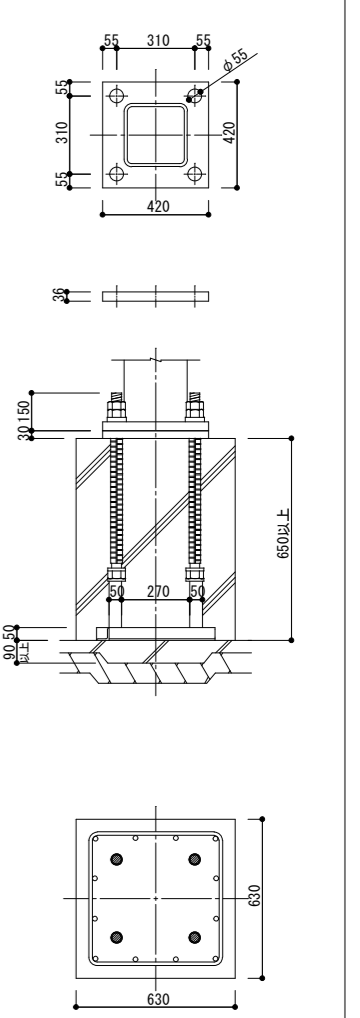
※中・下杭 杭長=17.0m (6.0+6.0+5.0)



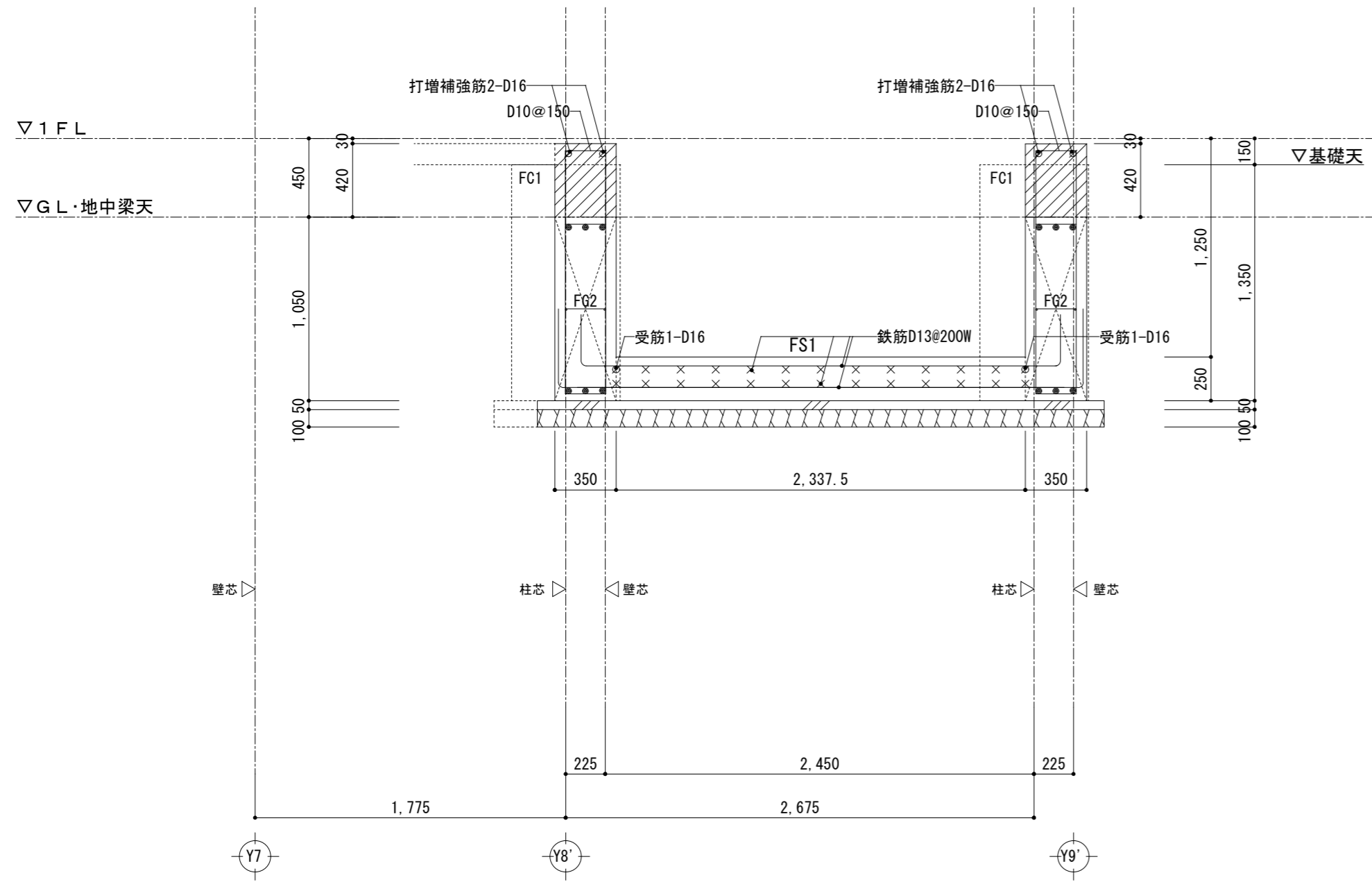
土間端部断面図 S=1:30

柱脚 リスト S=1/30

ベースパッド 25-12V

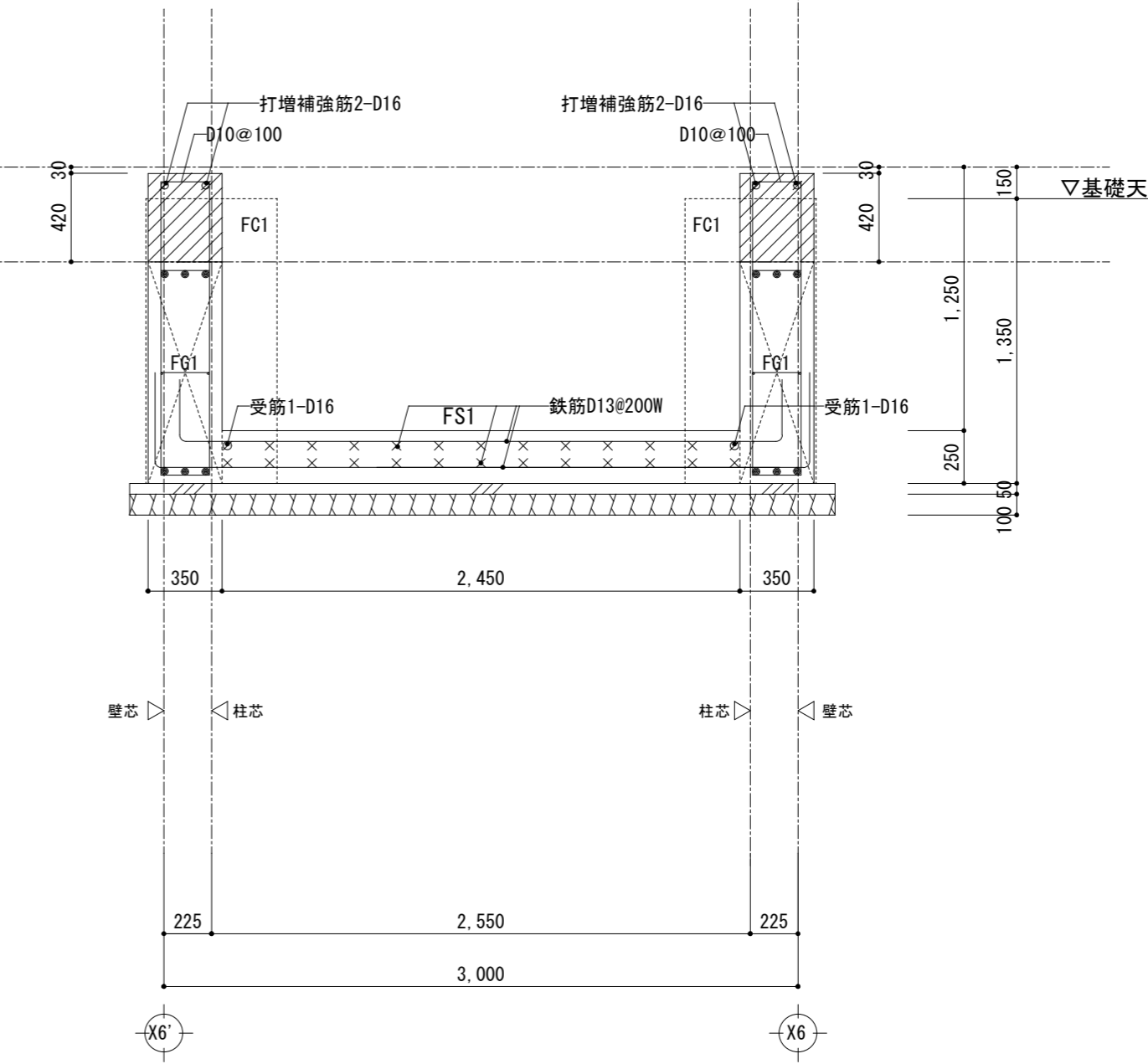


柱部材	□-250×250×12
ベースプレート	420×420×36
アンカーボルト	4-M39 (BPM-SD490)
コンクリート柱断面	630×630
立上り筋	12-D19 (SD345)
フープ筋	D13@100 (SD295)
コンクリート設計基準強度	21N/mm ² 以上



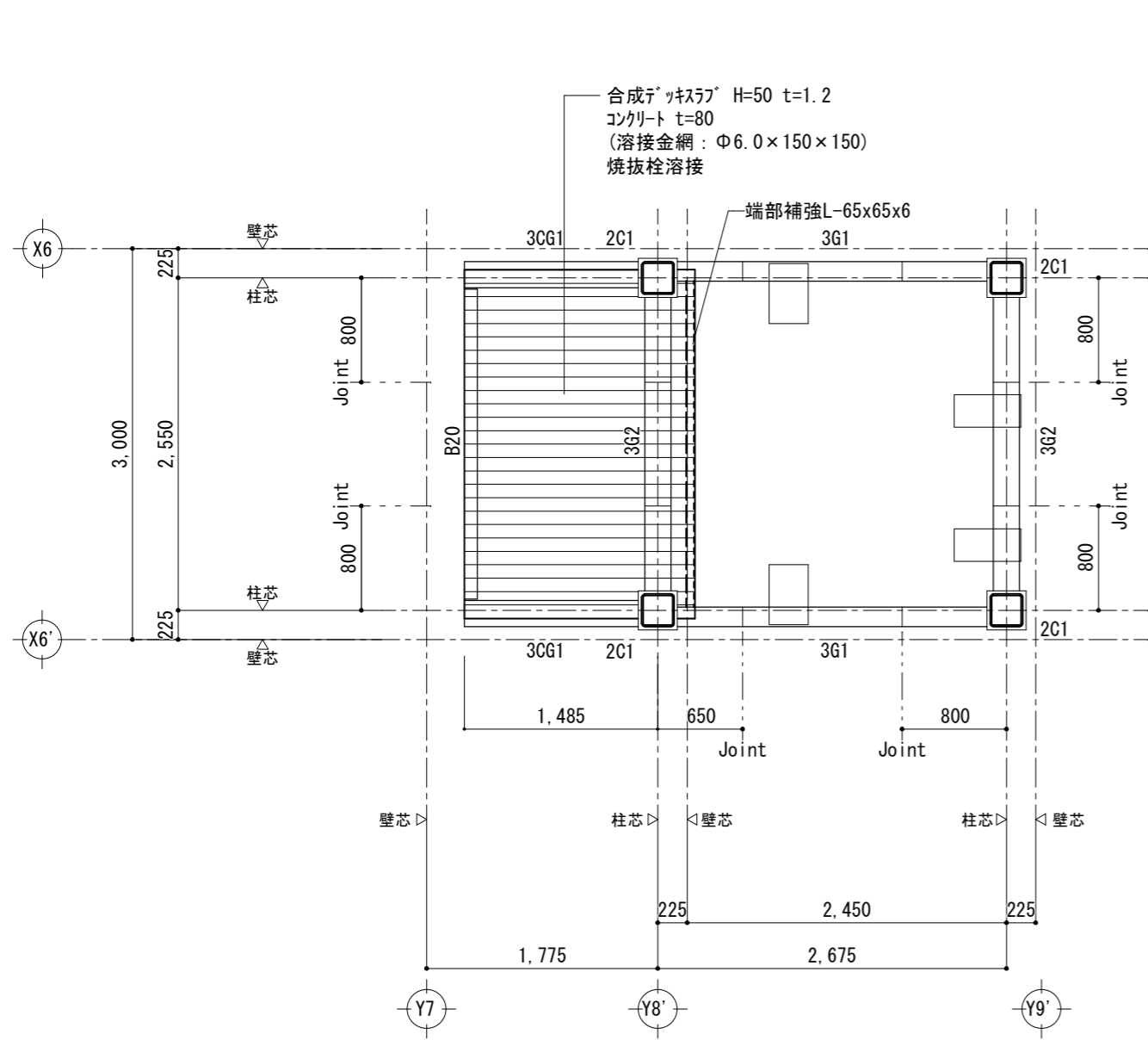
は、打増範囲を示す。

a-a断面図 S=1:30

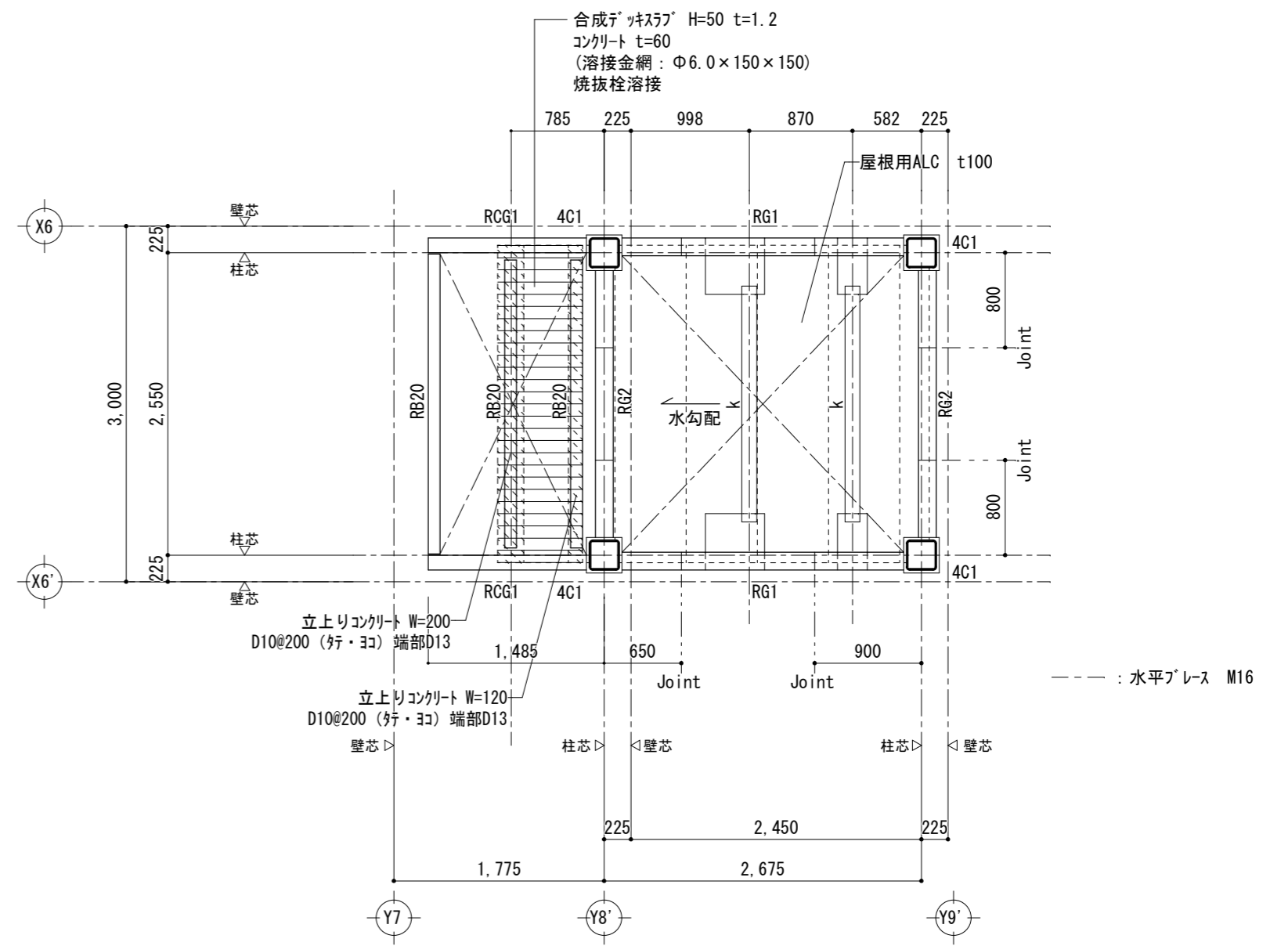


は、打増範囲を示す。

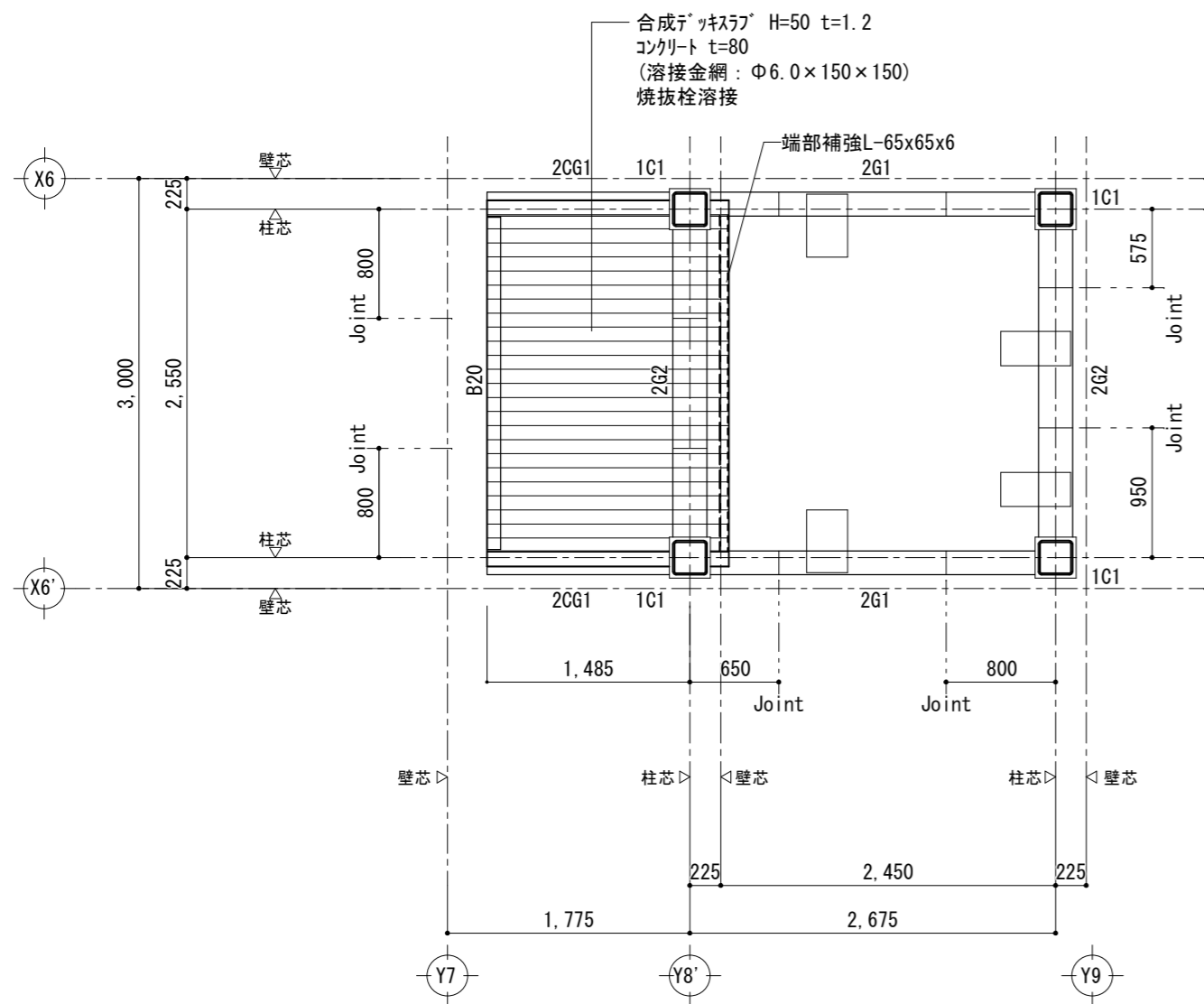
b-b断面図 S=1:30



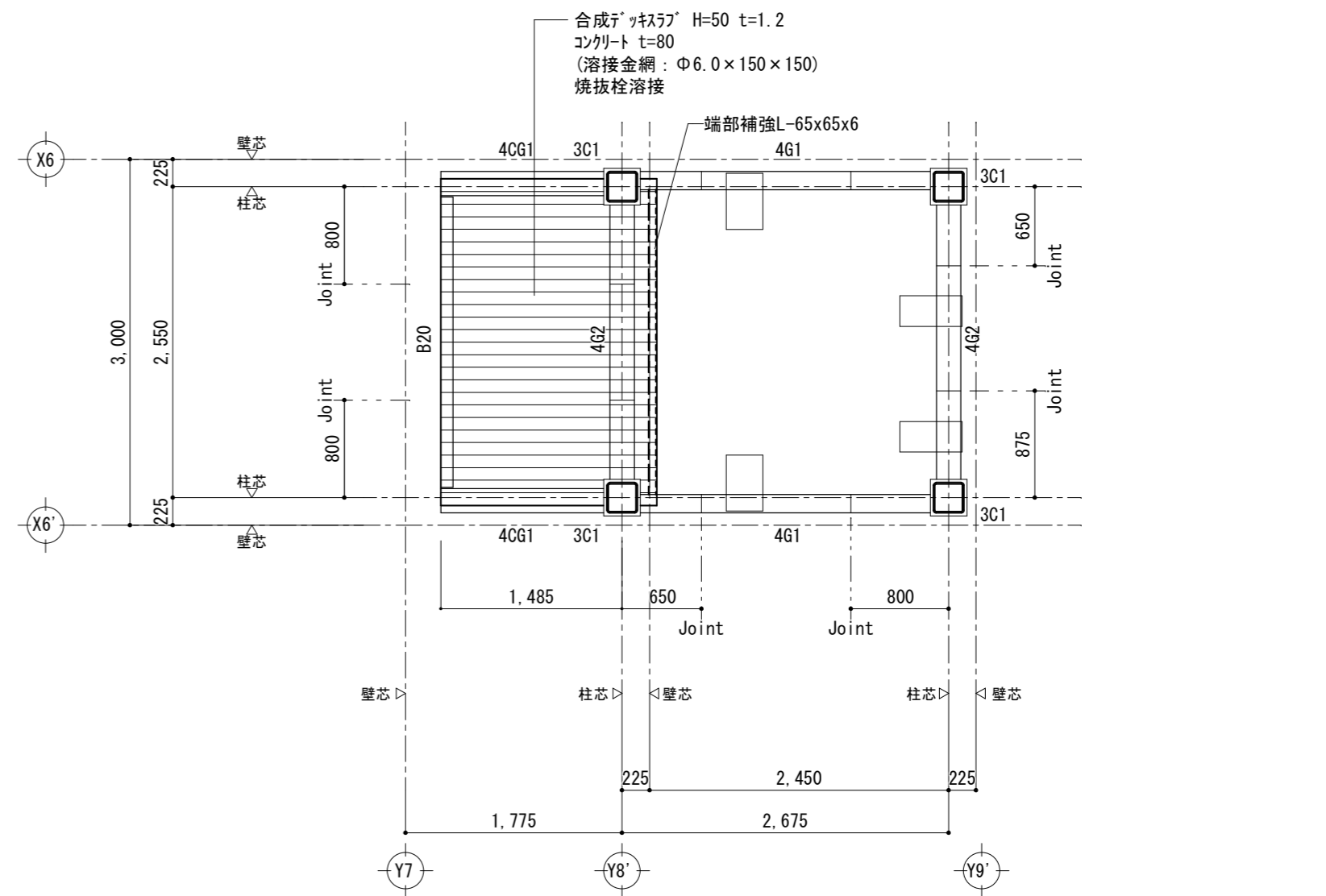
3階梁伏図 S=1:50



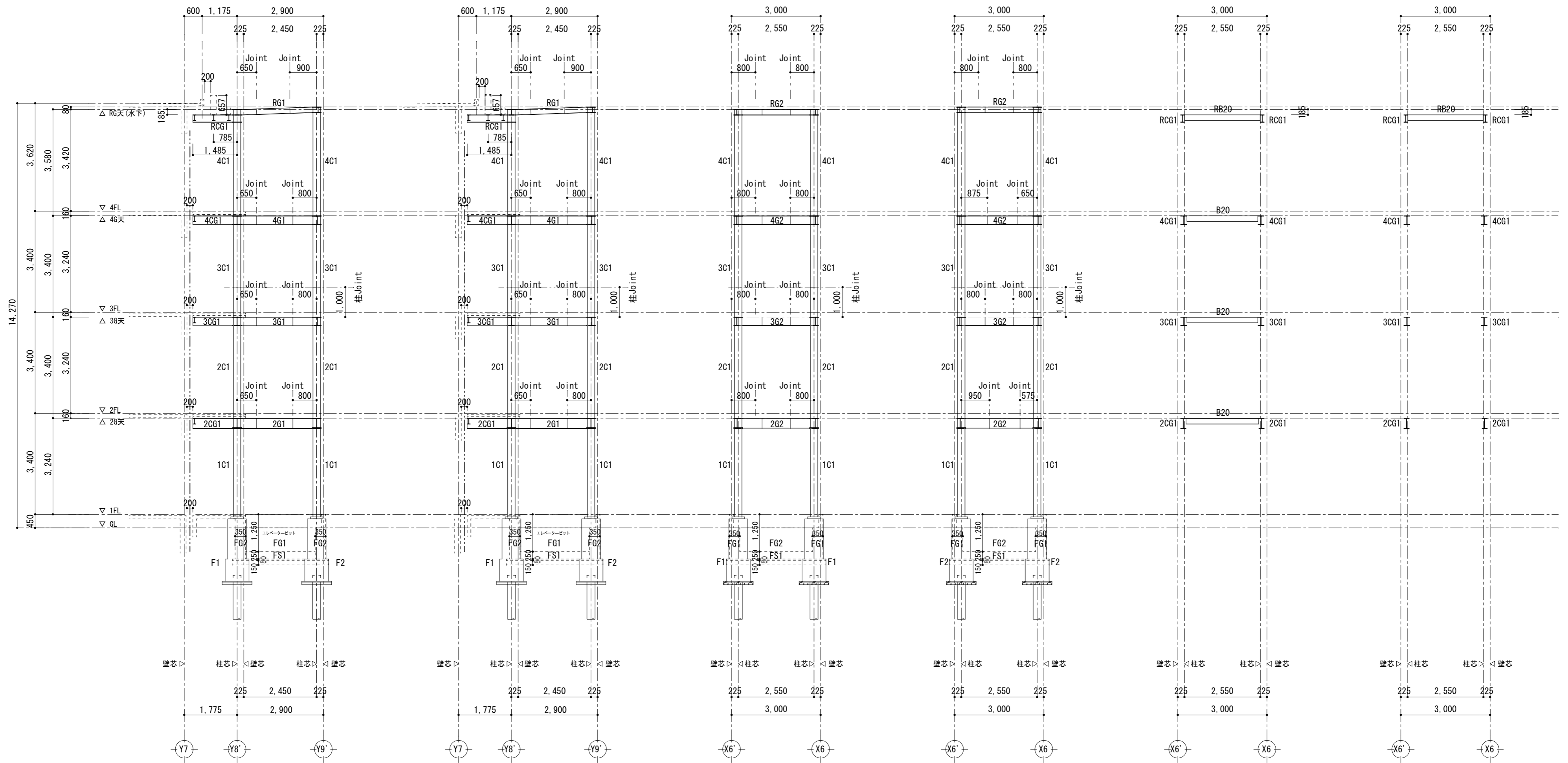
R階梁伏図 S=1:50



2階梁伏図 S=1:50



4階梁伏図 S=1:50



X6' 通 軸組図 S=1:100

X6通 軸組図 S=1:100

Y8' 通 軸組図 S=1:100

Y9' 通 軸組図 S=1:100

Y8' 先端通 軸組図 S=1:100

Y8' 中通 軸組図 S=1:100

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:100

drawing title
軸組図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

S-12

原図:A2

柱部材リスト

柱符号	1C1	2C1, 3C1	4C1
断面寸法	□ - 250 x 250 x12	□ - 250 x 250 x12	□ - 250 x 250 x9
断面寸法			
通しダイヤフラム	PL -300 x 300 材種SN490C	PL -300 x 300 材種SN490C	PL -300 x 300 材種SN490C
ベースプレート	PL - 36 x 420 x 420		
アンカーボルト	ベースバック詳細による		
材種	BCR295	BCR295	BCR295
備考	ダイヤフラム厚さは、構造詳細図による。柱継手 PL-9 (SN490C) 溶接後撤去		

大梁継手リスト

記号	部材	2G1	H-350x175x7x11	2G2	H-340x250x9x14	3G1 4G1	H-300x150x6.5x9	RG1 RG2	H-194x150x6x9	3G2 4G2	H-294x200x8x12
大梁											
フランジ		2PL-290×175×9, 4PL-290×70×9 HTB 16-M20		2PL-410×250×12, 4PL-410×100×12 HTB 24-M22		2PL-290×150×9, 4PL-290×60×9 HTB 16-M16		2PL-290×150×9, 4PL-290×60×9 HTB 16-M16		2PL-410×200×12, 4PL-410×80×9 HTB 24-M20	
ウェブ		2PL-170×260×6 HTB 6-M20		2PL-170×200×9 HTB 6-M22		2PL-170×200×6 HTB 6-M16		2PL-230×140×6 HTB 4-M16		2PL-170×200×9 HTB 6-M20	

梁断面リスト

※ 継手部の添板は、母材同等とする。

梁符号	断面寸法	フランジ		ウェブ		備考
		フランジ添え板	フランジボルト	ウェブ添え板	ウェブボルト	
2G1	H - 350 x 175 x 7 x 11	2PL-290×175×9(外添板) 4PL-290×70×9(内添板)	16 - M20 HTB S10T	2PL-170×260×6	6 - M20 HTB S10T	材種 SN400B
3G1	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	2PL-290×150×9(外添板) 4PL-290×60×9(内添板)	16 - M16 HTB S10T	2PL-170×200×6	6 - M16 HTB S10T	材種 SN400B
4G1	H - 300 x 150 x 6.5 x 9	2PL-290×150×9(外添板) 4PL-290×60×9(内添板)	16 - M16 HTB S10T	2PL-170×200×6	6 - M16 HTB S10T	材種 SN400B
RG1, 2	H - 194 x 150 x 6 x 9	2PL-290×150×9(外添板) 4PL-290×60×9(内添板)	16 - M16 HTB S10T	2PL-230×140×6	4 - M16 HTB S10T	材種 SN400B
2G2	H - 340 x 250 x 9 x 14	2PL-410×250×12(外添板) 4PL-410×100×12(内添板)	24 - M22 HTB S10T	2PL-170×200×9	6 - M22 HTB S10T	材種 SN400B
3G2	H - 294 x 200 x 8 x 12	2PL-410×200×12(外添板) 4PL-410×80×9(内添板)	24 - M20 HTB S10T	2PL-170×200×9	6 - M20HTB S10T	材種 SN400B
4G2	H - 294 x 200 x 8 x 12	2PL-410×200×12(外添板) 4PL-410×80×9(内添板)	24 - M20 HTB S10T	2PL-170×200×9	6 - M20HTB S10T	材種 SN400B
2CG1	H - 350 x 175 x 7 x 11	突合せ溶接		隅肉溶接		材種 SN400B
3CG1	H - 294 x 200 x 8 x 12	突合せ溶接		隅肉溶接		材種 SN400B
4CG1	H - 294 x 200 x 8 x 12	突合せ溶接		隅肉溶接		材種 SN400B
RCG1	H - 250 x 125 x 6 x 9	突合せ溶接		隅肉溶接		材種 SN400B
B20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8			GPL - 6	2 - M16 HTB S10T	材種 SS400
RB20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8			GPL - 6	2 - M16 HTB S10T	材種 SS400
デッキ端部補強	L - 65 x 65 x 6					材種 SS400
開口補強アングル	L - 65 x 65 x 6					材種 SS400 現場隅肉溶接
敷居取付材	L - 100 x 100 x 7					材種 SS400
嵩下げ材	CT - 300 x 150 x 12 x 12					材種 SS400 隅肉溶接
レールラケット取付用ファスター 揚重ビーム取付用ファスター	PL - 12 形状: EV図参照					材種 SS400 隅肉溶接
ファスター用リブ補強材	PL - 12 形状: EV図参照					材種 SS400 隅肉溶接

※ Q L-99-50-12 山上80 ワイヤメッシュφ150x150目 焼抜栓溶接とする。

小梁継手リスト

記号	部材	RB20 B20	H-200×100×5.5×8	デッキ端部補強L-65x65x6	水平アース	M16 材種 SS400
小梁・その他						
ガセットプレート		GPL-6		GPL-6	GPL-9	
ボルト		HTB 2-M16		HTB 2-M16	HTB 1-M20	

memo

check
client
architect
contractor

scale

drawing title

部材リスト

project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

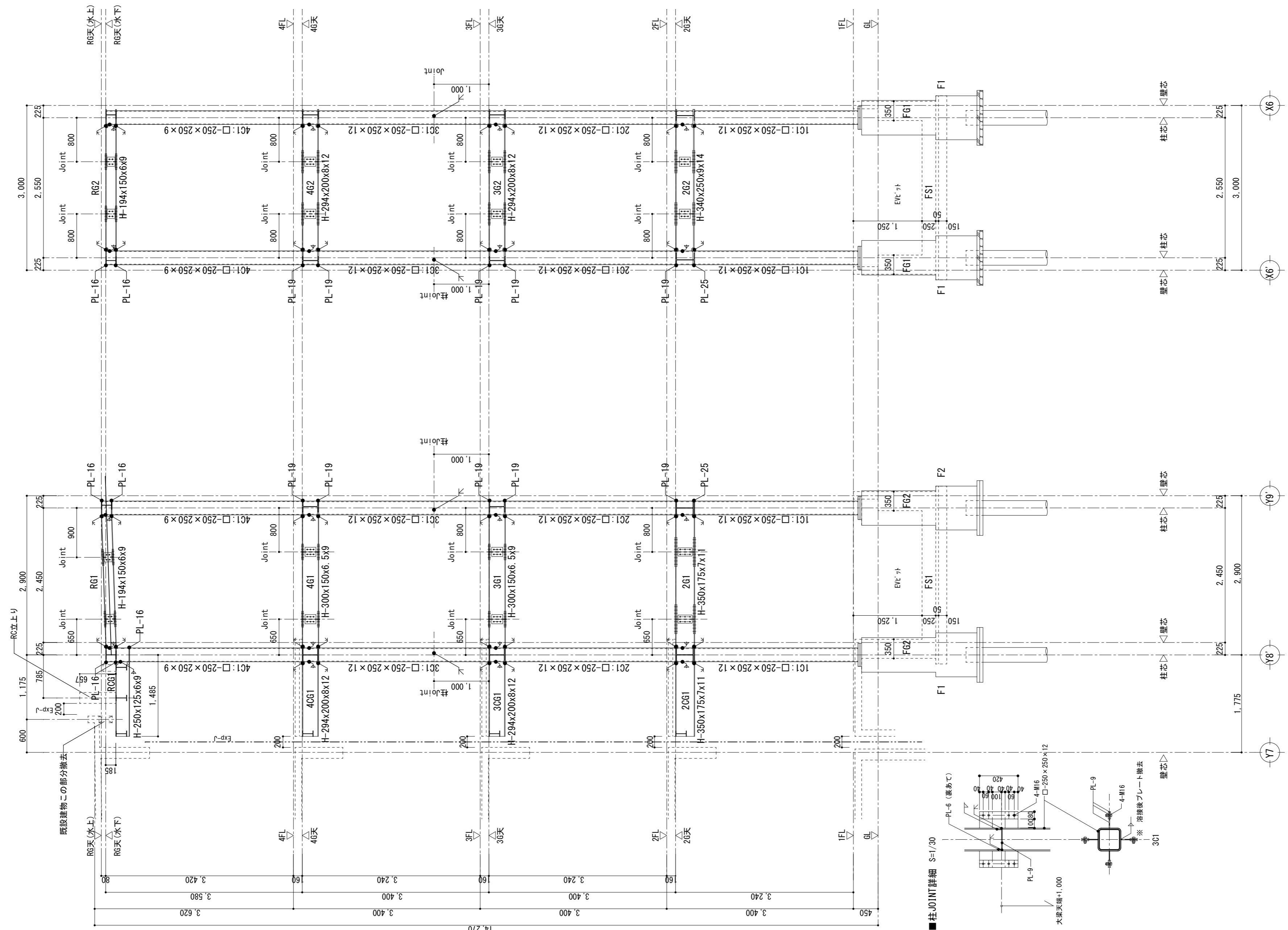
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有)貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

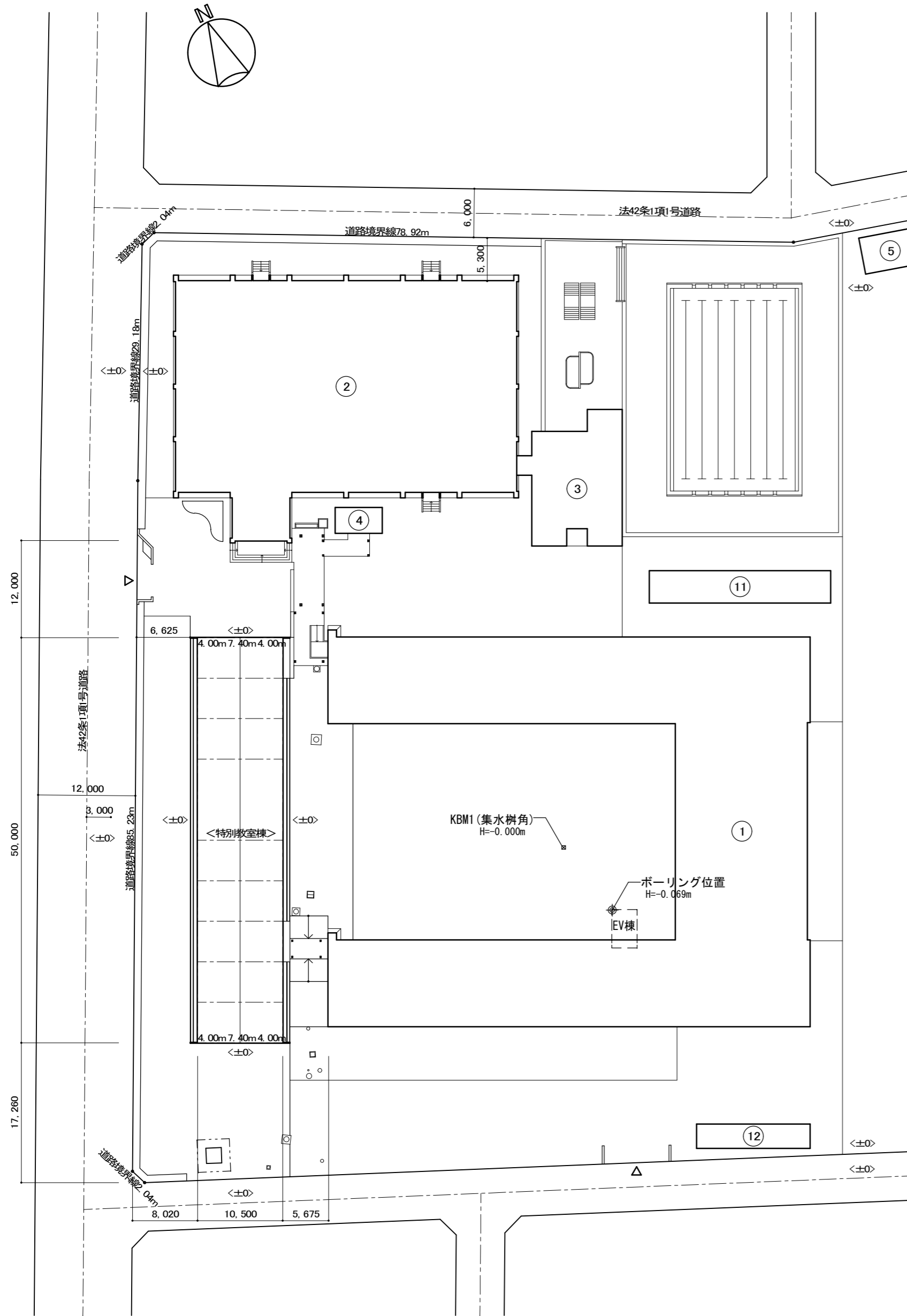
S-13

原図:A2



Y8'通 鉄骨詳細図 S=1:50

X6'通 鉄骨詳細図 S=1:50



調査位置図 S=1:500

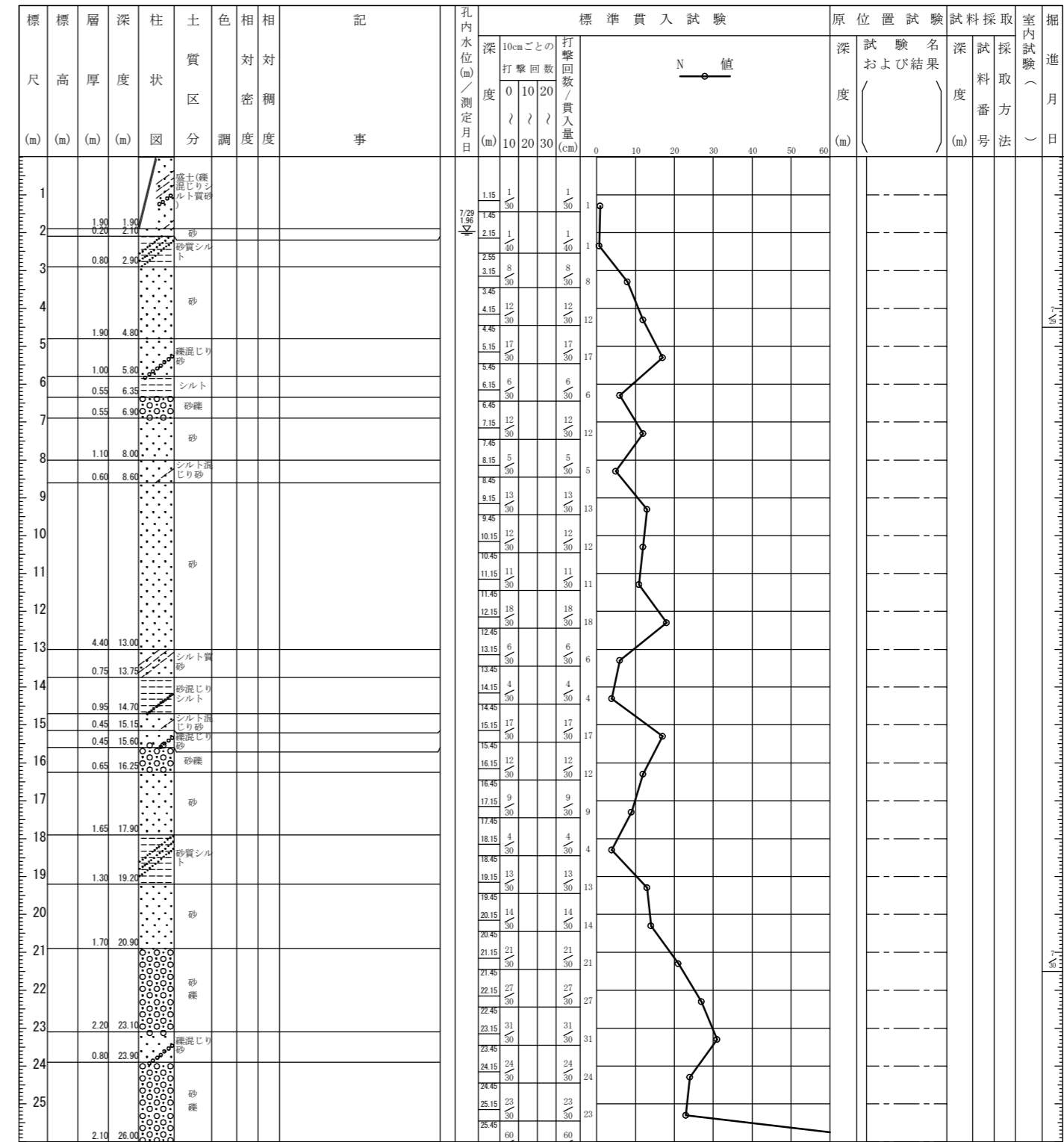
調査名 令和3年度菅教総第1-11号 津市立西橋内中学校改修工事に係る地質調査業務委託

ボーリングNo N24-06-37

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1	調査位置	三重県津市東古河町	北緯	
発注機関	津市建設部管轄課	調査期間	令和3年7月29日～3年7月31日	東経	
調査業者名	株式会社 三新成コンサルタント 電話 (059-264-1981)	主任技師	コア 吉川浩司	ボーリング責任者	網島幹尚
孔口標高	KBM -0.069m	角	180°	方	北 0°
総掘進長	27.25m	度	上 90°	向	西 270° 東 90° 南 180°
		地盤勾配	知床 水平0°	使用機種	ハンマー落下用具
				エンジン	ポンプ



電気設備工事特記仕様書					
I. 工事概要					
1. 工事名称	津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事				
2. 工事場所	津市 東古河町 地内				
3. 建物概要	校舎棟 鉄筋コンクリート造 4階建 延べ面積 6,902.05 m ² 用途区分(7)項				
4. 工事種目	用途区分は消防法施行令別表第一による表記				
下記において●印を付した工事を対象とする。					
●電力設備	・受変電設備	・電力貯蔵設備	・発電設備		
・通信・情報設備	・中央監視制御設備	・医療関係設備			
・構内配電線路	・構内通信線路	●その他（自火報）			
II. 共通仕様					
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。					
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修					
「公共建築工事標準仕様書」（建築工事編・電気（機械）設備工事編 各令和4年版）					
「公共建築改修工事標準仕様書」（建築工事編・電気（機械）設備工事編 各令和4年版）					
「公共建築設備工事標準図」（電気設備工事編・機械設備工事編 各令和4年版）					
・電気設備に関する技術基準を定める省令（電気設備技術基準）					
・電気工事業の業務の適正化に関する法律					
・電気工事士法					
・労働安全衛生法					
・消防関連法規（条例・所轄署指導要領を含む。）					
・電力会社供給約款					
・その他関連法令、関連諸基準					
III. 特記仕様					
1. 一般共通事項					
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。					
1. 一般事項					
(1) 工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。					
(2) 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。					
なお、設計図書のとおりに施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。					
(3) 他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。					
2. 足場					
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。					
内部足場の種別（参考）	・脚立	・棚足場	・その他（		
外部足場の種別（参考）	・手摺先行据置枠組本足場	・移動足場	・高所作業車		
	・その他（				
外部足場設置範囲（参考）	・外部改修部	・設備改修部	・昇降用	・転落防止用防護シート等による養生	・適用しない
・足場（つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る）の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。					
1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者					
2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者					
3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1）又は2）に掲げる者と同等の知識・経験を有する者					
3. 三重県産業廃棄物税					
本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。					
なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。					
4. 電気工作物の種類					
・一般電気工作物	●自家用電気工作物				
5. 電気工事士					
電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。					
6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律					
電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。					

- 電気保安技術者
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。
また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。
なお、電気主任技術者の立会費用は、下記のとおりとする。
・受注者負担

- 品質管理
工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。
チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。

- 出来形管理
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。
① 各種盤据付
耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ）
基礎寸法
水平垂直
② 配管・配線工事
支持間隔
③ スイッチ類の取付高さ

- 測定機器の校正等
試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書（写）又は有効期限内の精度保証書（写）等を提出する。
また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。

- 施工計画等
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。
なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。
① 総合施工計画書
包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。
② 工種別施工計画書（施工要領書）
各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。
③ 施工図（プロット図、平面図、展開図、各種詳細図）
主要機器、重量機器、3kg超過吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。
④ 耐震計算書
⑤ 照度分布図

- 機材等
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。
① 使用機材届出書
② 機器詳細図
使用機材届出書に記載のもの他、監督員の指示による。
③ 各種計算書
設計図書による他、監督員の指示による。

- 完成図書
作成する（ ・ 完成図 ・ 保全に関する資料 （ ） ）
完成図作図範囲（設計図を訂正）
完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用权は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。

- 工事写真
繕工写真写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版））に従い撮影すること。
なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（平成29年3月1日付け国営整第211号）」による。

- 施工条件
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。
(1)施工可能日
・指定なし
・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等）
●指定あり
指定日（・施設休業日 ●打ち合わせ ・その他（ ））
(2)施工可能時間帯
・指定なし
・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等）
●指定あり
指定時間（・（ ）時～（ ）時 ●打ち合わせ ・その他（ ））
(3)その他（ ）

- 事故の発生時
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。
なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。

- 建築副産物情報交換システムの利用
受注者は再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出することとし、また、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見えやすい場所に掲げること。
なお、工事着手前にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータ入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

- 発生材の処理等
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。
分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。

分別解体等の方法
工種 ・新築 ・増築 ・修繕 ・模様替 ・解体 ・その他（ ）
分別解体の方法 ・手作業 ・手作業、機械作業併用

- 引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。（ ）
(1)特別管理産業廃棄物
・変圧器 ・コンデンサ ・その他（ ）
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。
なお、施工に際してPCB等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。
(2)現場内において再利用を図るもの
・発生土 ・その他（ ）
(3)再資源化を図るもの
・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ・（ ）
(4)水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの
・蛍光灯ランプ ・HIDランプ（高輝度放電ランプ） ・その他（ ）
「水銀廃棄物ガイドライン 第3版」（令和3年3月 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。
(5)引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。（マニフェストA、B2、D票を提示すること。）

- 官公署への手続き
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。
なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
●消防設備関係 ・電気工作物関係 ・受電関係 ・通信関係 ・建設工事関係 ・その他（ ）

- 消防法関係の手続き
(1)消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
・本工事（ ・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事 ） ・別途工事
(2)防火対象物使用開始届出書
書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。

- 工事前仮設物
構内への設置 ●できる（施設管理者と協議） ・できない

- 工事前電力
構内既存の施設
・利用できる（ ・有償 ・無償 ） ・利用できない
本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。

- 工事前水
構内既存の施設
・利用できる（ ・有償 ・無償 ） ・利用できない

- 工事中等の保安監理
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引渡しまでの電気保安管理等にかか
る費用は本工事に含まれる。

- 搬入計画
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法（厚、天井高さ、搬入経路上の曲がり等）、障害物（足場等）、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。

- 製品確認
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認をするものとする。

- 機材等の検査及び試験
検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。

- 完成確認及び完成検査時等の電源確保
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。

- 完成時の操作説明
総合盤等操作の必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。

- 不正軽油の使用の禁止
(1)市工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。
(2)受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
(3)受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。

- 施工仕様
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。

- 既設設備等の調査
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。
(1)地中埋設管路
1) 項 目 ●埋設配管 ●構造物 ・その他（ ）
2) 調査範囲 ●埋設ルート ・その他（ ）
(2)貫通及びはつり
1) 項 目 ●鉄筋 ●配管 ・その他（ ）
2) 調査範囲 ●施工部分 ・その他（ ）
(3)既設との取合い
1) 項 目 ●接続箇所 ●増設箇所 ・その他（ ）
2) 調査範囲 ●施工部分 ・その他（ ）

- 施工前の測定等
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。

- 耐震施工
(1)想定される地震に対応するものとする。
(2)耐震計算書を監督員に提出するものとする。

- 耐震基準
耐震措置の計算及び施工方法は、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」（国土交通省大臣官房官庁営繕部）及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（(一財)日本建築センター）を適用する。

- はつり
(1)穴開け及び補修 ・なし ●あり（貫通場所及び口径は別図による）
(2)溝はつり及び補修 ・なし ●あり（はつり深さは別図による）

- あと施工アンカー
性能確認試験及び施工確認試験 ・行う ●行わない

- 基礎の配線ビット
基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。

- 配管・配線の耐震処置
建物引込部の配管の耐震処置 ・行う ●行わない
建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ・行う ●行わない

- 最上階の埋込配管
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。

- 露出配管
(1)雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。
(2)附属品は、ねじ込み形を使用する。
(3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分（2m以下）の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。
(4)通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。
(5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。

- 合成樹脂管
(1)合成樹脂管の管端には、プッシングを取り付ける。
(2)原則として屋外の露出には使用しない。（P F管）

- 予備配管等
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は（P F 2 2）を1本、5回路以上は（P F 2 2）を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。また、二重天井の場合は、天井まで立上げ、位置ボックスを取付ける。

- 金属製電線管等の塗装
(1)露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。
1) 屋外、屋内（電気室、機械室、E P S、居室、廊下）、その他建築意匠上必要な箇所。
2) 図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。
3) 湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。（監督員が指示した場所は除く。）
4) 仮枠貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。
(2)塗装はエンディングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。

- 導入線
通線を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線（φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等）を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。

- 予備スリーブ
梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。
なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。

- ボックス類
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。

- 軽量間仕切のボックス
軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。

- プルボックス
(1)屋外形、特殊な形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。
(2)屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

■memo

■check
client
architect
contractor

■scale

■drawing title
電気設備特記仕様書 1

■project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office

管理建築士：山田 賢治

■drawing no.

■sheet no.

E-1

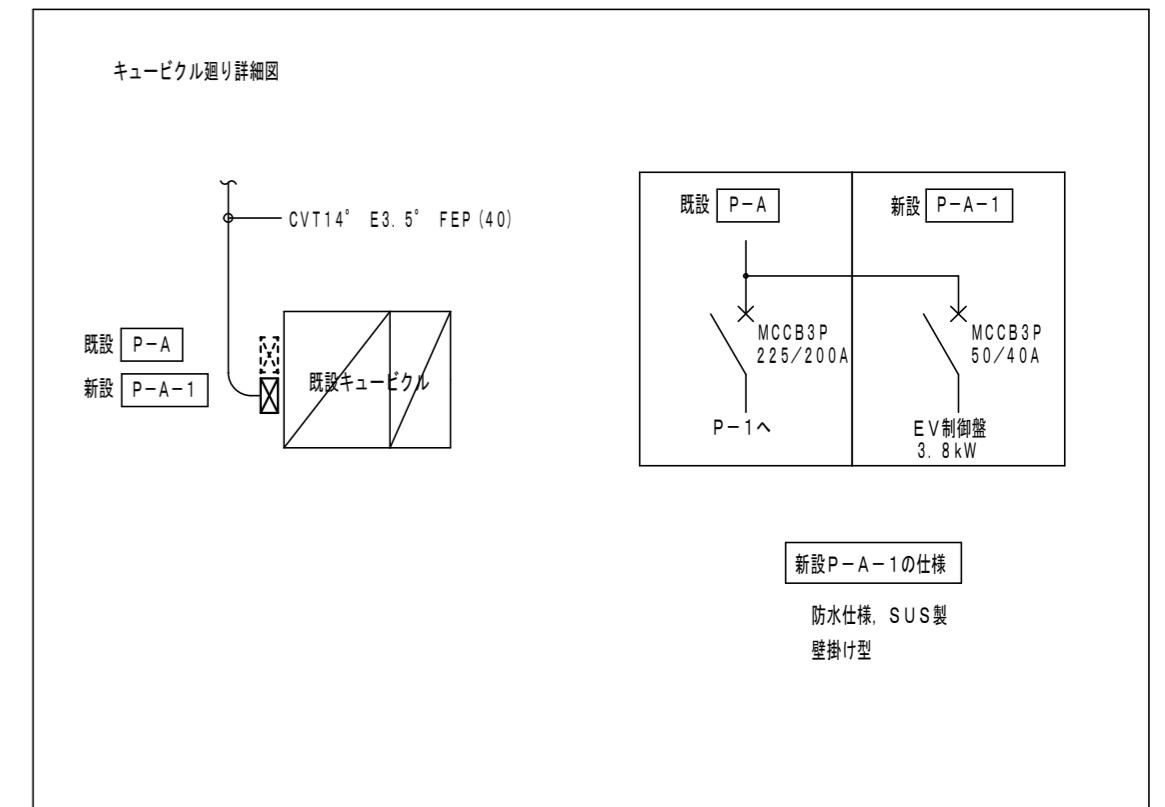
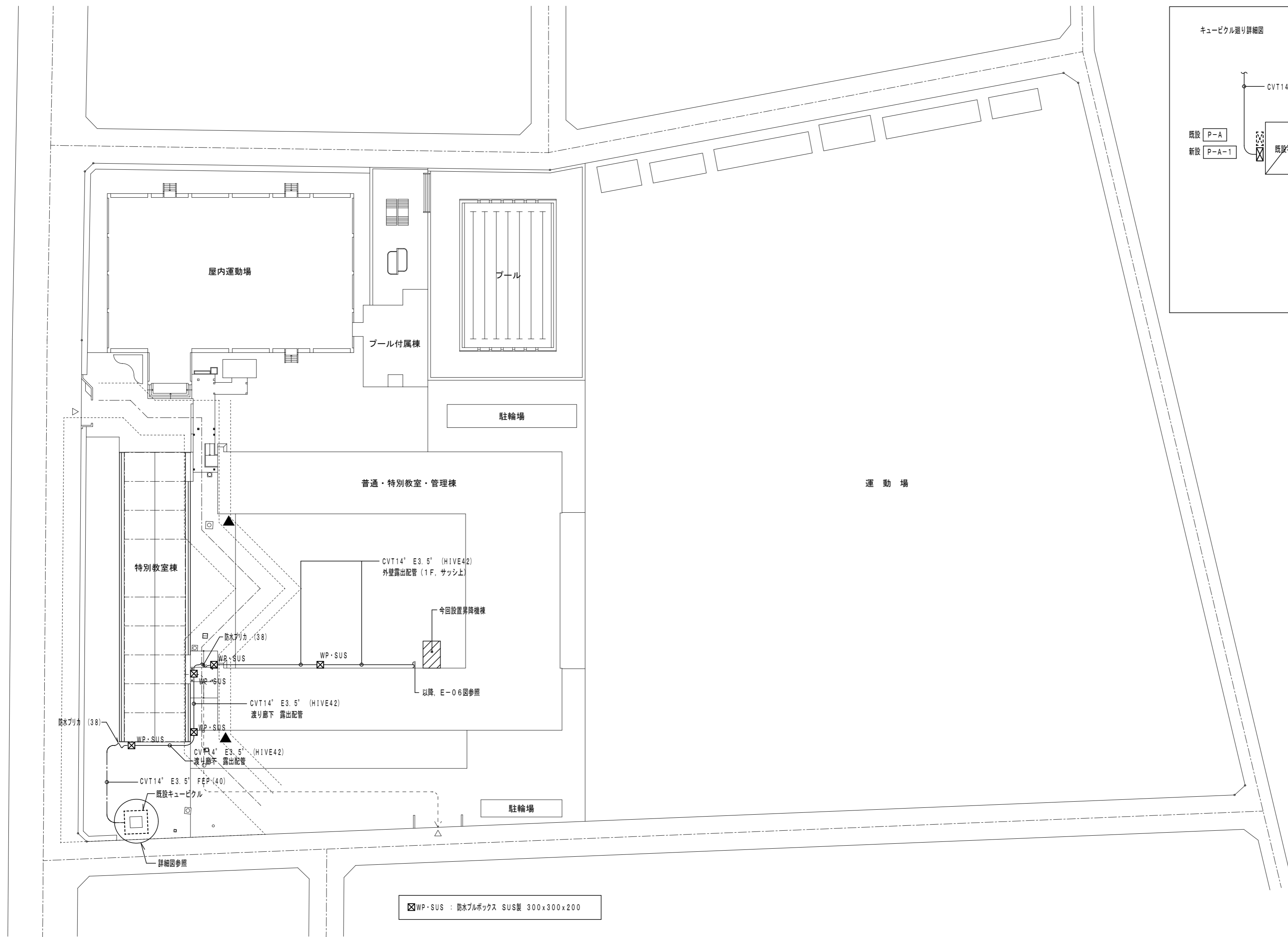
原図:A2

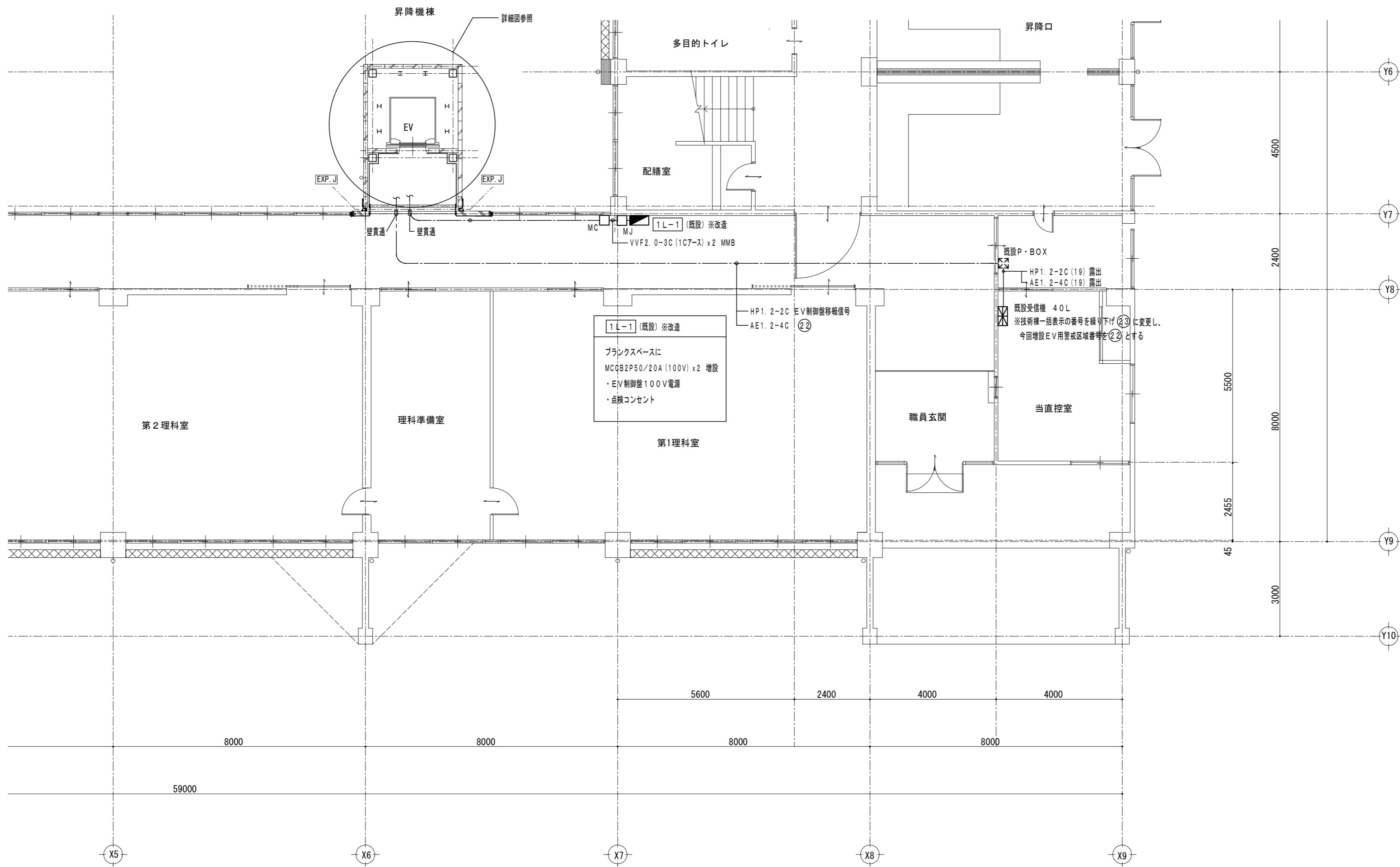
<p>19. ボルト・ナット類 屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの ●ステンレス ・溶融亜鉛メッキ仕上げ</p> <p>20. ケーブル及び配線 (1)表示 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札（ケーブル種別及びサイズ、行き先、施工年、用途、施工者名等を表示。）を取り付ける。 ① ケーブルがスラブを貫通する部分 ② ケーブル分岐部分 ③ 変電所内のケーブル引出し部分 ④ 盤内及び接地端子箱の外部配線引込み部分 ⑤ 屋内の直線部分は、3.0mごと ⑥ プルボックス内 ⑦ 屋外の共同溝等の直線部分は、5.0mごと ⑧ 屋外の地中管路より建物内への引込み部分 ⑨ マンホール及びハンドホールごと (2)ケーブル余長 1) 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数 ・ 2箇所 ・ 4箇所 ● (1) 箇所 2) 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数 ・ 2箇所 ・ 4箇所 ・ () 箇所</p> <p>21. 配線器具の設置 (1)特殊コンセントはプラグ付とする。 (2)電源の種類により色を区別する。 (3)配線器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁棒を使用する。 (4)プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。 (5)カバープレートは、原則として新金属製とする。 なお、器具を実装しない位置ボックスには用途表示をすること。 (6)フロアプレートは、水平高低調整型（空転防止リング付）とする。</p> <p>22. 照明器具の設置 (1)照明器具取付完了後、照度測定を行う。照度計は一般形A A級とする。 (2)天井下地材より支持をする場合は、ワイヤ等により脱落防止の措置を行う。 (3)パイプ吊りの照明器具は振れ止めを施工する。</p> <p>23. 照明改修の際の測定 対象室の改修前後の照度及び回路電流値の測定を次のとおり行うこと。 測定箇所 (2箇所) 測定回数 前後各(1)回</p> <p>24. 分電盤、制御盤、キュービクル等 図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。</p> <p>25. 受変電設備、発電設備の設置場所 (1)保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。 (2)屋内に設置する場合は、床の強度計算書、換気計算書等を監督員に提出する。 (3)基礎の高さは周囲の状況を考慮する。 (4)電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。</p> <p>26. 発電設備の燃料配管 (1)フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。 (2)配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。</p> <p>27. 非常放送設備のスピーカ設置 (1)放送区域の各部からスピーカまでの水平距離は1.0m以内とする。 (2)階段等にスピーカを設置する場合は、垂直距離1.5m以内とする。</p> <p>28. 土工事 (1)埋戻しの材料及び工法 ●B種 (材料：根切り土の中の良質土 / 工法：機器による締固め) ・その他 () ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。 (2)特記なき地中埋設配管の深さは、GL-600mm以上とする。 (3)根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。 (4)機械掘削は根切り底を乱さないようにする。</p> <p>29. ハンドホール、マンホール 高さ900mmを超えるものにあては、タラップ付とする。 なお、タラップの取付は4.50m間隔以内とする。</p> <p>30. 地中配線路の表示杭 下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。 ① 建物への引込口及び送出口付近 ② マンホール・ハンドホール付近 ③ 地中線路の曲折箇所 ④ 道路横断箇所 ⑤ 直線部分では3.0m程度に1個（3.0mに満たない部分はその間に1個）</p>	<p>3. 機器仕様 下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。 なお、詳細については図面による。</p> <p>【電力設備】</p> <p>1. 電灯設備 (1)既設等との取り合い (2)機器類 (3)一般照明器具 (4)照明制御器 (5)外灯 (単独設置) (6)コンセント等 (7)分電盤、制御盤等</p> <p>2. 動力設備 (1)既設等との取り合い (2)機器類 (3)負荷設備 (4)負荷設備への接続 (5)電動機等の接地 (6)分電盤、制御盤等</p> <p>3. 雷保護設備 (1)避雷針 (2)雷サージ保護 (3)電源回路保護 (4)通信回線保護 (5)接地設備 (1)接地工事 (2)接地抵抗測定 (3)接地極埋設標</p> <p>●無し ●盤改造 ●配線接続 ●電源供給 ・その他 () ●分電盤、制御盤等 ・その他 () ●一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯 (単独設置) ●コンセント等 1) 形式 ●公共型 ・一般型 2) 灯具 ●LED灯 ・その他 () 3) 用途 ●屋内用 ・屋外用 ・防災用 4) 環境 ●普通地域 ・塩害地域 5) 照明器具は、認証書又は認定書、試験成績書を提出すること。 1) センサ類 ・明るさセンサ ・人感センサ ・タイマ ・調光スイッチ ・その他 () 2) 調光方式 ・連続調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 ・その他 () 3) 制御方式 ・有線 ・無線通信 1) 照明用ポール ①材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他 () ②配線用遮断器又はカットアウトスイッチ内蔵型とする。 2) 基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 3) 灯具 ・LED灯 ・その他 () 4) 電源 ・商用電源(60Hz) (・200V ・100V) ・その他 () 5) 制御 ・Eスイッチ ・タイマ ・その他 () 6) 接地 ・単独接地 (・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他 () ●一般型 ・防水型 ・バリエーションアウト (・固定型 ・上下動型(アップ式を含む)) 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付できない場合を除く。）とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。</p> <p>・無し ・盤改造 ●配線接続 ・その他 () ●分電盤、制御盤等 ・その他 () ●給水 ・排水 ・消火 ・空調 ・換気 ・排煙 ・昇降機 ・その他 () 図面に特記明示がない場合、負荷設備への接続は本工事とする。 ・専用接地 ・金属管接地 (7.5kW以下) 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工制御盤等年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付できない場合を除く。）とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。 7) 電流計は赤指針付（定格電流指示）とする。</p> <p>1) 受雷部 ・突針 ・棟上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 3) 接地極 ・接地極埋設 ・建築構造体利用 ・測定用補助接地極 4) 接地抵抗の測定 ①測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ②測定回数 ・3回 ・()回 5) 接地極埋設標を設置する。</p> <p>1) 耐雷トランス ・設置 (・単相用 ・動力用) ・設置しない 2) SPD ・低圧用 (・クラスⅠ ・クラスⅡ) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) 3) SPDの性能仕様は別図による 1) 低圧用SPDに使用する配線用遮断器は警報接点付とする。 2) 主幹機器の2次側に設ける場合の配線用遮断器は、定格遮断容量5kVA以上とする。 電話回線、制御回線などの通信回線に侵入するおそれがある場合は、雷サージから機器を保護するため通信用SPDを設置する。</p> <p>1) 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 2) 施工 ・各種単独 ・共用有り () 1) 測定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 2) 測定回数 ・3回 ・()回 接地には接地極埋設標を施工し、接地極の位置がわかるようにする。</p>	<p>【受変電設備】</p> <p>5. 受変電設備 (1)既設等との取り合い (2)機器類 (3)盤類 (4)交流遮断器 (5)断路器 (6)負荷開閉器 (7)変圧器 (8)進相コンデンサ (9)直列リアクトル (進相コンデンサ用) (10)キュービクル等 (11)基礎 (12)配線ビット及び蓋 (13)設置場所 【電力貯蔵設備】 6. 直流電源設備 (1)用途 (2)容量 (3)整流装置 (4)蓄電池 (5)性能 (6)電力平準化用蓄電設備 (7)分散電源エネルギーマネジメントシステム</p> <p>高圧以外の受変電設備については、本項によらず別図による。 ・無し ・改造 (機器取替、追加等を含む) ・増設 ・配線接続 ・その他 () ・盤類 ・交流遮断器 ・断路器 ・避雷器 ・負荷開閉器 ・変圧器 ・進相コンデンサ ・直列リアクトル ・配線用遮断器 ・電磁接触器 ・その他 () 1) 形式 ・キュービクル式配電盤 (JIS C 4620) ・高圧スイッチギア (JEM 1425) (・CX ・CW ・PW ・MW) ・開放形配電盤 ・その他 () 2) 中通路 ・有 ・無 3) 特記事項 () 真空遮断器 (VCB) ①操作方式 ・手動ばね操作 ・電動ばね操作 ・電磁操作 ②引外し方式 ・電流引外し ・コンデンサ引外し ・直流電圧引外し 1) 形式 ・3極単投 ・単極単投 (避雷器用に限る) 2) 操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作 (避雷器用に限る) 1) 形式 ・配電盤用 ・引込柱用 ・地中引込用 2) 配電盤用 ①操作方式 ・フック棒操作 ・遠方手動操作 ・電動操作 ②限流ヒューズ ・有 (ストライカ付き) ・無 ③引外し装置 ・ストライカ引外し ・電圧引外し ・無 ①本体及び制御箱の材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ②保護装置 過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする ③避雷器 ・内蔵 ・無 保護装置は、過電流蓄勢トリップ付地絡方向継電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする 1) 形式 ・油入 ・モールド 2) 設置方式 ・屋外型 ・屋内型 3) ダイアル温度計 ・有 (・最大値指針 無) ・無 油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合は必須とする 1) 絶縁方式 ・油入 ・モールド ・ガス入 2) その他 ①内部異常を検知して動作する保護接点を設けること ②放電装置を附属又は内蔵すること 1) 絶縁方式 ・油入 ・モールド 2) 容量 ・6% ・1.3% 3) その他 内部異常を検知して動作する警報接点を設けること 1) 銘板には、公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 図面ホルダーは、A4サイズ以上（キャビネットのサイズ等により取付できない場合を除く。）とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプテストボタンを取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用銅帯は点検のしやすい場所に設ける。 5) 絶縁抵抗測定用接地端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 配線用遮断器の定格電流は、予備を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。</p> <p>1) 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 2) ビット蓋の加工が必要な場合は、本工事にて行うこと。 ・屋内 ・屋外 (・地上 ・屋上)</p> <p>・非常用照明器具電源 ・受変電設備制御電源 ・その他 () () kVA 1) 出力電圧 直流 (・1.2V ・2.4V ・4.8V ・()V) 2) 整流装置は、蓄電池を充電するための電流並びに監視及び制御等で消費される電流を考慮して選定する。 1) 種類 ・鉛蓄電池 (・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH ・AMH) ・その他 () 2) 最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・()℃</p> <p>() kVA () ・常時インバータ給電方式 ・ラインインタラクティブ方式 ・常時商用給電方式 ・その他 () 整流装置、インバーター装置は、接続する負荷の特性を配慮し選定する。 1) 種類 ・鉛蓄電池 (・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH ・AMH) ・その他 () 2) 最低蓄電池温度 ・5℃ ・15℃ ・25℃ ・-5℃ ・()℃ 停電補償時間 ()</p> <p>・仕様詳細は別図による。 ・仕様詳細は別図による。</p>	<p>【発電設備】</p> <p>10. 燃料式発電設備 (1)用途 (2)設置場所 (3)機器 (4)発電装置 (5)燃料 (6)燃料槽 (7)給油ボックス (8)燃料移送ポンプ (9)基礎 (10)その他 【通信・情報設備】 12. 構内情報通信網設備 13. 構内交換設備 (1)機器 (2)交換装置 (3)電話機 (4)端子盤類 (5)アウトレット (6)情報表示設備 (1)設備 (2)マルチン装置 (3)出退表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置 (6)映像音響設備</p> <p>・防災電源専用 (防災認定品) ・防災電源兼用 (防災認定品) ・一般用 ・常用 ・非常用 ・屋内 (・普通地域 ・塩害地域) ・発電装置 ・燃料槽 ・給油ボックス ・燃料移送ポンプ ・その他 () 1) 種類 ・ディーゼル発電装置 ・ガスエンジン発電装置 ・ガスタービン発電装置 ・簡易形 ・オープン式 ・キュービクル式 (・85dB(A)/1m ・75dB(A)/1m) 3) 始動時間 (停電検出後) ・1.0秒以内 ・4.0秒以内 ・()秒以内 4) 連続運転時間 ・2時間以上 ・1.0時間以上 ・2.4時間以上 ・7.2時間以上 ・その他 () 5) 発電機 ①電気方式 ・三相3線式 (・6.6kV ・200V ・()V) ・単相3線式 (200V/100V) ・単相2線式 (・200V ・100V ・()V) 60Hz ②定格周波数 ③定格出力 () kVA 6) 原動機 ①定格出力 () kW 以上 () ps 以上 ②冷却方式 ・ラジエータ方式 ・その他 () 1) 種類 ・軽油 ・灯油 ・A重油 ・その他 () 2) 引渡時燃料 ・満タン ・指定なし ・その他 () 1) 形式及び容量 ・パッケージ搭載タンク () リットル ・燃料小出槽 () リットル ・主燃料槽 () リットル ・屋外型 (・ステンレス製 ・鋼製) ・屋内型 (・ステンレス製 ・鋼製) ①設置場所 ・屋内 (・屋外 (地上) ・地下埋設 (・タンク室内埋設 ・直埋設) ②形式 ・二重殻タンク ・一重殻タンク ・その他 () ③設置工事 ・本工事 ・別途工事 ・その他 () ④タンク室工事 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 1) 材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・その他 () 2) 油量指示計 ・有 ・無 1) 電動ポンプ ・歯車ポンプ ・油中ポンプ 2) 手動ポンプ (ウイングポンプ) ・有 ・無 3) 電動ポンプ水没防止カバー ・有 ・無 ・本工事 (・2.1N/mm2 ・1.8N/mm2) ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () ()の仕様詳細は別図による。 ・仕様詳細は別図による。 ・交換装置 ・電話機 ・端子盤類 ・アウトレット ・その他 () 1) 種別 ・構内交換装置 (・デジタルPBX ・IP-PBX ・VoIPサーバ) ・ポータル電話装置 ・その他 () 2) 局線応答方式 ・局線中継台 ・分散中継台 ・ダイヤルイン ・ダイレクトインダイヤル ・ダイレクトインライン ・その他 () 3) 保安用接地 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 4) 本配電盤(MDF) ・自立フレーム (・片面形 ・両面形) ・交換機一体型 ・壁掛型 ・その他 () 5) 電源装置 ①形式 ・別置型 ・一体形 ・その他 () ②停電補償時間 ・30分以上 ・()以上 (3) 電話機 ・一般電話機 ・多機能電話機 ・IP電話機 ・デジタルコード以電話機 (PHS方式) ・IPコード以電話機 (無線LAN方式) ・その他 () (4) 端子盤類 1) 端子盤 ・中継端子盤 (IDF) ・室内端子盤 2) 中継端子盤には実装数の20%以上、室内端子盤には10P以上の接続端子板スペースを見込む。 (5) アウトレット ・ローテーションアウトレット (・固定型 ・上下動型(アップ式を含む)) ・壁コンセント ・その他 () 14. 情報表示設備 (1)設備 (2)マルチン装置 (3)出退表示装置 (4)時刻表示装置 (5)警報等表示装置 (6)映像音響設備 ・マルチン装置 ・出退表示装置 ・時刻表示装置 ・警報等表示装置 仕様詳細は別図による。 仕様詳細は別図による。 仕様詳細は別図による。 1) 機器 ・表示盤 ・検出装置 ・その他 () 2) 表示盤 ①表示方式 ・表示窓式 ・その他 () ②施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 3) 検出装置 ①検出方式 ・電極 ・無電圧接点 ・その他 () ②施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 () 4) 図面に特記明示がない場合、検出装置への接続は本工事とする。 ・仕様詳細は別図による。</p>
---	---	--	--

16. 拡声設備	<ul style="list-style-type: none"> ・増幅器 ・付属機器 ・操作装置 ・スピーカ ・その他 () ・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照) ・専用 出力 () W
(1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・増幅器 ・付属機器 ・操作装置 ・スピーカ ・その他 () ・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照) ・専用 出力 () W
(2)増幅器	<ul style="list-style-type: none"> ・増幅器 ・付属機器 ・操作装置 ・スピーカ ・その他 () ・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照) ・専用 出力 () W
(3)付属機器	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディオミキサー ・リモコンマイク ・電源制御器 ・録音再生装置 (・CD ・メモリアudio ・その他 ()) ・アナウンスレコーダ (・チャイム ・独自メッセージ ・プログラムタイマ ・その他 ())
(4)操作装置	<ul style="list-style-type: none"> ・有線マイクロホン ・無線マイクロホン (・電波式 (・アナログ ・デジタル) ・赤外線式) ・ラジオチューナー (・FM ・AM ・その他 ()) ・スピーカ切替装置 ・その他の機器 ()
(5)スピーカ	<ul style="list-style-type: none"> ・卓型 ・キャビネットラック型 ・壁掛型 ・その他 () ・非常放送兼用 (仕様は非常放送装置を参照) ・専用 結線 ・1W ・3W ・ () W ・インピーダンス ・Lo形 ・Hi形 ・設置場所 ・屋内 ・屋外 ・その他 ()
17. 誘導支援設備	<ul style="list-style-type: none"> ・音声誘導装置 ・インターホン ・トイレ等呼出装置
(1)設備	<ul style="list-style-type: none"> ・音声誘導装置 ・インターホン ・トイレ等呼出装置
(2)音声誘導装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 検出方式 ・磁気式 ・無線式 ・画像認識式 ・その他 () 2) 設置場所 ・屋外 (防雨形) ・屋内 3) 機能 ・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する ・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする ・その他 ()
(3)インターホン	<ul style="list-style-type: none"> 4) 機器 ・制御装置 ・送信機 ・受信機 ・その他 () 5) 制御装置 ・壁掛型 ・卓上形 ・複合盤組込 ・その他 () 6) 送信機 ・壁掛形 ・卓上形 ・埋込形 ・その他 () 7) 受信機 ・スピーカ式 ・イヤホン式 ・その他 () 1) 用途 ・内部受付用 ・外部受付用 ・夜間訪問用 ・身体障害者用 ・保守用 ・その他 () 2) 機能 ・音声通話 ・映像モニタ 3) 通話網 ・親子式 ・相互式 ・複合式 4) 通話方式 ・同時通話式 ・交互通話式 ・その他 () 5) 機器 ・親機 ・子機 ・その他 () 6) 親機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状 ・壁掛型 ・卓上形 ・複合盤組込 ・その他 () ②送受話器 ・電話機形 ・マイク形 ・その他 () 7) 子機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状 ・壁掛形 ・卓上形 ・埋込形 ・その他 () ②送受話器 ・電話機形 ・マイク形 ・その他 ()
(4)トイレ等呼出装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 用途 ・トイレ呼出 ・受付呼出 ・非常通報 ・その他 () 2) 機器 ・親機 ・呼出スイッチ ・警報装置 ・その他 () 3) 親機 ・壁掛型 ・卓上型 ・複合盤組込 ・その他 () 4) 呼出スイッチ ・押ボタン式 ・引紐式 ・その他 () 5) 警報装置 ・光 ・音声 ・ブザー ・ベル ・その他 ()
18. テレビ共同受信設備	<ul style="list-style-type: none"> ・UHF ・BS ・CS ・FM ・CATV ・その他 ()
(1)受信放送	<ul style="list-style-type: none"> ・UHF ・BS ・CS ・FM ・CATV ・その他 ()
(2)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・増幅器 ・混合器 ・分波器 ・分岐器 ・分配器 ・機器収容箱 ・アンテナ ・その他 ()
(3)アンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 1) 放送 ・UHF ・BS ・CS ・FM ・その他 () 2) マスト ・地上波用 (・壁面取付 ・自立 ・既設利用) ・衛星用 (・壁面取付 ・自立 ・既設利用) ・その他 () 3) 自立用基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ()
19. 監視カメラ設備	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別図による。
20. 駐車場管制設備	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別図による。
21. 防犯・入退室管理設備	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別図による。
22. 自動火災報知設備	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機 ・副受信機 (表示装置) ・中継器 ・発信機 ●感知器
(1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機 ・副受信機 (表示装置) ・中継器 ・発信機 ●感知器
(2)受信機	<ul style="list-style-type: none"> ・光警報装置 ・その他 () 1) 型式 ・P型1級 ・P型2級 ・R型 2) 回線数 ・ () 回線 ・ () アドレス 3) 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 4) 盤形式 ・複合盤組込 ・自立型 ・壁掛型 ・その他 ()
(3)副受信機 (表示装置)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 盤形式 ・自立型 ・壁掛型 ・その他 () 2) 回線数 ・ () 回線 ・ () アドレス 3) 表示装置の仕様詳細は別図による。
(4)中継器	<ul style="list-style-type: none"> 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能
(5)発信機	<ul style="list-style-type: none"> 1) 型式 ・アドレス付 ・P型1級 ・P型2級 2) 消火栓ポンプ起動 特記なき場合は、発信機運動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する。 3) 設置 ・単独設置 ・機器収容箱に組込 ・消火栓ボックス (別途) に組込 ・その他 ()
(6)感知器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 型式 ・アドレス付 ・一般型 2) 種類 ・熱感知器 ・空気管式 ●煙感知器 ・炎感知器 3) 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 4) 機器仕様 ●一般 ・防水 ・防爆 ・防食 ・その他 ()
(7)光警報装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 機器 ・警報装置 ・制御装置 ・同期装置 2) 警報装置 ・天井付 ・壁付 3) 同期装置 ・自走同期式 ・外部同期式

23. 自動閉鎖設備	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制御器 ・感知器 ・自動閉鎖装置 ・自動開錠装置
(1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制御器 ・感知器 ・自動閉鎖装置 ・自動開錠装置
(2)運動制御器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 制御対象 ・防火戸 ・防火シャッター ・防排煙ダンパー ・非常口等の扉 ・その他 () 2) 回線数 () 回線 (遠方復帰機構 () 回路) 3) 設置 ・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤
(3)感知器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 型式 ・アドレス付 ・一般型 2) 種類 ・煙感知器 (・2種 ・3種) 3) 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 4) 機器仕様 ・一般 ・防水 ・防爆 ・防食 ・その他 ()
(4)自動閉鎖装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 方式 ・電磁式 ・ラッチ式 ・その他 () 2) 施工 ・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事
(5)自動開錠装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 方式 ・電気錠 ・その他 () 2) 施工 ・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ()
24. 非常警報設備	<ul style="list-style-type: none"> ・非常放送装置 ・非常ベル
(1)設備	<ul style="list-style-type: none"> ・非常放送装置 ・非常ベル
(2)非常放送装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 消防法基準適合マーク品とする。 2) 機器 ・増幅器 ・スピーカ ・非常用リモコンマイク ・その他 () 3) 増幅器 <ul style="list-style-type: none"> ①出力 () W ②出力インピーダンス ・Lo形 ・Hi形 ③形式 ・ロングラック型 ・スタンダードラック型 ・壁掛型 ・その他 () ④機能 ・マイク放送 ・運動放送 (・自火報設備 ・緊急地震速報設備) ・その他 () ⑤用途 ・拡声設備兼用 ・非常放送専用 4) スピーカ <ul style="list-style-type: none"> ①結線 ・1W ・3W ・ () W ②インピーダンス ・Lo形 ・Hi形 ③設置場所 ・屋内 ・屋外 ・その他 () ④用途 ・拡声設備兼用 ・非常放送専用 5) 非常用リモコンマイク <ul style="list-style-type: none"> 型式 ・壁掛形 ・ラック収納形 ・卓上形 ・その他 ()
(3)非常ベル (自動サイレンを含む)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 機器 ・起動装置 ・非常ベル ・表示灯 ・その他 () 2) 設置 ・単独設置 ・機器収容箱に組込 ・消火栓ボックス (別途) に組込 ・その他 ()
25. ガス漏れ火災警報設備	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機 ・副受信機 ・中継器 ・検知器 ・警報器
(1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機 ・副受信機 ・中継器 ・検知器 ・警報器
(2)受信機	<ul style="list-style-type: none"> 1) 回線数 () 回線 2) 種類 ・都市ガス用 ・液化石油ガス用 3) 設置 ・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤 ・その他 ()
(3)副受信機	<ul style="list-style-type: none"> 設置 ・単独 (・壁掛形 ・自立形) ・火災受信機等との複合盤 ・その他 ()
(4)検知器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 動作 ・単独 (単独動作) ・連動 (受信機に伝送) 2) 定格電圧 ・AC100V ・DC24V (受信機等から供給) ・その他 () 3) ガス検知出力信号 ・有電圧出力方式 ・無電圧接点方式
【中央監視制御設備】	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別紙による。
【医療関係設備】	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別紙による。
26. 構内配電線路	<ul style="list-style-type: none"> ・地中線式 (・直埋 ●管路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
(1)配線方式	<ul style="list-style-type: none"> ・地中線式 (・直埋 ●管路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
(2)建柱	<ul style="list-style-type: none"> 1) 施工 ・本工事 ・既設柱利用 ・その他 () 2) 電柱 ・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・バンザマスト ・その他 () 3) 支持材 ・根かせ ・根はじき ・根巻き ・底板 ・支線 (保護ガード ・有 ・無)
(3)装柱機器 (高圧用)	<ul style="list-style-type: none"> 4) 装柱材料 ・有 (電力仕様) ・無 5) 銘板 ・有 ・無 1) 機器 ・開閉器 ・避雷器 ・カットアウト ・碍子 ・その他 () 2) 耐環境性 ・一般用 ・耐塩用 3) 開閉器 仕様は 5. 受変電設備 (6) 負荷開閉器 による。
(4)装柱機器 (低圧用)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 機器 ・開閉器 ・開閉器箱 ・避雷器 ・カットアウト ・碍子 ・その他 () 2) 耐環境性 ・一般用 ・耐塩用
(5)ハンドホールマンホール	<ul style="list-style-type: none"> 1) 形式 ●ブロック式 ・現場打ち 2) 施工 ●本工事 (・建築工事 ●電気設備工事) ・別途工事 ●既設利用 ・その他 ()
(6)鑄鉄蓋	<ul style="list-style-type: none"> 3) ケーブル支持金物の取付 ●2箇所 ・4箇所 ・ () 箇所 4) 重車両の通行 ・有 (破壊荷重 200kN以上、衝撃係数 0.1 (走行速度制限箇所)) ・無 1) 鑄鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。 2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。 1) 種類 ●FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他 () 2) 標示杭埋設 ●コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分) 3) 埋設標識シート ●2倍長 ・その他 () 4) 埋設標識シートの表記は電力用であることがわかるものとする。
(7)地中ケーブル保護材料	<ul style="list-style-type: none"> 1) 種類 ●FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他 () 2) 標示杭埋設 ●コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分) 3) 埋設標識シート ●2倍長 ・その他 () 4) 埋設標識シートの表記は電力用であることがわかるものとする。

【構内通信線路】	<ul style="list-style-type: none"> ・電話 ・拡声 ・時刻表示 ・火災報知 ・非常警報 ・インターホン ・テレビ共同受信 ・防犯 ・制御 ・その他 () ・地中線式 (・直埋 ・露路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
27. 構内通信線路	<ul style="list-style-type: none"> ・電話 ・拡声 ・時刻表示 ・火災報知 ・非常警報 ・インターホン ・テレビ共同受信 ・防犯 ・制御 ・その他 () ・地中線式 (・直埋 ・露路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
(1)用途	<ul style="list-style-type: none"> ・電話 ・拡声 ・時刻表示 ・火災報知 ・非常警報 ・インターホン ・テレビ共同受信 ・防犯 ・制御 ・その他 () ・地中線式 (・直埋 ・露路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
(2)配線方式	<ul style="list-style-type: none"> ・地中線式 (・直埋 ・露路) ・架空線式 (・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式 (・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他 ()) ・その他 ()
(3)建柱	<ul style="list-style-type: none"> 1) 施工 ・本工事 ・既設柱利用 ・構内配電線柱に添架 ・その他 () 2) 電柱 ・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・バンザマスト ・その他 () 3) 支持材 ・根かせ ・根はじき ・根巻き ・底板 ・支線 (保護ガード ・有 ・無)
(4)ハンドホールマンホール	<ul style="list-style-type: none"> 4) 装柱材料 ・有 ・無 5) 銘板 ・有 ・無 1) 形式 ・ブロック式 ・現場打ち 2) 施工 ・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事 ・既設利用 ・その他 ()
(5)鑄鉄蓋	<ul style="list-style-type: none"> 3) ケーブル支持金物の取付 ・2箇所 ・4箇所 ・ () 箇所 4) 重車両の通行 ・有 (破壊荷重 200kN以上、衝撃係数 0.1 (走行速度制限箇所)) ・無 1) 鑄鉄蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。 2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。 1) 種類 ●FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他 () 2) 標示杭埋設 ●コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分) 3) 埋設標識シート ●2倍長 ・その他 () 4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
(6)地中ケーブル保護材料	<ul style="list-style-type: none"> 1) 種類 ●FEP ・GLT (PEライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他 () 2) 標示杭埋設 ●コンクリート製 ・鉄製 (アスファルト部分) 3) 埋設標識シート ●2倍長 ・その他 () 4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
【その他】	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様詳細は別紙による。
28. 消火器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 設置 ・本工事 (・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事) ・別途工事 2) 消火器 種別 ()、数量 () 本 3) 消火器収納箱 材質 ()、数量 () 面
4. 使用資機材の適用規格	<ul style="list-style-type: none"> (1) 以下に定めるとおりとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本産業規格 (JIS規格) 適合品の使用を原則とする。 ● 電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品 <ul style="list-style-type: none"> ・電気用品安全法適合品 ● 耐熱・耐火電線、耐熱・耐火ケーブル <ul style="list-style-type: none"> ・消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火・耐熱電線及び耐火バスタグの適合性検査を行い合格したものの ・第三者認証機関として(一社)日本電線工業会規格 (JCS規格) への適合性検査を行い合格したものの ● 非常用照明器具 <ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法に定める国土交通大臣認定品 ・(一社)日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの ● 誘導灯 <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 ((一社)日本電気協会 (JEA誘導灯認定委員会)) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの ● 制御盤 <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)日本配電制御システム工業会規格 (JSIA規格) 適合品 ● 消防用加圧送水装置、不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災通報装置、総合操作盤等の認定対象品 <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 ((一財)日本消防設備安全センター (消防用設備等認定委員会)) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの ● 不活性ガス消火設備等の操作箱、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品 <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの ● 金属閉鎖形スイッチギア <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)日本電機工業会規格 (JEM規格) 適合品 ● 高圧機器 (遮断器、限流ヒューズ、負荷開閉器、避雷器、断路器、特定機器以外の変圧器、計器用変成器、保護継電器) <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)電気学会電気規格調査会規格 (JEC規格) 適合品 ● 直流電源装置 (防災電源用) <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 ((一社)日本電気協会 (JEA蓄電池設備認定委員会)) の認定をうけ、認定証票が貼付されたもの ● 交流無停電電源装置 <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)電気学会電気規格調査会規格 (JEC規格) 適合品 ● 自家発電装置 (防災電源用) <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 ((一社)日本内燃力発電設備協会) の認定を受け、認定証票 (長時間形) が貼付されたもの ● 自家発電装置 (防災電源用でないもの) <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)日本電機工業会規格 (JEM規格) 適合品 ● 太陽電池モジュールの支持物 <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備の技術基準の解釈第46条第2項又は第3項の規定に適合するもの ● 電話用設備 (電話交換機、電話機等) <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 ((一財)電気通信端末機器審査協会 (JATE) 等) の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの ● 非常用放送設備 <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 (日本消防検定協会) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの ● テレビ共同受信機器 <ul style="list-style-type: none"> ・優良住宅部品 (BL部品) の認定を受けたもので、BLマーク証紙が貼付されたもの ・(一社)電子情報技術産業協会スーパーハイビジョン受信マーク登録品の認定を受けたもので、SHマークが貼付されたもの ● 自動火災報知設備 <ul style="list-style-type: none"> ・登録認定機関 (日本消防検定協会) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの
(2)特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を証明する書類を監督員に提出し、監督員の承諾を得るものとする。	<ul style="list-style-type: none"> (2) 特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を証明する書類を監督員に提出し、監督員の承諾を得るものとする。





1階平面図 S=1:100

memo

check
 client
 architect
 contractor

scale
 S=1:100

drawing title
 EV電源設備・自火報設備 1階平面図

project title
 津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

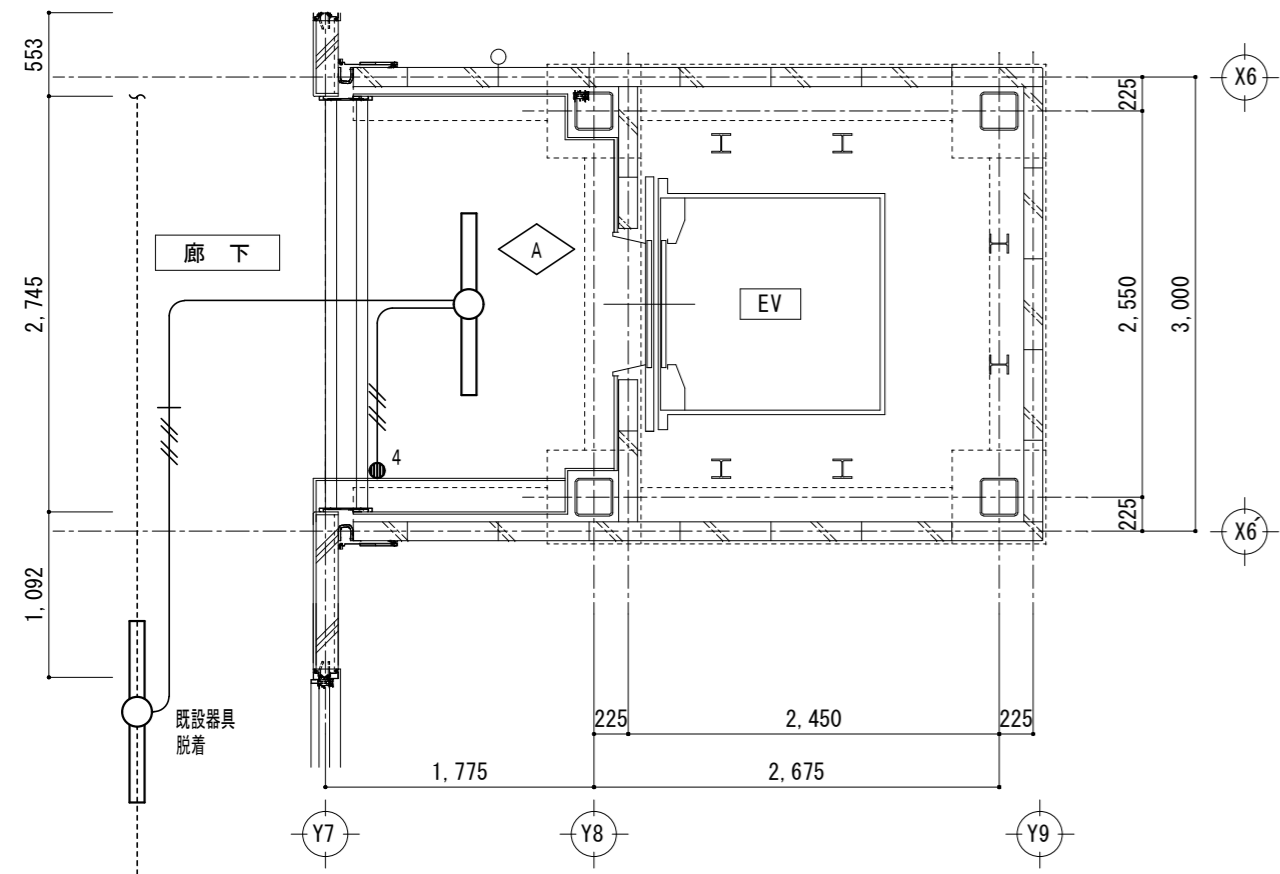
Kisho
 Architectural
 Design Office

一級建築士 登録第146490号
 一級建築士事務所 登録第1-169号
 (有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
 管理建築士: 山田 賢治

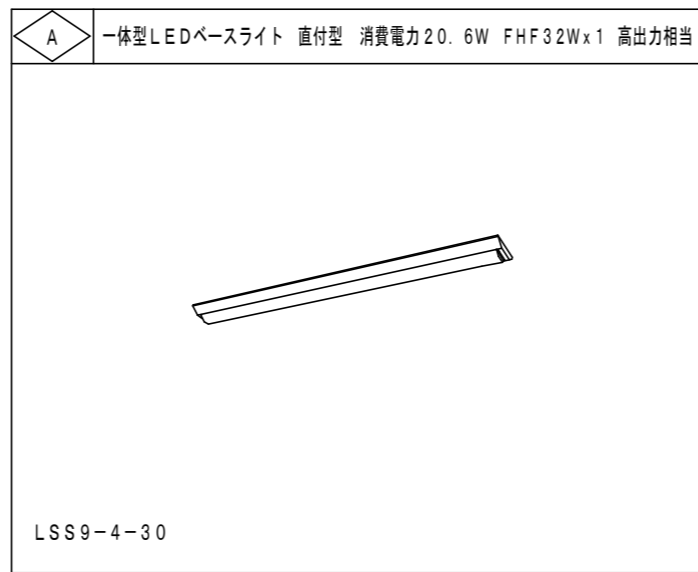
drawing no.

sheet no.

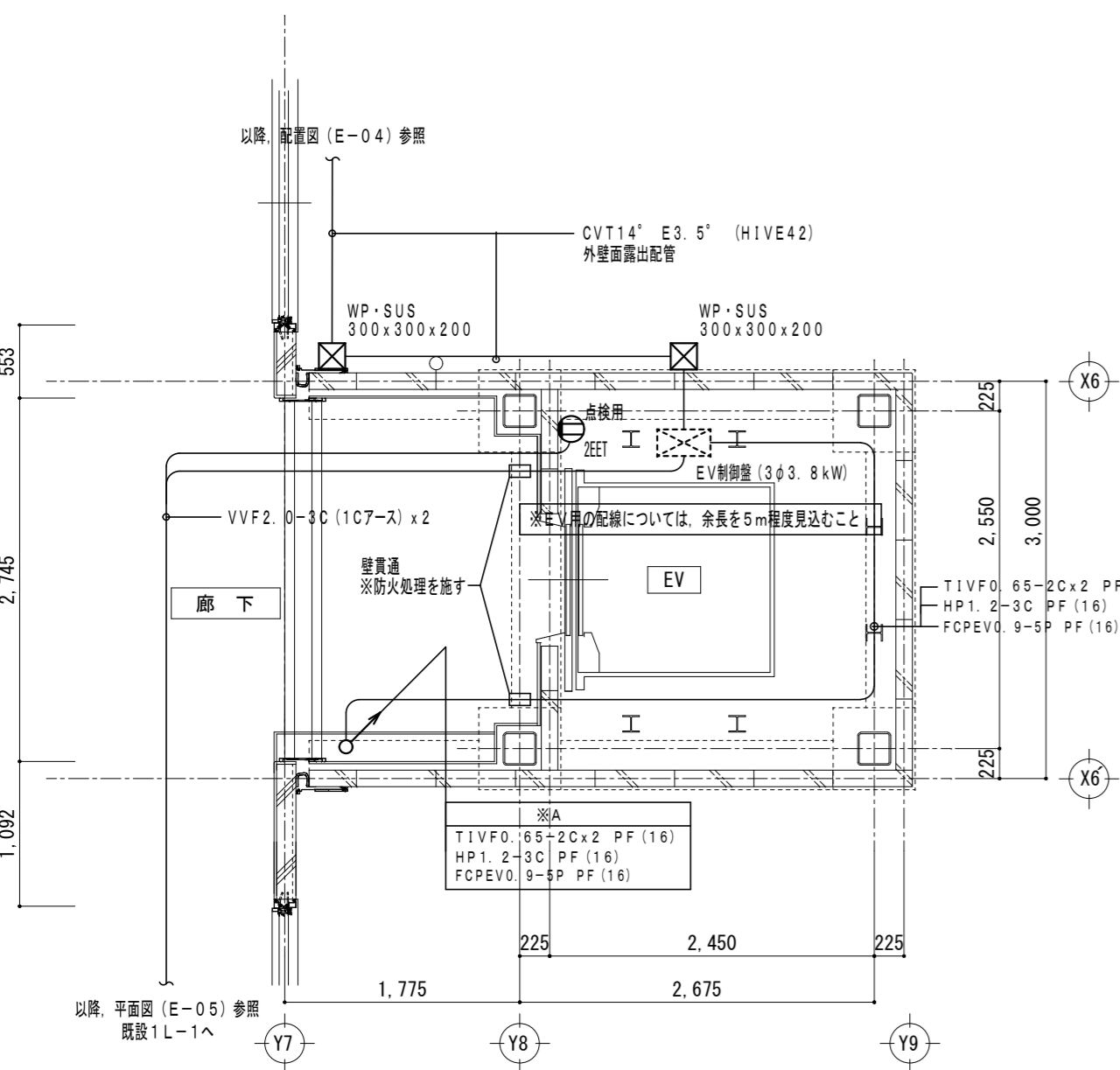
E-5
 原図:A2



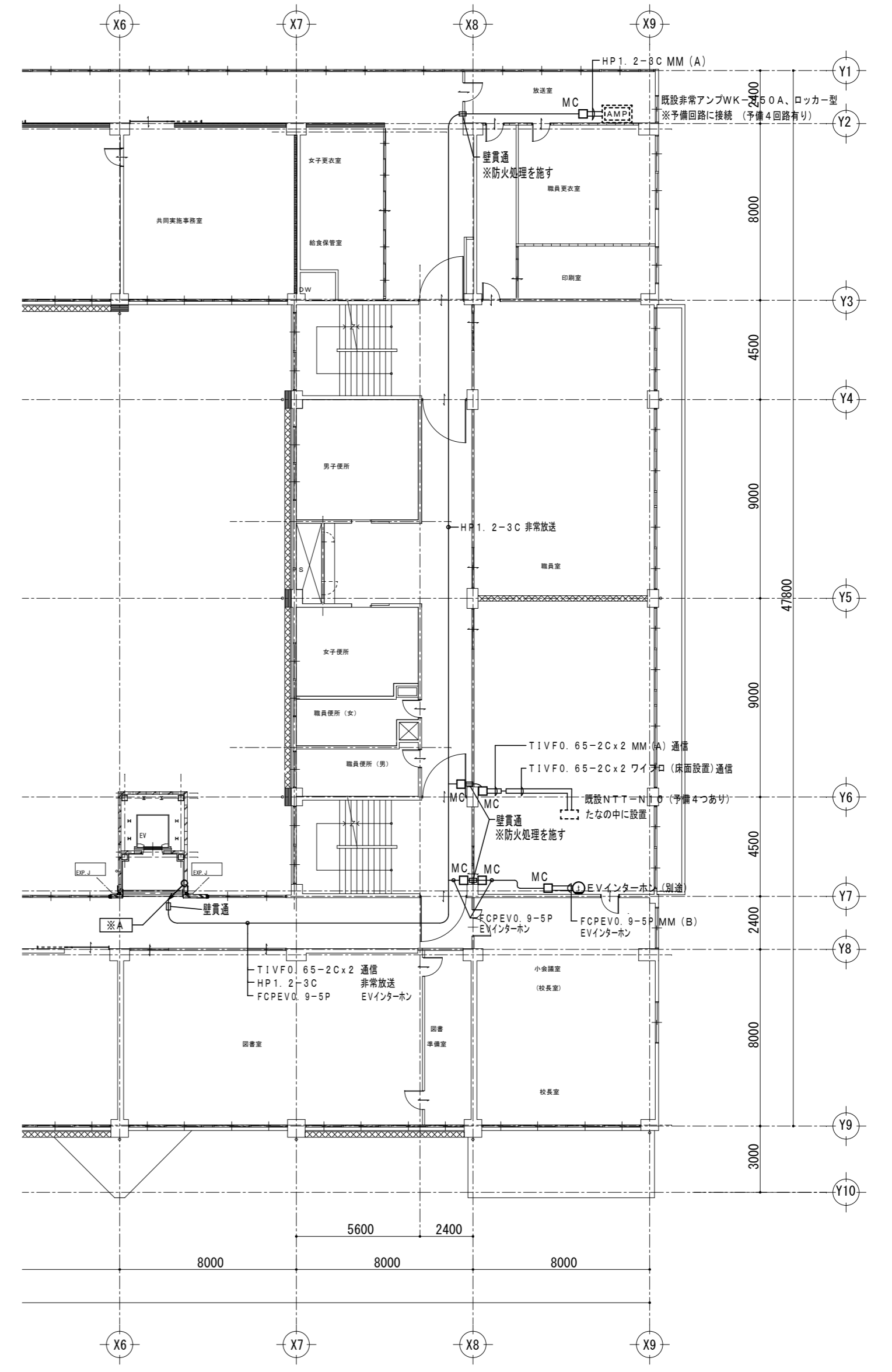
電灯設備 1~4階 EV平面詳細図 1/50



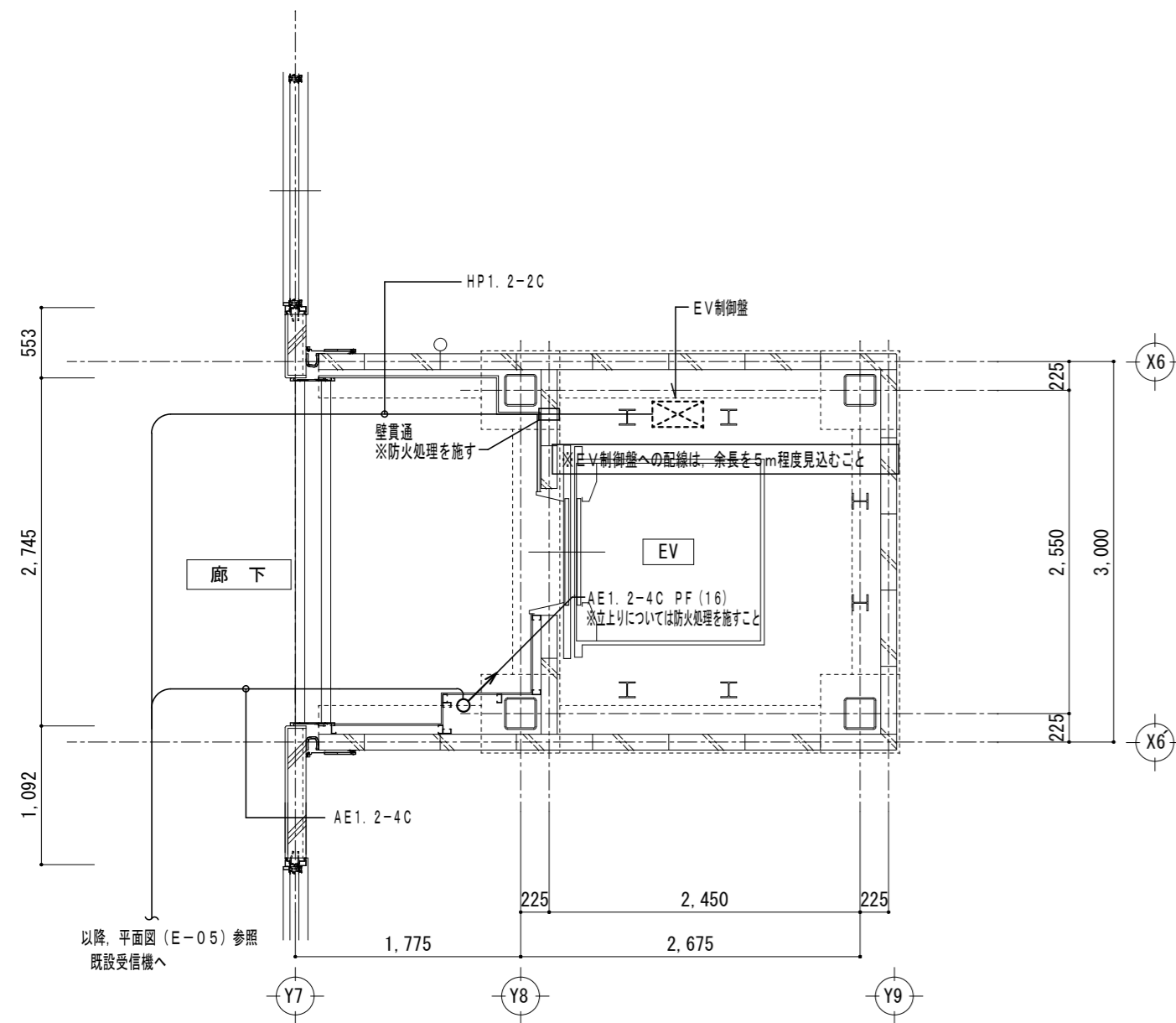
- 特記事項
- 配入なき配管配線は下記とする
 - VVF1.6-3C+2C (1C7-ス) PF (28)
 - VVF1.6-2Cx2 PF (28)
 - 凡例
 - 4 : 埋込4路スイッチ 4W15Ax1
- ※二重天井内はケーブル転がしとする



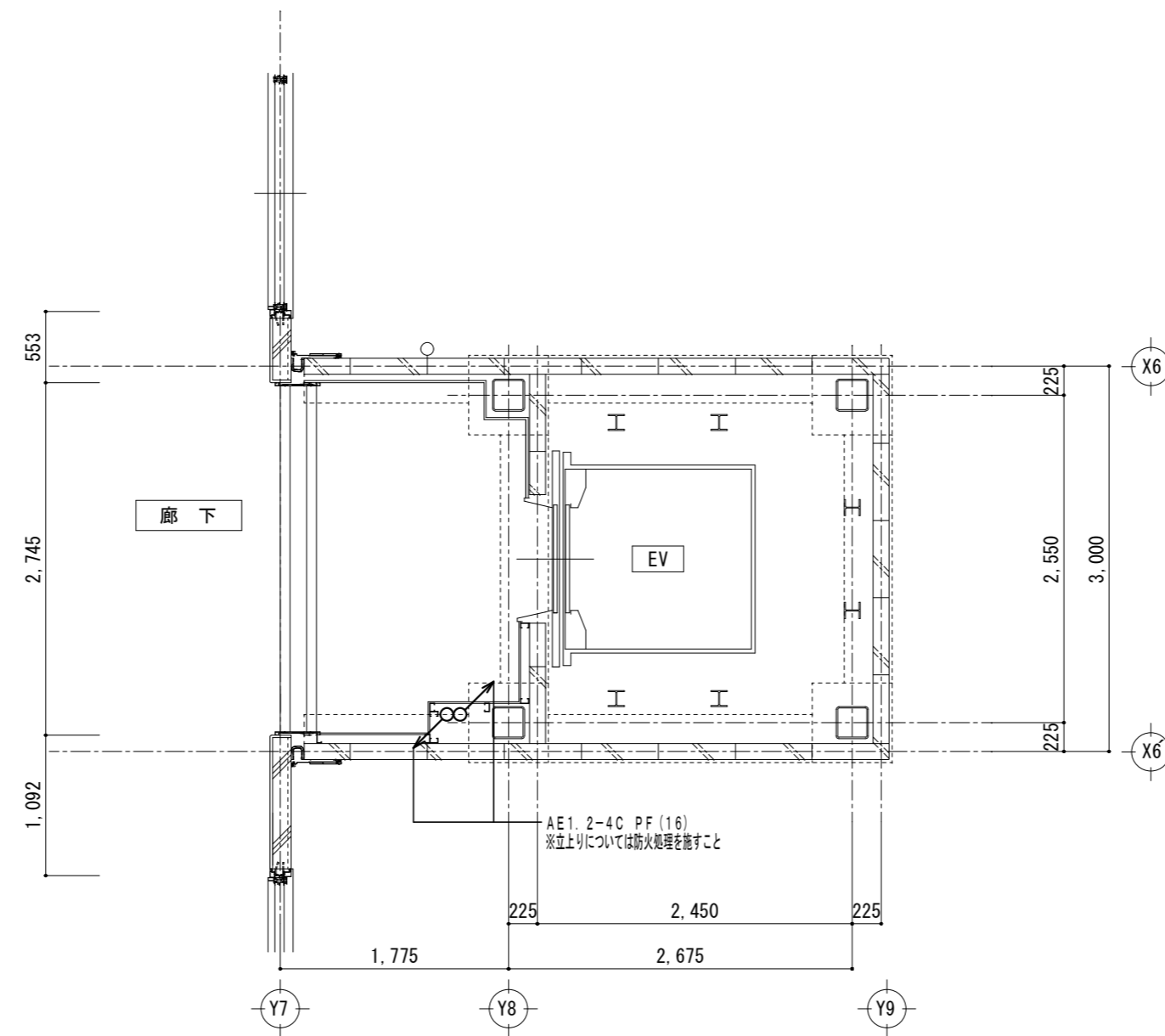
EV電源設備 1階 EV平面詳細図 1/50



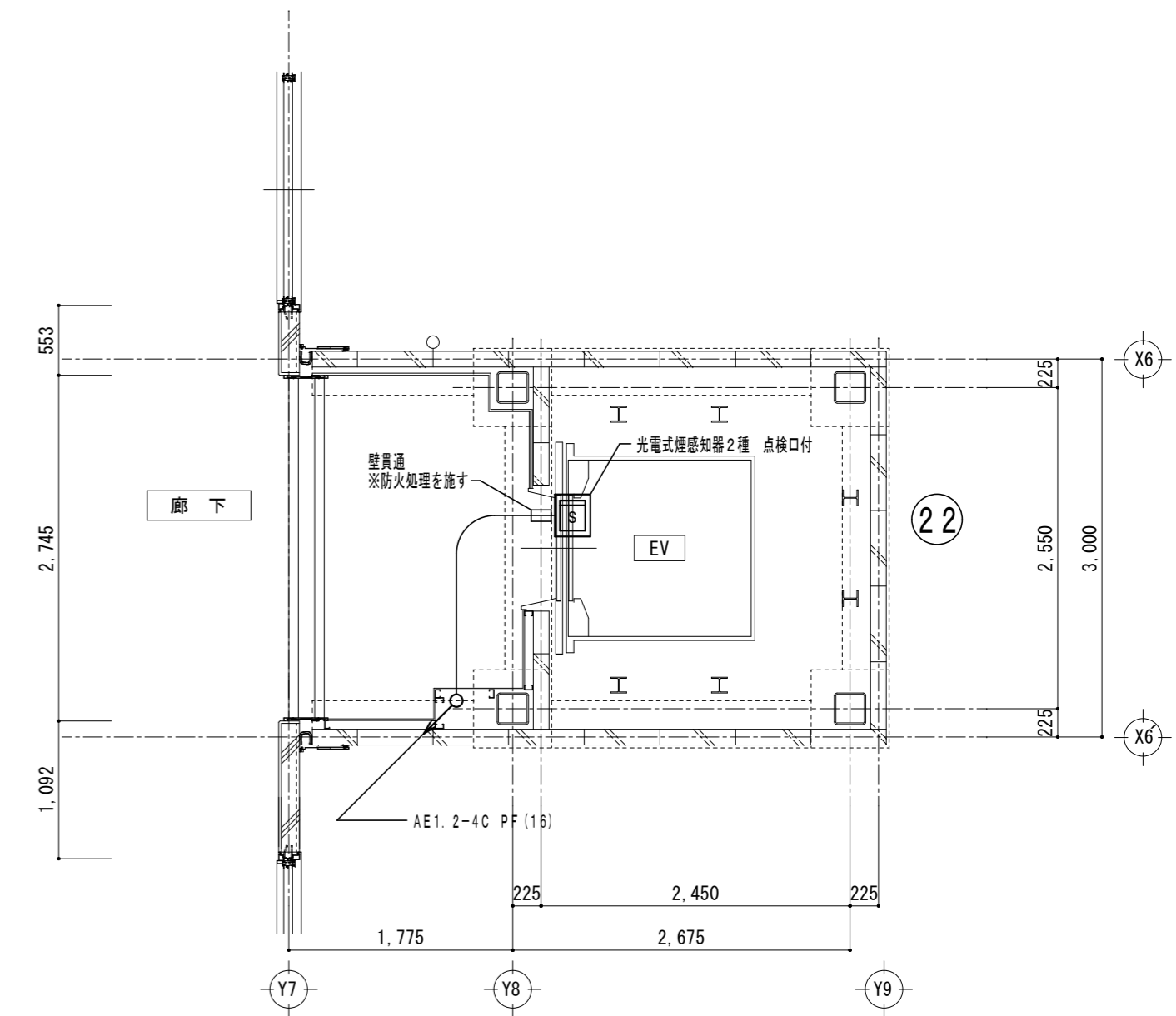
2階平面図 S:1/200



1階 EV平面詳細図 1/50



2・3階 EV平面詳細図 1/50



4階 EV平面詳細図 1/50

memo

check
client
architect
contractor

scale
S:1:50

drawing title
自動火災報知設備 1~4階 EV平面詳細図

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

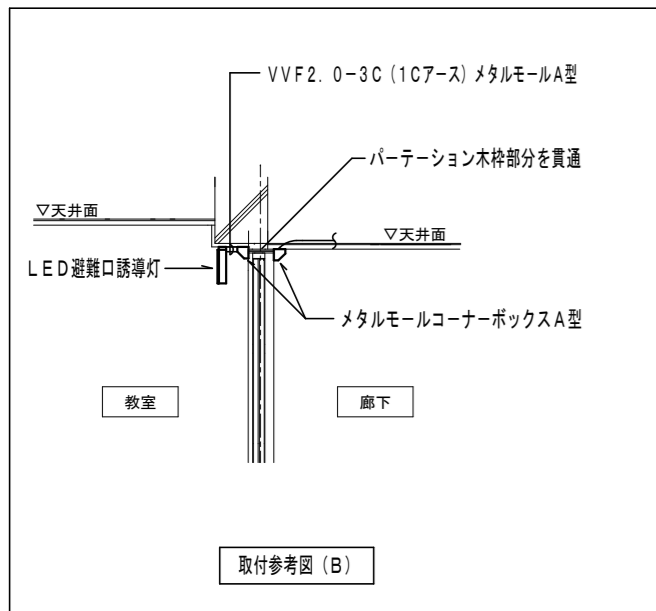
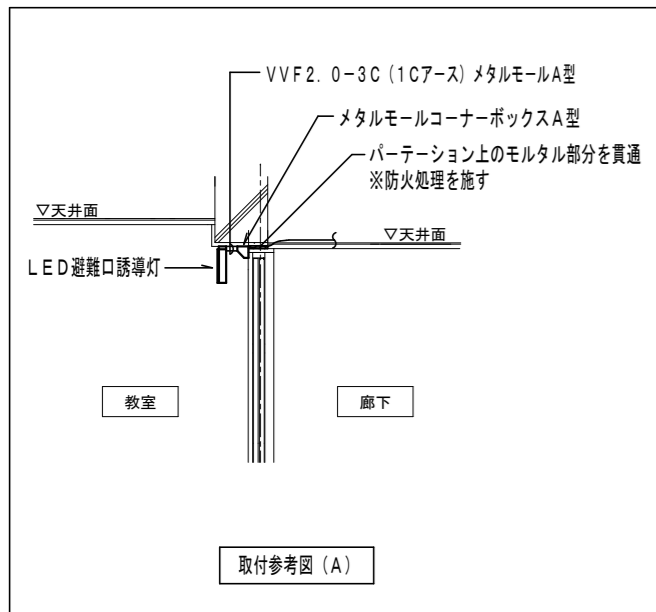
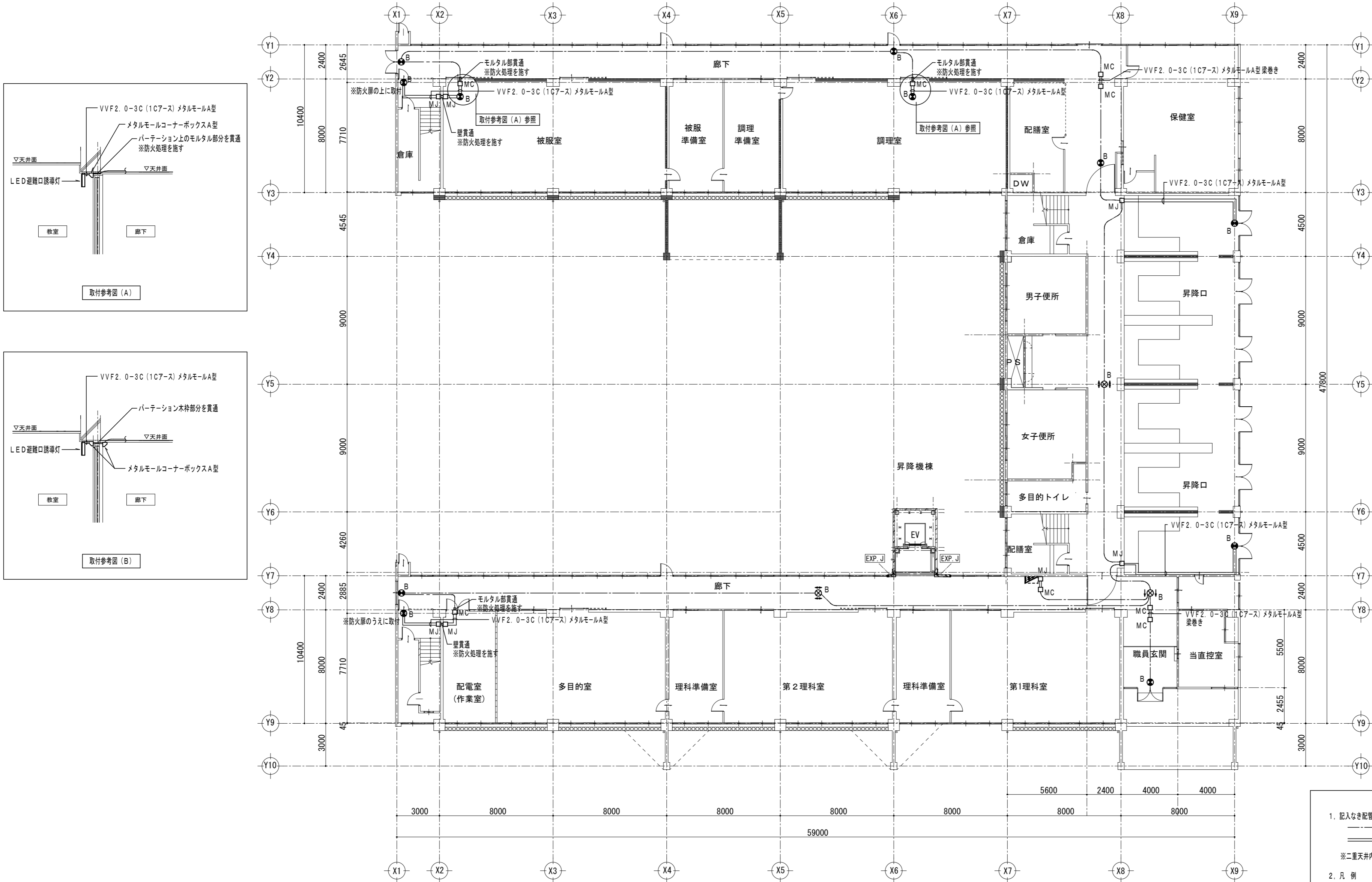
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

E-7

原図:A2



	LED避難口誘導灯 BL級 電池内蔵型 SH1-FSF20-BL
	LED通路誘導灯 矢印付両面 BL級 電池内蔵型 ST1-FSF23-BL
	LED階段通路誘導灯 電池内蔵型 Hf32形1灯相当 人感センサー付
	パナソニック 直付XLF433UNNC LE9 相当品

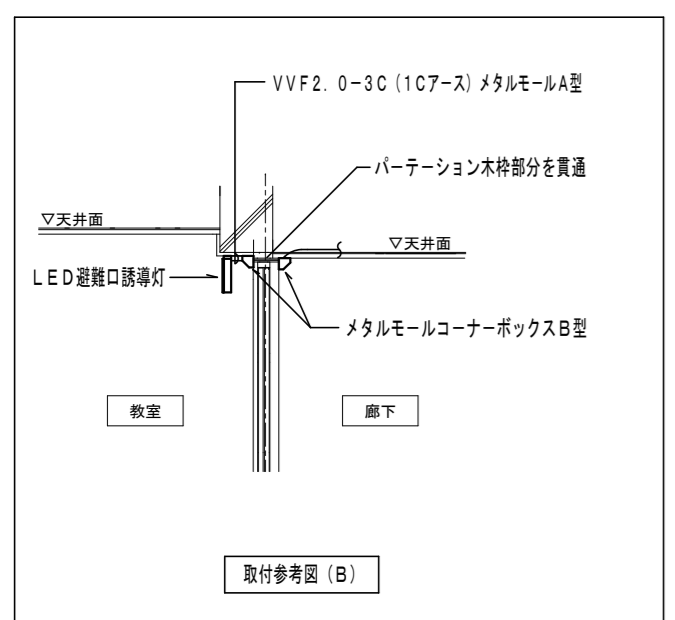
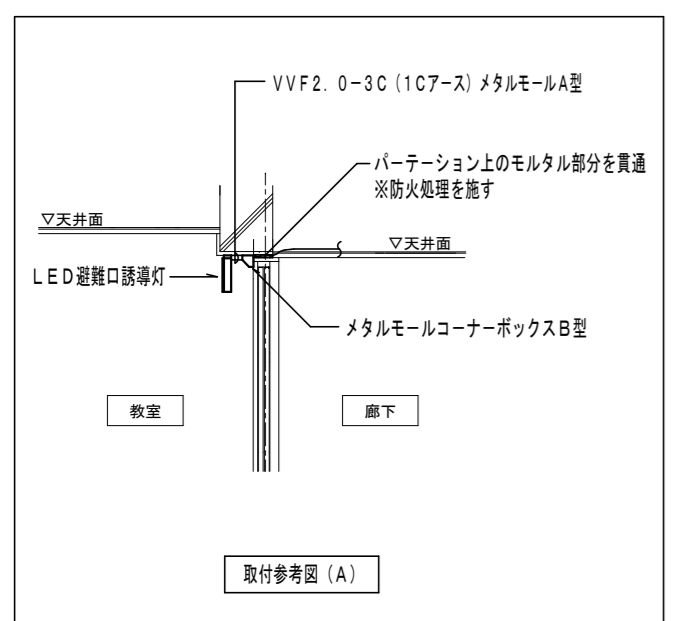
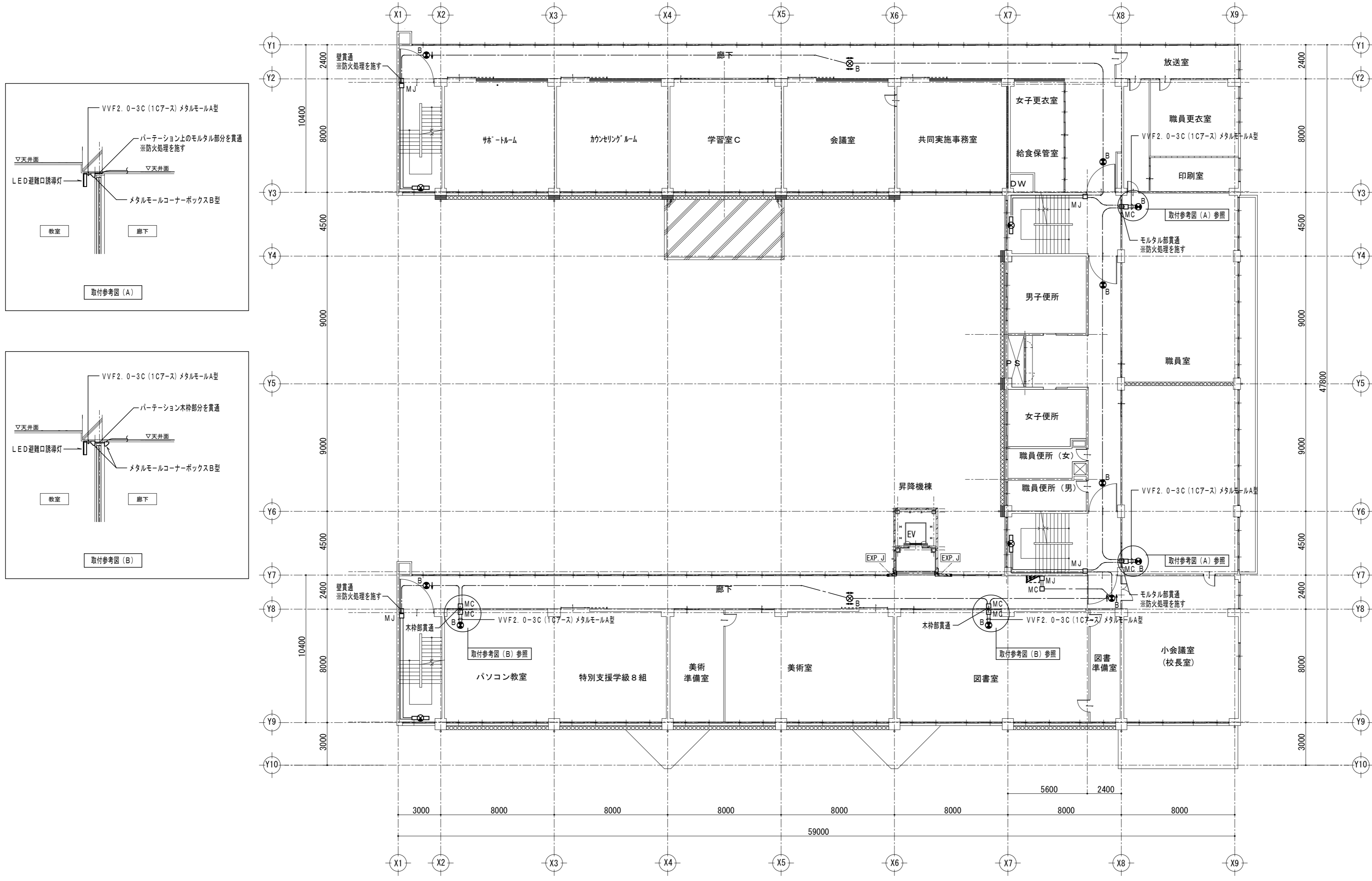
既設 電灯盤 改造
 ※MCCB2P50/20Ax1 増設
 ※主幹ブレーカの一次側に接続

特記事項

- 記入なき配管配線は下記とする
 - - - VVF2.0-3C (1C7-ス)
 = = = VVF2.0-3C (1C7-ス) メタルモールA型
 ※二重天井内はケーブルころがしとする
- 凡例
 □MC : メタルモールコーナーボックス
 □MJ : メタルモールジャンクションボックス

1階平面図 S=1:200

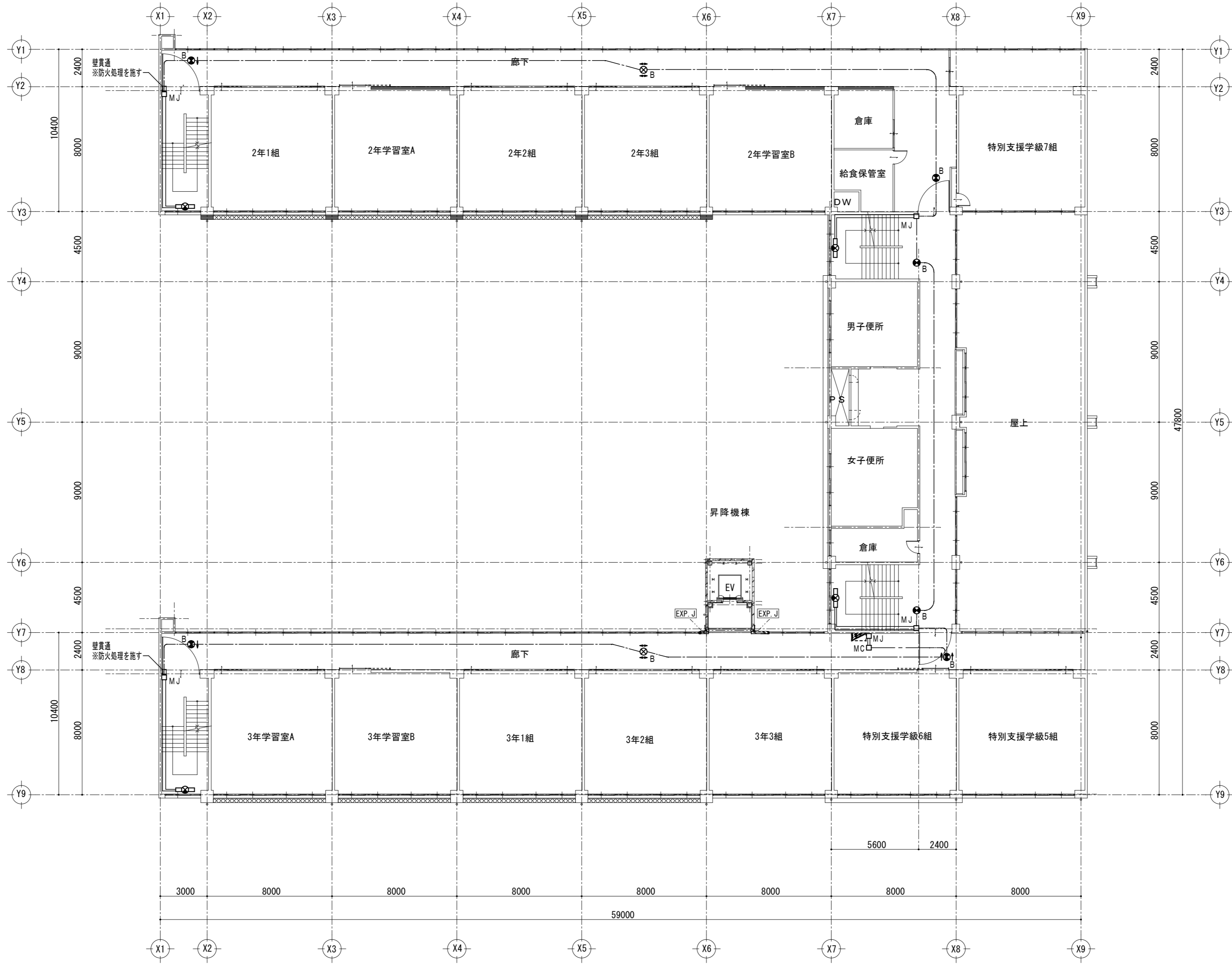
※誘導灯設備等設置のための天井内配線作業箇所については、既設化粧PB一時撤去・再取付とする。



	LED避難口誘導灯 B L級 電池内蔵型 SH1-FSF20-BL
	LED避難口誘導灯 両面 B L級 電池内蔵型 SH1-FSF21-BL
	LED通路誘導灯 矢印付両面 B L級 電池内蔵型 ST1-FSF23-BL
	LED階段通路誘導灯 電池内蔵型 Hf32形1灯相当 人感センサー付
	パナソニック 直付XLF433UNNC LE9 相当品

既設 電灯盤 改造
 ※予備スペースにMCCB2P50/20A x1 増設
 ※主幹ブレーカの一次側に接続

2階平面図 S=1:200



3階平面図 S=1:200

	LED避難口誘導灯 B.L.線 電池内蔵型 SH1-FSF20-BL
	LED避難口誘導灯 両面 B.L.線 電池内蔵型 SH1-FSF21-BL
	LED通路誘導灯 矢印付両面 B.L.線 電池内蔵型 ST1-FSF23-BL
	LED階段通路誘導灯 電池内蔵型 Hf32形1灯相当 人感センサー付
	パナソニック 直付XLF433UNNC LE9 相当品

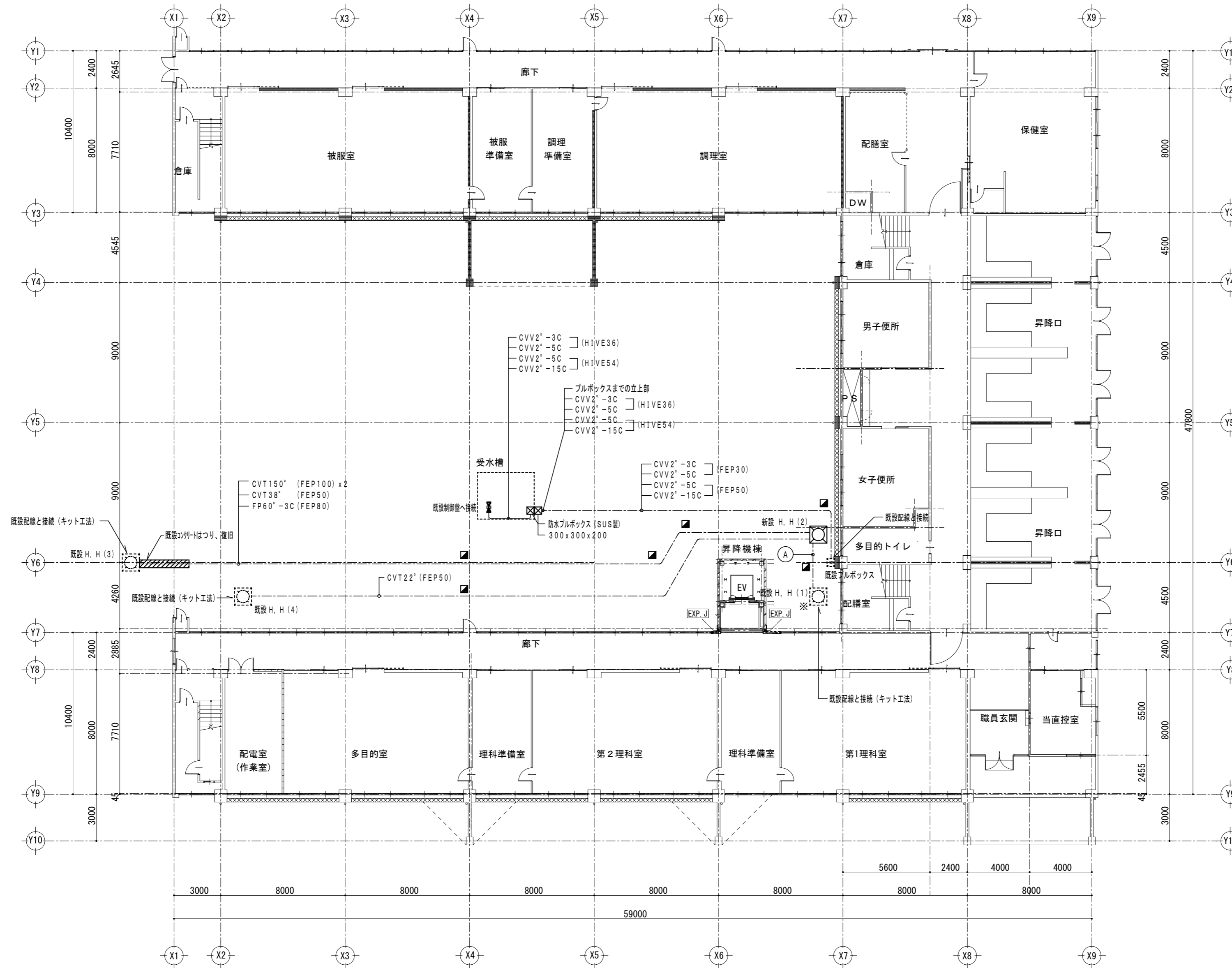
既設 電灯盤 改造
 ※予備スペースにMCCB2P50/20A x1 増設
 ※主幹ブレーカの一次側に接続



4階平面図 S=1:200

	LED避難口誘導灯 BL線 電池内蔵型 SH1-FSF20-BL
	LED避難口誘導灯 両面 BL線 電池内蔵型 SH1-FSF21-BL
	LED通路誘導灯 矢印付両面 BL線 電池内蔵型 ST1-FSF23-BL
	LED階段通路誘導灯 電池内蔵型 Hf32形1灯相当 人感センサー付
	パナソニック 直付XLF433UNNC LE9 相当品

既設 電灯盤 改造
 ※予備スペースにMCCB2P50/20Ax1 増設
 ※主幹ブレーカの一側側に接続



1階平面図 S=1:200

- (A)
- CVT150⁺ (FEP100) x2
 - CVT22⁺ (FEP50)
 - CVT38⁺ (FEP50)
 - FP60⁺-3C (FEP80)

特記事項

1. 凡例
 実線は新設を示す
 点線は既設流用を示す

☐ : ハンドホール 900x900x1200 蓋R8K-60
 ■ : 埋設表示杭 コンクリート製

2. 埋設部分には、埋設標示シートを敷設

※既設のドーナツコア抜き

機械設備工事特記仕様書	
1 工事名称	津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事
2 工事場所	津市 東古河町 地内
3 建築概要	エレベーター棟 鉄骨造 4階建 消消令の適用 7項
4 適用基準	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築設備工事標準図（電気、機械設備工事編）令和4年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針令和4年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、なお、以下において選択する事項は、■印のついたものを適用する。
5 一般事項	工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に念かつ誠実に施工すること。 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とおりに施工することで将来不具合が発生しうると判断される場合には、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書と通りの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。 他工事との取り合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。なお調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は監督員の指示により手直し施工を行うこと。 (1) 提出図書 ■建築工事に準じる 完成図等： <ul style="list-style-type: none"> 作成する（完成図・保全に関する資料（ ）） 完成図作図範囲（設計図を訂正） 完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権第27条及び第28号に規定する権利を含む）は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。 ※ 工事写真は営繕工事写真撮影要領（国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版））に従い撮影すること。 なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について（平成29年3月1日付け国営整第211号）」による。 ※ 建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。
(2) 機器及び材料等	工事に使用する機器及び材料等については、予め使用機材届出書（メーカーリスト）、機器明細図、現品、カタログ、その他諸資料を事前に届出ること。 尚、図面に記載の品番は、参考品番として便宜上メーカー品番を使用しているため、メーカー選定にあたっては、同等品以上の性能を有するものとする。また、国等による環境物品等の調達推進に関する法律（グリーン購入法）を考慮し、再生品などによる環境に優しい（環境物品）の調達に努める。 又、重量機器については、機器据付要領・耐震計算書もあわせて提出すること。
(3) 官公署等への届出手続	工事に伴う関係官公署への必要な諸手続きは、受注者が滞滞なく行い、これに要する費用も負担する。 1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 ■本工程（口建築工事 ■電気設備工事 □機械設備工事） □別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成（機械設備図面の作成及び機械設備に関する部分の記入）を行うこと。
(4) 品質管理	工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。
(5) 出来形管理	以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 1) 各種機器据付 <ul style="list-style-type: none"> 耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ） 基礎寸法 水平、垂直等 2) 配管・ダクト工事 <ul style="list-style-type: none"> 支持間隔 振れ止め支持間隔 3) 屋外排水工事 <ul style="list-style-type: none"> 排水勾配 樹の深さ 4) 水栓、リモコンスイッチ類の取付高さ
(6) 製品確認	発注者、受注者において仕様を決定し、製作するような規格品ではない製品については、試験・検査等を行う機器が整備された施設において、監督員等が製品の確認を行うものとする。 □ 適用する ■ 適用しない
(7) 耐震安全性の分類	構造体（ ）類 建築非構造部材（ ）類 建築設備（ ）類
(8) 機器の地震力（主要機器）	□図示による 機器名 設置階（ ） 設計標準震度Ks（ ） 地域係数（1.0） 水槽類 設置階（ ） 設計標準震度Ks（ ） 地域係数（1.0）
その他監督員が指示するもの	冷媒（フロン類）の回収 □適用する ■適用しない 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編 2. 4. 3により、次の書類の写しを監督員に提出すること。 ・フロン回収行程管理票 ・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券） 撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集める作業（ポンプダウン）を行うこと。 パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても、上記に準じて冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。
(10) 中間技術検査	実施回数（ ）回 実施する段階（ ）

(11) 発生材の処理等 ■建築工事に準じる	本工程は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号、以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。												
1) 引渡しを要するもの（ ）	上記以外の引渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。												
2) 特別管理産業廃棄物（ ）	処理方法（ ） なお施工に際して廃石綿等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。												
3) 建設発生土（ □ 構内敷きならし □ 処分地指定 処分地（ ） □ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離（ ）km													
4) 現場内において再利用を図るもの □発生土 □その他（ ）													
5) 分別解体等の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工程</th> <th>作業内容</th> <th>分別解体等の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 新築</td> <td>□ 有</td> <td>□ 手作業</td> </tr> <tr> <td>□ 改修</td> <td>□ 無</td> <td>□ 手作業、機械作業併用</td> </tr> <tr> <td>□ 解体</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工程	作業内容	分別解体等の方法	□ 新築	□ 有	□ 手作業	□ 改修	□ 無	□ 手作業、機械作業併用	□ 解体		
工程	作業内容	分別解体等の方法											
□ 新築	□ 有	□ 手作業											
□ 改修	□ 無	□ 手作業、機械作業併用											
□ 解体													
6) 再資源化を図るもの（ □ コンクリート塊 □ アスファルトコンクリート塊 □ 建設発生木材 ）													
7) 引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切処理し、監督員に報告すること。（マフシAA、B2、D票を提示すること。）													
(12) 電気保安技術者 □ 配置する ■ 配置しない													
(13) 施工条件	監督員及び依頼部と協議調整し決定すること。 ■建築工事に準じる 1) 施工可能日 □ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり □ 指定なし（ ） 2) 施工可能時間帯 □ 指定なし □ 指定あり（ 時 ～ 時 ） 構内既存の施設 ■建築工事に準じる												
(14) 仮設工事	□ 使用できる □ 利用できない 1) 便所 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない 2) 工事用水 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない 3) 工事用電力 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない ※ 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。												
(15) 足場 ■建築工事に準じる	内部足場の種別（参考） □ 脚立 □ 棚足場 □（ ） 外部足場の種別（参考） □ 手摺先行張置枠組本足場 □ その他（ ） 防護シート等による養生 □ 適用する □ 適用しない 設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 足場（つり足場、張出し足場又は高さが1.0m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る）の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。 1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者 3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者												
(16) 建築材料等	1) 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。品質が求められる水準以上であれば、市内生産品の優先使用に努めること。 2) 本工事で使用する建設資材の調達にあたっては、極力市内の取り扱い業者から購入するよう努めること。 3) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用すること。ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。 (認定製品の品名：) 4) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用するように努めること。 (認定製品の品名： ・間伐材製工用用パリケード・間伐材工事看板・間伐材表示板)												
(17) 三重県産業廃棄物税	本工程には産業廃棄物税相当が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を送付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。												
(18) 事故の発生時	工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員へ通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員へ提出すること。 なお、事故発生後の措置について、監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。												
(19) 既設との取合い・養生	本工程施工に伴う、既存設備の軽微な加工・改造は、本工程とする。 また、工事施工に際し、既存部分を汚損・破損等しないよう養生を行うこと。なお汚損・破損等した場合は、機能・仕上げ共、既設にない復旧すること。												
(20) 不正軽油の使用の禁止	1) 一般事項 工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用される車両（資機材等の搬入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。 また、受注者は下請負者等に同調査を協力するよう管理及び監督しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。 また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。												

(21) その他			
1) 使用機械	低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。		
2) 測定機器の校正記録	工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。 測定に先立ち使用する測定機器の検査済証（写し）又は校正記録（写し）を監督員に提示すること。		
3) フロン回収及び充満	当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（令和2年4月1日施行）等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。		
(22) 現場での安全確保（自主施工の原則）	1) 受注者は工事中の適切な安全確保の措置等の一切の手段について、自らの責任において定め、工事を実施すること。 2) 設計図書に明示された施工条件と工事現場が一致せず、安全確保のために指定仮設の変更や計上が必要な場合は、監督員と協議を行い、指示を受けた後、受注者として適切な安全確保の措置を講じうえて、工事を実施すること。		
6 工事科目	給排水衛生設備工事 □ 屋外給水設備工事 □ 屋内給水設備工事 ■ 屋外排水設備工事 □ 屋内排水通気設備工事 □ 衛生器具設備工事 ■ 消火設備工事 □ 給湯設備工事 □ 屋外ガス設備工事 □ 屋内ガス設備工事 □ 浄化槽設備工事 □ 厨房機器設備工事		
	空調設備工事 □ 機器設備工事 □ 配管設備工事 □ 換気設備工事		
	自動制御設備工事 □ 自動制御設備工事		
7 工事概要	給排水衛生設備工事 (1) 屋外排水設備工事 本工程は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終樹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は勾配型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (2) 消火設備工事 本工程は図示の如く、既設消火配管を撤去し、新設する。		
8 総合調整	(1) 風量調整 □ 適用する ■ 適用しない (2) 水量調整 □ 適用する ■ 適用しない (3) 室内外空気の温度測定 □ 適用する ■ 適用しない (4) 室内外空気の湿度測定 □ 適用する ■ 適用しない (5) 室内気流及びじんあいの測定 □ 適用する ■ 適用しない (6) 騒音の測定 □ 適用する ■ 適用しない (7) 飲料水の硬度の測定（水道法施行規則第10条による硬度検査） □ 適用する ■ 適用しない のうち 一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化イオン、有機物（全有機炭素（TOC）の量）、pH値、味、臭気、色度、濁度について測定を行うこと。 ※遊離残留塩素については、上記適用の有無にかかわらず、測定を行うこと。 (8) その他（ ） □ 適用する □ 適用しない		

9 工事細目			
(1) 配管材料			部分的に配管種類を変更する場合は、図面内に明記すること。
□ 給水管	□ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWMA K116（一般：SGP-VB 地中：SGP-VD） □ フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011（一般：SGP-FVA、FVB 地中：SGP-FVD） ※ 継ぎ手はコア内型とする。 ※ 給水管100Aはねじ又はフランジ接合、125A以上はフランジ接合（工場加工）とする。 □ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6742（一般・地中：H1VP） □ 水道配水用ポリエチレン管 JWMA K 144（地中：PE） □ 水道用ステンレス鋼鋼管JWMA G 115 □ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ※ 地中埋設管は、取出し位置のGL面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。		
□ 雑排水管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） ※ 継ぎ手はドレナジ継ぎ手又は、M D継ぎ手を使用（地中・コンクリート埋設は防食テープ2重巻き） □ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741（VP・VU） □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798（RF-VP） ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741（硬質塩化ビニル管VP）又は JIS K 9798（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。		
□ 通気管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） ※ 継ぎ手はドレナジ継ぎ手又は、M D継ぎ手を使用（地中・コンクリート埋設は防食テープ2重巻き） □ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741（VP・VU） □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798（RF-VP） ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。RF-VPは屋外露出不可 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741（硬質塩化ビニル管VP）又は JIS K 9798（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。		
□ 汚水管	□ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 042 ※ 同上M D継ぎ手 JPF MDJ 002 □ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741（VP・VU） □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798（RF-VP） ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741（硬質塩化ビニル管VP）又は JIS K 9798（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。		
□ 給湯管	□ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWMA K 140（一般：SGP-HVA 地中：WH1LP 内外面耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管） □ 水道用ステンレス鋼鋼管JWMA G 115 □ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448		
□ ガス管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） □ 土間：塩化ビニル被覆鋼管（黒） □ ガス用ポリエチレン管 JIS K 6774（地中：PE） ※ 地中埋設管は、取出し位置のGL面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 □ ガス事業者の供給規定に準じる		
■ 消火管	■ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） ■ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（白） WSP041（SGP-VS） ※ 地中埋設管VSは、取出し位置のGL面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。		
■ 屋外埋設排水	■ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741（VP・VU） □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798（RF-VP） □ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 AS-58（REP-VU） □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 JIS K 9797（RS-VU） ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ コンクリート管 JIS A 5372（プレキャスト鉄筋コンクリート製品）（1類水路用遠心力鉄筋コンクリート管）		
□ 冷温水配管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） □ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWMA K 140（一般：SGP-HVA）		
□ 冷却水管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） □ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWMA K116（一般：SGP-VA、VB） □ フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011（一般：SGP-FVA、FVB）		
□ ドレン管	□ 配管用炭素鋼鋼管（白） JIS G 3452（SGP-白） □ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741（VP・VU）（屋外 カラーVP） □ 保温層付硬質ポリ塩化ビニル管 □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798（RF-VP） ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。RF-VPは屋外露出不可。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741（硬質塩化ビニル管VP）又は JIS K 9798（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP）規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。		
□ 冷媒管	□ 銅及び銅合金種目無管 硬質、軟質または半硬質 JIS H3300 □ 断熱材被覆鋼管 原管はJIS H3300による。製造者標準品 ただし、保温厚は ガス管 20mm、液管 10mmとする。 ※ 冷媒用鋼管の肉厚は、冷凍安全規則関係例示基準の規定による。		
□ 油管	□ 配管用炭素鋼鋼管（黒） JIS G 3452 溶接接合		
□ 蒸気管	□ 配管用炭素鋼鋼管（黒） JIS G 3452		
□ プライン管	□ 配管用炭素鋼鋼管（黒） JIS G 3452		
※ 弁類	揚水ポンプ（二次側）、消火ポンプ（二次側）、水道直圧部は 10Kとし、それ以外は 5Kとする。 塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食コア付き、又はライニング弁を使用すること。		

■memo

■check
client
architect
contractor

■scale

■drawing title

機械設備特記仕様書 1

■project title

津市立西橋内中学校長寿命化改修（第二期）工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴臣設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士：山田 賢治

■drawing no.

■sheet no.

M-1

原図:A2

※ 横走り管の吊り間隔

鋼管	100A以下	-	2m 以下
	125A以上	-	3m以下
ビニル管	80A以下	-	1m 以下
	100A以上	-	2m以下
耐火二層管			
鋼管			
鋼鉄管	標準図による		

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下
鋼管	-	50A~100A	125A~
鋼鉄管			
ビニル管			
耐火二層管	25A~40A	50A~100A	125A~
鋼管			

※ 冷媒用鋼管の横走り管の支持間隔

基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下
 基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下
 形鋼振れ止め支持間隔は、鋼管に準ずる。

※ 液管・ガス管共吊りの場合は液管の外径を基準とする。

(2) ダクト工事

矩形ダクト 亜鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC、SGCCA) 鍍金付着Z18以上
 ステンレス鋼板 JIS G4305

工法 アンガルフランジ工法
 共板フランジ工法
 スライドオンフランジ工法

形鋼補強 山形鋼 JIS G 3101 SUS鋼材 JIS G 4317
 丸ダクト スパイラルダクト
 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)

(3) 保温塗装工事

1) 材料 部分的に材料を変更する場合は、図面に明記すること。

<input type="checkbox"/> グラスウール保温材 (屋内一般等)	保温筒 JIS A 9504 2号 40K	保温板、保温帯 JIS A 9504 2号 40K
<input type="checkbox"/> 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 給湯管
<input type="checkbox"/> 蒸気管 (往)	<input type="checkbox"/> 蒸気管 (還)	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管
<input type="checkbox"/> 消火管 (露出部)	<input type="checkbox"/> 冷媒管	
<input type="checkbox"/> 給湯管 (70℃以上)	<input type="checkbox"/> 温水管	<input type="checkbox"/> 蒸気管
<input type="checkbox"/> 冷媒管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管	<input type="checkbox"/> 消火管

<input type="checkbox"/> ロックウール保温材 (防火区画貫通部等)	保温板、保温帯、ブランケット 1号JIS A 9504
<input type="checkbox"/> 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管
<input type="checkbox"/> 蒸気管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管
<input type="checkbox"/> 消火管	<input type="checkbox"/> 冷媒管

<input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム保温材 (屋内一般等)	保温筒 JIS A 9511 3号	保温板 JIS A 9511 3号
<input type="checkbox"/> 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管
<input type="checkbox"/> フライン管	<input type="checkbox"/> 消火管	<input type="checkbox"/> 冷水管 (2~4℃)
<input type="checkbox"/> 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管	<input type="checkbox"/> 給湯管
<input type="checkbox"/> フライン管	<input type="checkbox"/> 消火管	<input type="checkbox"/> 冷水・冷温水管

<input type="checkbox"/> 合成樹脂調合ペイント塗り塗料 (露出)	JIS K 5516 (合成樹脂調合ペイント) 1種
<input type="checkbox"/> 給水管	<input type="checkbox"/> 排水管
<input type="checkbox"/> ガス管	<input type="checkbox"/> 消火管
<input type="checkbox"/> ダクト (亜鉛鉄板製)	<input type="checkbox"/> ダクト (鋼板製)
<input type="checkbox"/> 通気管	<input type="checkbox"/> ドレン管
<input type="checkbox"/> 油管	<input type="checkbox"/> 冷却水管

<input type="checkbox"/> さび止めペイント塗り塗料 (露出)	JIS K 5621 (一般用錆止めペイント) 2種
<input type="checkbox"/> 蒸気管 (往)	<input type="checkbox"/> ダクト (鋼板製)

<input type="checkbox"/> アルミニウムペイント塗り塗料	JIS K 5492 (アルミニウムペイント) 下塗りは錆止めペイント
<input type="checkbox"/> 蒸気管 (還)	

2) 保温厚

グラスウール、ロックウール						
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	50
給水・排水・ドレン・給湯	~80A	100~150A	-	200A~	-	-
膨張・温水・消火管	-	-	32~50A	65A~	-	-
蒸気管	~25A	-	-	-	-	-
冷水・冷温水・冷媒管	-	-	~25A	32~200A	250A~	-
ポリスチレンフォーム						
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	65
給水・消火・排水管	~80A	100A~	-	-	-	-
冷水・冷温水管	-	-	~25A	32~200A	250A~	-
冷水管 (冷水温度2~4℃)	-	-	~20A	25A~100A	125A~	-
プライン管	-	-	~25A	32~80A	100A~	-

機器ダクト保温厚	
保温厚	
25mm	ダクト (屋内露出 [機械室、書庫、倉庫]、隠蔽部)、消音チャンパー・エルボ 膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト隠蔽部 (ロックウール)
50mm	ダクト (屋内露出 [一般居室、廊下])、サブライチャンパー、貯湯タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒隠蔽部 (ロックウール)
75mm	煙道 (ロックウール)

3) 種別

給排水衛生設備配管の保温仕様				
	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	7mmラウダ仕上
天井内・P S内	7mmラウダ仕上	アルミガラスクロス粘着テープ		
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色7mmラウダ仕上
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上

※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ピット内) の仕様を防水テープ巻きに読み替える。
 ※ 2) サヤ管工法: 架橋ポリエチレン・ポリブデン管使用の場合は、上表保温不要。
 ※ 3) 消火管の屋外露出のは保温を行う。

空調設備配管の保温仕様 (R、G保温材の仕様のみ)				
	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	合成樹脂製カバー
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	原紙
天井内・P S内	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	アルミガラスクロス仕上
(温水・蒸気管以外)				アルミガラスクロス仕上
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミガラスクロス仕上
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上

※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別
 保温化粧ケース仕上 ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)

機器保温仕様				
	1	2	3	4
冷水・冷温水タンク				
鋼板製タンク	紙	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線
冷水・冷温水ヘッダ				
温水・膨張・還水貯湯タンク	紙	保温板	鉄線	SUS鋼板仕上
温水・蒸気ヘッダ				
熱交換器				

※ 1) 密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンパー・煙道 保温仕様

	1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	紙	保温板	カラー鉄板
	機械室		紙	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス粘着テープ
	屋内隠蔽、D S内		紙	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス粘着テープ
	屋外露出、多湿箇所		紙	保温板	ポリエチレンフィルム
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板
	機械室		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム
サブライチャンパー					
消音チャンパー、エルボ					
排煙ダクト長方形					
排煙ダクト円形					
煙道					

※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。
 ※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亀甲金網) による亜鉛鍍金を施した網目呼称16線径0.55の金網又はRWA S02による防錆処理を施した平ラソ0号で外面補強したものを使用。
 ※ 3) 銅亀甲金網は、JIS H 3260 網目呼称10、線径0.5を使用。

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種類	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	合成樹脂調合ペイント	1	1	1	下塗りはさび止めペイント
黒管	露出	合成樹脂調合ペイント	2	1	1	下塗りはさび止めペイント

※ 1) ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント2回塗りを行う。

4) 施工

ダクト保温施工範囲

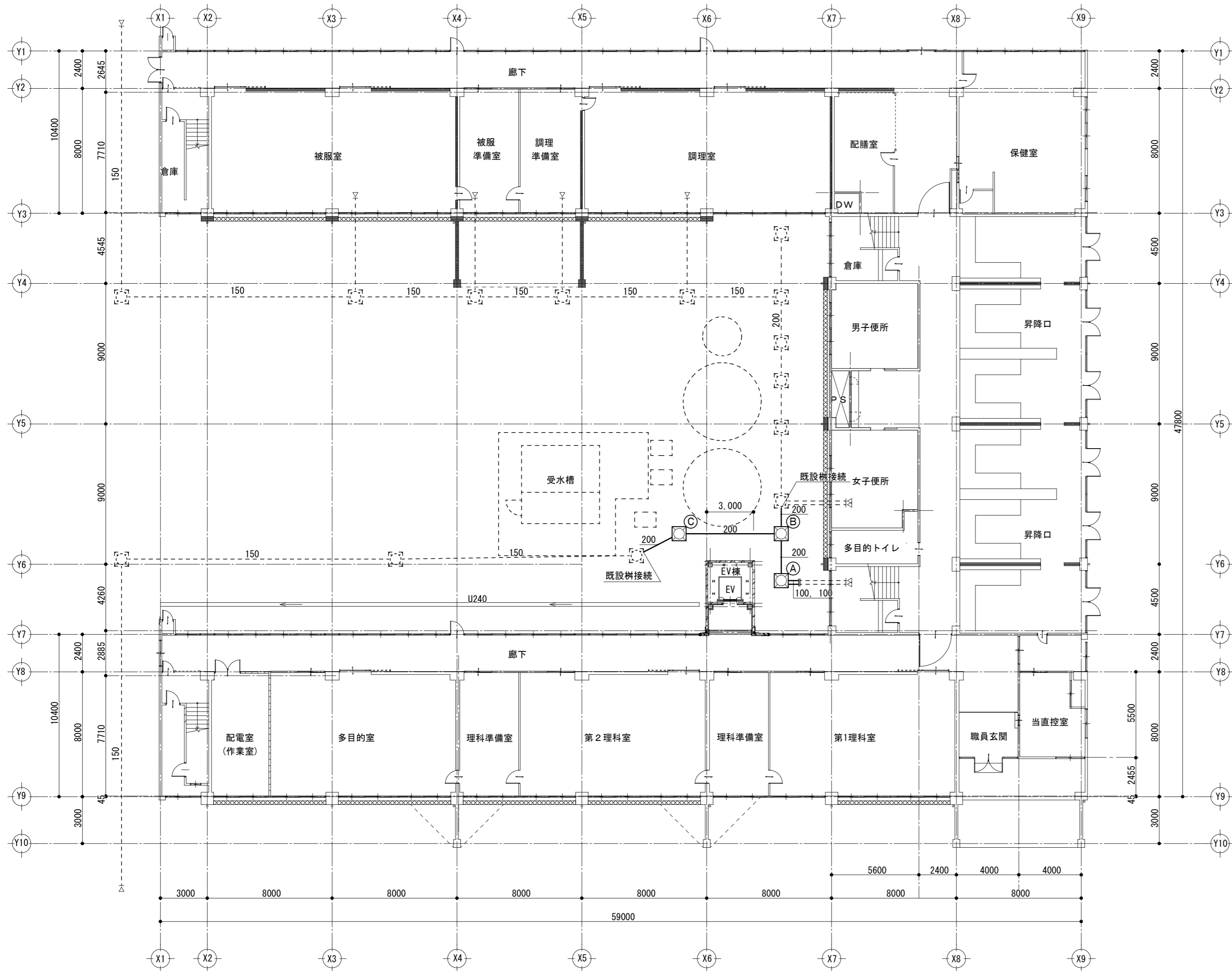
- S A
 - 保温あり 保温なし 図面による その他 ()
 - E A
 - 保温あり 保温なし 図面による その他 ()
 - R A
 - 保温あり 保温なし 図面による その他 ()
 - O A
 - 保温あり 保温なし 図面による その他 ()
- チャンパー内貼施工
 内貼あり (mm) 内貼なし 図面による その他 ()

(4) スリーブ工事

- 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む) より40mm程度大 (=2サイズUP) なるものとする。
 箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。
- 地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。
- その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。

共通事項

- 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。
- 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。
- 系統が分かるように、必要箇所 (機械室、P S内等) に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。
- 機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。
- 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りのドレン管に接続すること。
- 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す、もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカー工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。
- 機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書、標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。
- 雨がかり部に取り付けのガラリのチャンパーには、水抜きを設けること。
- 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、地中埋設機を施工すること。
- 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。
- 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。
- 冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。
- 地中埋設配管については、下記の汎用対策を講ずること。
 - 管は緩ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。
 - 接続箇所は必要に応じコンクリートで保護する。
 - 土間配管は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。
 - 呼び径100A以下はM10、125A~250AはM12、250A以上はM16のステンレス棒鋼を使用する。
- 屋外露出及び多湿箇所 (トレンチピット等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
- 屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。
- 合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊座の取り付けを行うこと。
- 送風機用ベルトカバーには裏カバー及び点検口を設けること。



1階平面図 S=1:200

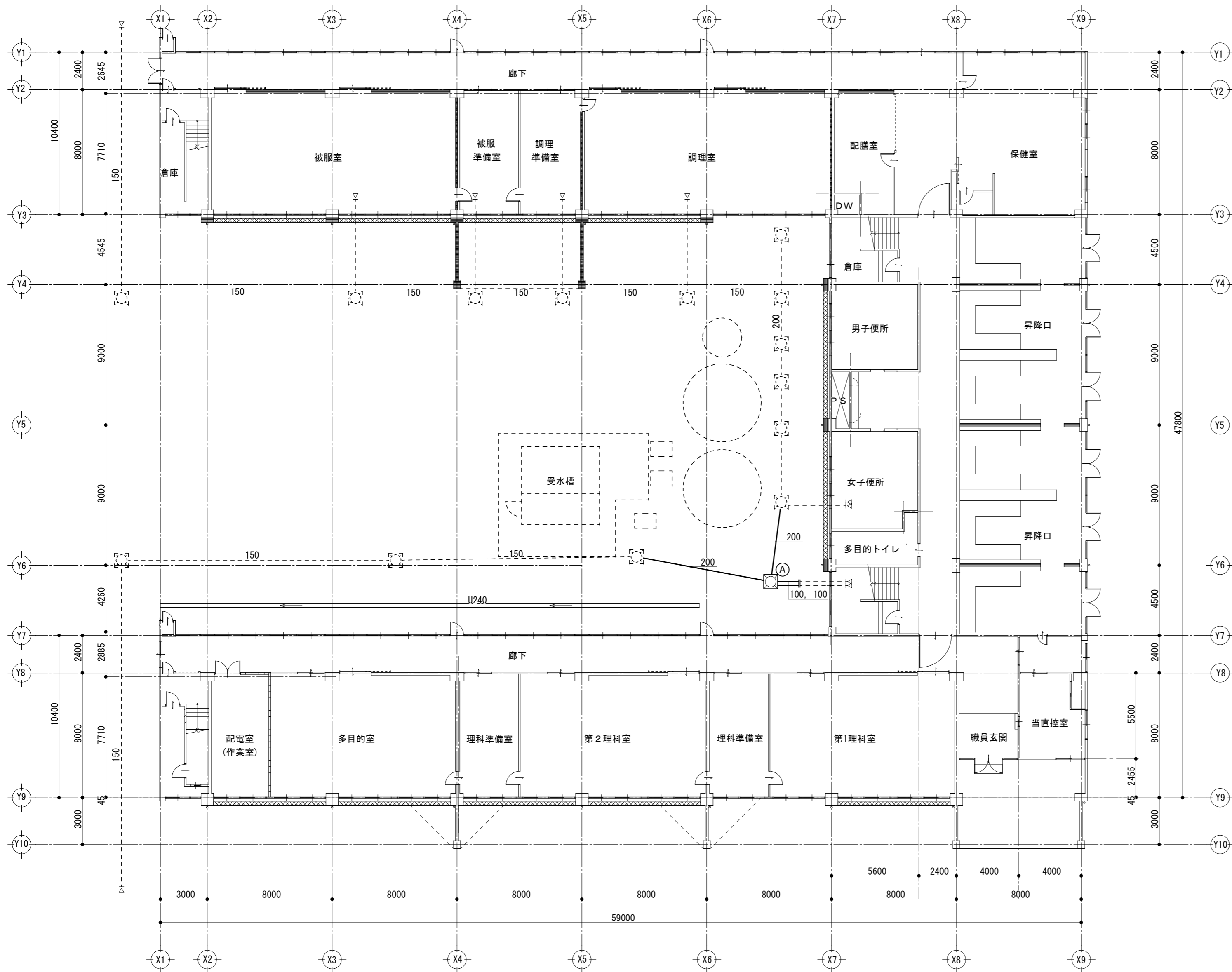
新設樹リスト

記号	樹種類	樹寸法	深さ(管底)	蓋	備考
Ⓐ	コンクリート製汚水樹(S-C-4)	900φ	-1730H	防臭蓋(MHB)600φ	
Ⓑ	コンクリート製汚水樹(S-C-4)	900φ	-1750H	防臭蓋(MHB)600φ	
Ⓒ	コンクリート製汚水樹(S-C-4)	900φ	-1890H	防臭蓋(MHB)600φ	

※ 樹深さは設置GLからの深さを示し、参考数値とする。
 排水管の勾配は1/200以上確保すること。
 掘削深さが1500Hを越える場合は土留めを設置して作業を行うこと。

凡例

記号	名称
—	新設配管
- - - -	既設配管
— —	配管接続部分
—	排水管100A:硬質ポリ塩化ビニル管VP 200A:硬質ポリ塩化ビニル管VU
□	新設汚水樹



1階平面図 S=1:200

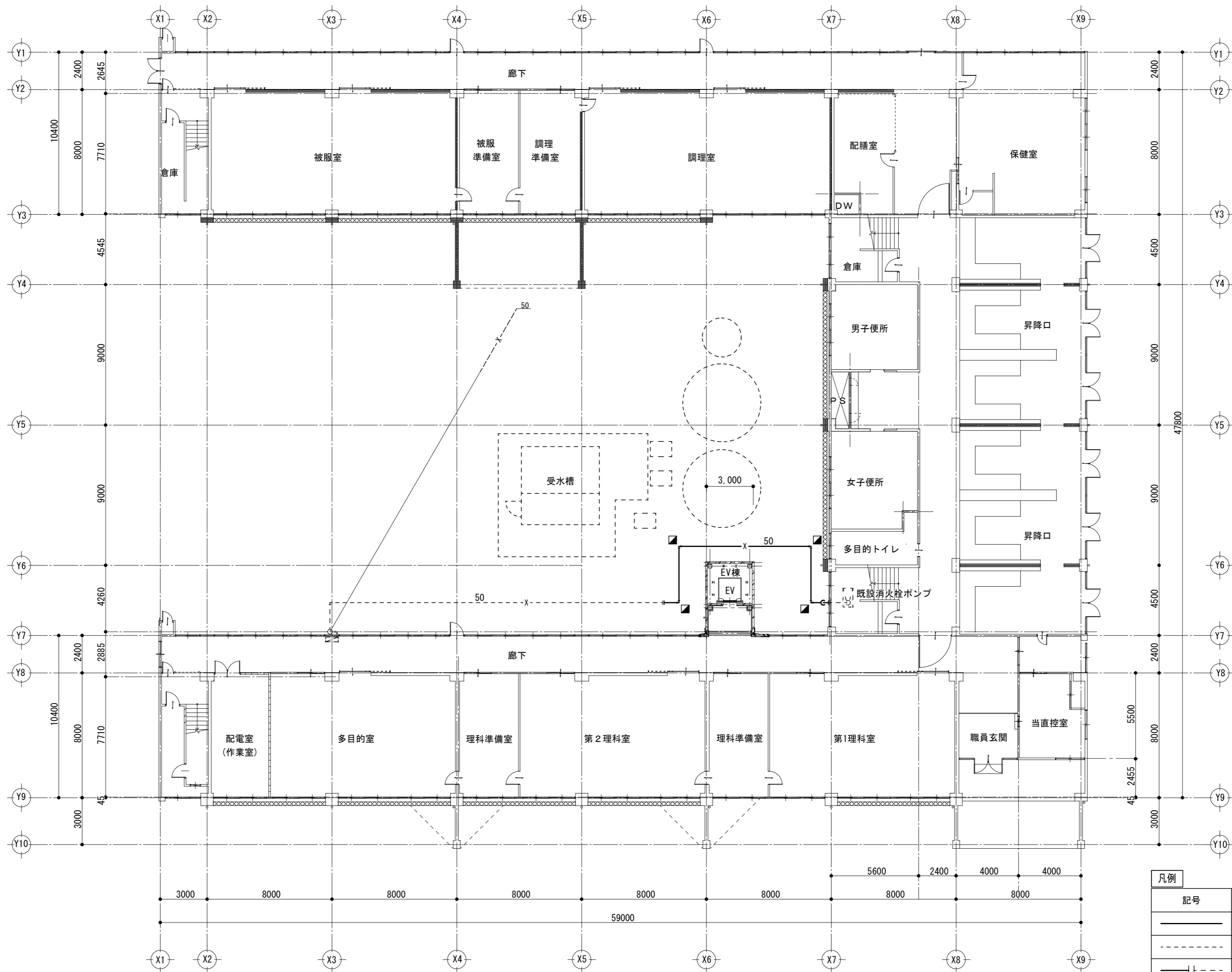
撤去樹リスト

記号	樹種類	樹内寸法	深さ(管底)	蓋	備考
Ⓐ	コンクリート製汚水樹(S-C-4)	600X600	-1730H	防臭蓋(MHB)600φ	

※ 樹深さは設置GLからの深さを示し、参考数値とする。
掘削深さが1500Hを越える場合は土留めを設置して作業を行うこと。

凡例

記号	名称
—	撤去配管
- - - -	既設配管
— —	配管切断部分
—	排水管100A:硬質ポリ塩化ビニル管VP 200A:ヒューム管
Ⓐ	撤去汚水樹



1階平面図 S=1:200

凡例	
記号	名称
—	新設配管
- - -	既設配管
— - - -	配管接続部分
— X —	消火管地中：消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(白)SGP-VS 消火管一般：配管用炭素鋼管(白)SGP-白
■	地中埋設標示杭(コンクリート製)

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:200

drawing title
消火設備 1階平面図(改修後)

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修(第二期)工事

Kisho
Architectural
Design Office

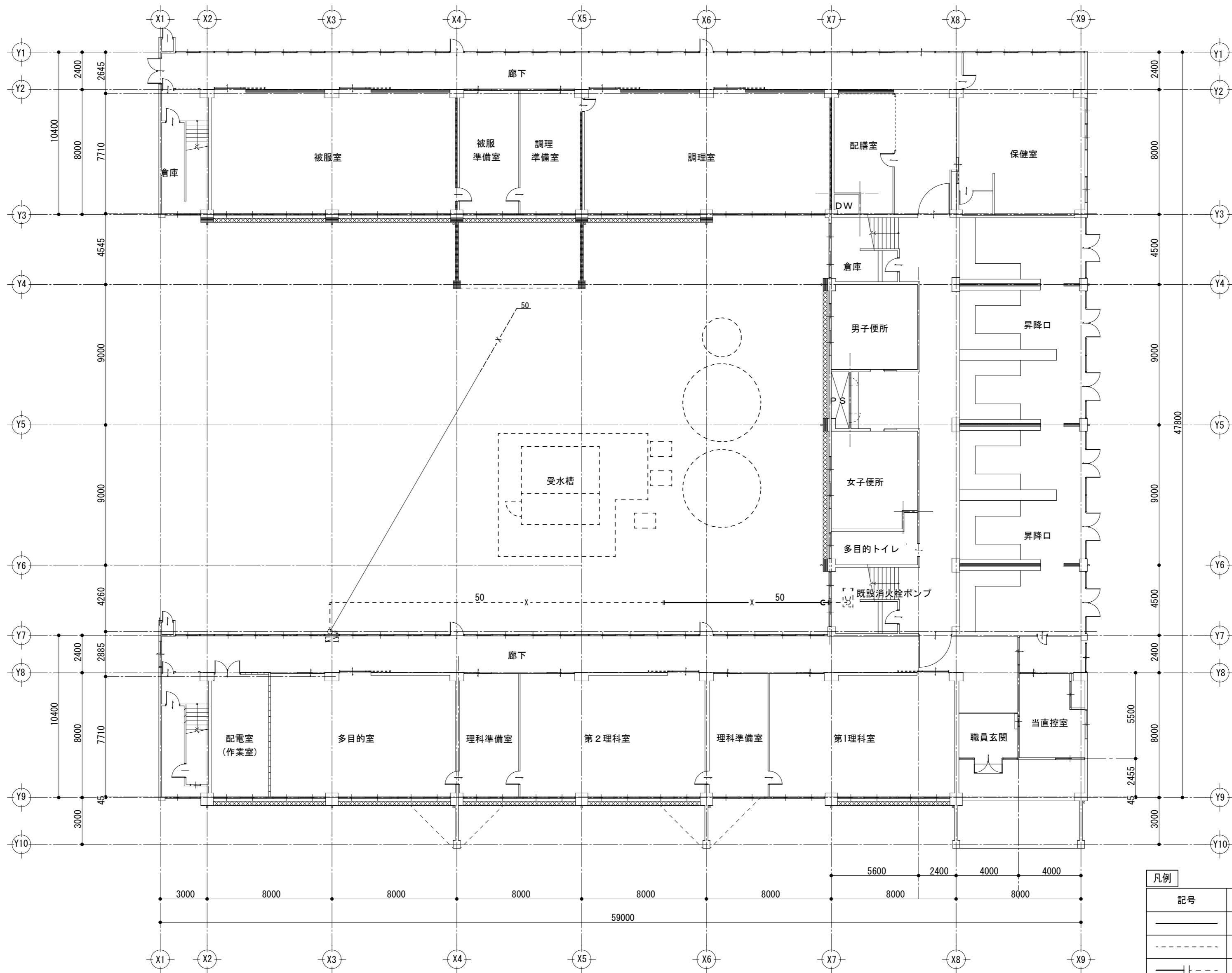
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有)貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士：山田 賢治

drawing no.

sheet no.

M-5

原図:A2



1階平面図 S=1:200

凡例	
記号	名称
—	撤去配管
- - -	既設配管
— —	配管切断部分
— X —	消火管地中：消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(白)SGP-VS 消火管一般：配管用炭素鋼鋼管(白)SGP-白

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:200

drawing title
消火設備 1階平面図 (改修前)

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

Kisho
Architectural
Design Office

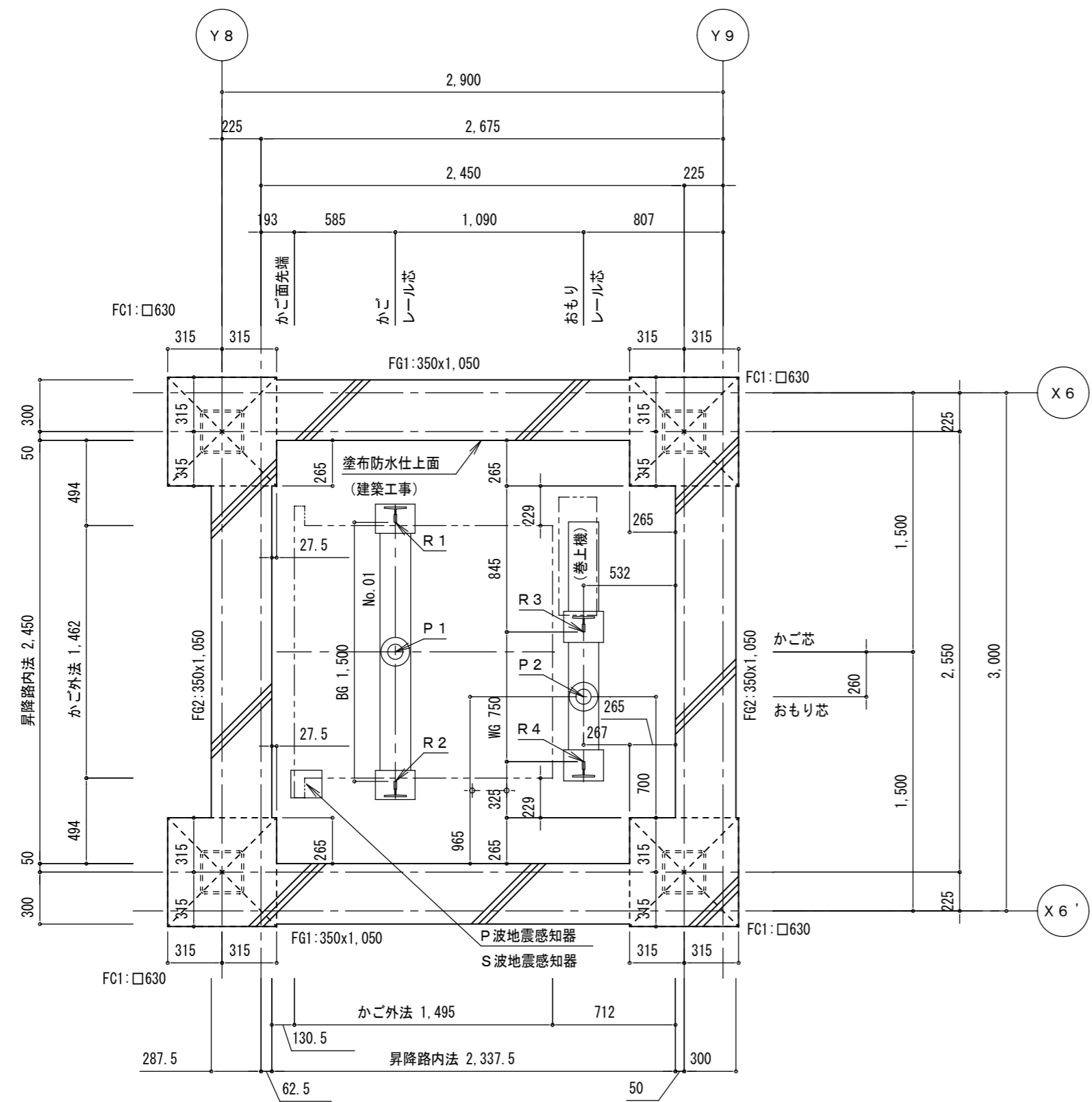
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士：山田 賢治

drawing no.

sheet no.

M-6

原図：A2



昇降路平面図 (1/30)
(ビット)

※シャフト内の基礎梁は1FLまでコンクリート増し打ち(建築工事)

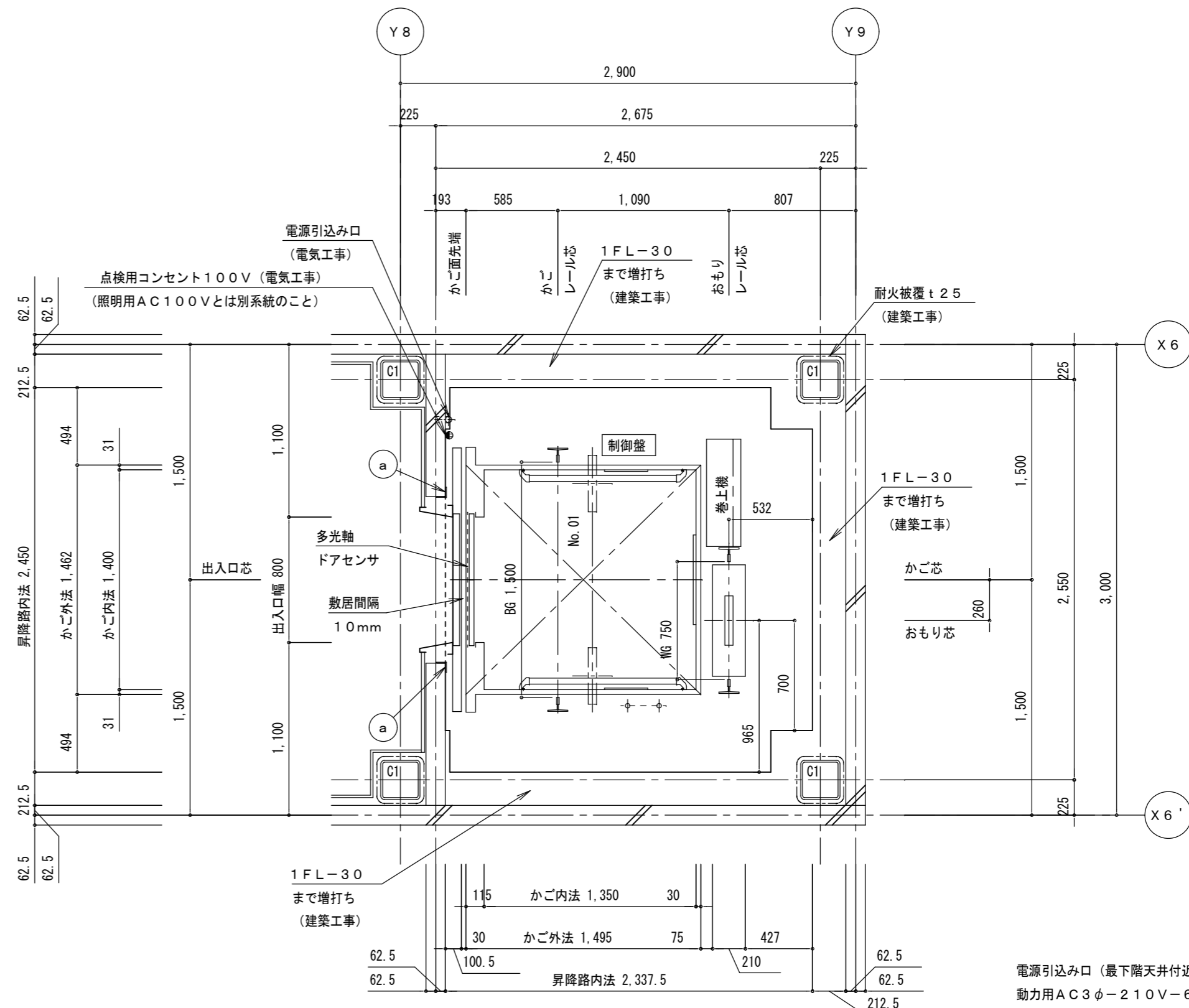
ビット荷重(短期荷重)	
P1 (kN)	P2 (kN)
89.5	71.6

レール下端部荷重(長期荷重)			
R1 (kN)	R2 (kN)	R3 (kN)	R4 (kN)
28.2	27.8	49.8	23.9

ブラケット取付のため、ビット内の壁または梁は最下階FL面まで立ち上げて下さい(建築工事)

図面は塗布防水仕上後の有効寸法です。モルタル防水仕上の場合は仕上厚を考慮して下さい。

部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事



昇降路平面図 (1/30)
(1階)

C1: □250x250

動力電源設備(CVT電線使用時)

号機名	電源電圧 周波数	電動機容量	設備容量	電源側NF容量	感度電流値 動作時間	電線サイズ	接地線サイズ
01	AC3φ210V 60Hz	3.8kW	4kVA	40AT	100mA以上 0.2秒以上	70mまで 8mm ² 121mまで 14mm ² 185mまで 22mm ²	3.5mm ²

照明用電源AC1φ100V 60Hz(設備容量1kVA/台 電源側NF容量20AT/台)

(*) 電源側に漏電遮断器を設置する場合

高調波対策(高調波流出電流計算値)

高調波対策内容	機器名称	定格容量 (kVA)	台数	合計容量 Pi (kVA)	回路分類 細分No.	6パルス 換算係数 (Ki)	6パルス等価 容量 [Ki×Pi] (kVA)	機器最大 稼働率 (%)	基本電流に対する高調波電流発生率In (%)							
									5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
ノイズフィルタのみ (標準)	01号機 (750kg-45m/min)	4.8	1	4.8	31	3.4	16.2	25	65	41	8.5	7.7	4.3	3.1	2.6	1.8
ACリアクトル追加 (Ki=1.8相当)					32	1.8	8.6	25	38	14.5	7.4	3.4	3.2	1.9	1.7	1.3

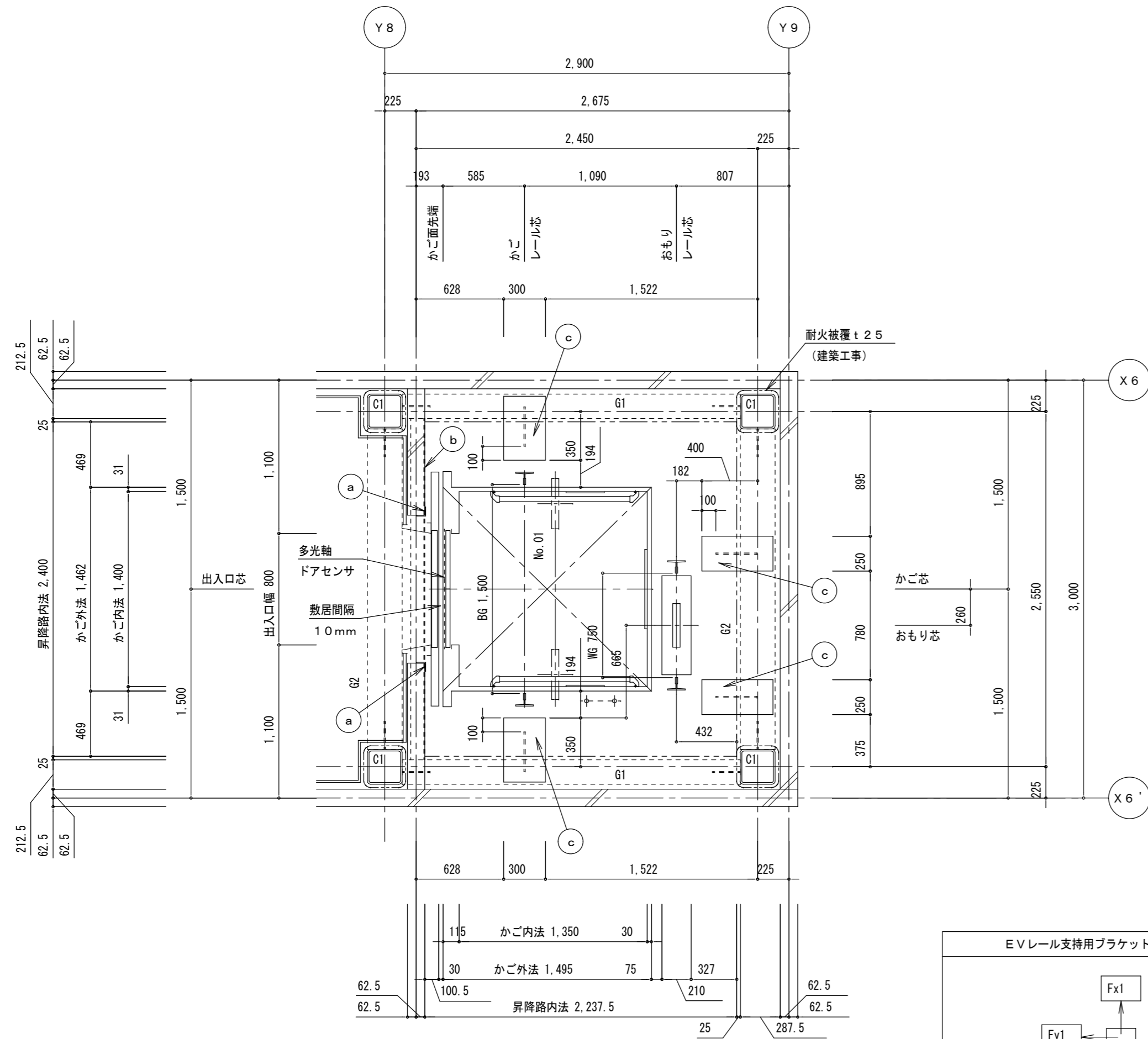
高圧または特別高圧需要家が高調波発生機器を新設、増設または更新する場合には「高圧または特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」への適用が求められます。ガイドラインではその需要家から流出する高調波電流の上限値を定めており、超過する場合には何らかの対策を求められます。

※ 各次数毎の高調波流出電流量は以下の計算により求めることができます。

$$\text{各次数毎の高調波流出電流量 (mA)} = \frac{\text{合計容量 } P_i \text{ (kVA)}}{\text{受電電圧 (kV)} \times \sqrt{3}} \times 10^3 \times \text{各次数毎の発生率 } I_n \text{ (\%)} \times \text{機器最大稼働率 } k \text{ (\%)}$$

- 電源引込み口(最下階天井付近)
 動力用AC3φ-210V-60Hz
 照明用AC1φ-100V-60Hz
 D種接地工事
 ・インターホン用配管配線工事
 CPEV-0.9×5P
 ・火災管制運転用配管配線工事
 自火報より無電圧a接点支給
 ・遠隔監視用配管配線工事
 PVC-0.65×4C
 ・カゴ上スピーカー用配管配線工事
 HP1.2mm×3C
 電源線引出し長さ 天井高さ+3500mm
 (電気工事)

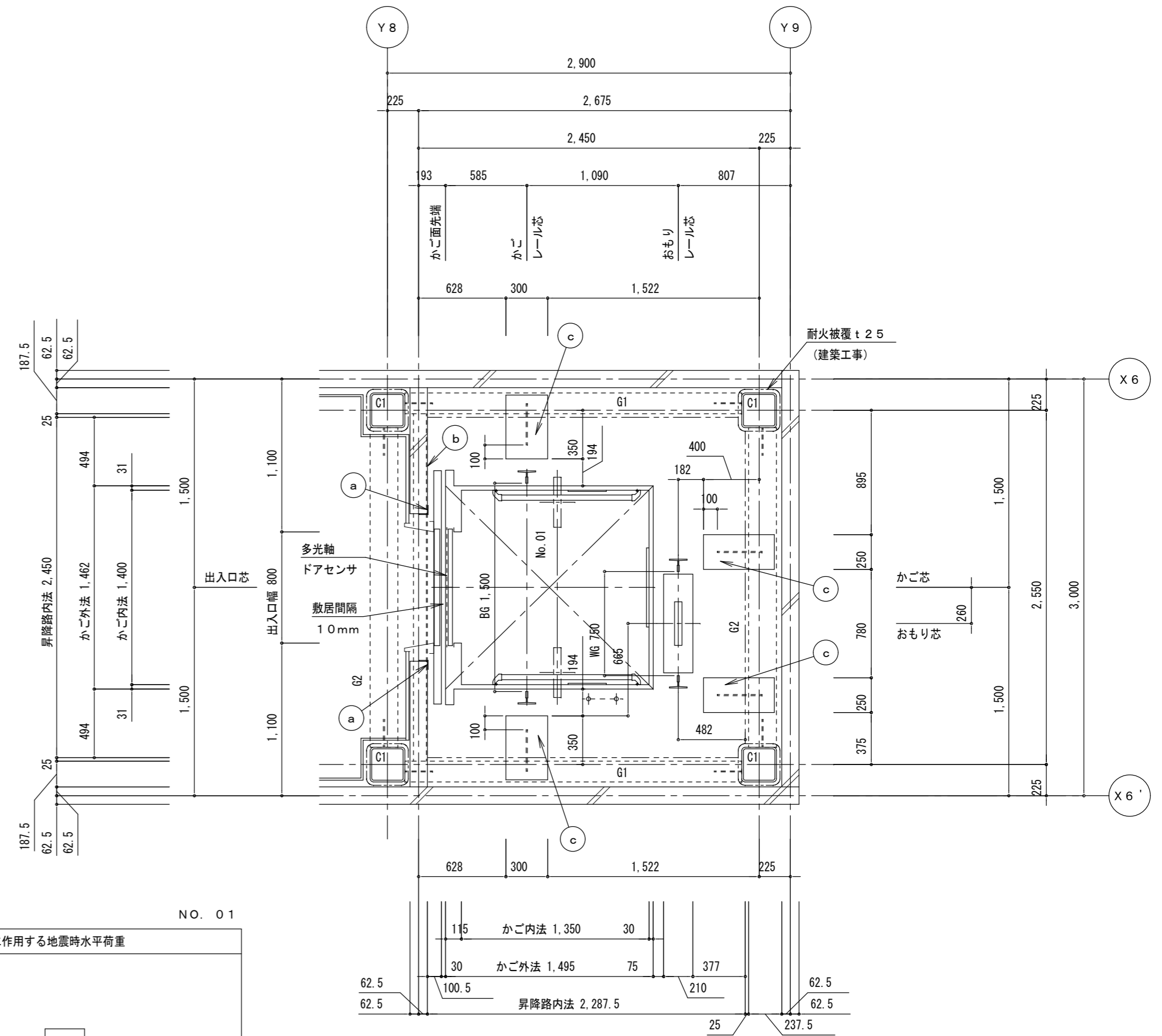
< 参考図 >



昇降路平面図 (1/30)
(2階)

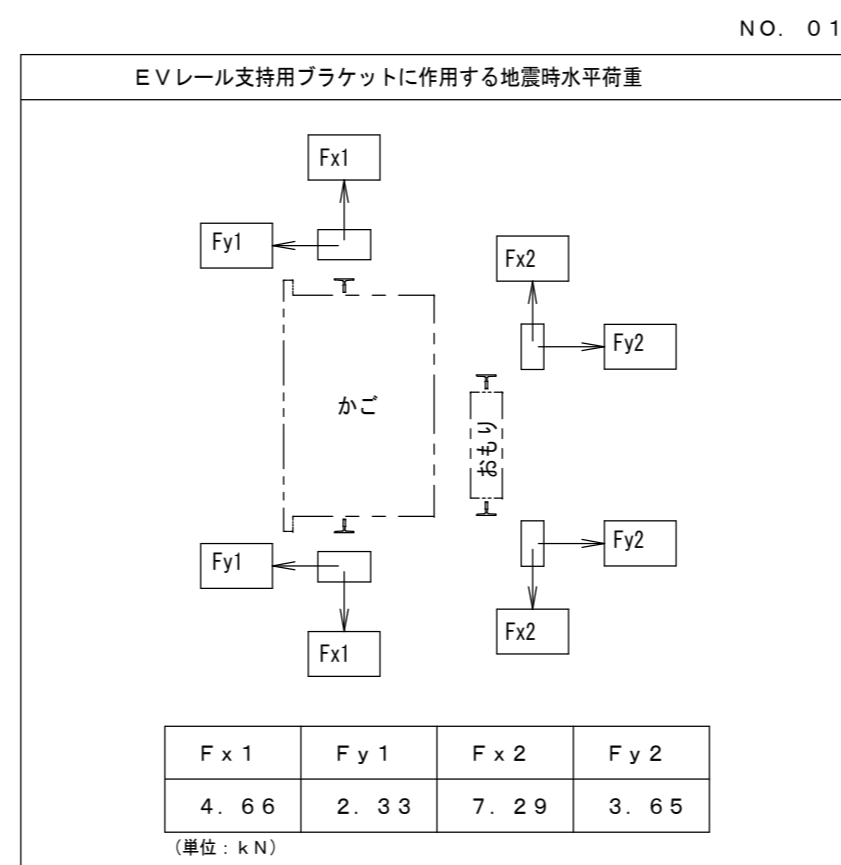
C1: □-250x250
G1: H-350x175
G2: H-340x250

部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	L-100×100×7	建築工事
c	レールブラケット取付用ファスナー (リブ付)	PL-t 12	建築工事



昇降路平面図 (1/30)
(3-4階)

C1: □-250x250
G1: H-300x150
G2: H-294x200



注: 上記矢印の地震時荷重により柱、梁などのたわみの合計が5mm以下となるよう部材を設計のこと。又、ねじれに対し強固に取付ること。

< 参考図 >

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:30

drawing title
エレベーター詳細図 (3)

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

Kisho
Architectural
Design Office

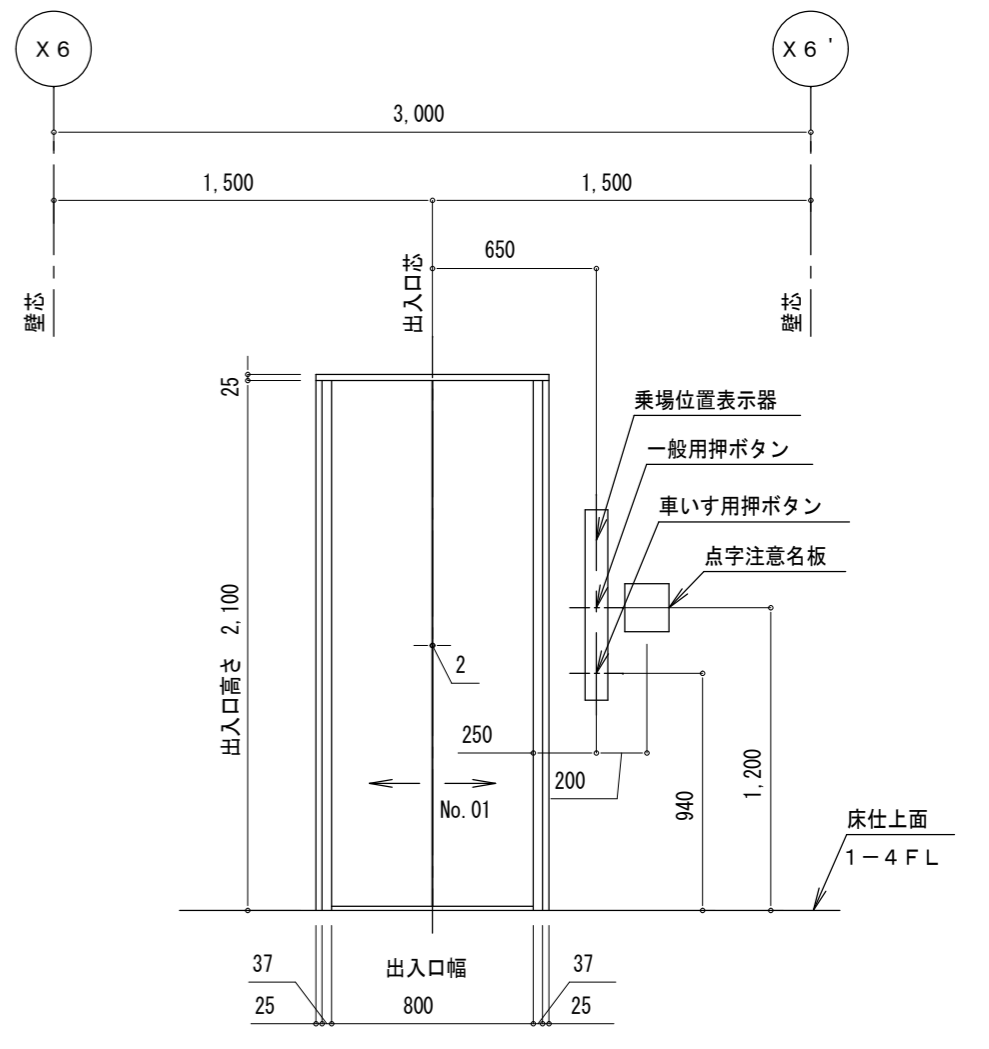
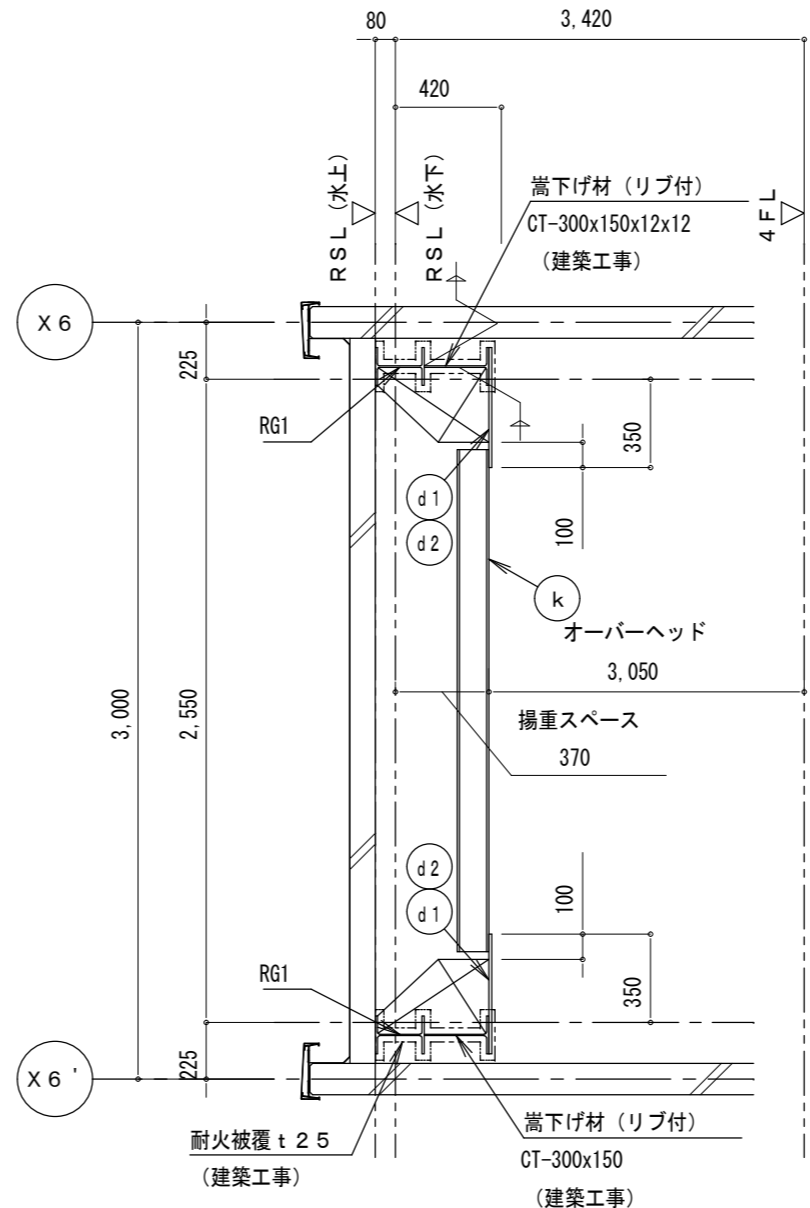
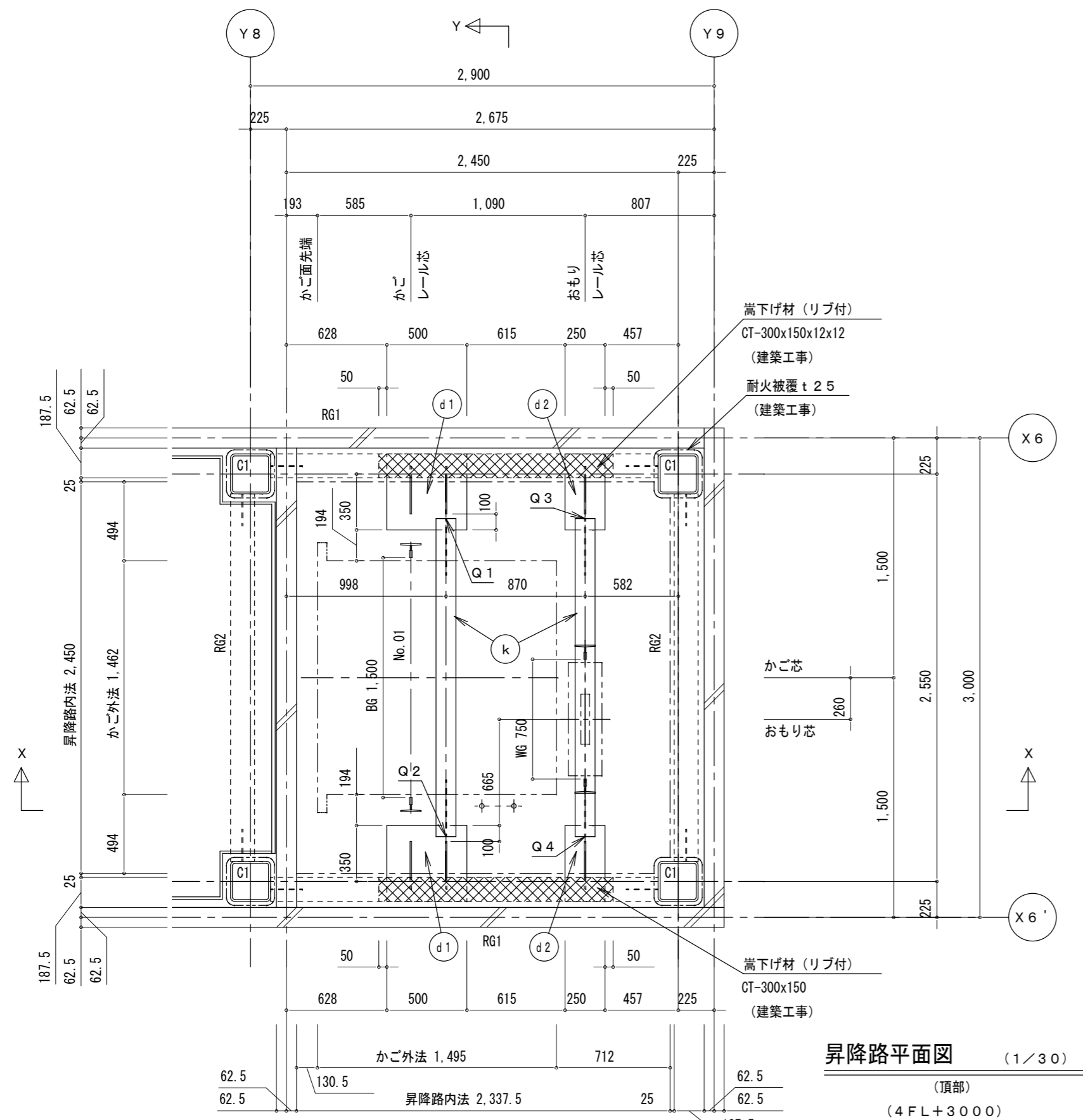
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

EV-3

原図: A2

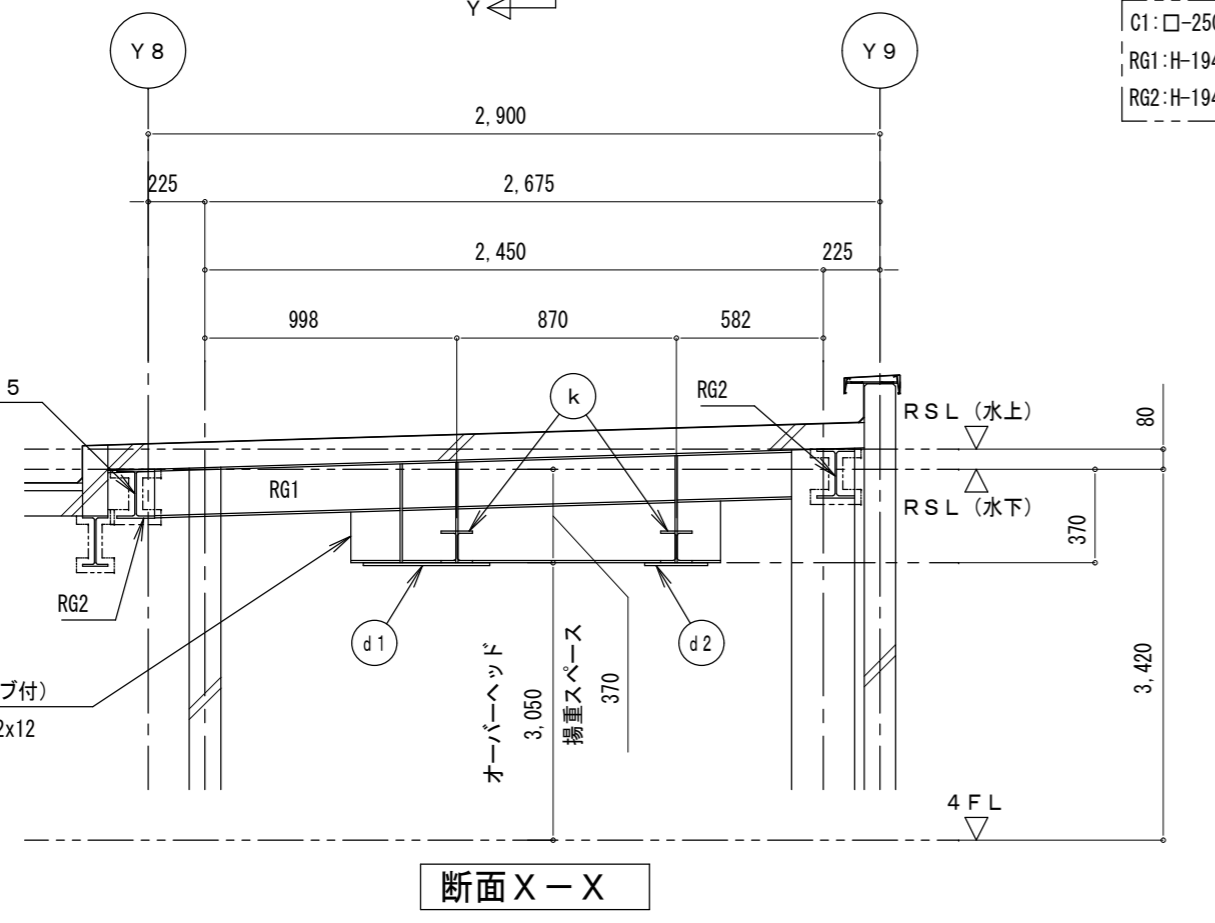


揚重ビームに掛かる荷重 No. 01

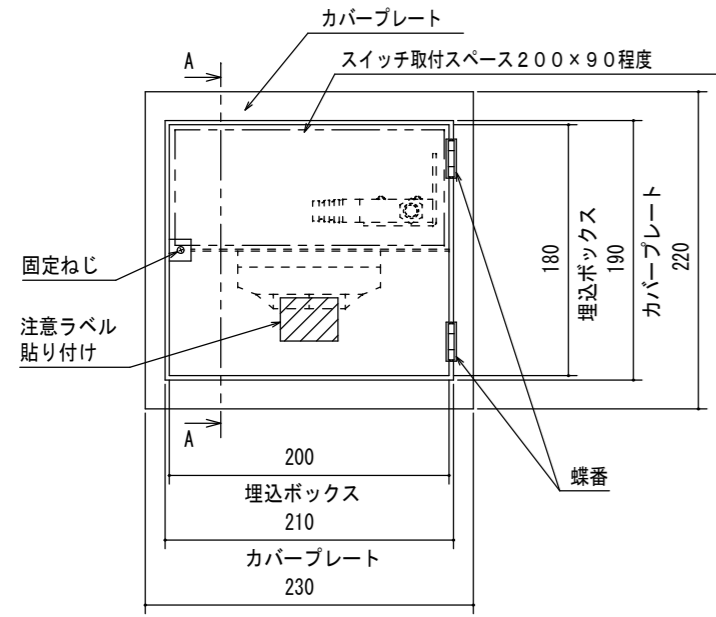
Q1 (kN)	Q2 (kN)	Q3 (kN)	Q4 (kN)
15.4	15.4	28.7	21.0

Q1~Q4はEV据付時に作用する

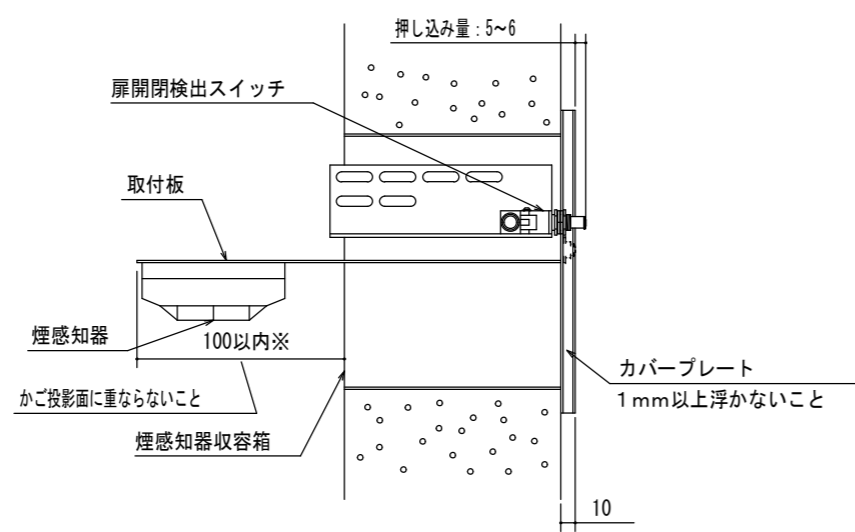
部材記号	名称	部材	工事区分
c	レールブラケット取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
d1	レールブラケット取付用ファスナー兼 揚重ビーム取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
d2	揚重ビーム取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
k	揚重ビーム (据付後撤去)	EV工事一任	EV工事



< 参考図 >



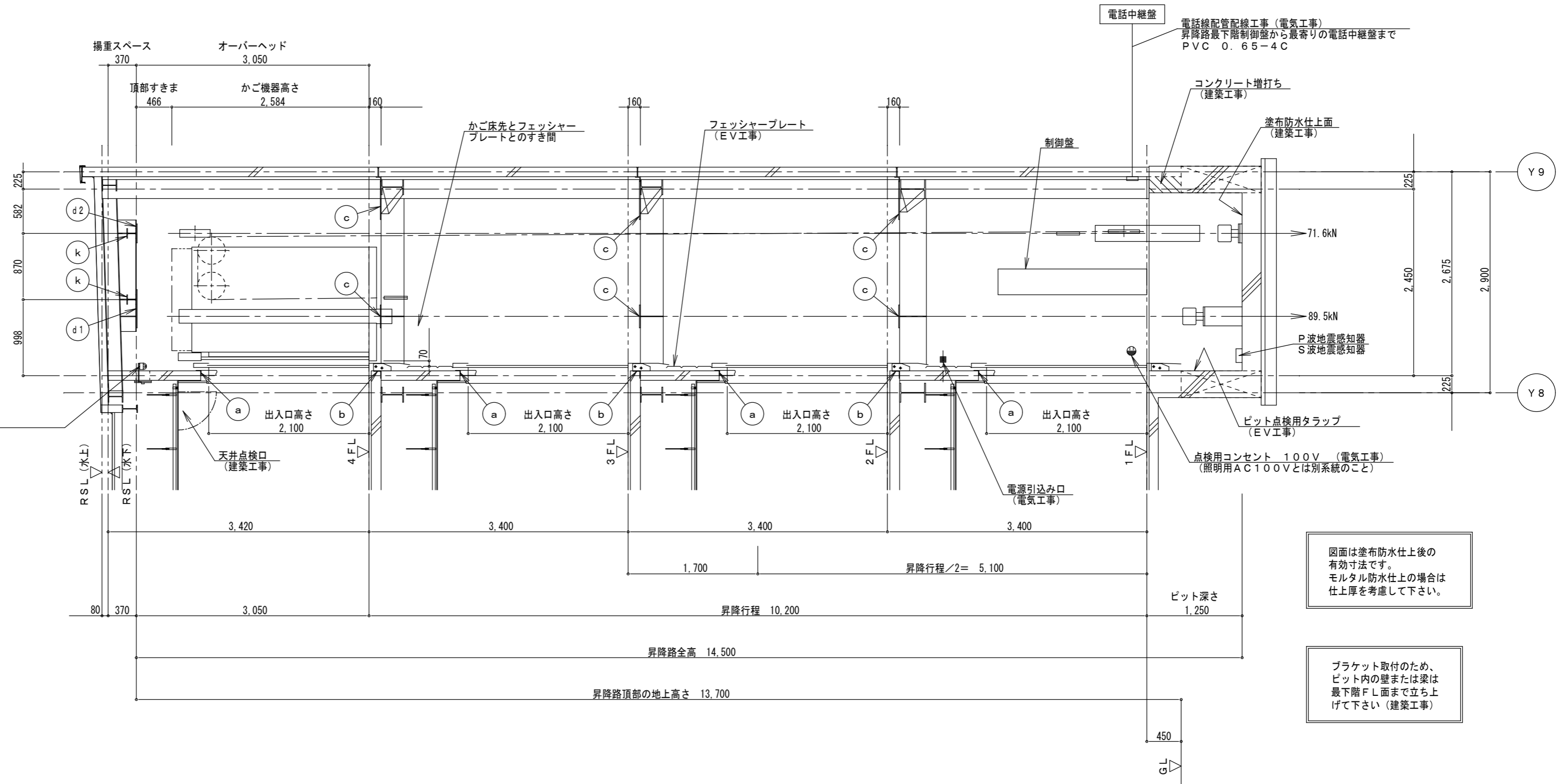
煙感知器・点検ボックス (参考例)



※B形枠の場合は30以内

矢視A-A

部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	L-100×100×7	建築工事
c	レールブラケット取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
d1	レールブラケット取付用ファスナー兼 揚重ビーム取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
d2	揚重ビーム取付用ファスナー (リブ付)	PL-t12	建築工事
k	揚重ビーム (据付後撤去)	EV工事一任	EV工事



昇降路断面図 (1/50)
(NO. 01)

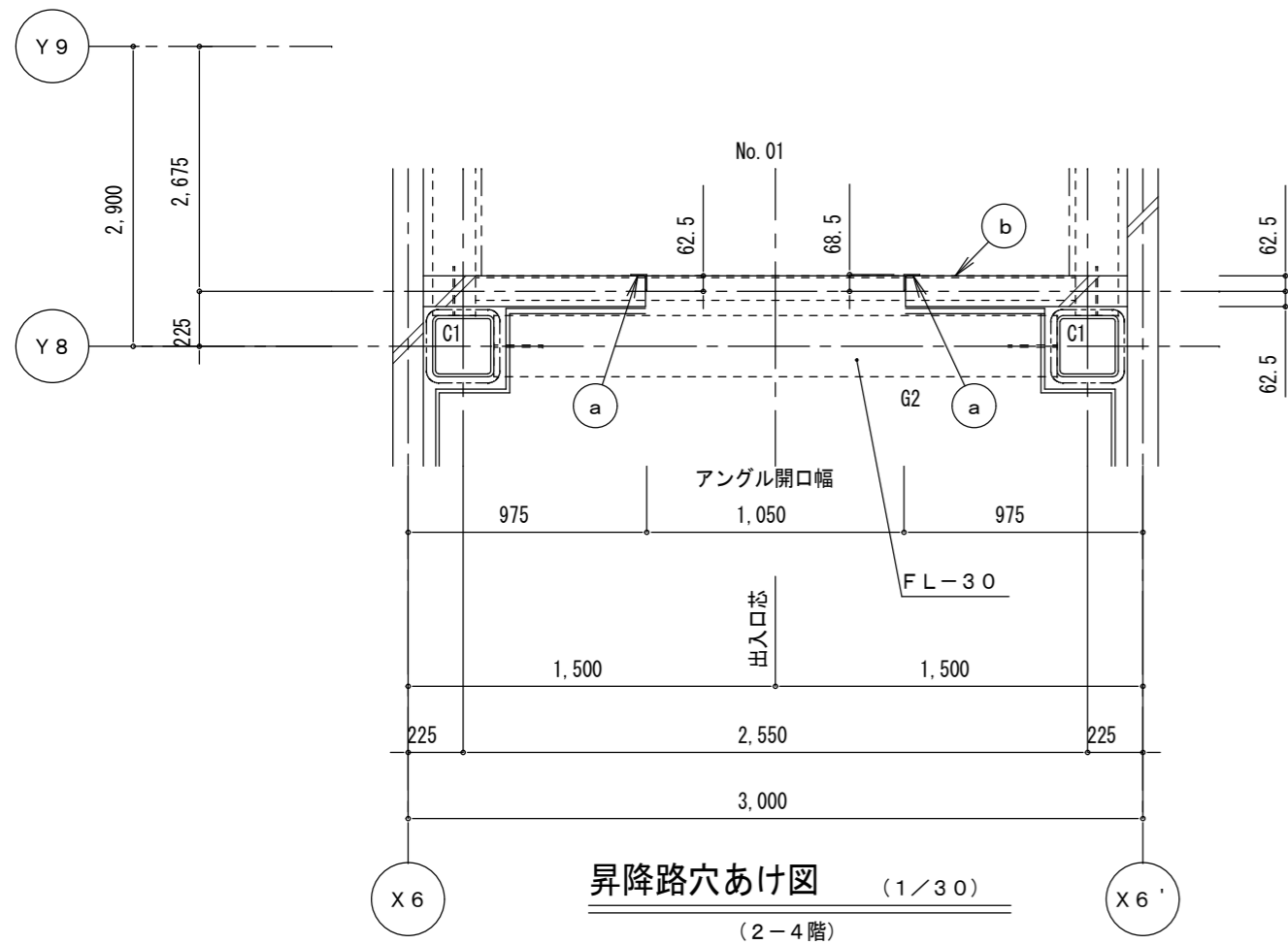
昇降路内の温度は40°C以下とする

- 煙感知器 (電気工事)
- ・外部より点検可能な構造として下さい
 - ・雨水浸入が無い様配慮下さい
 - ・EV運動スイッチ付 (EV工事)
 - ・煙感知器はかご投影面にかからない位置として下さい
 - ・点検口は下記①または②として下さい
- ①EV昇降路専用品 (スイッチ取付台座付き) (1)~(4)のいずれか
- (1) ホーチキ KUS-1C
 - (2) 能美防災 FXSJ001A-HU
 - (3) ニッタン NID-T-G
 - (4) パナソニック BV95351 (BOX) + BV95381H (扉)
- ②以下2項目を満足する点検口 ~「煙感知器・点検ボックス (参考例)」参照
- (1) スイッチ取付スペース200×90程度確保できる。
 - (2) 錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、1mm以上浮かないこと。

図面は塗布防水仕上後の有効寸法です。モルタル防水仕上の場合は仕上厚を考慮して下さい。

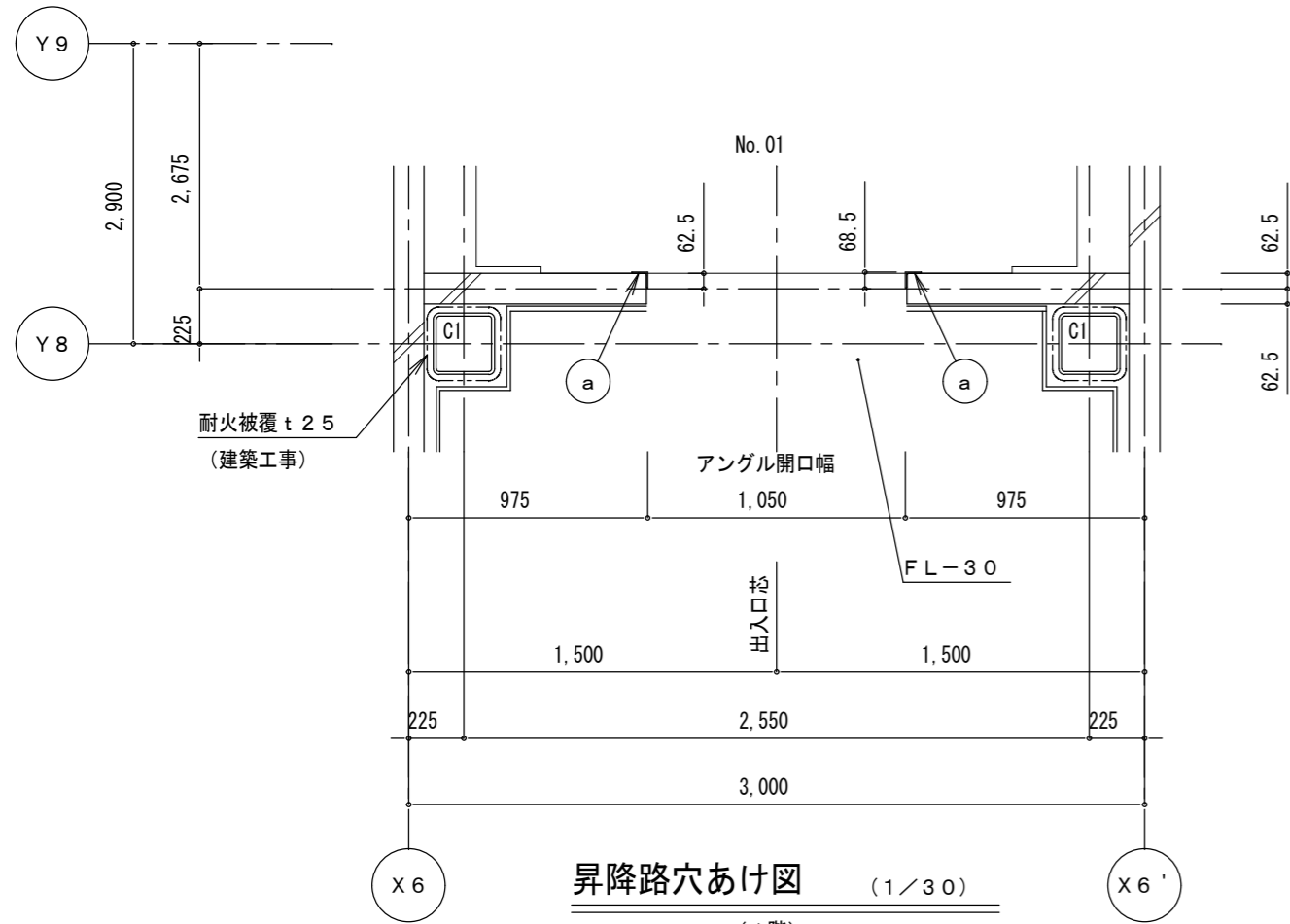
ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階FL面まで立ち上げて下さい (建築工事)

<参考図>



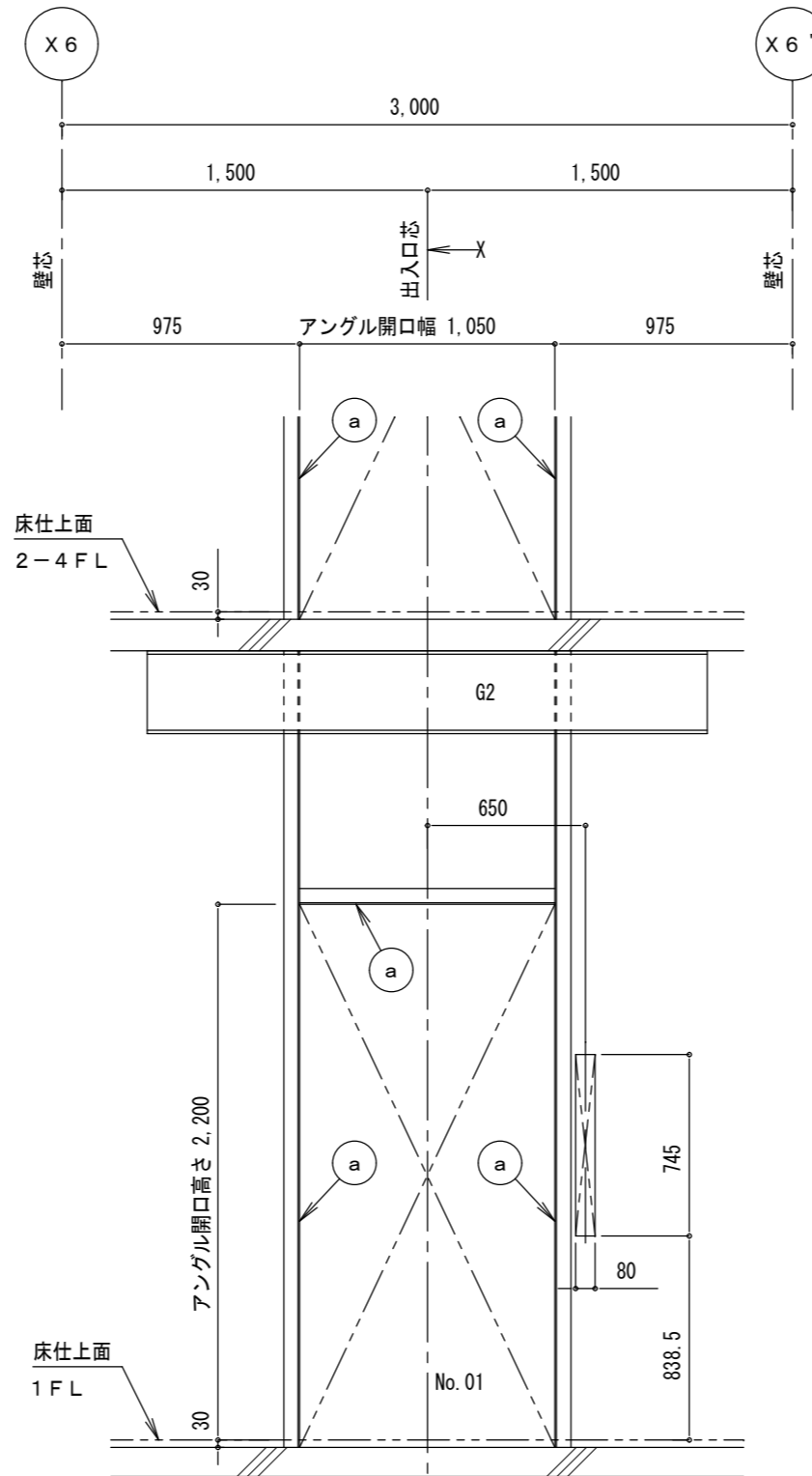
昇降路穴あけ図 (1/30)
(2-4階)

C1: □-250x250
G1: H-350x175 (2F)
H-300x150 (3, 4F)



昇降路穴あけ図 (1/30)
(1階)

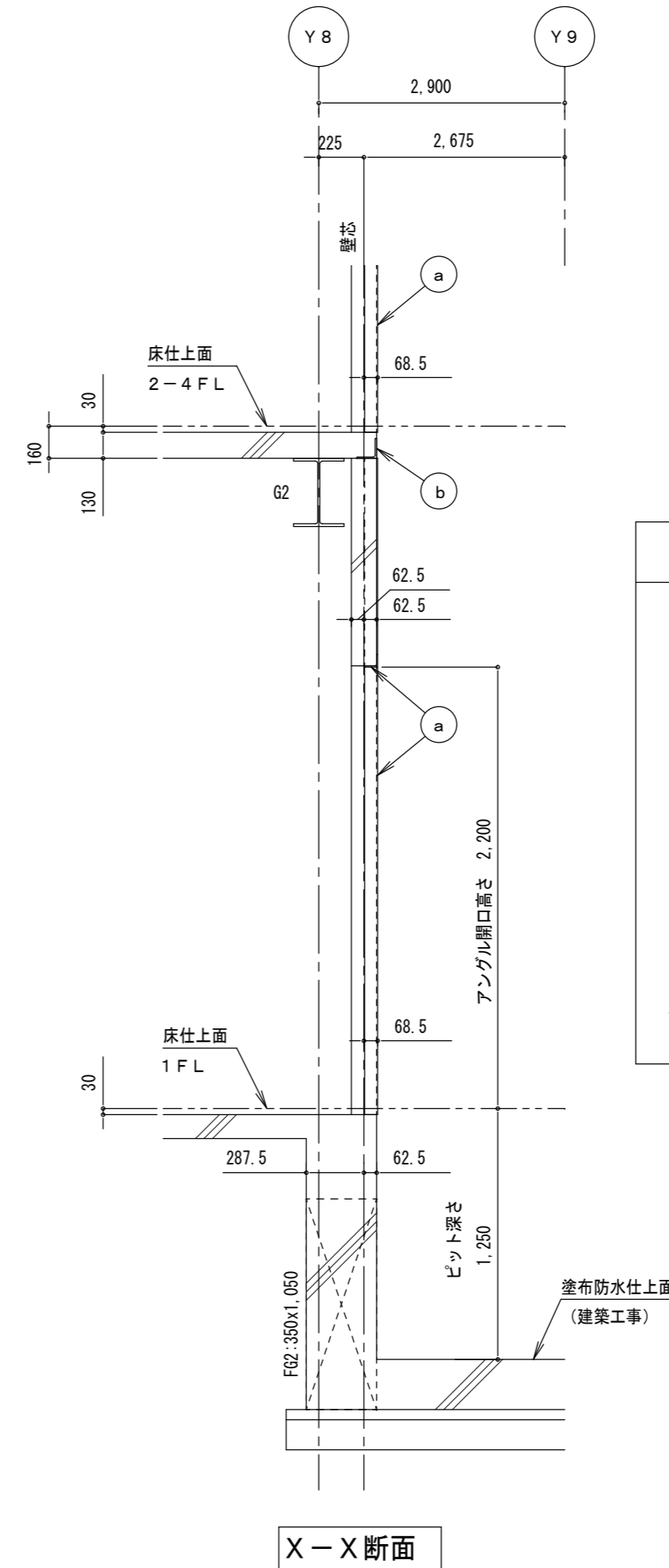
C1: □-250x250



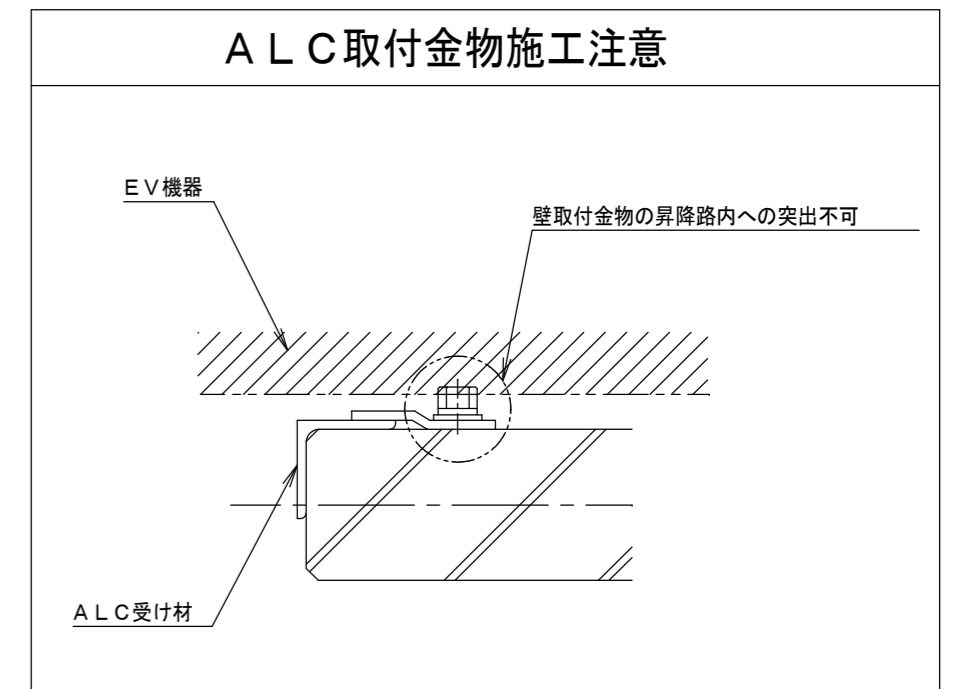
乗場穴あけ図 (1/30)
(1-4階)

注・開口寸法は、壁厚125mmの場合を示す
(異なる場合は確認のこと)
・壁仕上: 石貼、タイル、直打の場合は別途打合せのこと

G1: H-350x175 (2F)
H-300x150 (3, 4F)



X-X断面



部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材 (壁取付金物の昇降路内への突出不可)	L-65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	L-100×100×7	建築工事

< 参考図 >

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:30

drawing title
エレベーター詳細図 (6)

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

Kisho
Architectural
Design Office

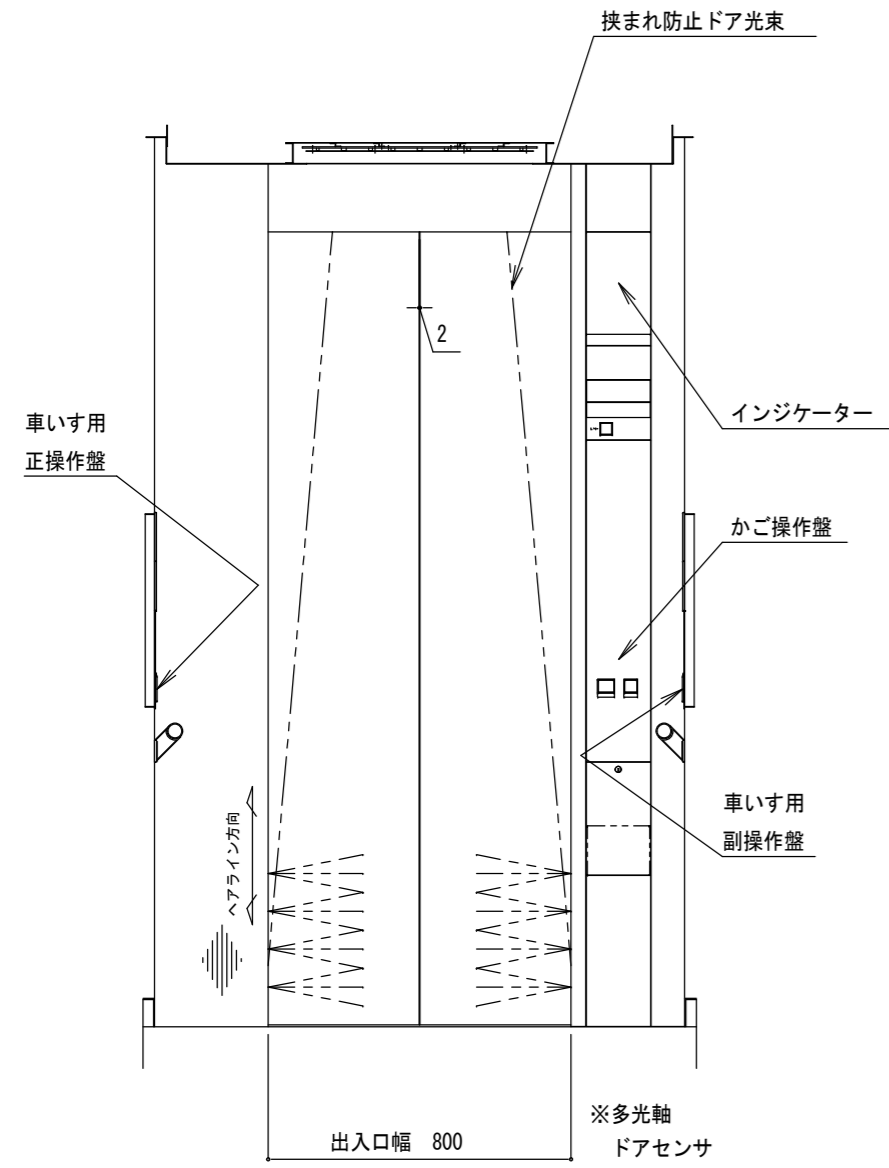
一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

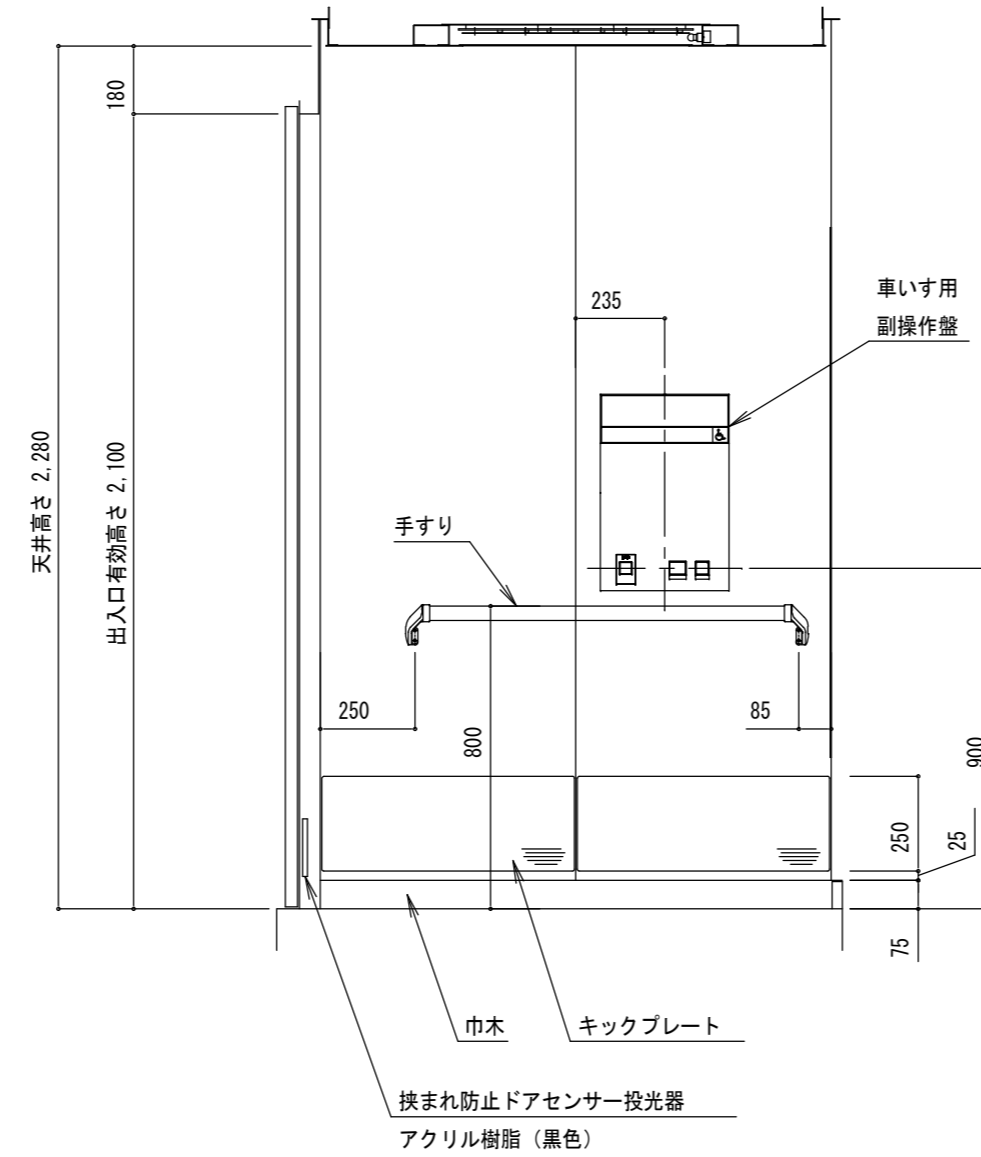
sheet no.

EV-6

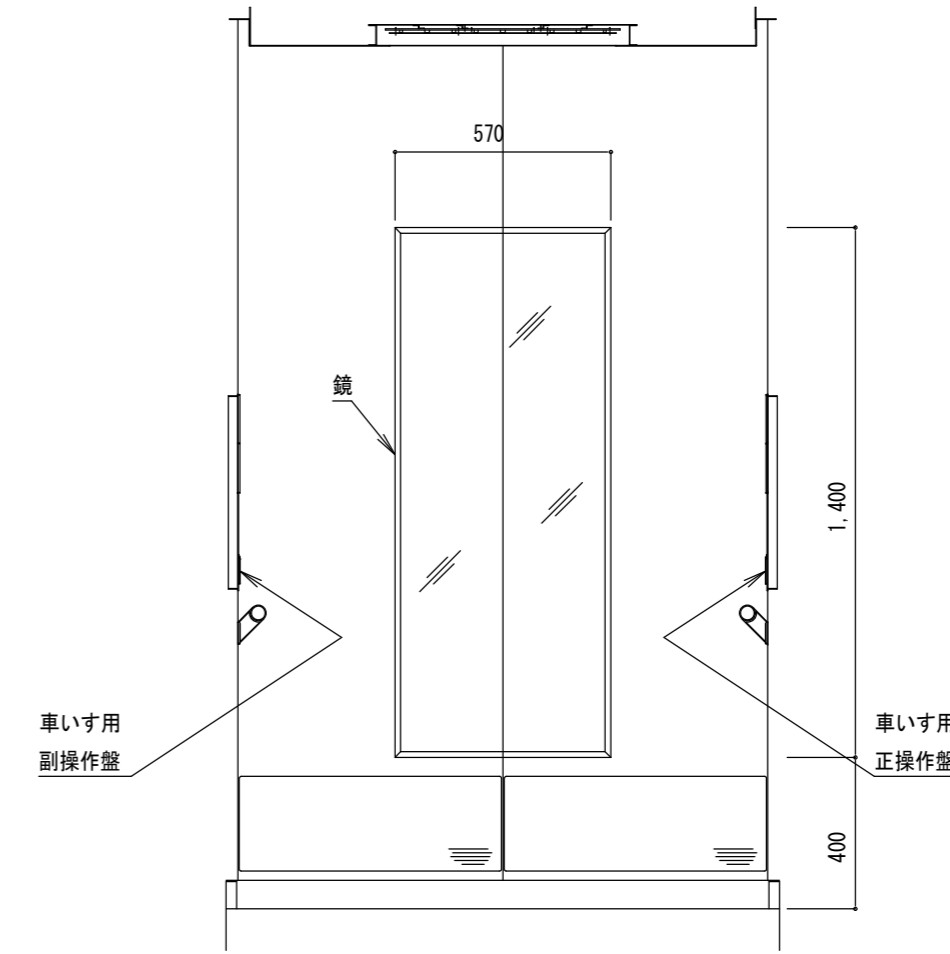
原図: A2



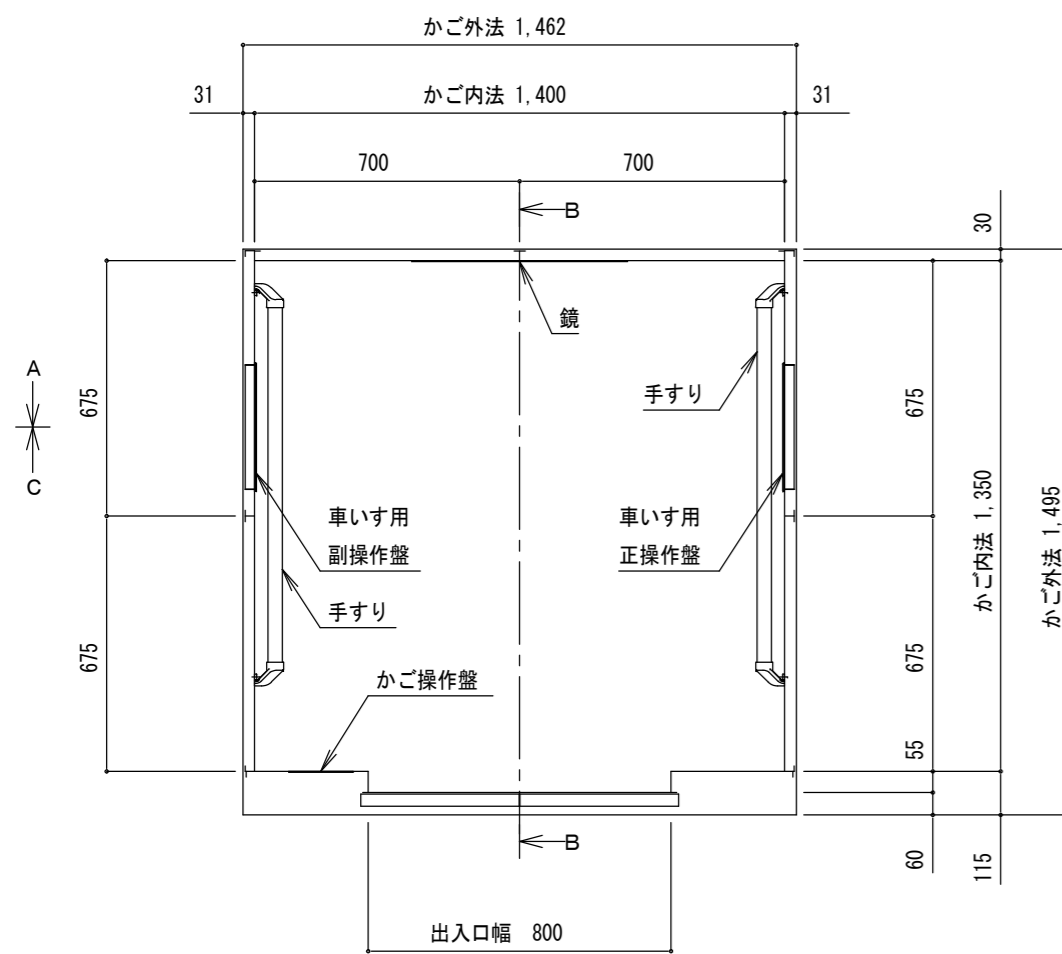
Uかご室正面図 (矢視A-A)



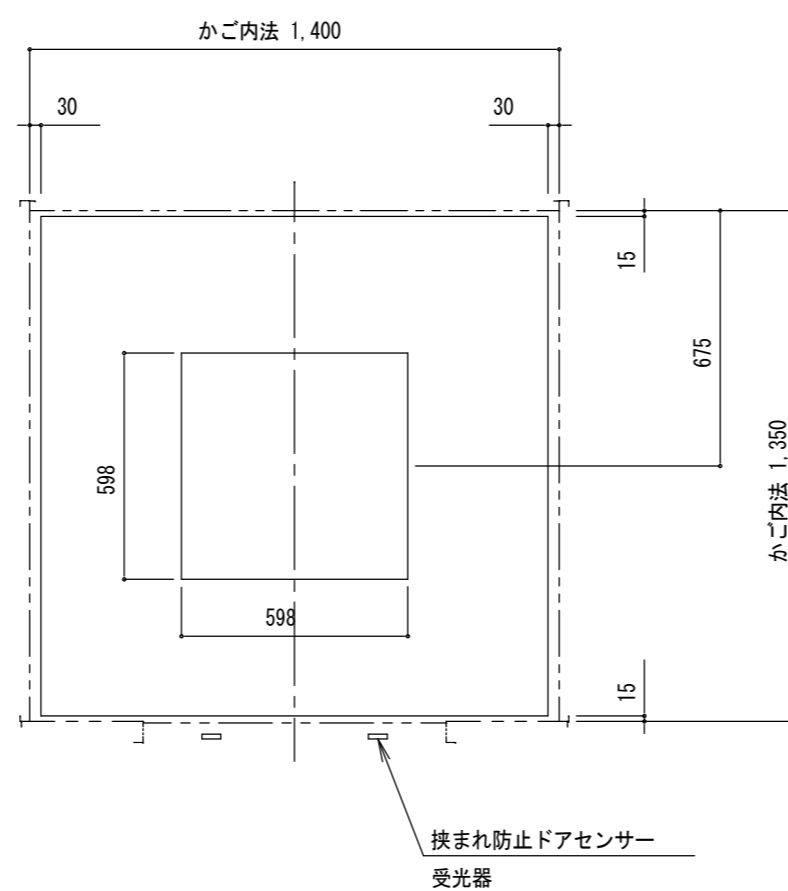
Uかご室側面図 (矢視B-B)



Uかご室背面図 (矢視C-C)



Uかご室平面図



U天井伏図

意匠仕様	
天井	鋼板塗装仕上
照明	乳白色樹脂照明板 LED照明 (白色)
停電灯	6V 10W×1灯
換気装置	ファン
壁	化粧鋼板
出入口上板	化粧鋼板
戸	化粧鋼板
袖壁・柱	ステンレスヘアライン仕上
巾木	アルミ製
床仕上部	樹脂タイル t2
敷居	アルミ製
鏡	ステンレス鏡面仕上 t2.5
手すり	ステンレス製パイプ:ヘアライン仕上 (C38) ブラケット:アルミダイカスト (銀色塗装)
キックプレート	ステンレスヘアライン仕上:ピス無
保護幕	あり (磁石式)
床マット	あり

かご室意匠図 (1/20)

< 参考図 >

memo

check
client
architect
contractor

scale
S=1:20

drawing title
エレベーター詳細図 (7)

project title
津市立西橋内中学校長寿命化改修 (第二期) 工事

Kisho
Architectural
Design Office

一級建築士 登録第146490号
一級建築士事務所 登録第1-169号
(有) 貴匠設計 Kisho Architectural Design Office
管理建築士: 山田 賢治

drawing no.

sheet no.

EV-7

原図:A2